

高松市埋蔵文化財調査報告 第49集

都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告書 第二冊

かわみなみ ひがし  
**川南・東遺跡**

2000.3

高松市教育委員会

都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告書 第二冊

か わ み な み ひ が し  
**川 南 • 東 遺 跡**

2 0 0 . 3

高松市教育委員会



SK-2075 出土土器



川南・東遺跡出土木製品

## は　じ　め　に

日本の文化や伝統、ひいては基本的な生活様式は、江戸時代の生活文化の中から醸成されてきたことはよく言われることです。衣・食・住のあらゆる面において現代に息づいています。こうした江戸時代の生活文化のあり方は、現代の日本文化研究に欠かせない資料を提供してくれます。

衣服の面では、室町時代末に朝鮮半島から輸入された綿がそれまでの麻に変わって急速に浸透しました。江戸時代になると、各種の染色、鎬、絣など各地で発展し、現代に至っています。食の面では、すでに元禄期（1688～1704年）には限られた町人層ではありましたが、食を楽しみとみなし、これを享受する文化が生まれています。これに伴って料理にも金錢が費やされるようになりました。建築の面では、それまで社寺や城郭と言った一部の建物にしか利用されていなかった瓦が町人層まで広まったのが江戸時代でした。

江戸時代の遺跡を発掘調査するとよく出土するものの1つに陶磁器があります。陶磁器も江戸時代に広まった文化の1つであります。中世では希少価値の高かった陶磁器も江戸時代になると多くの窯で焼かれるようになりました。現代でも有名な伊万里や有田、唐津、瀬戸などがそうです。さらに江戸後期には、あらゆる階層の人々の生活にまで普及し、現代にいたる陶磁文化の基となりました。日常の暮らしの中で、食器や鍋や土瓶などの食の道具、燭台や灯明皿などの明かりに関するもののほか、硯や水滴などの文房具に至るまで、さまざまな陶磁器が作られました。しかし、生活基盤の発展とそれに伴う生活様式の変化によって現代ではほとんど使われなくなったやきものも少なくありません。一方、セラミックと言う新しい名称で、現在ますますやきものの多様化も進んでいます。

今回の調査でも多数の陶磁器類が出土しております。また、遺構としてはある程度有力な農民層の屋敷跡やそれに伴う田畠が発見されました。調査結果からは豊かに育んできた生活文化の様相をつかむことができ、また、今後の暮らしの有り方を考える上で貴重な資料と言えます。21世紀を迎えようとする今、日本文化をもう一度見つめなおすことも重要なことだと思います。

平成12年3月

高松市教育委員会  
教育長 山口 窪式



# 例　　言

1. 本書は、都市計画道路室町新田線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書の第2冊で、高松市春日町に所在する川南・東遺跡（かわみなみ・ひがしいせき）の調査成果を収録している。

2. 発掘調査地ならびに調査期間は、次のとおりである。

調査地　　高松市春日町

試掘期間　平成7年3月8日～平成7年3月24日

本調査期間　平成8年3月21日～平成8年6月19日

3. 発掘調査及び遺物整理・関連資料調査その他に下記の方々並びに諸機関から各種の貴重なご教示、ご指導を得た。記して厚く謝意を表する。（敬称略、順不同）

通商産業省工業技術院地質調査所大阪地域地質センター 寒川　旭

佐賀県立九州陶磁文化館学芸課 鈴田由紀夫

同 上 家田　淳一

4. 現地調査、遺物整理、本報告書作成について下記の方々のご協力を得た。記して謝意を表する。  
(敬称略、順不同)

末光甲正・中西克也（讃岐文化遺産研究会）

信吉純恵（徳島文理大学大学院）　山内康郎（桃山学院大学）

坂東祐介・四方大輔・高瀬智充（徳島文理大学）　大野宏和・川部浩司（花園大学）

5. 試掘調査は高松市教育委員会文化部文化振興課文化財専門員山本英之が行い、本調査は同文化財専門員大嶋和則が行った。

6. 本報告書の執筆および編集は、大嶋和則が行った。

7. 出土遺物ならびに図面・写真類は、当教育委員会において保管している。

8. 本調査に関連して以下の業務を下記の業者委託発注により実施した。

発掘調査掘削工事　誠良興業有限会社

航空写真測量　国際航業株式会社

遺物写真撮影　西大寺フォト

木製品保存処理　株式会社吉田生物研究所

9. 本報告書で使用する遺構略号は次のとおりである。

SA 柵列 SB 掘立柱建物 SD 溝 SE 井戸 SK 土坑

SP 柱穴 ST 墓 SX 不明遺構 NR 自然河川

10. 本報告書で用いる高度値は海拔高、方位は原則として国土座標第Ⅳ系を用いた。
11. 「周辺遺跡分布地図」作成に、国土地理院発行1/25,000地形図「高松北部」及び「高松南部」を使用した。

# 目 次

卷頭図版

はじめに

例 言

目 次

## 第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯 .....	1
第2節 調査の経過 .....	3
第3節 整理作業の経過 .....	4

## 第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境 .....	5
第2節 歴史的環境 .....	6

## 第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要と基本層序 .....	9
第2節 I区の調査成果 .....	11
第3節 II区の調査成果 .....	14
第4節 III区の調査成果 .....	97
第5節 IV区の調査成果 .....	102
第6節 遺構外出土遺物 .....	112

## 第4章 まとめ

第1節 遺構の変遷について .....	117
第2節 SK-2075出土遺物の年代について .....	118
第3節 川南・東、川南・西遺跡出土陶磁器の変遷について .....	119
第4節 高松平野の地震痕跡について .....	128

遺構一覧表

写真図版

## 挿 図 目 次

第1図 川南・東遺跡位置図	1	第41図 S K-2027出土遺物実測図②	26
第2図 川南・東、川南・西遺跡位置図	2	第42図 S K-2027出土遺物実測図③	27
第3図 周辺遺跡分布図	7	第43図 S K-2027出土遺物実測図④	28
第4図 川南・東遺跡基本層序模式図	9	第44図 S K-2028平・断面図	29
第5図 川南・東遺跡調査区位置図	10	第45図 S K-2028出土遺物実測図	29
第6図 N R-1001・噴砂断面図	11	第46図 S K-2029・2030・2031・2032平面図	29
第7図 N R-1001出土遺物実測図	11	第47図 S K-2029断面図	29
第8図 S K-1004平・断面図	12	第48図 S K-2030・2031・2032断面図	29
第9図 S K-1004出土遺物実測図	12	第49図 S K-2029出土遺物実測図	30
第10図 S D-1008断面図	12	第50図 S K-2030出土遺物実測図	30
第11図 S D-1008出土遺物実測図	12	第51図 S K-2031出土遺物実測図	30
第12図 S D-1011断面図	13	第52図 S K-2032出土遺物実測図	30
第13図 S D-1011出土遺物実測図	13	第53図 S K-2036平・断面図	31
第14図 S P-1128出土遺物実測図	13	第54図 S K-2036出土遺物実測図	31
第15図 S P-1139出土遺物実測図	13	第55図 S K-2040平・断面図	31
第16図 S B-2001平面図	15	第56図 S K-2040出土遺物実測図①	32
第17図 S B-2002平・断面図	16	第57図 S K-2040出土遺物実測図②	33
第18図 S K-2003平・断面図	17	第58図 S K-2042・2043平面図	33
第19図 S K-2008平・断面図	17	第59図 S K-2042断面図	33
第20図 S K-2008出土遺物実測図	17	第60図 S K-2043断面図	33
第21図 S K-2011平・断面図	17	第61図 S K-2042出土遺物実測図	34
第22図 S K-2011出土遺物実測図	18	第62図 S K-2043出土遺物実測図	34
第23図 S K-2012平・断面図	18	第63図 S K-2044平・断面図	34
第24図 S K-2012出土遺物実測図	19	第64図 S K-2044出土遺物実測図	35
第25図 S K-2014平・断面図	20	第65図 S K-2046・2054平面図	35
第26図 S K-2014出土遺物実測図	20	第66図 S K-2046断面図	35
第27図 S K-2015平・断面図	20	第67図 S K-2046出土遺物実測図	35
第28図 S K-2015出土遺物実測図	20	第68図 S K-2054断面図	35
第29図 S K-2019平・断面図	21	第69図 S K-2054出土遺物実測図	35
第30図 S K-2020平・断面図	21	第70図 S K-2048平・断面図	36
第31図 S K-2023平・断面図	22	第71図 S K-2048出土遺物実測図	36
第32図 S K-2023出土遺物実測図	22	第72図 S K-2049・2050平面図	36
第33図 S K-2024・2025平・断面図	23	第73図 S K-2049断面図	36
第34図 S K-2024出土遺物実測図	23	第74図 S K-2050断面図	36
第35図 S K-2025出土遺物実測図	23	第75図 S K-2049出土遺物実測図	37
第36図 S K-2026・2027平面図	24	第76図 S K-2050出土遺物実測図	37
第37図 S K-2026断面図	24	第77図 S K-2051平・断面図	38
第38図 S K-2026出土遺物実測図	24	第78図 S K-2051出土遺物実測図①	39
第39図 S K-2027断面図	24	第79図 S K-2051出土遺物実測図②	40
第40図 S K-2027出土遺物実測図①	25	第80図 S K-2051出土遺物実測図③	41

第81図	S K-2053・2037平・断面図	42	第123図	S X-2005平・断面図	66
第82図	S K-2053出土遺物実測図	42	第124図	S X-2005出土遺物実測図①	67
第83図	S K-2055平・断面図	42	第125図	S X-2005出土遺物実測図②	68
第84図	S K-2055出土遺物実測図	43	第126図	S X-2005出土遺物実測図③	69
第85図	S K-2056・2057 S D-2027平・断面図	43	第127図	S X-2005出土遺物実測図④	70
第86図	S K-2056出土遺物実測図	44	第128図	S X-2005出土遺物実測図⑤	71
第87図	S K-2057出土遺物実測図	44	第129図	S X-2005出土遺物実測図⑥	72
第88図	S K-2064平・断面図	44	第130図	S X-2006平・断面図	73
第89図	S K-2064出土遺物実測図	45	第131図	S X-2006出土遺物実測図①	74
第90図	S K-2065平・断面図	45	第132図	S X-2006出土遺物実測図②	75
第91図	S K-2069平・断面図	45	第133図	S X-2006出土遺物実測図③	76
第92図	S K-2069出土遺物実測図	46	第134図	S X-2006出土遺物実測図④	77
第93図	S K-2072平・断面図	46	第135図	S D-2001断面図	78
第94図	S K-2075平面図	47	第136図	S D-2001出土遺物実測図	78
第95図	S K-2075断面図	47	第137図	S D-2003断面図	78
第96図	S K-2075出土遺物実測図①	48	第138図	S D-2003出土遺物実測図	78
第97図	S K-2075出土遺物実測図②	49	第139図	S D-2010断面図	78
第98図	S K-2075出土遺物実測図③	50	第140図	S D-2010出土遺物実測図	79
第99図	S K-2075出土遺物実測図④	51	第141図	S D-2014断面図	79
第100図	S K-2075出土遺物実測図⑤	52	第142図	S D-2014出土遺物実測図	79
第101図	S K-2075出土遺物実測図⑥	53	第143図	S D-2027出土遺物実測図	80
第102図	S K-2075出土遺物実測図⑦	54	第144図	S D-2031断面図	80
第103図	S K-2075出土遺物実測図⑧	55	第145図	S D-2031出土遺物実測図①	80
第104図	S K-2075出土遺物実測図⑨	56	第146図	S D-2031出土遺物実測図②	81
第105図	S K-2075出土遺物実測図⑩	57	第147図	S D-2034断面図	82
第106図	S K-2084平面図	58	第148図	S D-2034出土遺物実測図	82
第107図	S K-2084断面図	58	第149図	S D-2040断面図	82
第108図	S K-2084出土遺物実測図①	58	第150図	S D-2040出土遺物実測図	82
第109図	S K-2084出土遺物実測図②	58	第151図	S D-2042断面図	82
第110図	埋甕2001平・断面図	59	第152図	S D-2042出土遺物実測図	82
第111図	埋甕2002出土遺物実測図	59	第153図	S D-2045断面図	82
第112図	埋甕2002平・断面図	60	第154図	S D-2045出土遺物実測図	82
第113図	埋甕2001出土遺物実測図	60	第155図	S P-2057出土遺物実測図	83
第114図	埋甕2003出土遺物実測図	60	第156図	S P-2079出土遺物実測図	83
第115図	S T-2001平・断面図	61	第157図	S P-2080出土遺物実測図	84
第116図	S T-2001出土遺物実測図	61	第158図	S P-2100出土遺物実測図	84
第117図	S X-2001出土遺物実測図	61	第159図	S P-2133出土遺物実測図	84
第118図	S X-2001平・断面図	62	第160図	S P-2178出土遺物実測図	85
第119図	S X-2002出土遺物実測図	63	第161図	S P-2185出土遺物実測図	85
第120図	S X-2002平・断面図	63	第162図	S P-2194出土遺物実測図	85
第121図	S X-2003平・断面図	64	第163図	S P-2200出土遺物実測図	86
第122図	S X-2003出土遺物実測図	65	第164図	S P-2208出土遺物実測図	86
			第165図	S P-2213出土遺物実測図	87

第166図	S P-2307出土遺物実測図	87
第167図	S P-2414出土遺物実測図	87
第168図	S P-2530出土遺物実測図	88
第169図	S P-2019出土遺物実測図	88
第170図	S P-2046出土遺物実測図	89
第171図	S P-2053出土遺物実測図	89
第172図	S P-2054出土遺物実測図	90
第173図	S P-2067出土遺物実測図	90
第174図	S P-2085出土遺物実測図	90
第175図	S P-2147出土遺物実測図	90
第176図	S P-2157出土遺物実測図	90
第177図	S P-2176出土遺物実測図	91
第178図	S P-2231出土遺物実測図	91
第179図	S P-2237出土遺物実測図	91
第180図	S P-2247出土遺物実測図	91
第181図	S P-2248出土遺物実測図	92
第182図	S P-2272出土遺物実測図	92
第183図	S P-2273出土遺物実測図	92
第184図	S P-2274出土遺物実測図	92
第185図	S P-2277出土遺物実測図	92
第186図	S P-2280出土遺物実測図	93
第187図	S P-2284出土遺物実測図	93
第188図	S P-2291出土遺物実測図	93
第189図	S P-2308出土遺物実測図	93
第190図	S P-2319出土遺物実測図	93
第191図	S P-2320出土遺物実測図	93
第192図	S P-2322出土遺物実測図	94
第193図	S P-2347出土遺物実測図	95
第194図	S P-2385出土遺物実測図	95
第195図	S P-2392出土遺物実測図	95
第196図	S P-2442出土遺物実測図	95
第197図	S P-2446出土遺物実測図	96
第198図	S P-2526出土遺物実測図	96
第199図	S A-3001・3002・3003平・断面図	98
第200図	S P-3010出土遺物実測図	99
第201図	S P-3011出土遺物実測図	99
第202図	S K-3005平・断面図	99
第203図	S D-3001断面図	100
第204図	S D-3002平・断面図	100
第205図	S D-3002出土遺物実測図	101
第206図	S D-3003断面図	101
第207図	S D-3003出土遺物実測図	101
第208図	N R-4001断面図	102
第209図	N R-4001出土遺物実測図	102
第210図	S K-4008・4009・4010平面図	103
第211図	S K-4008断面図	103
第212図	S K-4009断面図	103
第213図	S K-4009出土遺物実測図	104
第214図	S K-4010断面図	105
第215図	S K-4010出土遺物実測図	105
第216図	S K-4010出土遺物実測図	105
第217図	S K-4014平・断面図	106
第218図	S K-4014出土遺物実測図	106
第219図	埋甕4001・4002平・断面図	107
第220図	埋甕4001出土遺物実測図	107
第221図	埋甕4002出土遺物実測図	108
第222図	S D-4002断面図	108
第223図	S D-4002出土遺物実測図	109
第224図	S D-4003断面図	110
第225図	S D-4005断面図	110
第226図	S D-4012断面図	110
第227図	S D-4012出土遺物実測図	111
第228図	II区北壁サブトレ出土遺物実測図	112
第229図	I区包含層出土遺物実測図	113
第230図	II区包含層出土遺物実測図①	114
第231図	II区包含層出土遺物実測図②	115
図1	川南・西遺跡S E01出土遺物	120
図2	川南・西遺跡S D07出土遺物-1	121
図3	川南・西遺跡S D07出土遺物-2	122
図4	川南・西遺跡S D07出土遺物-3	123

# 写 真 図 版 目 次

SK-2075出土土器	卷頭	S D-4002出土遺物	166
川南・東遺跡出土木製品	卷頭	S X-2005出土遺物	167
機械掘削状況	143	S K-2075出土遺物	168
II区調査風景	143	S D-4012出土遺物	168
I区完掘状況(東から)	144	S X-2005出土遺物	169
II区完掘状況(西から)	144	S K-2051出土遺物	169
IV区完掘状況(南から)	145	S X-2006出土遺物	170
噴砂断面	145	S X-2005出土遺物	170
埋甕2001(南から)	146	S D-3002出土遺物	171
埋甕2002(西から)	146	S K-2051出土遺物	171
S D-2027(南から)	147	墨書土器	172
S T-2001(東から)	147	瓦質土器類	173
S K-2075土器出土状況	148	土師質土器類	174
S K-2075土器出土状況	148	木器類	175
S K-2075完掘状況(南から)	149	木器・石器・金属器類	176
S B-2001(北から)	149		
S P-2080(南から)	150		
S A-3001・3002(南から)	150		
S D-3002土器出土状況(南から)	151		
S D-3002完掘状況(南から)	151		
S K-4010(東から)	152		
S K-4009(南から)	152		
埋甕4001・4002検出状況(東から)	153		
N R-4001断面(北から)	153		
S K-2075出土土器	154		
S K-2051・2053出土土器	155		
川南・東遺跡出土木製品	156		
碗類	157~159		
皿・鉢類	160・161		
盃類	162		
陶器類	163		
S X-2006出土遺物	164		
S K-2023出土遺物	165		

## 挿 表 目 次

整理作業工程表	4
表 1 土器種別内訳	124
表 2 陶磁器産地別内訳	124
表 3 土器種別内訳	124
表 4 陶磁器産地別内訳	124
表 5 土器種別内訳	125
表 6 陶磁器産地別内訳	125
表 7 土器種別内訳	125
表 8 陶磁器産地別内訳	125
表 9 時期別種別変化表	126
表10 時期別陶磁器産地変化表	126
高松平野の地震関係遺跡一覧表	128
遺構一覧表	129～142

# 第1章 調査の経緯と経過



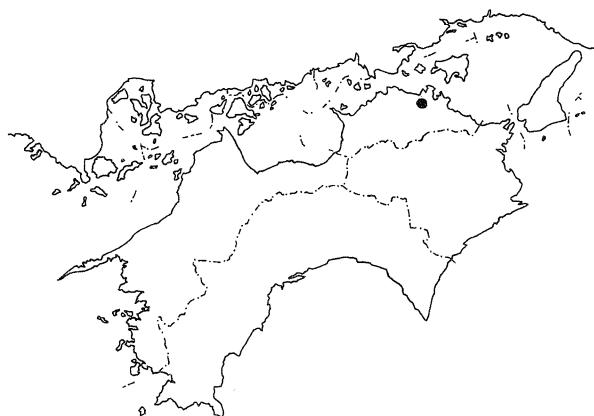
## 第1節 調査の経緯

都市計画道路室町新田線は、高松市の中心部から東に抜けるという地理的条件から、その北側に位置する国道11号の朝夕における慢性的な渋滞緩和を目的として建設を計画されたものである。西は国道11号室町交差点を起点とし、東は新田町の県道屋島西塩江線までを結び、それ以東は県道高松志度線として隣町の牟礼町に抜ける幅員22m、片側2車線の幹線道路である。すでに市内の中心部については道路建設が終了しており、今回の施工範囲は春日川以東の約1.7kmであり、これにより全線開通を目指すものである。

道路建設工事に先立ち、道路建設の主管課である高松市都市開発部都市計画課より道路予定地における埋蔵文化財有無の照会があった。当該地には周知の埋蔵文化財は確認されていないが、建設予定地が約36,000m<sup>2</sup>と広大な面積であること、香川県教育委員会が県道屋島西塩江線より東側で県道高松志度線建設工事に先立ち試掘調査を行った結果、縄文時代から鎌倉時代にかけての遺跡である小山・南谷遺跡を確認したこと、周辺部に遺跡が埋没している可能性があることなどから、事前に道路予定地内について試掘調査による埋蔵文化財の有無を確認する必要があった。

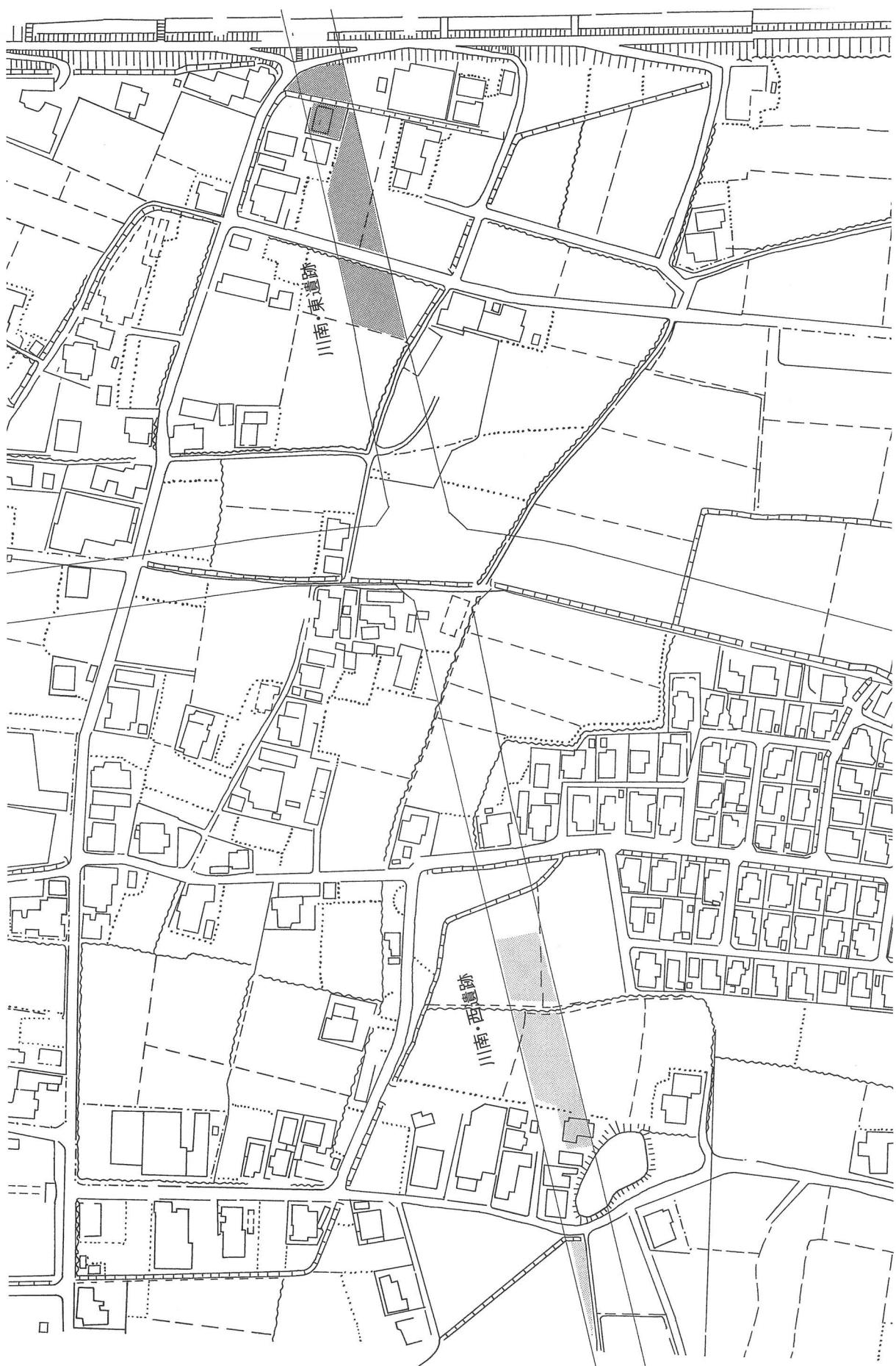
このような状況から平成7年3月に試掘調査を実施し、道路予定地内の3地区において埋蔵文化財を確認した。西側より川南・西遺跡、川南・東遺跡、新田本村遺跡の3遺跡である。主管課である都市計画課と協議を行った結果、道路建設前に発掘調査を実施し、記録保存を行うことで合意した。道路建設工事は西側より行い、平成8年度中に春日川～新川間を着工、平成9年度に新川～県道屋島西塩江線間の着工、平成10年度末開通の予定であった。これにより平成8年度当初に川南・西遺跡および川南・東遺跡、平成9・10年度において新田本村遺跡の発掘調査を行うことで合意した。

本報告書掲載の川南・東遺跡は新川の西側に位置し、試掘調査では南北幅約22m、東西約100mの範囲について中世末から近現代の集落跡を確認した。道路建設が平成8年7月より行われることから、発掘調査は平成8年3月末から面積約2,300m<sup>2</sup>の範囲について実施した。



第1図 川南・東遺跡位置図

第2図 川南・東、川南・西遺跡位置図



## 第2節 調査の経過

本調査は平成8年3月21日に開始し、6月19日で終了した。調査地は市道、私道、水路等の保守の必要があったため、これらを境にI～IV区に分けて調査を行った。調査地の西側をI区とし、順次II、III、IV区と調査を進めていった。調査の経過は以下の調査日誌抄のとおりである。

### <調査日誌抄>

- 3月21日（曇） 発掘調査開始。重機、機材の搬入。重機による表土掘削。
- 3月28日（晴） 作業員の雇用を開始。I・II区の周囲に側溝を掘削。II区より遺構面精査。
- 4月5日（晴） II区の遺構検出完了。3×2間の掘立柱建物跡、土坑、溝、ピットを検出。
- 4月15日（雨） I～IV区全ての機械掘削終了。
- 4月18日（晴） III・IV区の遺構検出。IV区では近・現代の遺構しか見られない。
- 4月24日（晴） I区の遺構検出を行い、全調査区の遺構検出終了。
- 4月25日（晴） IV区の遺構掘削を行う。
- 5月2日（晴） III区の遺構掘削。近世の屋敷跡と考えられる溝で囲まれた建物跡が見られた。
- 5月10日（晴） II区の遺構掘削開始。主に溝を掘削。溝はほぼ現在の地割に合致する。
- 5月20日（曇） I区の遺構掘削も開始。同時に平板測量も行う。
- 5月22日（雨） 早朝からの雨で現場は水没。1日中水抜き作業に従事。
- 5月24日（晴） I区西端の自然河道（N R-1001）を掘削。
- 5月29日（曇） II区中央南端部分の大型円形土坑の掘削。遺物の出土状況図の作成を行う。
- 6月7日（曇） 大型円形土坑の下層部分掘削。上～下層まででコンテナ15箱分の遺物が出土。
- 6月13日（雲） ベルトコンベアの撤去を行い、航空写真測量の準備。
- 6月14日（曇） 午前中は航空写真測量の準備。正午頃に航空写真測量を行う。
- 6月19日（晴） 寒川旭氏来訪。I区の噴砂の確認を行った。撤収作業を行い現場は終了。

### 第3節 整理作業の経過

都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査事業として実施した発掘調査は川南・西遺跡、川南・東遺跡、新田本村遺跡の3遺跡で、平成10年度から3年間で順次報告書を刊行することを予定した。このため、整理作業も順次行うこととした。調査終了後基礎整理を行った後、平成9年度後半より整理作業を再開し、平成11年度末で終了した。整理作業の経過は以下の工程表のとおりである。

整理作業工程表

	H8			H10												H11												H12		
	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
水洗	■	■																												
接合		■	■																											
実測				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■															
複元													■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
ト レース																					■	■	■	■	■	■	■	■		
レイアウト																							■	■	■	■	■	■	■	
写 真 撮 影																														
原 稿 執 筆																							■	■	■	■	■	■	■	
編 集																														

## 第2章 地理的・歴史的環境



## 第1節 地理的環境

本遺跡は高松平野の北東隅に位置する。住宅団地に隣接するが水田地帯であって西を春日川、東を新川が限る低地（調査地耕作面の標高2.7m）に、この平野通例の「散村」形態の名残をうかがわせている。調査地点を挟み北流する兩河川は天井川であり、二河川の東西間距離は1kmに満たない。付近は大雨の際に浸水の被害をたびたび受けしており、高松平野の中でも最も水害を受けやすい地域の1つである。

高松平野には西から本津川、香東川、春日川、新川などの河川が阿讚山脈に端を発して北流し、瀬戸内海に注いでいる。この中でも高松平野の西部を流れる香東川の流域には河川の堆積による扇状地が形成されている。その最も東の旧河道は由良山北西端近くに認められ、影響は現春日川のすぐ西にまで及んでいたことが知られる。しかし、春日川の東岸に位置する本遺跡付近では西岸とは様相が異なり、春日川、新川によって形成された氾濫平原が広がる。

扇状地性の堆積で形成された高松平野には地形に平行してN—10°—Eの方向に条里地割が広がる。この条里地割は高松平野の東部、春日川の東岸にも広がっており、本遺跡の南部に位置する高松市由良町では三十六、市ノ坪など条里に関係する小字も残る。また、近年の研究で、新川以東の新田町および高松町のごく限られた範囲において高松平野の条里とは方向を異にするN—5°—Eの方位で地割が見られることがわかっている。

しかしながら、本遺跡付近では南方に広がるような規則的な地割は見られず、かなり乱れた地割となっている。ごく部分的に条里制地割の遺存ともとれる径溝線等が散見されるものの、明瞭な条里型の地割は認められていなかった。従来、この一帯は条里制地割が行われた当時、施工に耐えぬ条件下にあり、もともと条里制地割は存在しなかったとの見解と、条里制地割施工後の氾濫・埋積により失われたものとする二様の見解が示されてきたところである。

本遺跡の所在する春日町および新田町付近は比較的新しい時代に干拓されたらしく、現在の海岸線はかなり新しい時代の開発によるものであることが多数の文献資料よりうかがえる。寛永14（1637）年に生駒藩の西嶋八兵衛は堤防を築き、堤防より南側の干潟の干拓を行った。堤防は後に志度街道として利用されており、現在の県道牟礼中新線付近まで干拓されたことがうかがえる。生駒氏の改易後、高松藩に入封した松平頼重は寛文7（1667）年にさらに北側に干拓を進めている。現在の琴平電鉄志度線あたりまで干拓されたことがうかがえる。それ以前の海岸線を知る手がかりとしては香西成資の著した『南海通記』の中に天正10（1582）年の様相がみられる。石清尾山の東側では塩屋町、今新町、御坊町付近から新田町小山付近までは湾状を呈した遠干潟であったと記されている。また、木太町新開から春日町あたりは干潟で、干潮の際にはこの間に海の中道ができ、ここを往来していたと記されている。作者の香西成資は寛永年間の生まれで、実際見たわけではなく、付近の古老の話によるもので、記述は多少大げさと考えられる。しかしながら、本遺跡からそれほど遠くない位置に海岸線があったことは否めない。

以上のように海岸線に近く、なおかつ春日川や新川による度重なる氾濫を繰り返したであろう地域に本遺跡が所在しており、中世末から近世にかけての干拓や新田開発に大きくかかわったと考えられる。

## 第2節 歴史的環境

本遺跡が立地する高松平野東縁部一帯は弥生後期の標式遺跡として著名な大空（スペリ山）遺跡、碧玉製鍬形石を出土して、その畿内的性格が指摘されている県指定史跡・高松市茶臼山古墳、陶棺・石棚を持った巨石墳で承台付銅鏡を副葬した久本古墳はじめ、その豊富な遺跡の分布が早くから注目されてきた地域である。

旧石器時代の遺跡として知られるものはないが、本遺跡南東2kmの久米池南遺跡の調査時に国府型ナイフ形石器が採集されている。同遺跡が立地する久米山丘陵西端の支峰にあたる諏訪神社遺跡一帯でも、同種資料が得られている。

縄文時代の遺跡も少なく、近年の開発による調査で徐々に遺跡数を増加させている。後期では小山・南谷遺跡で落とし穴が検出されている。また、前田東・中村遺跡に後期の注口土器等、林町の林・坊城遺跡、浴・長池遺跡等で晚期の木製農耕具・土器等が出土している。

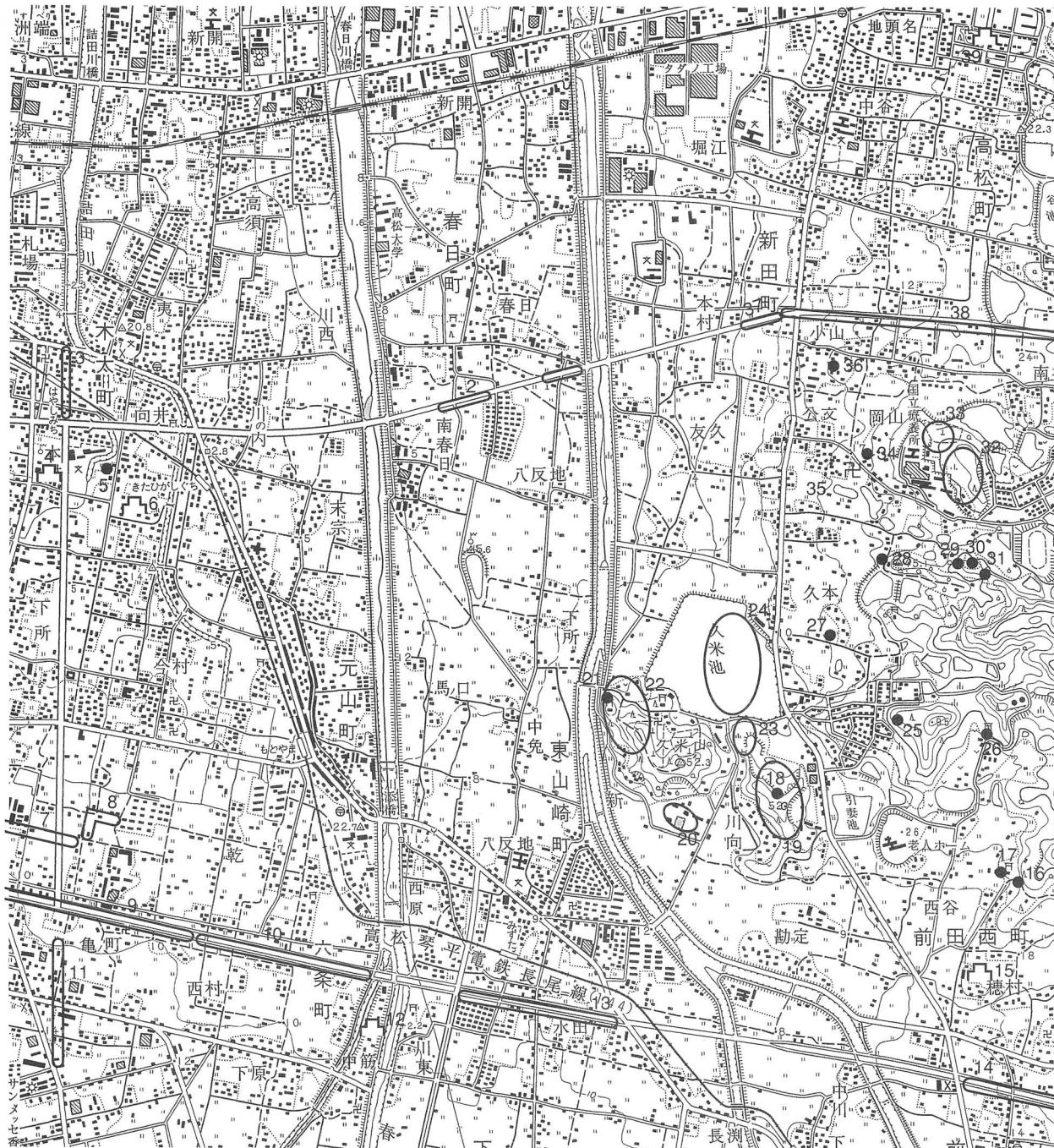
弥生前期では諏訪神社遺跡から、木葉文をもつ壺が出土している。中期前半では遺跡の東方の丘陵地に竪穴住居跡多数を検出した奥の坊遺跡が見られる。中期後半では高地性集落である久米池南遺跡が見られる。鉄鋤・鉄剣・鉄斧が国内でも最も早い時期に属する使用例とみられており、高床建物が描かれた絵画土器片とともに注目される。後期前半ではこの時期の標式となる土器を一括出土した大空（スペリ山）遺跡がある。周辺の後期の遺跡としては奥の坊現前遺跡や小山・南谷遺跡があげられる。これらの遺跡は製塩土器を一定量出土することで知られている。やや時期は下がり、後期後半の遺跡としては前記の前田東・中村遺跡や林・坊城遺跡があげられる。また、近年調査された木太中村遺跡は本遺跡より低地に位置することから海岸線を考える上で重要である。

前記諏訪神社遺跡では、竪穴式石室の主体部3基をもつ庄内併行期の墳丘墓が営まれていたことが確認されている。諏訪神社遺跡に次ぎ、古墳時代は前期前半の前方後円墳である高松市茶臼山古墳が出現するが、この系譜を直接引き継ぐような盟主墳は付近に見当たらない。一方集落は、南方2km余の六条・上所遺跡で韓式系土器を伴った4世紀後半～5世紀前半の竪穴住居跡が検出され、河川に近接した立地とともに注目される。

遺跡の東方1km余一帯に、平野全域でも目立った存在である後期の巨石墳の久本、山下、小山古墳が連なる。このほか高松町、新田町、東山崎町、前田西町、前田東町にかけて群集墳もまじえて後期の横穴式石室墳が広く分布している。

久本古墳出土の銅鏡はこの地域に早くから仏教文化の影響があった徴証となっているが、同墳近くに7世紀後半の瓦を出土する山下廃寺がある。前田東・中村遺跡でも素縁单弁軒丸瓦と12葉細弁单弁軒丸瓦があり前者は宝寿寺、後者は始覚寺（旧三木郡）に類例が知られる。付近には「宮処」という地名も残っており、郡衙も想定されている。

また、小山・南谷遺跡では7世紀代にさかのぼる溝、井戸、建物跡が確認された。ここでは同時に「新田街道」を南北基準線にとる山田郡北（東）部の独立条里地割の存在が報告されている。山田郡条里よりも5°西偏するとされている。



第3図 周辺遺跡分布図

- |              |               |             |
|--------------|---------------|-------------|
| 1. 川南・東遺跡    | 14. 前田東・中村遺跡  | 27. 久本古墳    |
| 2. 川南・西遺跡    | 15. 前田城跡      | 28. 丸山1号墳   |
| 3. 木太中村遺跡    | 16. 田楽古墳      | 29. 漆谷1号墳   |
| 4. 神内城跡      | 17. 岡崎神社古墳    | 30. 漆谷3号墳   |
| 5. 白山神社古墳    | 18. 高松市茶臼山古墳  | 31. 漆谷2号墳   |
| 6. 向城跡       | 19. 高松市茶臼山古墳群 | 32. 岡山古墳群   |
| 7. 林・下所遺跡    | 20. 川添浄水場遺跡   | 33. 岡山小古墳群  |
| 8. 林・浴遺跡     | 21. 諏訪神社古墳    | 34. 山下古墳    |
| 9. 林・坊城遺跡    | 22. 久米山古墳群    | 35. 山下廃寺    |
| 10. 六条・上所遺跡  | 23. 久米池南遺跡    | 36. 小山古墳    |
| 11. 宗高・坊城遺跡  | 24. 久米池遺跡     | 37. 新田本村遺跡  |
| 12. 六条城跡     | 25. 北山古墳      | 38. 小山・南谷遺跡 |
| 13. 東山崎・水田遺跡 | 26. 滝本神社古墳    | 39. 喜岡城跡    |

近年、徐々に中・近世遺跡調査例も増加した。東山崎・水田遺跡や川南・西遺跡では掘立柱建物の集落が報告されている。また、周辺で城跡とされるものもいくつか存在する。現喜岡寺は讃岐守護舟木頼重が建武2年（1335）築城、一度落城後に再興され天正13年（1585）再度の落城が伝えられる喜岡城で、空壕跡など旧地形が明治期地籍図に明瞭である。また、地元で「城山」と呼ぶ前田城跡は前田山から南西にのびた低丘陵端の平山城である。文明年間（1469～87）から天正12年（1584）土佐軍による落城まで前田氏の居城である。木太南小学校校地は「城屋敷」の地名を持ち、伝承や屈曲して地名を囲むように流れる「宮川」の流路も含め神内城跡に該当すると考えられている。その東300mには向城跡と伝える地形の高まりが残されている。

以上のような歴史的に重要な地域であるが、本遺跡の周辺はこれまで海や川の中と言わされてきたため遺跡のあまり知られていない地域であった。今回の発見で旧河道中のわずかながらの微高地上にも遺跡の存在が期待される。また、古代の海岸線を特定するうえでも重要な地域であることからも今後の調査に期待したい。

#### 〈参考文献〉

- 『香川県史8資料編 古代・中世史料』香川県1986
- 『香川県史3通史編 近世Ⅰ』香川県1988
- 『東山崎・水田遺跡』香川県埋蔵文化財調査センター1992
- 『空港跡地遺跡Ⅰ』香川県埋蔵文化財調査センター1996
- 『小山・南谷遺跡Ⅰ』香川県埋蔵文化財調査センター1997
- 『高松市太田地区周辺遺跡詳細分布調査概報』高松市教育委員会1987
- 『讃岐国弘福寺領の調査 弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書』高松市教育委員会1992
- 『木田郡誌』山田弥三吉編・聚海書林1982
- 『揺れる大地 日本列島の地震史』寒川旭・同朋舎1997

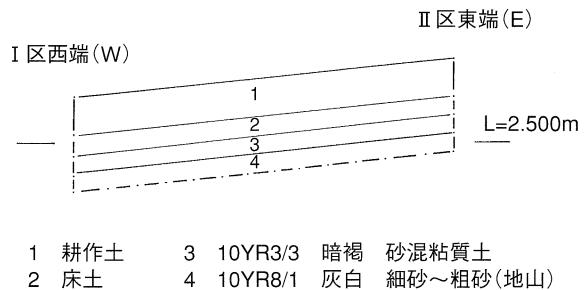
## 第3章 調査の成果



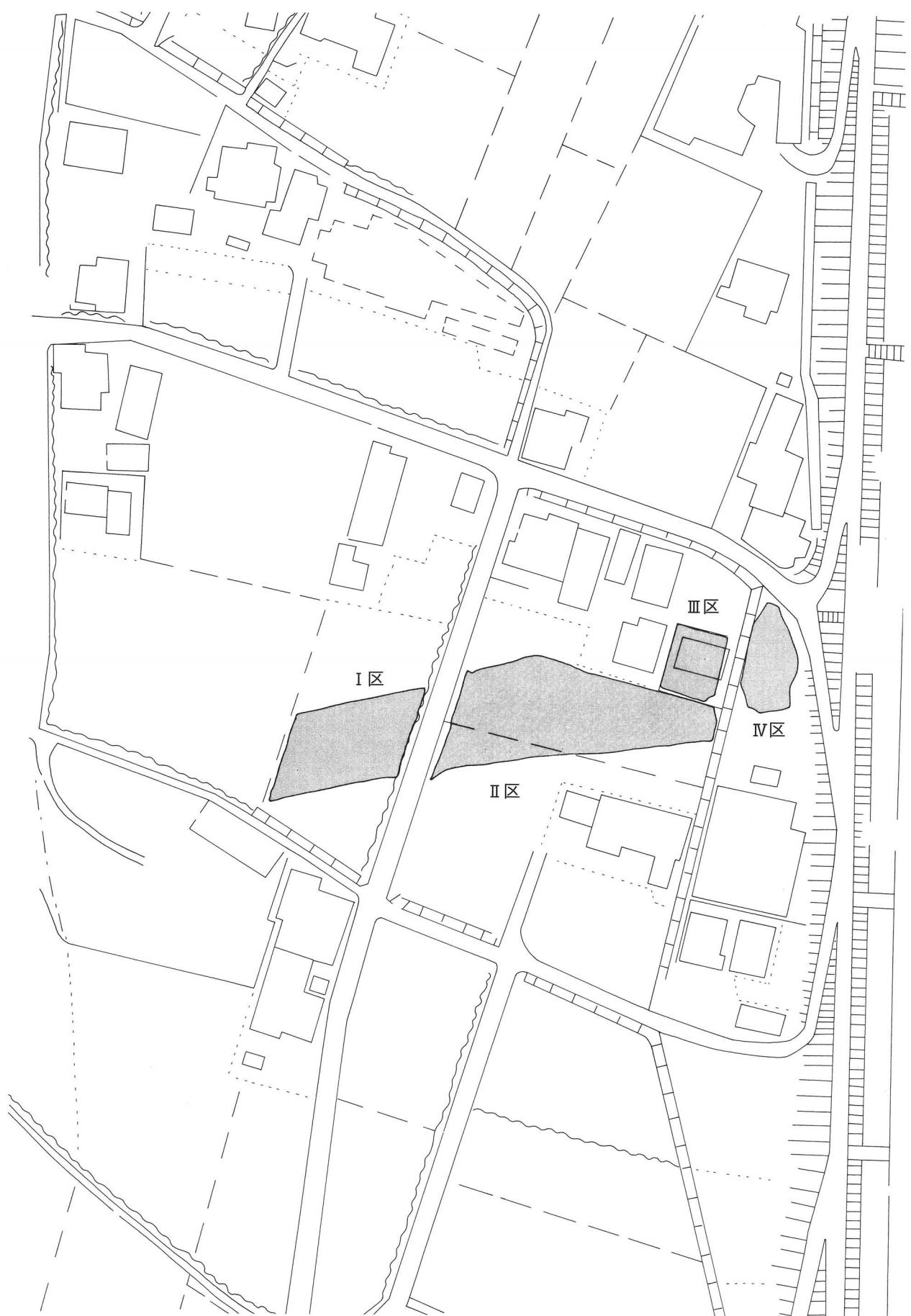
## 第1節 遺跡の概要と基本層序

川南・東遺跡は高松平野の北東部に位置し、現地表面の標高は2.7～3.0mと低い値を示す。春日川、新川による沖積作用でできた比較的新しい平地と考えられる。調査区は道路建設の事前調査であるため、東西約150m、南北約20mの東西に細長い。現況では東から西へ向かって土地が下がっていることがうかがえる。遺構および遺物は調査地全体に認められ

たが、西端は自然河道が所在したため、遺構密度はやや希薄であった。遺構・遺物の年代観は概ね近世～近代である。基本層序は4層に分層できる。第1層は現在の耕作土、第2層は床土である。第3層は暗褐色砂混粘質土で包含層を形成している。第4層は灰白色細砂～粗砂で、以下は無遺物層であることから地山と考えた。第4層上面の1面のみが遺構面としてとらえられる。



第4図 川南・東遺跡基本層序模式図(高さのみS=1/40)



第5図 川南・東遺跡調査区位置図

## 第2節 I区の調査成果

I区は遺跡の西端に位置する。現地表面は標高2.7mと遺跡内では最も低い。遺構面も東から西へ向かって低くなっている。西端の低位部では自然河道を検出した。その自然河道に平行するように溝が数条見られた。また、調査区東半はピット群が見られた。以上から調査区の西半は耕作地、東半は居住域として活用されていたことがうかがえる。

NR-1001

I区の南西端で検出した自然河道である。流路方向は南東から北西で、幅約5.9m、深さ約30cm、検出長約12.75mを測る。埋土は単層で、断面形態は浅い逆台形を呈する。自然河道の東側にはオーバーフローによると考えられる溝も認められた。遺物は小片ばかりであったが、ビニール袋に1袋分出土した。図示できたものは第7図の土師質の擂鉢だけである。底面直上で出土した。中世のものと考えられるが、埋土上部の出土遺物中には陶磁器等も見られることから、最終埋没は18~19世紀頃と考えられる。

噴砂

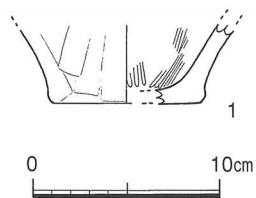
NR-1001の西肩で検出した地震跡である。幅約20~60cm、検出長約4mにわたって認められた。地山もにぶい黄褐色の砂層であるが、それより約50cm下層の灰色細礫混じりのシルト~細砂層から噴き上がったものである。この層は比較的新しい河川の沖積作用による堆積と考えられ、また、現在もこの層まで掘削すると地下水が染み出してきており、液状化の起こりやすい要因となっている。切り合いから NR-1001の埋没（18~19世紀）後に起った地震と考えられ、

現在の水田面以下であ

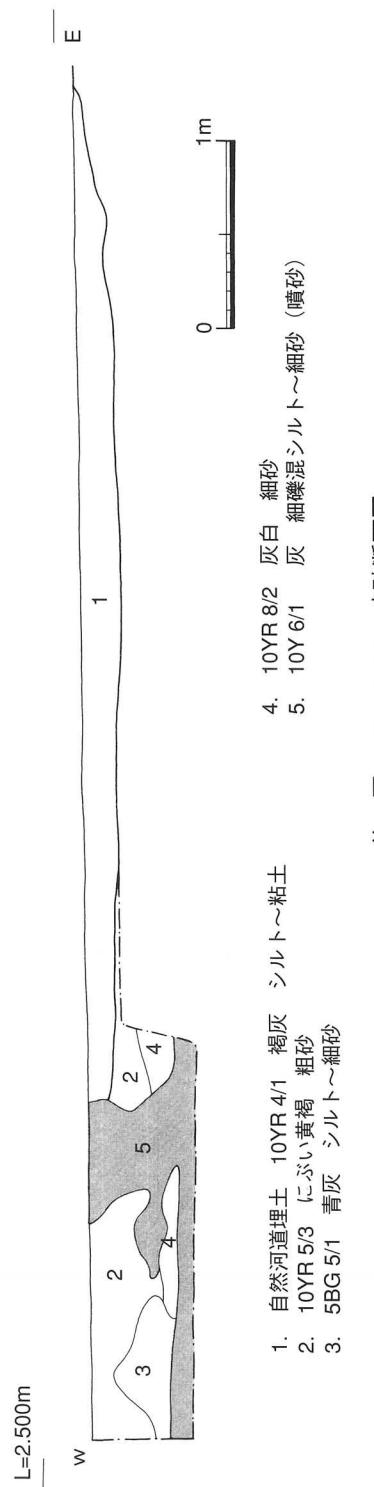
ることから、安政の南海地震（1854年）のも  
のと考えられる。

SK-1004

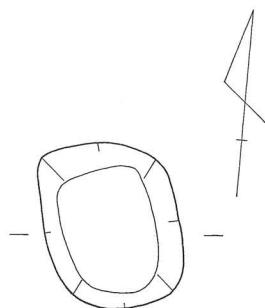
I区中央で検出した  
土坑である。平面形態



第7図 NR-1001 出土遺物実測図



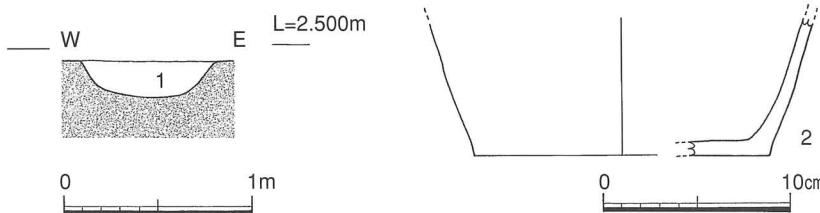
第6図 NR-1001・噴砂断面図



1. 10YR 3/1 黒褐 粘質土

第8図 SK-1004 平・断面図

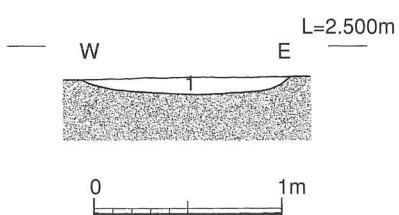
は長北方向に長い隅丸の長方形を呈し、長辺約90cm、短辺約60cm、深さ約30cmを測る。埋土は黒褐色粘質土の単層で、断面形態は半円形を呈する。遺物はビニール袋1袋分出土した。図示できたものは第9図のこね鉢である。この他、磁器および焰烙等の小片が出土しており、幕末頃のものと考えられる。



第9図 SK-1004 出土遺物実測図

#### S D-1008

I区の南東端から中央にかけて検出した溝である。SK-1005、SD-1007に切られている。検出長約17m、幅約1.15m、深さ約30cmを測る。埋土は褐灰色砂混粘質土の単層で、断面形態は浅いレンズ状を呈する。出土遺物で図示



1. 10YR 6/1 褐灰 砂混粘質土

第10図 SD-1008 断面図

できたものは第11図の火鉢だけである。丸底で3方向に長方形の脚をもつ。内面はヨコハケ、底面はヘラケズリが認められる。詳細な時期は不明である。

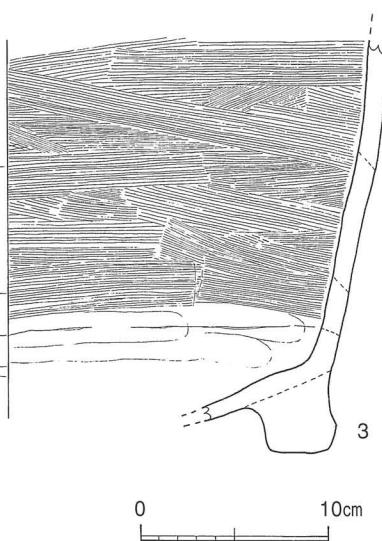
#### S D-1011

I区中央において検出した溝である。NR-1001に平行して調査区の南東部分から北西方向に流れているが、途中で屈曲して北東方向へ向きを変えている。屈曲部より南側で、東と西の2方向へ向かって溝が分岐している。溝の規模は最大幅約50cm、

深さ約15cmを測る。埋土は褐灰色砂混粘質土の単層で、断面形態は逆台形を呈する。出土遺物は少なく、図示できたものは第13図の陶器の徳利だけである。外面に鉄釉を施している。

#### 鋤溝群

I区中央南半で検出した小溝群である。NR-1001とSD-1011の間に位置し、SD-1012以南に分布がかかるようっている。いずれの溝も削平が著しく幅15~30cm、深



第11図 SD-1008 出土遺物実測図

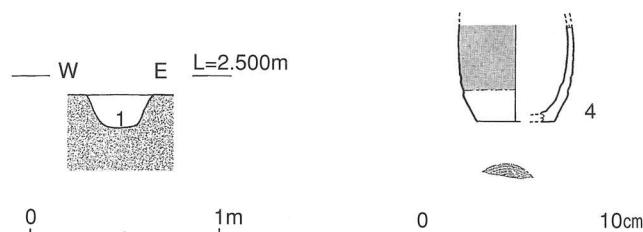
さ 5 cm以下である。埋土は褐灰色の砂混  
粘質土で、遺物は出土していない。

S P-1128

I 区中央北で検出したピットである。  
第14図の備前焼擂鉢が出土した。

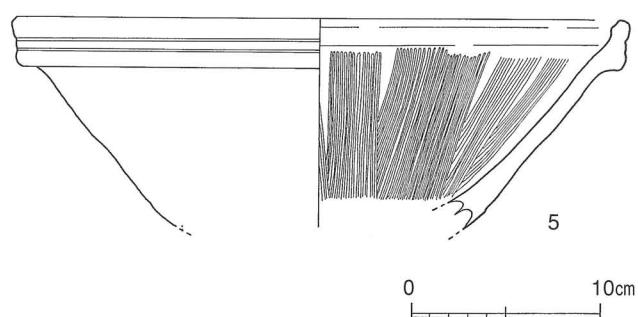
S P-1139

S D-1002の東端部分で、溝を完掘後  
に検出したピットである。第15図の柱を  
立ったままの状態で検出した。

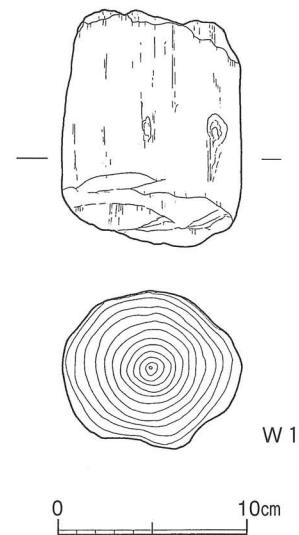


第12図 SD-1011 断面図

第13図 SD-1011  
出土遺物実測図



第14図 SP-1128 出土遺物実測図



第15図 SP-1139 出土遺物実測図

### 第3節 II区の調査成果

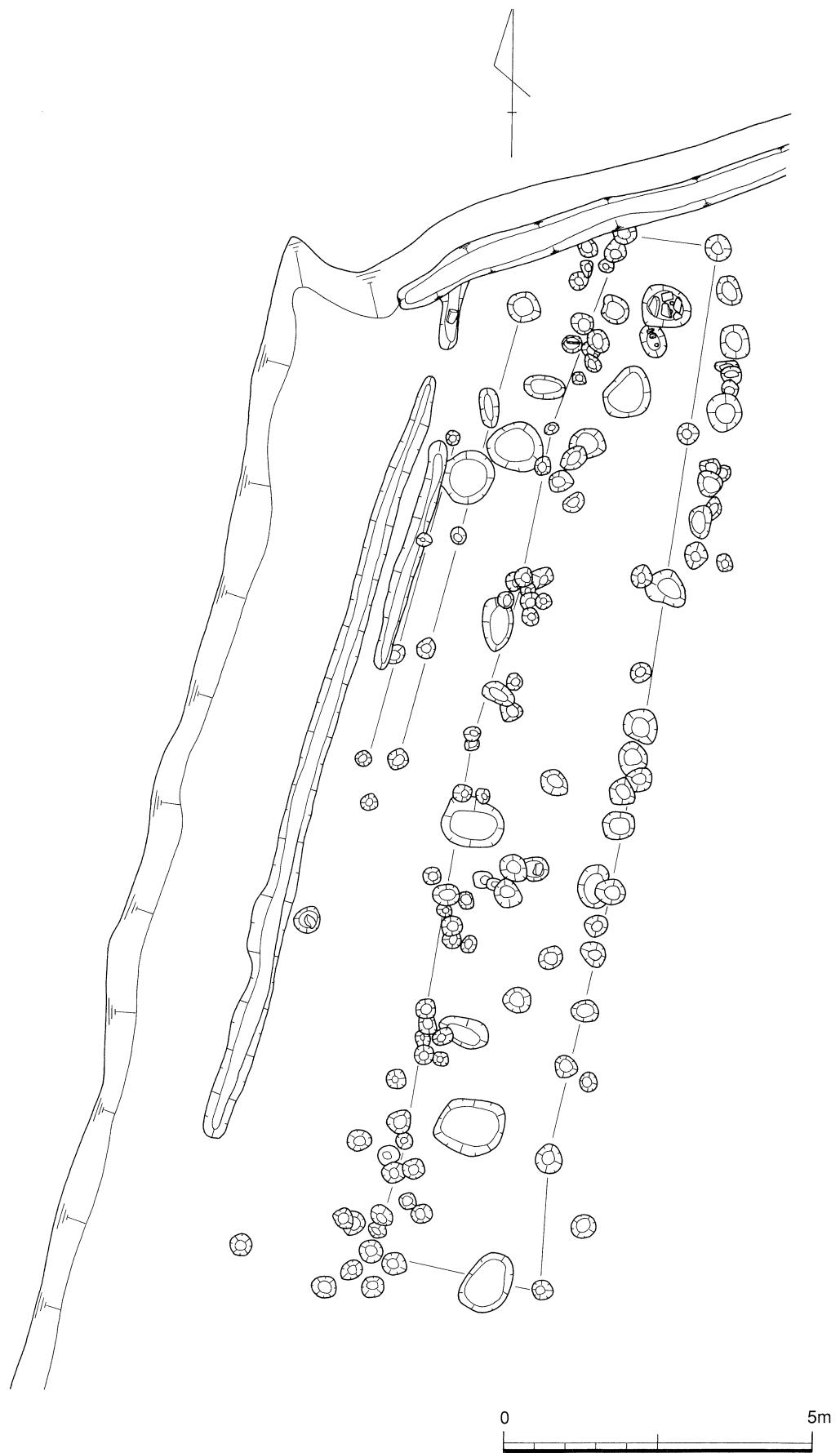
II区は調査地の中央に位置し、調査区としては、I～IV区の中で最も広く、最も東西に長い。このため検出した遺構数も最大である。土坑84基、溝53条、埋甕3基、墓1基、柱穴535基、性格不明遺構6基である。柱材の残存する柱穴も多数見られたが、確実な掘立柱建物跡としてとらえたものは2棟だけである。これらの遺構は2時期ないし3時期に分けることができる。東西方向の溝群がまず見られ、その埋没後に、掘立柱建物跡をはじめとする遺構が掘削されたと考えられる。調査区の現状は水田であるが、地元の人の話から、昔は家が2軒あり、昭和33年3月3日に火事で焼失した後に水田になったことがわかっている。このため、遺構面の下限は昭和33年と考えられる。

#### S B-2001

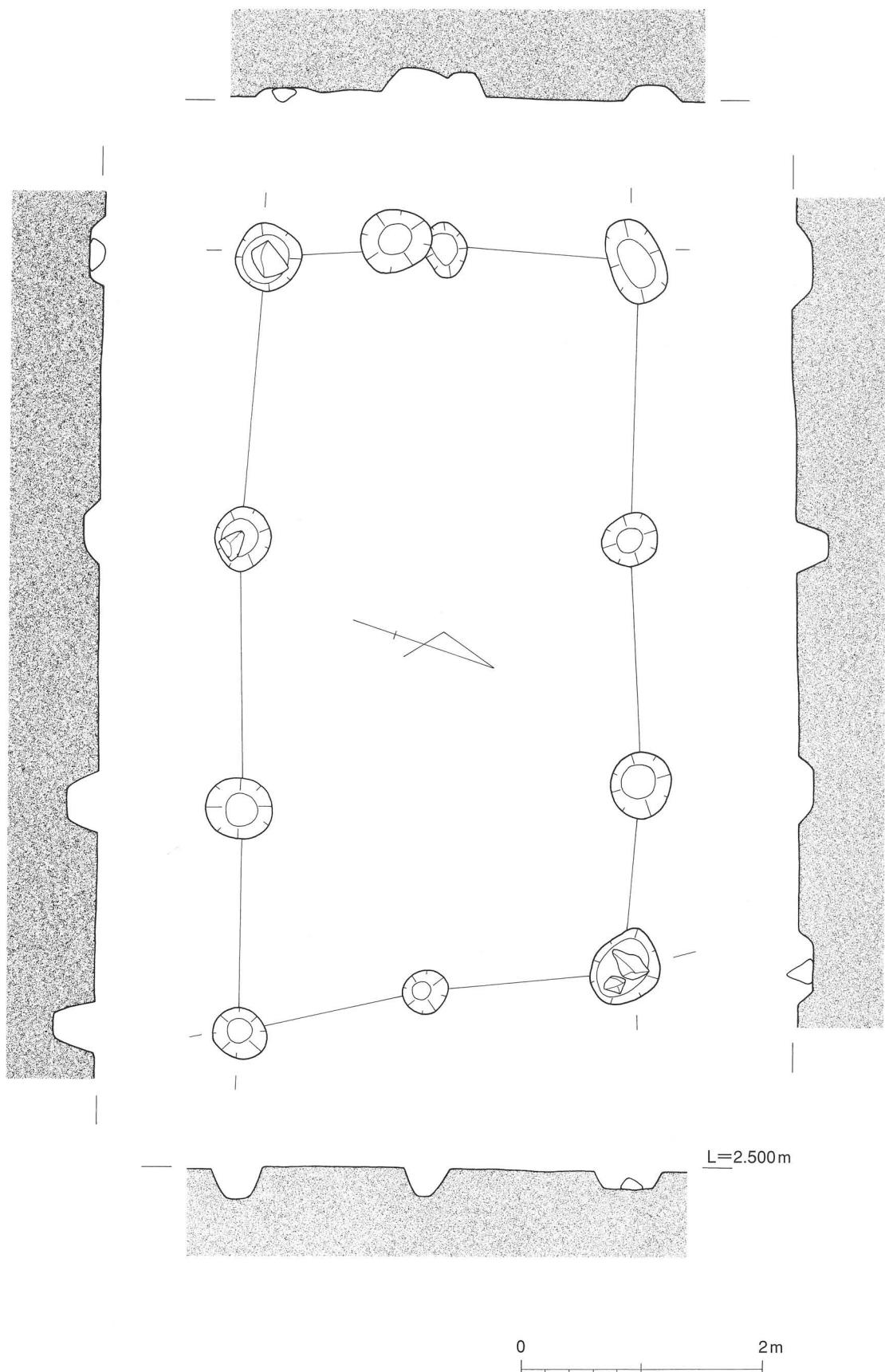
II区の西端で検出した掘立柱建物跡である。多数のピットを南北方向に細長い狭い範囲で密集した状態で検出した。切り合い関係も複雑で、数次にわたる建て替えの可能性も考えられる。このため、どの柱穴が組み合わさって建物を構成するのか不明確ではあるが、東西1間（約2.5m）×南北7間（約17m）の建物を復元できる。掘立柱建物跡の西側には、掘立柱建物跡とほぼ同方位をとる柵列が2つ見られる。S A-2001とS A-2002である。S A-2001は4間（約8m）、S A-2002は4間（約7.5m）で、柱間は約2mと掘立柱建物跡よりやや短い。柵列のさらに西側には同方位をとる溝が見られる。これらの遺構とS B-2001の関係は不明である。また、調査区の西側には南北方向の道路が所在し、この方位ともほぼ同じである。遺物は陶磁器の小片が出土しているほか、S A-2001ではビニールが出土した。このことから、遺構面の下限である昭和33年のものと考えられる。地元の人の話によると、細長い納屋があったことがわかつており、これに該当すると考えられる。

#### S B-3002

II区の南西部で検出した掘立柱建物跡である。東西3間（約6m）、南北2間（約3m）である。柱間の距離は東西と南北で若干違い、東西柱間約2m、南北柱間約1.5mを測る。掘立柱建物跡を構成する柱穴10基のうち、南西隅とその東側、さらに北東隅の3基のピットには石が見られることから、根石を持った建物であった可能性が考えられる。



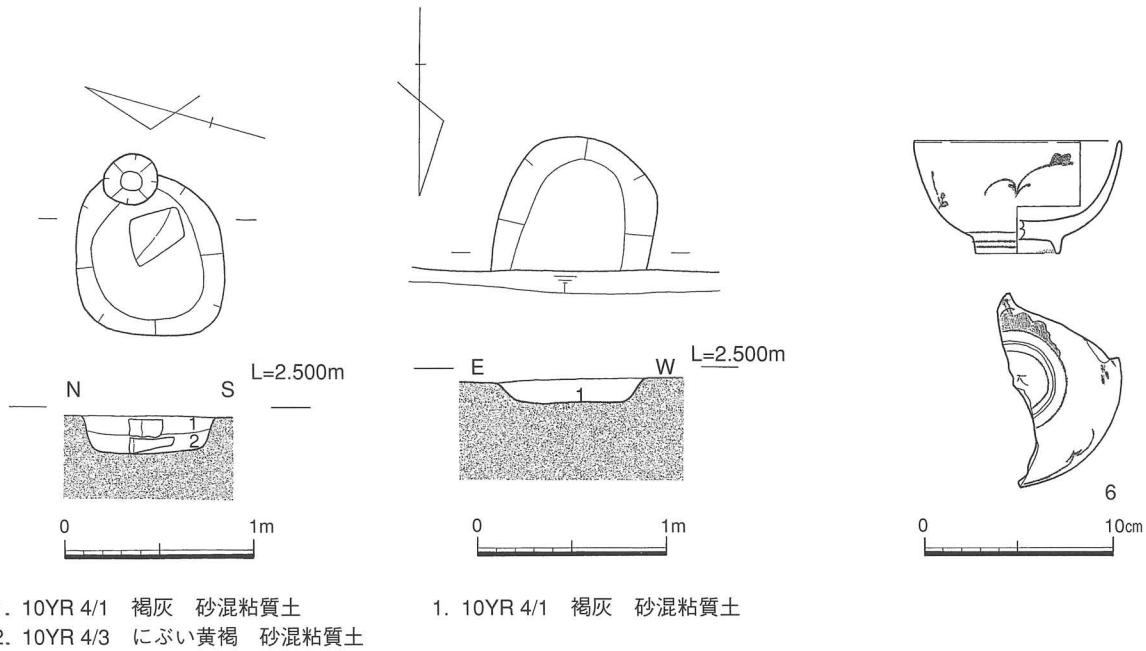
第16図 SB-2001 平面図



第17図 SB-2002 平・断面図

## SK-2003

II区の北東部分で検出した土坑である。平面形態は橢円形を呈し、長径約1m、幅約80cm、深さ約20cmを測る。埋土は2層に分層でき、断面形状は逆台形である。土坑の中央に1辺約20~30cm、厚さ約10cmの平たい石を2段に積み重ねている。遺物はビニール袋1袋分出土しているが、時期不明である。



第18図 SK-2003 平・断面図

第19図 SK-2008 平・断面図

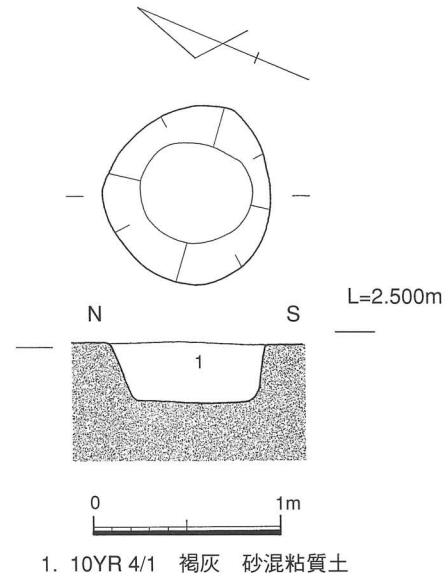
第20図 SK-2008  
出土遺物実測図

## SK-2008

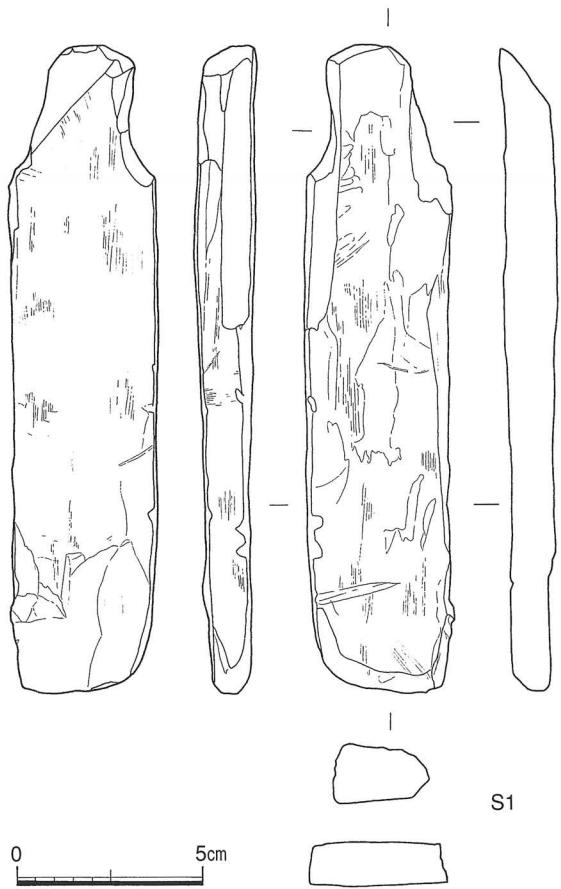
II区の北東部で検出した土坑である。調査区外に延びており、平面形態、規模等は不明である。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。出土遺物の中で図示できたものは第20図の肥前系磁器の碗である。外面に草花文の染付と、圈線3条が見られ、高台内には「大」の字が見られる。いわゆる「くらわんか手」のもので18世紀中葉のものである。

## SK-2011

II区の北東部分で検出した土坑である。平面形態はほぼ円形を呈する。長径約1m、短径約85cm、深さ約30cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形を呈する。遺物はビニール袋2袋分出土している。図示できたものは第22図に掲載した砥石のみで、詳細な時期は不明である。



第21図 SK-2011 平・断面図



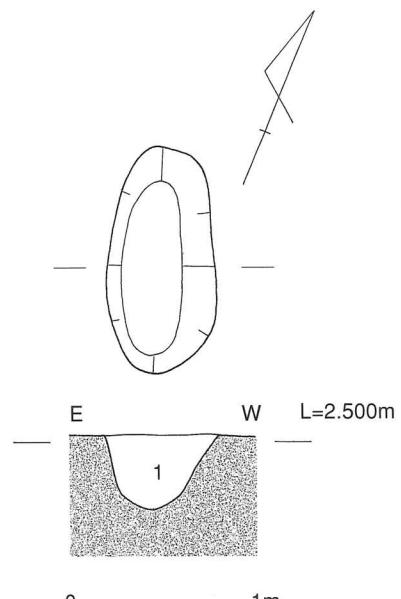
第22図 SK-2011 出土遺物実測図

S K -2012

II区の北東部分で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈する。長径約1.15m、短径約55cm、深さ約35cmを測る。埋土は単層で、断面形態はU字である。遺物は瓦片を中心にコンテナで1箱分出土している。図示できたものを第24図に掲載した。7は丸瓦で内面はゴザ目である。8～12は平瓦である。13は肥前系磁器の碗で外面に草花文が見られる。18世紀中葉のものである。14は瀬戸美濃系陶器の碗で、外面鉄釉、内面透明釉を施す。18世紀のものである。15は京・信楽系陶器の鉢で19世紀のものである。

S K -2014

II区の北東部分で検出した土坑である。平面形態は円形を呈し、長径約80cm、短径約70cm、深さ約30cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形を呈する。遺物はビニール袋に3袋分出土しており、図示できたものを第26図に掲載した。16は備前焼の擂鉢である。17は肥前系青磁皿で、17世紀前半のものである。

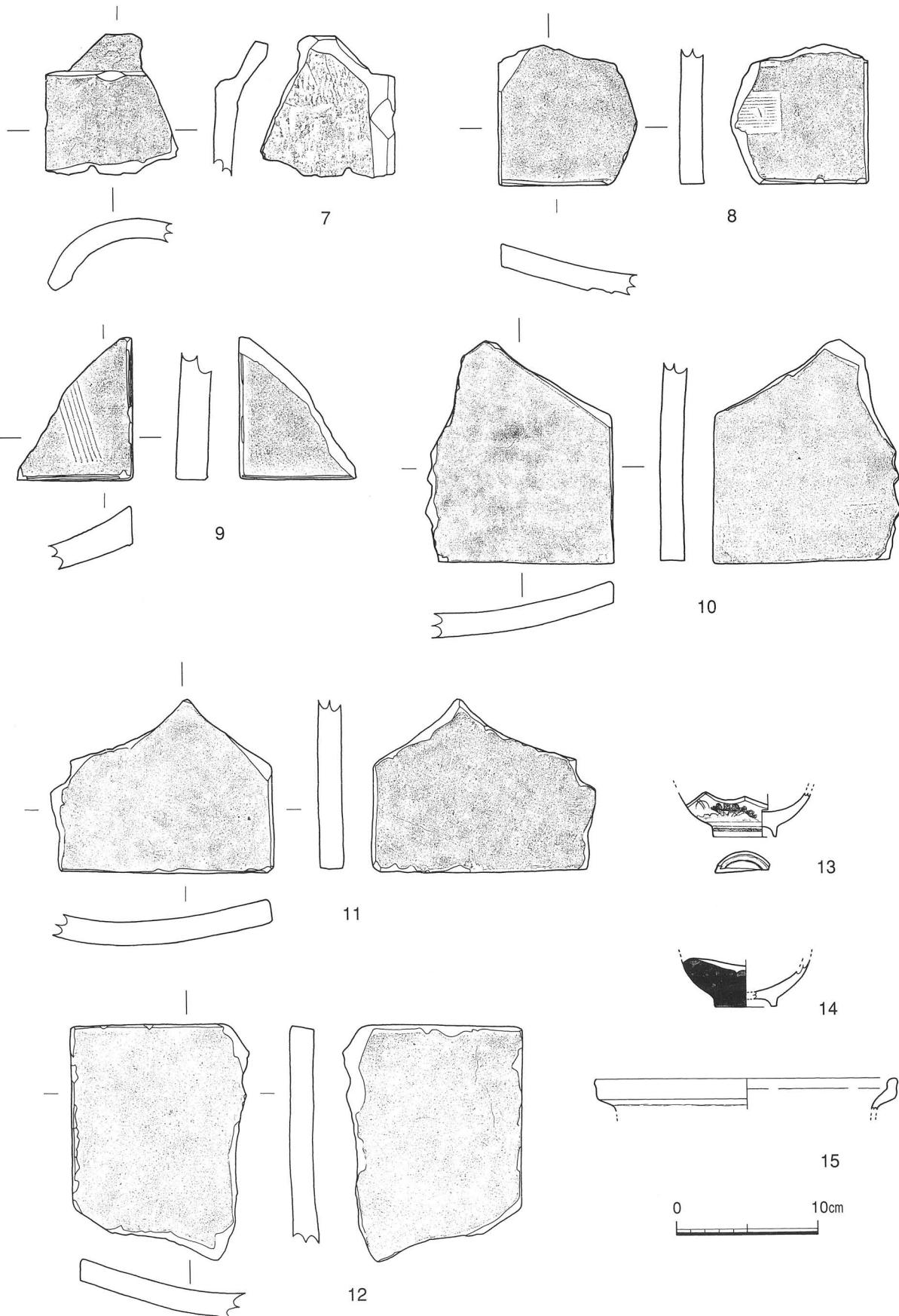


1. 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土

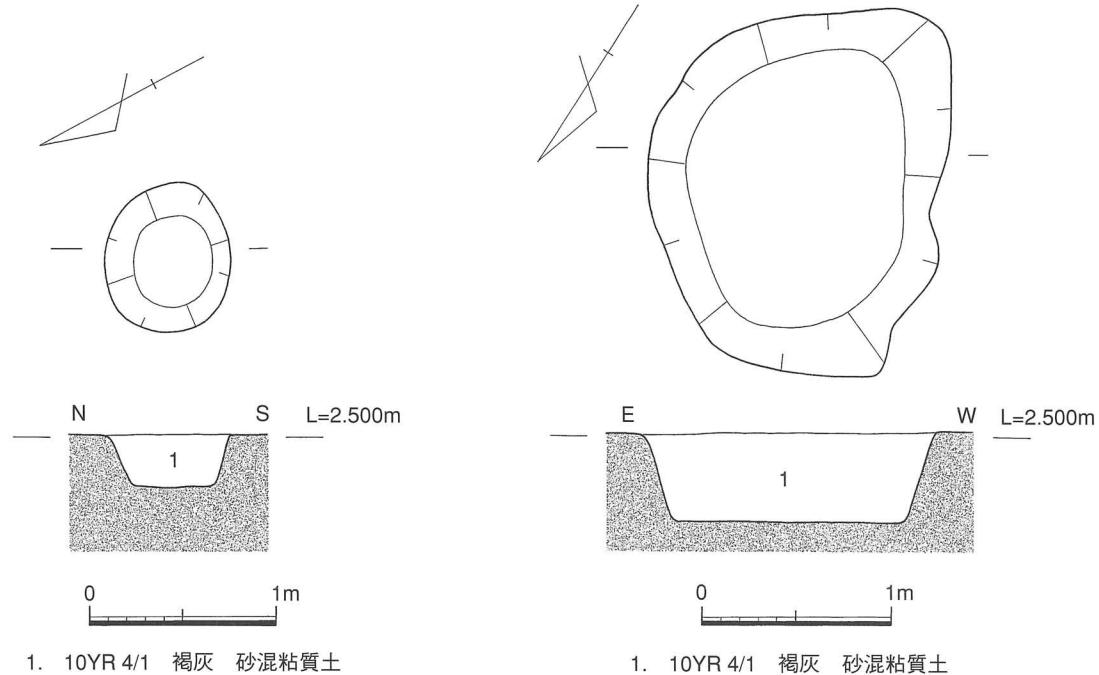
第23図 SK-2012 平・断面図

S K -2015

II区の北東部分で検出した土坑である。平面形態は不整形な隅丸方形を呈し、長辺約2m、短辺約1.5m、深さ約35cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。遺物はコンテナ1箱分出土した。図示できたものを第28図に掲載した。18は外面に回転ヘラケズリが認められることから堺焼の擂鉢と考えられる。19は瓦質の羽釜である。20は京・信楽系陶器の碗である。外面に若松を描いた鉄絵が見られる。高台も小さいことから18世紀後半～19世紀のものである。

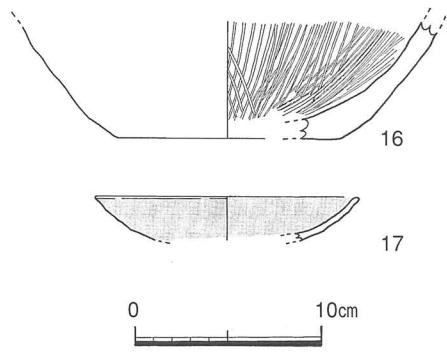


第24図 SK-2012 出土遺物実測図



第25図 SK-2014 平・断面図

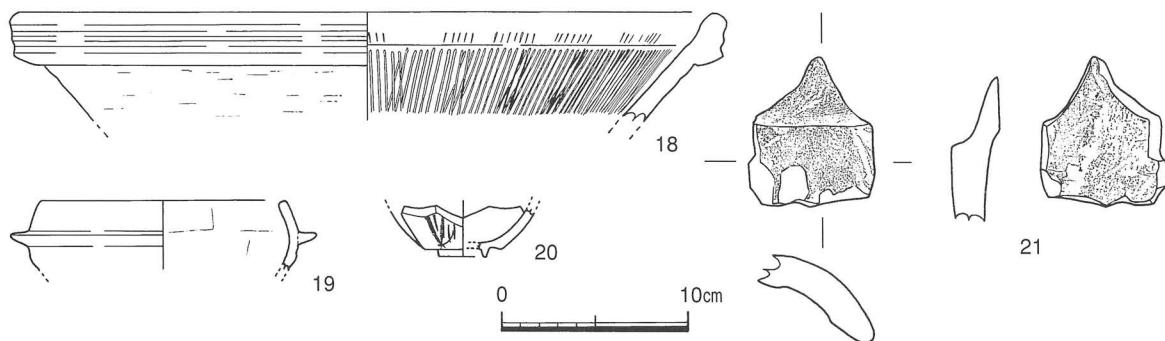
第27図 SK-2015 平・断面図



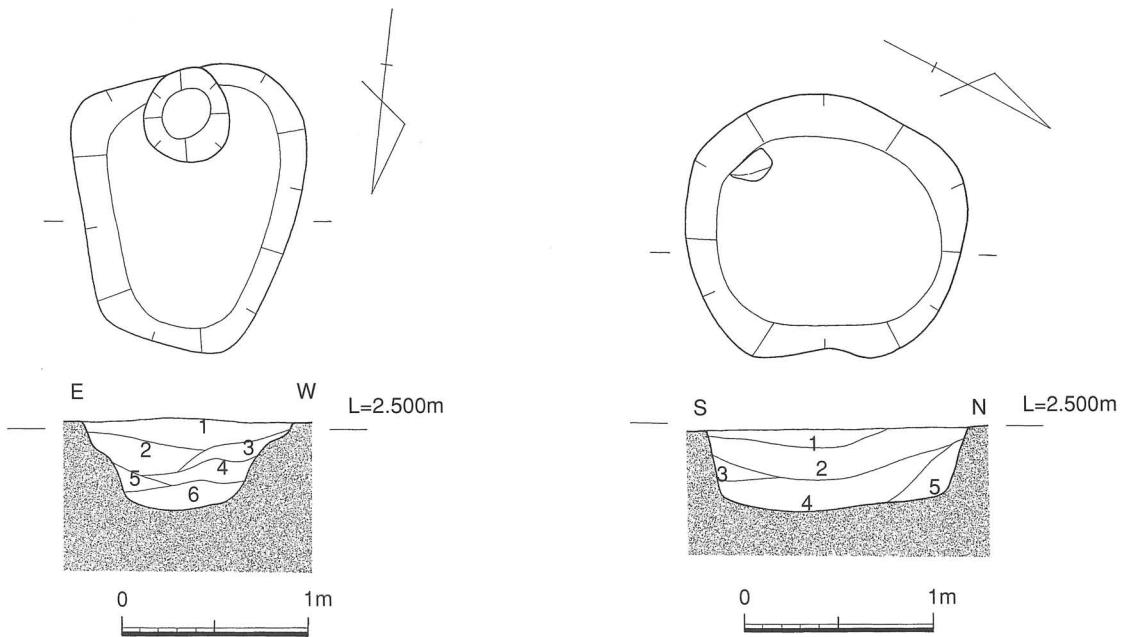
第26図 SK-2014 出土遺物実測図

### S K-2019

II区の南東部分でピットに切られた状態で検出した土坑である。平面形態は隅丸方形を呈し、長辺約1.5m、短辺約1.2m、深さ約30cmを測る。埋土は6層に分層でき、上層は砂混粘質土、中層部分で砂層、下層は粘土である。東西両肩は二段落ちになっており、断面形状は逆台形を呈する。出土遺物は少量しか出土しておらず、詳細な時期は不明である。



第28図 SK-2015 出土遺物実測図



1. 7.5YR 5/2 灰褐 砂混粘質土
2. 7.5YR 5/1 褐灰 砂混粘質土
3. 7.5YR 5/3 にぶい褐 細砂
4. 2.5Y 5/1 黄灰 砂混粘質土
5. 7.5GY 4/1 暗緑灰 砂混粘土
6. 7.5Y 6/3 オリーブ黄 砂混粘土

1. 7.5YR 4/3 褐 砂混粘質土
2. 10Y 5/1 灰 細砂～粗砂
3. 2.5GY 3/1 暗オリーブ灰 砂混粘質土
4. 2.5Y 5/3 黄褐 細砂～粗砂
5. 7.5Y 5/3 灰オリーブ 粗砂

第29図 SK-2019 平・断面図

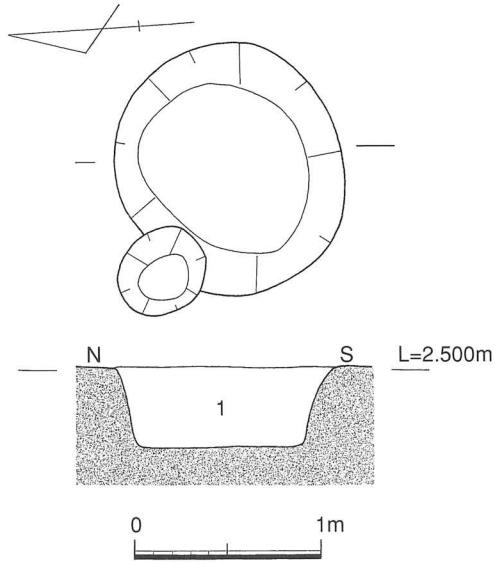
第30図 SK-2020 平・断面図

#### S K-2020

II区の南東で検出した土坑である。平面形態は円形を呈し、径約1.5m、深さ約60cmを測る。埋土は5層に分層でき、断面形態は逆台形を呈する。遺物は少量しか出土しておらず、時期は不明である。

#### S K-2023

II区の中央北部でピットに切られた状態で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.35m、短径約1.15m、深さ約45cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形を呈する。遺物はコンテナ1箱分出土しており、図示できたものを第32図に掲載した。22は棧瓦である。23～25は京・信楽系陶器の蓋で、櫛描直線文が見られる。外面のみ鉛釉を施す。26は京・信楽系陶器の筒形の瓶である。外面のみ透明釉を施し、底面は無釉である。19世紀のものである。27は肥前系磁器の鉢である。内外面とも青磁釉で、外面に葡萄の文様および寿福の文字が見られる。また、割れ口には焼きつぎの痕跡も見られる。17世紀前半のものである。28は肥前系磁器の鉢である。蛇の目凹形高台が見られることから19世紀のものである。29は肥前系磁器の紅皿で、口縁部外面に雨降り文が見られることから18世紀前半のものである。30は肥前系磁器の盃である。31～33は同文様の瀬戸美濃系磁器の碗である。外面は帆船を描いており、内面には圈線が見られる。19世紀のものである。31の見込みには重ね焼きの痕跡が認められる。



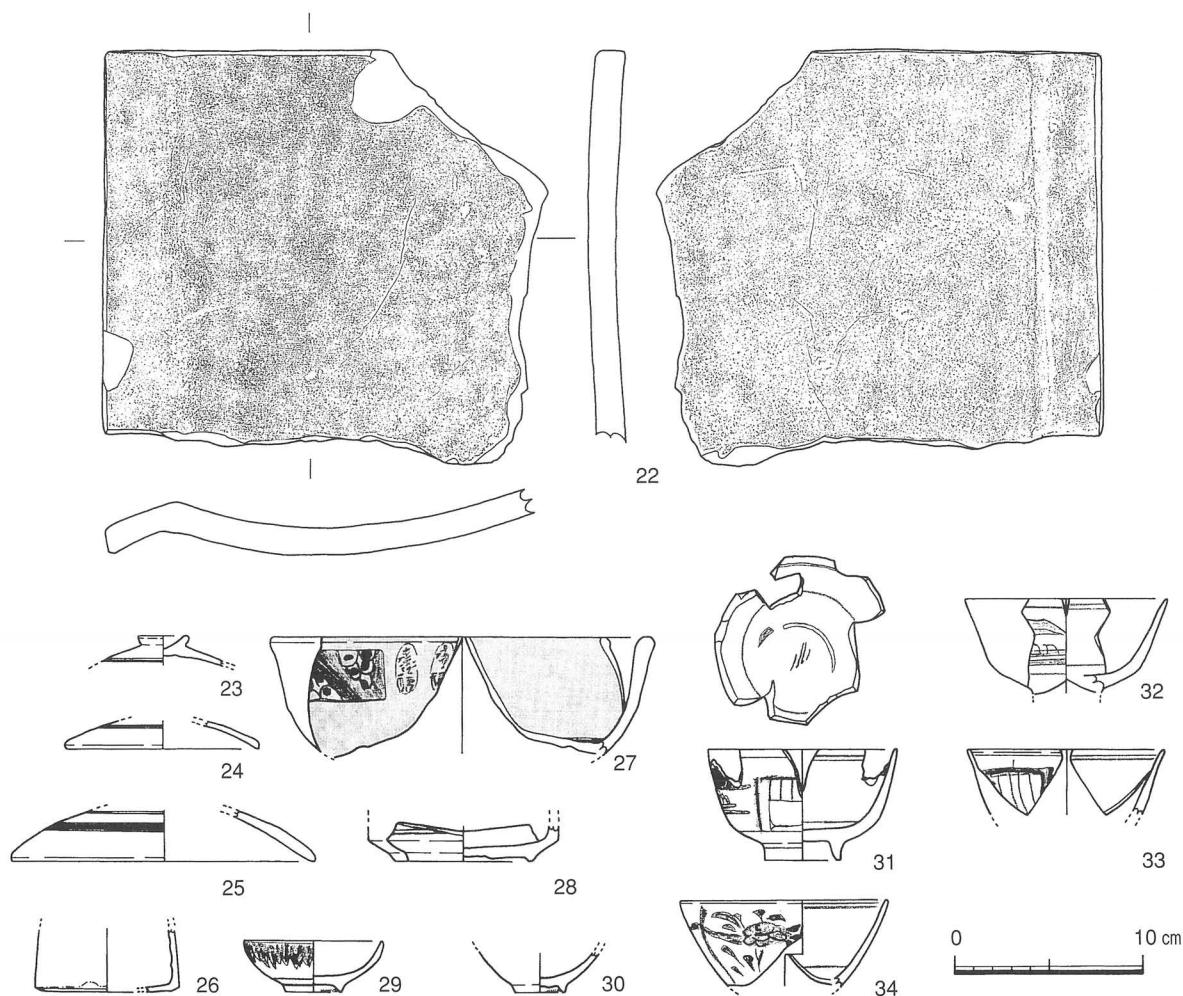
1. 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土

第31図 SK-2023 平・断面図

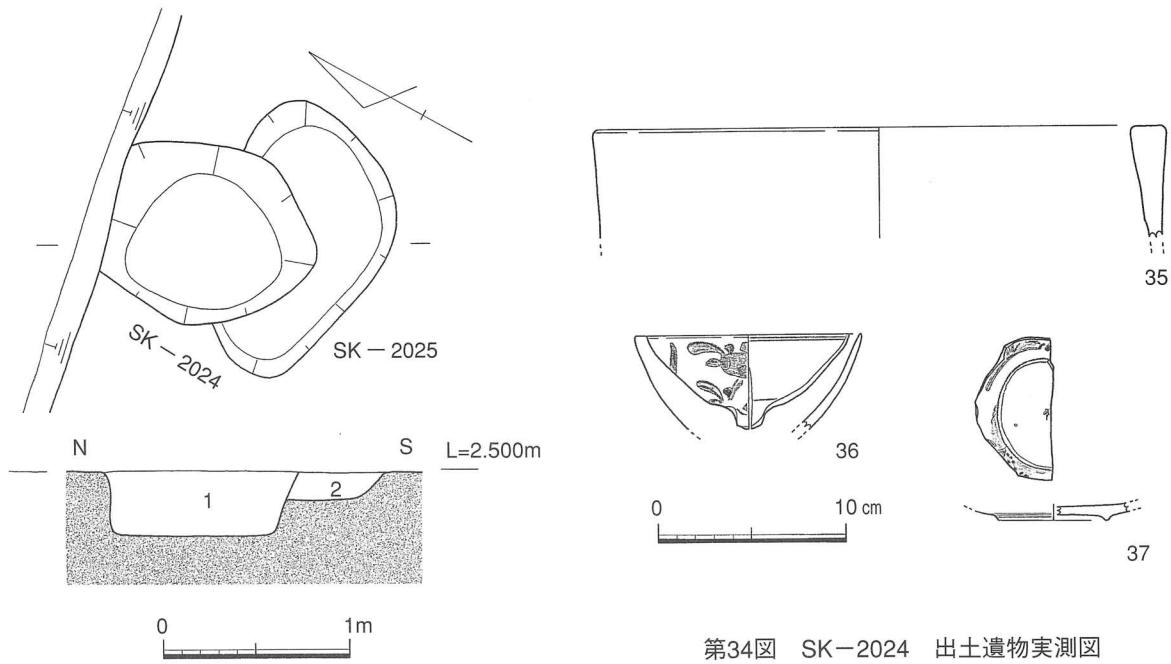
34は肥前系磁器の碗で、外面に草花文、内面に圈線が見られる。18世紀末～19世紀と考えられる。

#### S K -2024

II区中央北端で検出した土坑である。遺構の北端は調査区外に延びているが、平面形態は橢円形を呈すると思われる。長径約1.3m、短径約1m、深さ約40cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。出土遺物のうち図示できたものを第34図に掲載した。35は土師質の甕の口縁部である。36は肥前系磁器の碗である。外面に草花文、内面に圈線が見られ、18世紀後半～19世紀のものである。37は肥前系磁器の皿で、内面に草花文が見られ、18世紀中葉のものである。SK-2025との切り合い関係から、19世紀以降と考えられる。



第32図 SK-2023 出土遺物実測図



第34図 SK-2024 出土遺物実測図

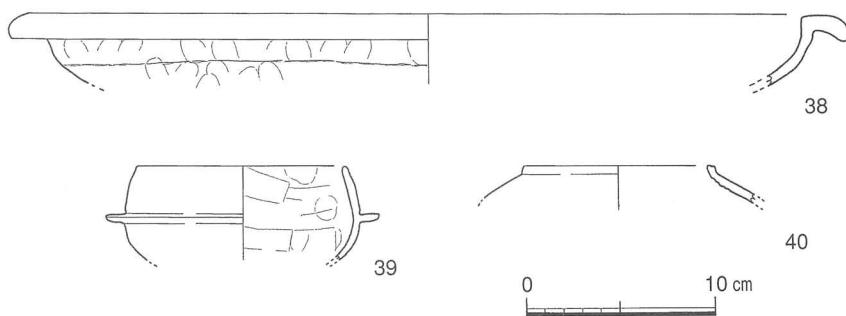
1. 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土
2. 10YR 3/1 黒褐 砂混粘質土

第33図 SK-2024・2025 平・断面図

#### S K -2025

Ⅱ区中央北端でSK-2024に切られた状態で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.5m、短径約90cm、深さ約15cmを測る。埋土は単層である。遺物はビニール袋に4袋分出土しており、図示できたものを第35図に掲載した。

38は瓦質の焰烙である。外面は指頭圧痕が見られる。37は瓦質の羽釜である。内面は板ナデのち指頭圧である。40は京・信楽系陶器の鉢で、外面のみ鉛釉で施釉する。19世紀前半のものである。

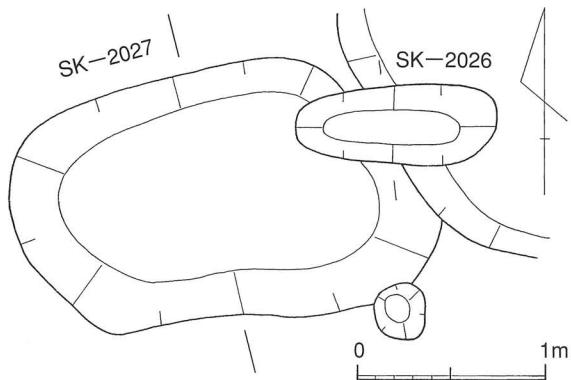


第35図 SK-2025 出土遺物実測図

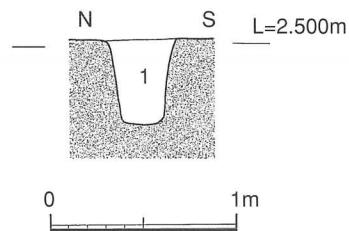
#### S K -2026

Ⅱ区の中央北で検出した土坑である。平面形態は細長い楕円形を呈し、長径約1.1m、短径約40cm、深さ約50cmを測る。埋土は単層で、断面形態はU字を呈する。遺物はコンテナ1箱分出土しており、図示できたものを第38図に掲載した。

41は京・信楽系陶器の鍋である。取手を有し、外面に煤が付着している部分が見られた。内面のみ施釉される。19世紀中葉のものである。

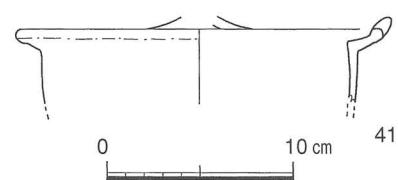


第36図 SK-2026・2027 平面図

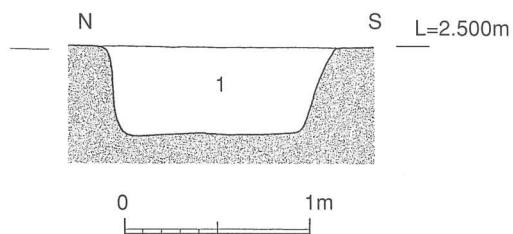


1. 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土

第37図 SK-2026 断面図



第38図 SK-2026 出土遺物実測図

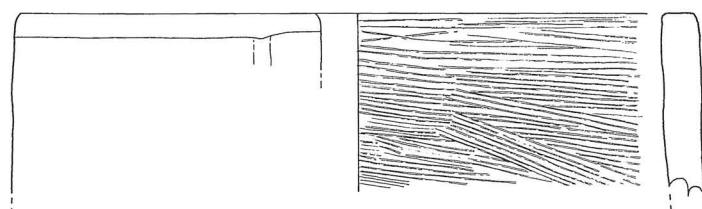
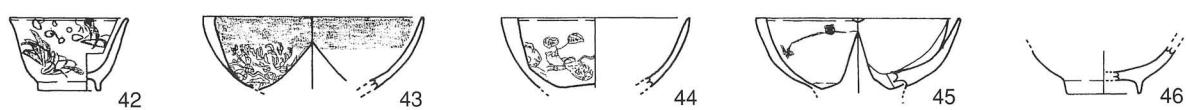


1. 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土

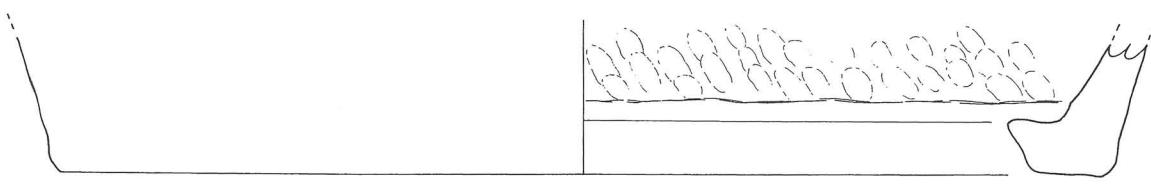
第39図 SK-2027 断面図

### S K-2027

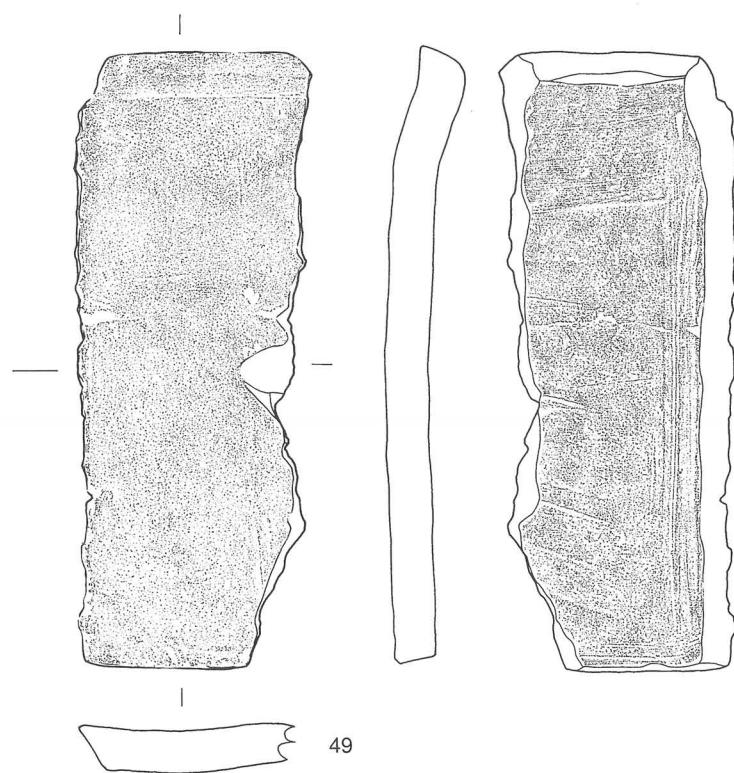
II区の中央北部でSK-2026に切られた状態で検出した土坑である。平面形態は隅丸の長方形を呈し、長辺約2.2m、短辺約1.3m、深さ約40cmを測る。埋土は单層で、断面形態は逆台形である。出土遺物は多量で、コンテナ2箱分にのぼる。図示できたものを第40~43図に掲載した。第40~42図は埋土中出土のもので、第43図は底面直上のものである。42は肥前系磁器の盆である。外面に見られる草花文の緑色は酸化クロームによるものであることから明治のものと考えられる。43~44は瀬戸美濃系磁器の碗である。44の外面の瓢箪の文様は銅版転写によるもので、明治末~大正期のものである。45・46は肥前系磁器の碗である。45は外面に草花文が見られる「くらわんか手」で18世紀のものである。47は土師質の土器で口縁部に凹みがある。外面は板ナデ、内面は粗いハケである。48は土師質土器で、底がなく、内面に指頭圧痕が見られる。49~54は平瓦である。50の凹面には釘穴のまわりにナデによる山形のくぼみが見られる。55~59は丸瓦である。全体的に小振りで、高さも低い。また、玉縁も短い。凹面にはゴザ目が見られる。60は土師質の円盤で、多数の円形の穴が開いている。61は土師質の火鉢で、内面は粗いヨコハケである。62は京・信楽系の灯明皿で、内面のみ施釉している。19世紀のものである。63は京・信楽系陶器の壺で、外面のみ鉛釉を施釉しており、19世紀前半のものである。64は肥前系の青磁皿で17世紀のものである。65は肥前系陶器の碗である。刷毛目が見られ、17世紀末~18世紀前半のものである。66は瀬戸美濃系陶器の碗で外面鉄釉、内面透明釉を施している。18世紀のものである。67は肥前系磁器の碗である。外面に草花文が見られ、18世紀のものである。68は肥前系磁器の段重である。口縁端部と底部は無釉である。外面には草花文が見られる。ま



47



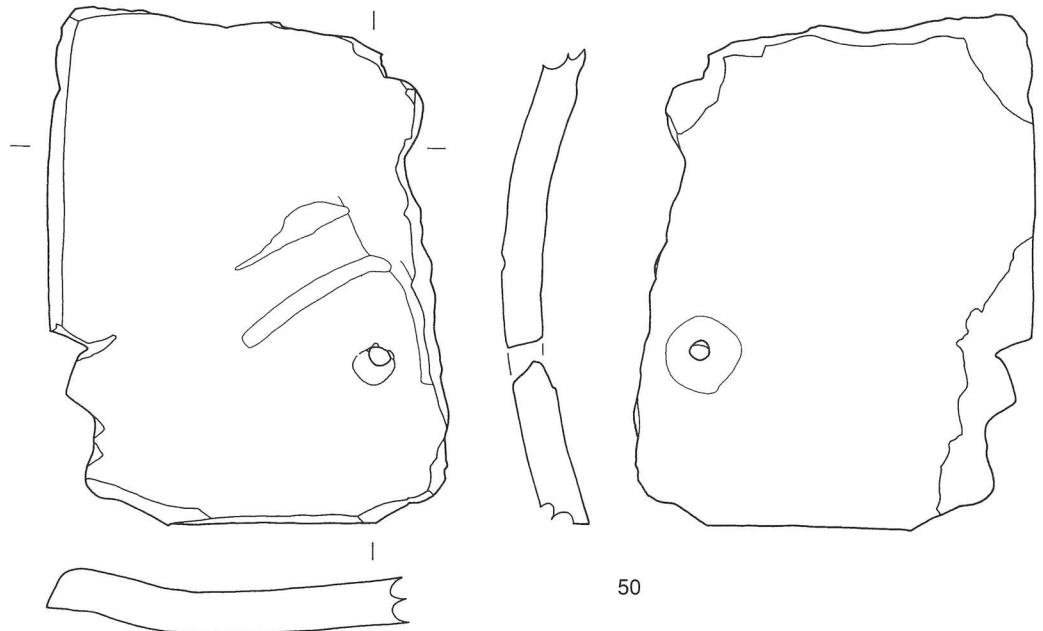
48



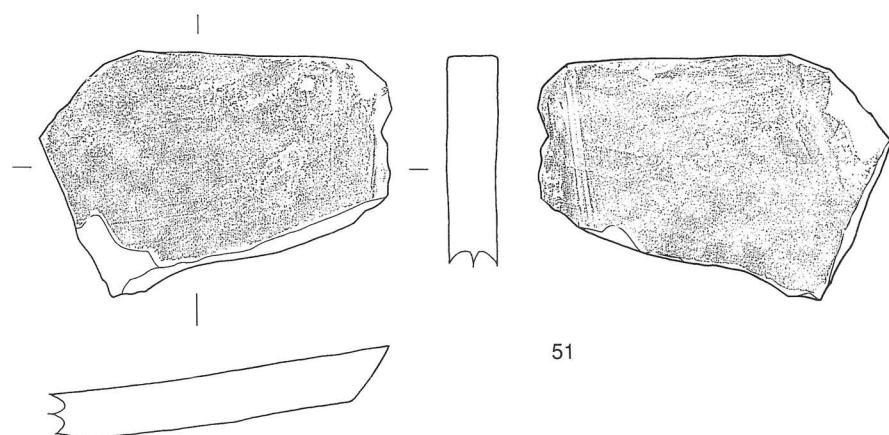
49



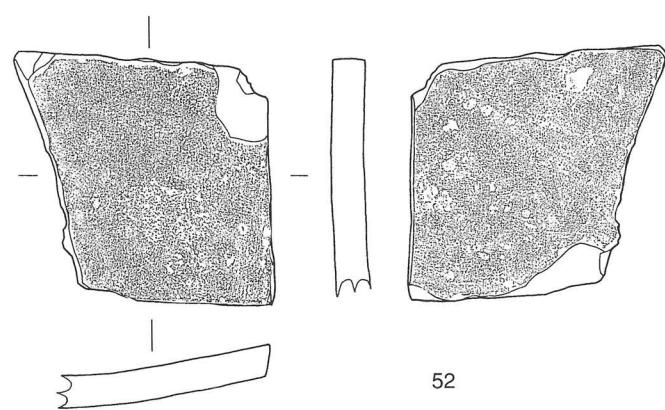
第40図 SK-2027 出土遺物実測図①



50



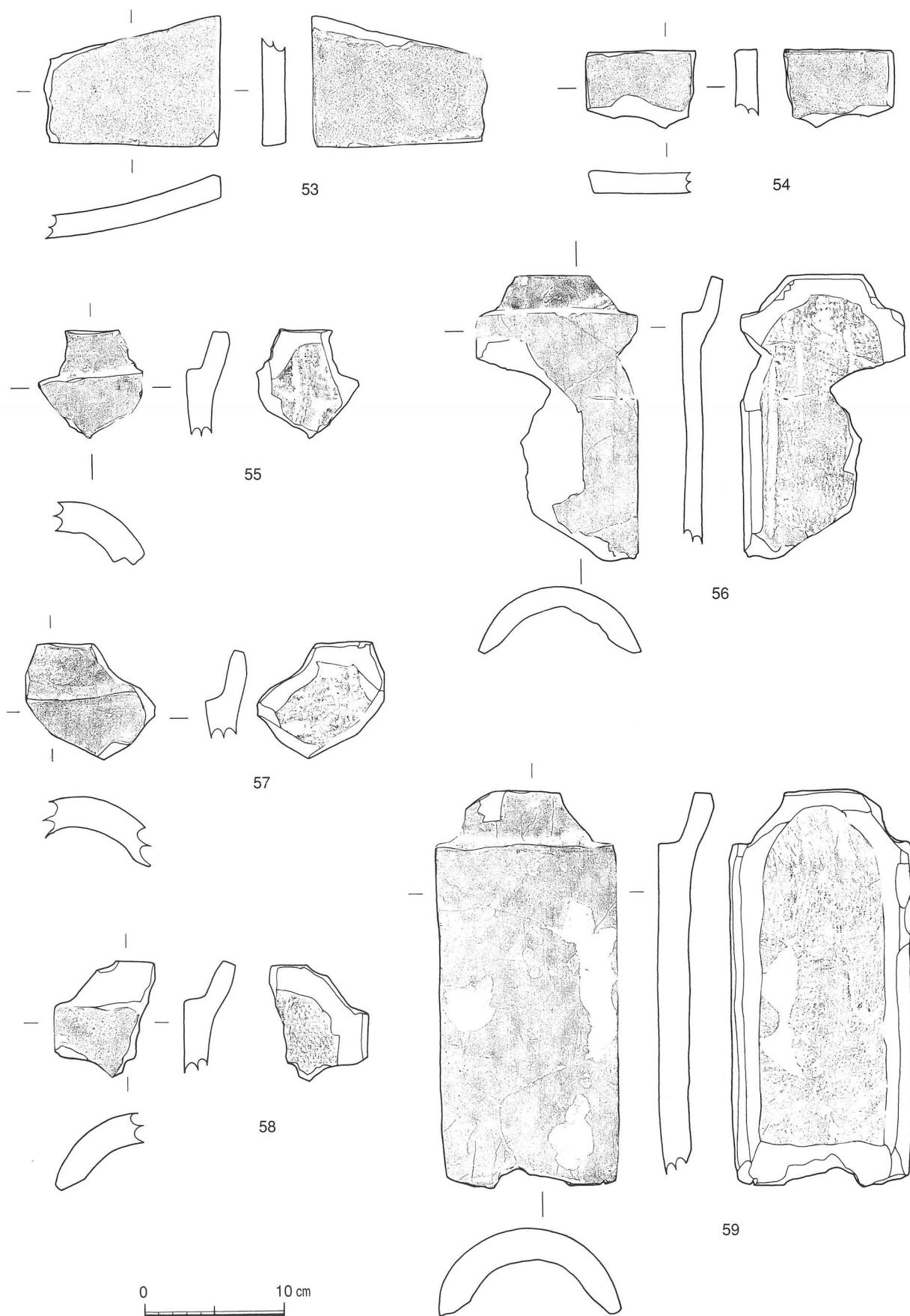
51



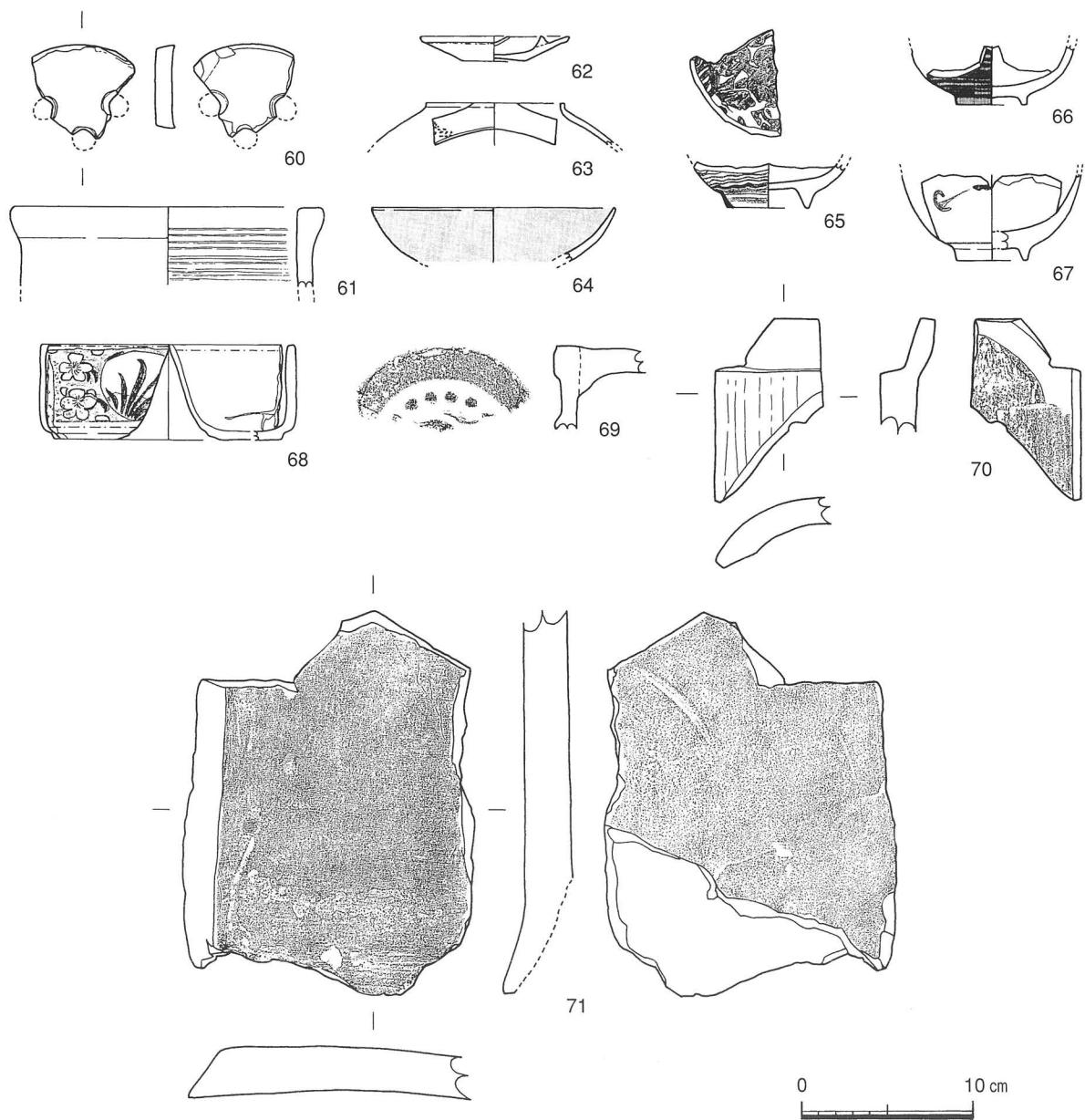
52



第41図 SK-2027 出土遺物実測図②



第42図 SK-2027 出土遺物実測図③

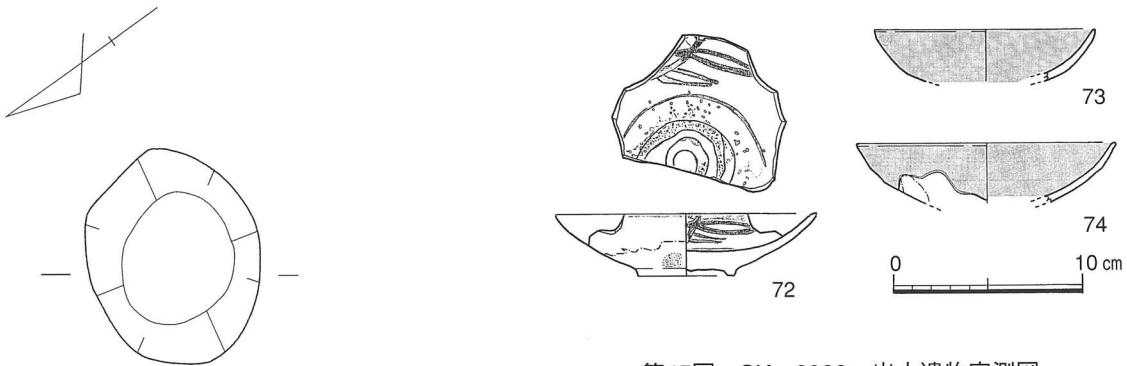


第43図 SK-2027 出土遺物実測図④

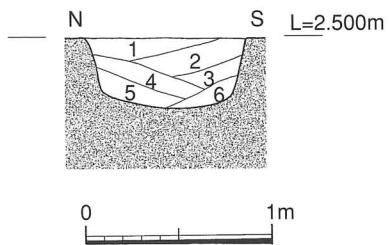
た、割れ口には焼きつきの痕跡が見られる。18世紀末～19世紀前半のものである。69～71は瓦である。69の軒丸瓦の珠文は比較的多い。底面直上の遺物には17世紀にさかのぼるものもあるが、遺構の最終埋没は明治末～大正である。

#### SK-2028

II区の中央北部で検出した土坑である。平面形態は橢円形を呈し、長径約1.1m、短径約90cm、深さ約40cmを測る。埋土は6層に分層でき、断面形状は逆台形である。出土遺物中で図示できたものは第45図に掲載した。72は肥前系陶器の鉄絵皿で、見込みに蛇の目釉ハギが見られる。高台は無釉である。73・74は肥前系の青磁皿である。74は白磁の上に青磁釉を重ねたもので、一部白磁の部分が見られる。高



第45図 SK-2028 出土遺物実測図



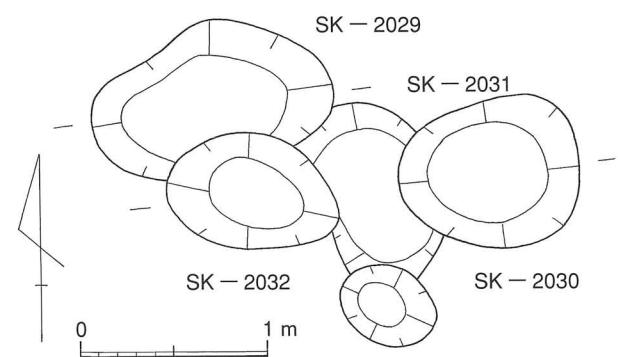
- 1. 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土
- 2. 7.5YR 4/1 褐灰 細砂
- 3. 10YR 5/2 灰黃褐 砂混粘質土
- 4. 5BG 5/1 青灰 細砂
- 5. 10YR 3/1 黒褐 粘土
- 6. 10YR 2/1 黒 粘土

第44図 SK-2028 平・断面図

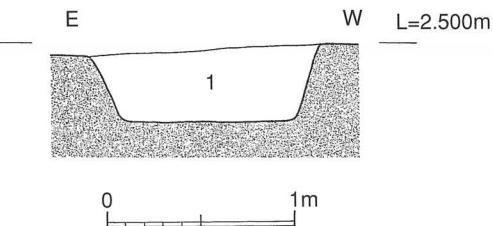
台は無釉である。遺物の時期はいずれも17世紀前半～中葉のものと思われる。

#### SK-2029

II区の中央北部で検出した土坑である。SK-2032に切られ、SK-2031を切った状態で検出されている。平面形態は橢円形を呈し、長径約1.3m、短径約70cm、深さ約45cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。出土遺物のうち図示できたものは第49図の肥前系陶器の鉢だけである。内面にヘラによるU字状の線刻が見られる。18世紀のものである。

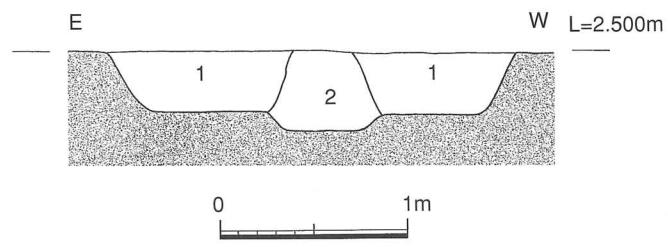


第46図 SK-2029・2030・2031・2032 平面図



- 1. 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土

第47図 SK-2029 断面図



- 1. 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土
- 2. 10YR 3/1 黒褐 砂混粘質土

第48図 SK-2030・2031・2032 断面図

### S K-2030

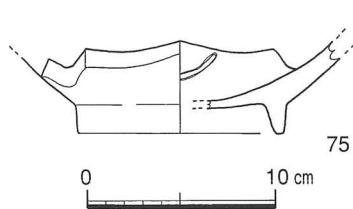
II区の中央北部でSK-2031を切った状態で検出した土坑である。平面形態は橢円形を呈し、長径約1m、短径約75cm、深さ約40cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。出土遺物のうち図示できたものは第50図の擂鉢だけである。外面に回転ヘラケズリが見られることから、堺焼で18世紀前半のものである。

### S K-2031

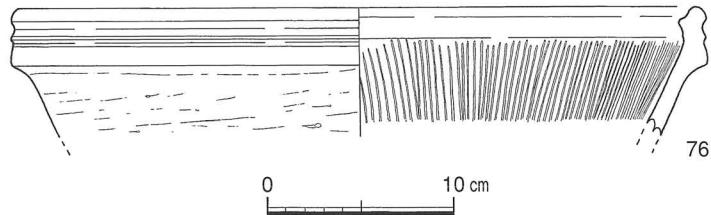
II区の中央北部で検出した土坑である。SK-2029、2030、2032に切られており、平面形態は不明である。埋土は単層である。出土遺物中で図示できたものは第51図の肥前系の青磁皿だけである。見込みに蛇の目釉ハギと重ね焼きの痕跡が見られる。高台は無釉である。17世紀前半～中葉のものである。

### S K-2032

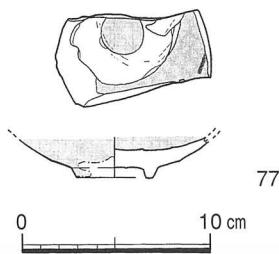
II区の中央北部で検出した土坑である。平面形態は橢円形を呈し、長径約90cm、短径約60cm、深さ約40cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。遺物はビニール袋3袋分出土しており、図示できたものを第52図に掲載した。78は肥前系磁器の碗である。外面に草花文が見られるくらわんか茶碗で、18世紀中葉のものである。79は肥前系陶器の碗で17世紀末のものである。



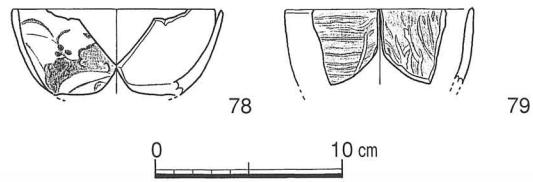
第49図 SK-2029 出土遺物実測図



第50図 SK-2030 出土遺物実測図



第51図 SK-2031 出土遺物実測図



第52図 SK-2032 出土遺物実測図

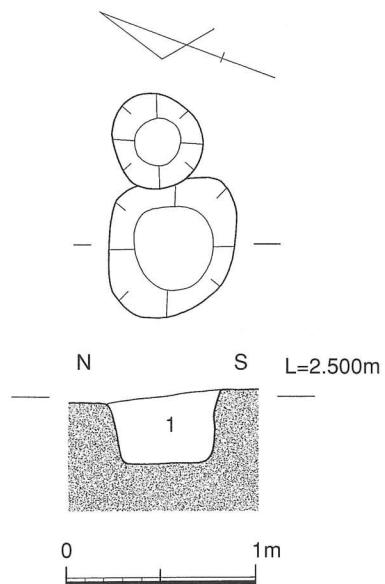
### S K-2036

II区の中央北部でピットに切られた状態で検出した土坑である。平面形態は隅丸方形を呈し、長辺約75cm、短辺約65cm、深さ約40cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。遺物はコンテナ半箱分

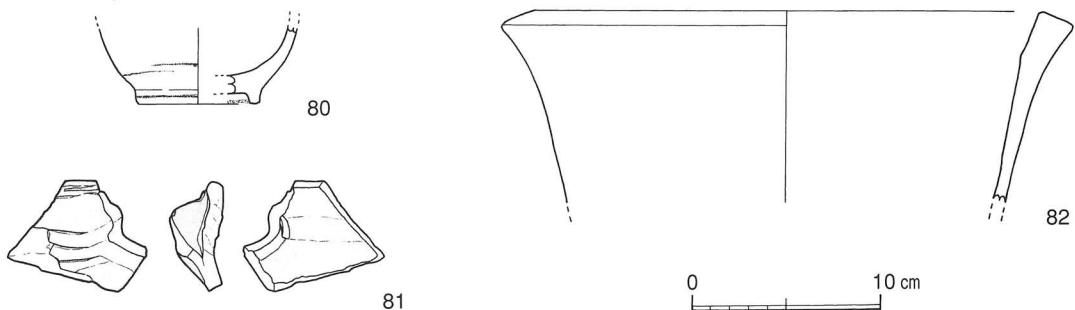
出土しており、図示できたものを第54図に掲載した。80は肥前系磁器である。内面は無釉であることから瓶と考えられる。外面には圈線が見られる。17世紀前半のものである。81は肥前系の青磁である。片口鉢の注口部分と思われる。17世紀前半のものである。82は陶器の鉢である。色調から備前焼と考えられる。

#### S K-2040

II区の中央北部で検出した土坑である。平面形態は円形を呈し、径約90cm、深さ約50cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形を呈する。遺物はコンテナ1箱分出土しており、図示できたものを第56・57図に掲載した。W2は板材である。細長い直角三角形を呈するが、直角部分を面取りしている。W3は自然木の両端を切断しただけのものである。83・84は肥前系磁器の碗である。83は底部焼と考えられるもので、型



第53図 SK-2036 平・断面図

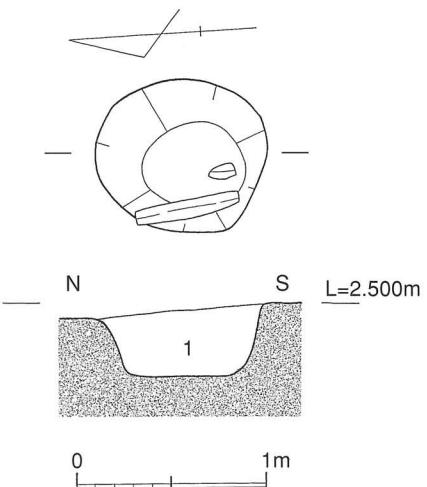


第54図 SK-2036 出土遺物実測図

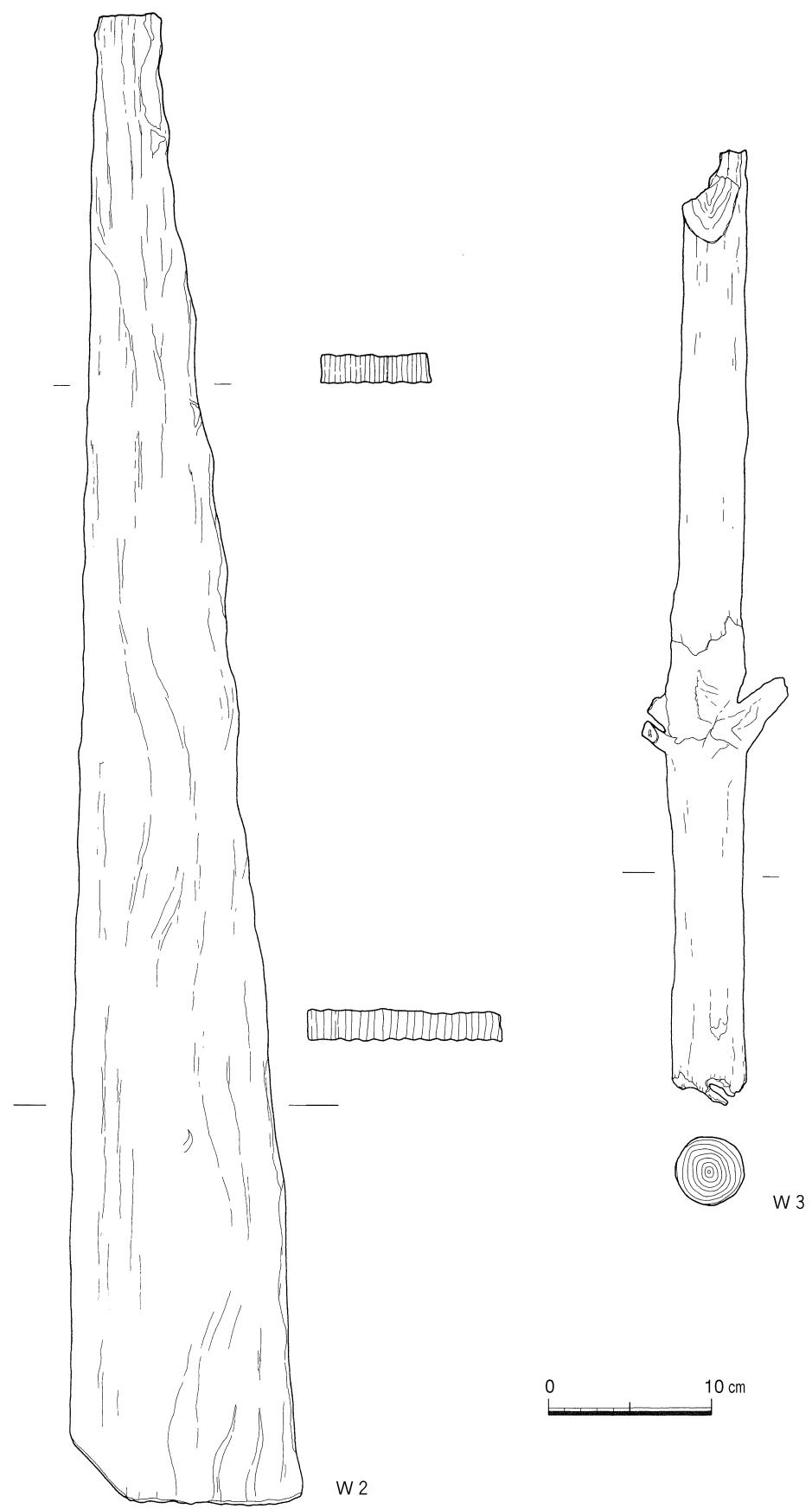
紙摺が見られることから明治前半のものである。84は外面青磁釉で、内面には圈線が2条見られる。18世紀後半のものである。85~87は瓦である。

#### S K-2042

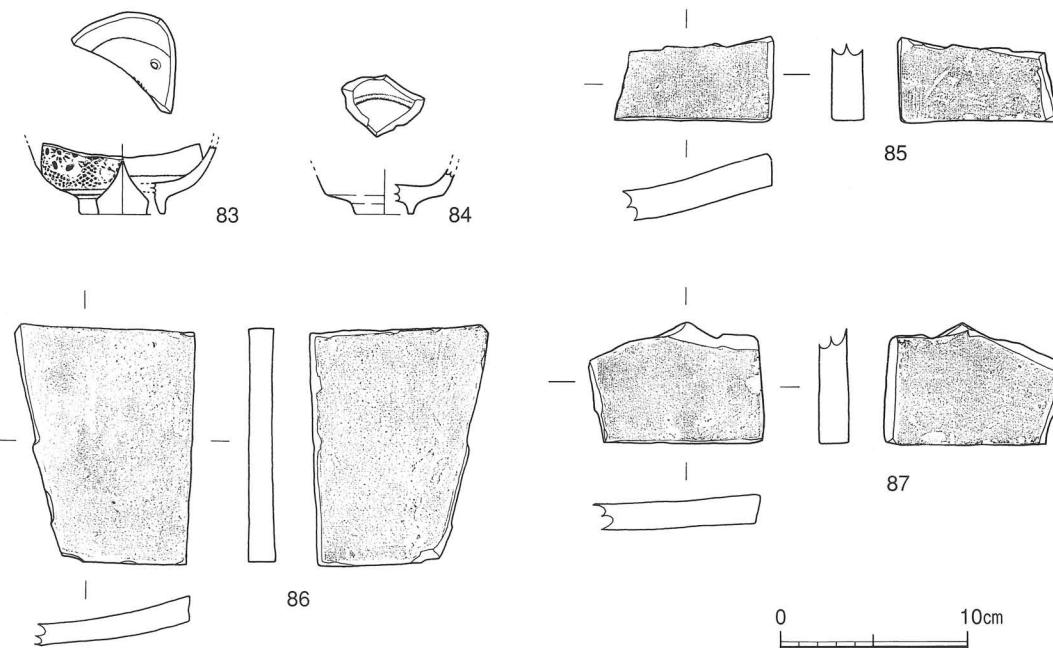
II区の中央北部でSK-2043を切った状態で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.45m、短径約65cm、深さ約30cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形を呈する。出土遺物中で図示できたものを第61図に掲載した。88は肥前系磁器の碗である。高台無釉とし、外面鉄釉である。見込みはハリ支えが見られる。89・90は瓦である。90は軒丸



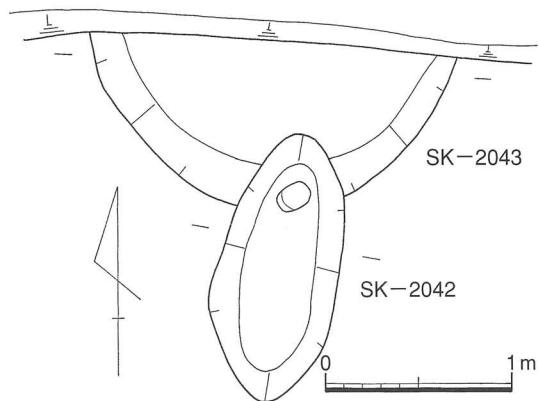
第55図 SK-2040 平・断面図



第56図 SK-2040 出土遺物実測図①



第57図 SK-2040 出土遺物実測図②



第58図 SK-2042・2043 平面図

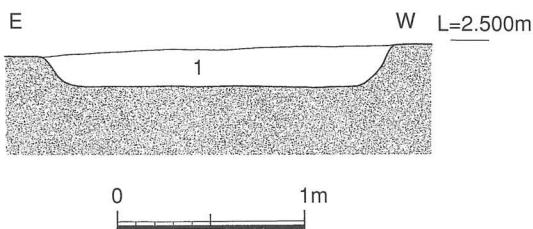
瓦の瓦当である。裏面は接合部分で剥離しており、接合部分は斜格子状の刻み目が入っている。珠文の数が多く、巴文の尾も比較的長い。

SK-2043

II区の中央北端でSK-2042に切られた状態で検出した土坑である。北半は調査区外に延びており、規模等は不明である。埋土は単層で、断面形態は逆台形を呈する。遺物はコンテナ1箱分出土しており、図示できたものは第62図に掲載した。91は瓦質の焰焰である。92は陶器の小皿で、内面にヘラによる線刻が見られる。93は瀬戸美濃系陶器の鉢で、見込みに緑釉による文様とハリ支えの痕跡が認められる。18世紀のものである。94は肥前系磁器の徳利で、内面および高台は無釉である。19世紀のものである。

1. 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土

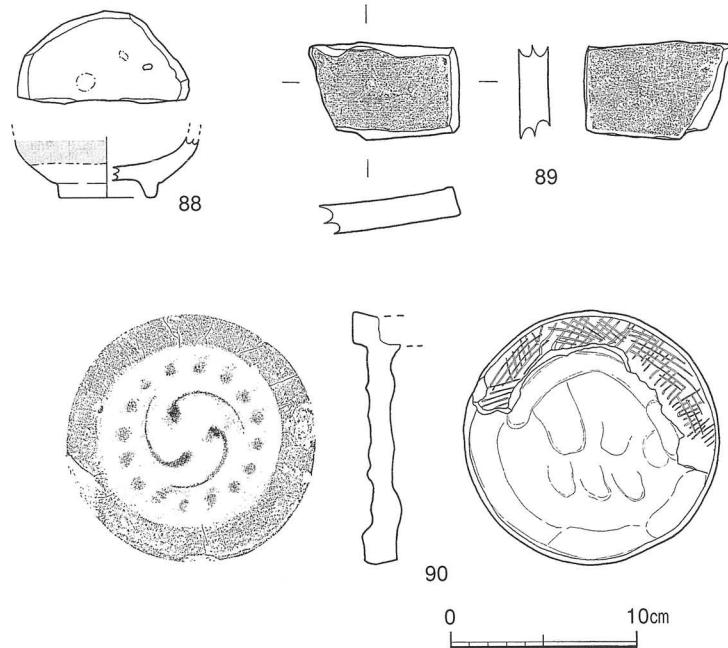
第59図 SK-2042 断面図



1. 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土

第60図 SK-2043 断面図





第61図 SK-2042 出土遺物実測図

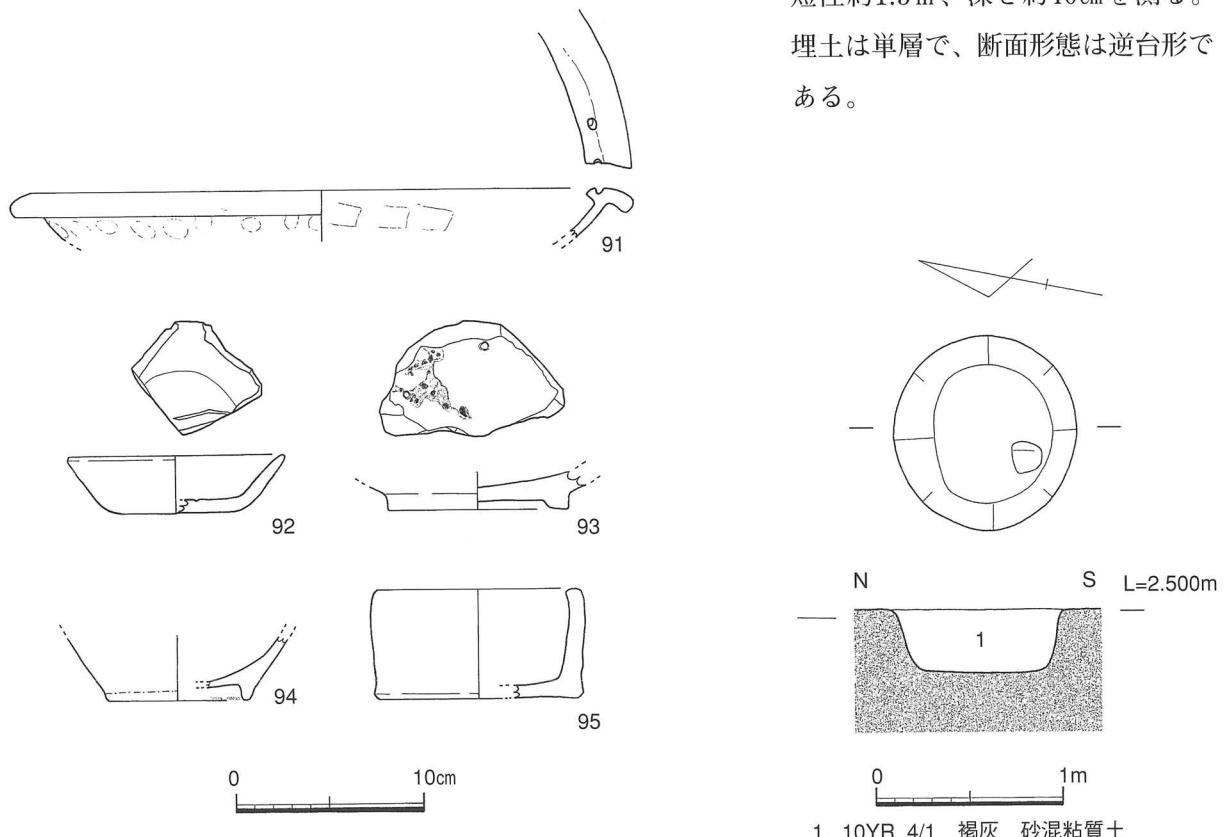
95は備前焼の鉢である。

#### SK-2044

II区の中央北部で検出した土坑である。平面形態は円形を呈し、径約1 mを測る。埋土は単層で断面形態は逆台形である。出土遺物中で図示できたものは第64図に掲載した。96・97は瓦質の焰烙である。98は堺焼の擂鉢で、18世紀後半のものである。99は肥前系磁器で、内面無釉であることから瓶と考えられる。17世紀後半のものである。

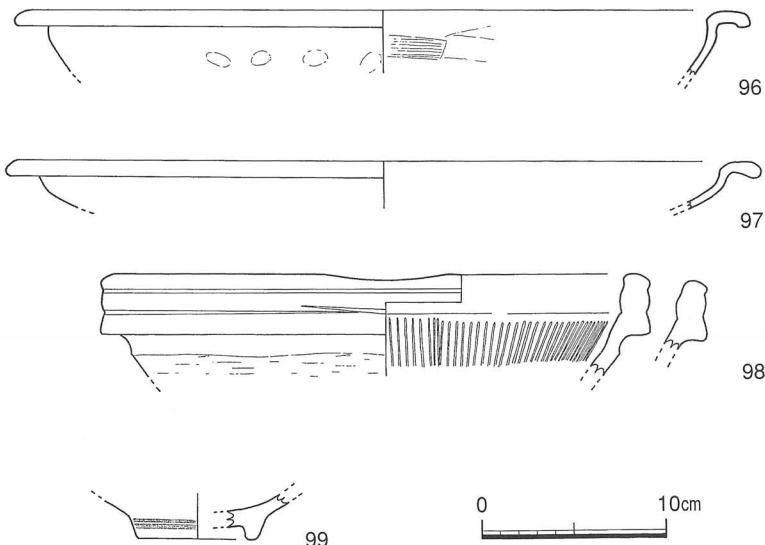
#### SK-2046

II区の中央でSK-2054に切られた状態で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径約2.5m、短径約1.5m、深さ約40cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。

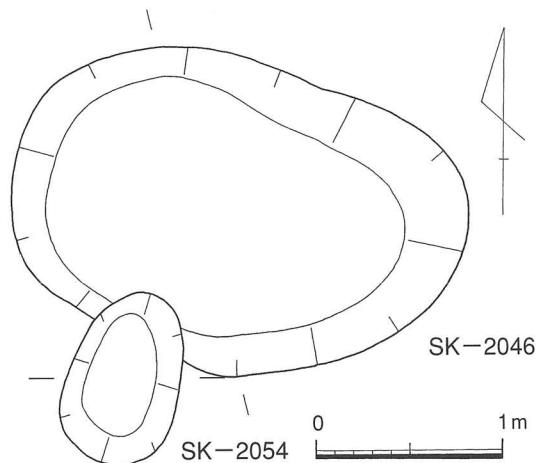


第62図 SK-2043 出土遺物実測図

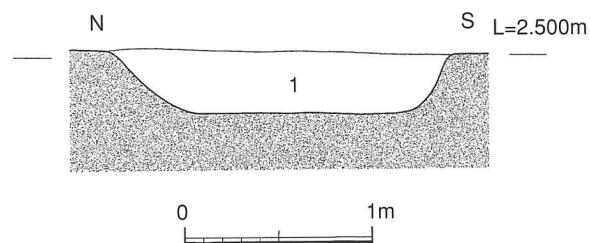
第63図 SK-2044 平・断面図



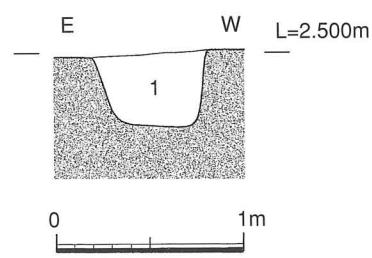
第64図 SK-2044 出土遺物実測図



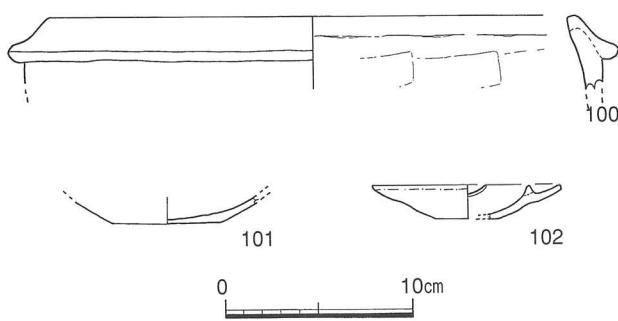
第65図 SK-2046・2054 平面図



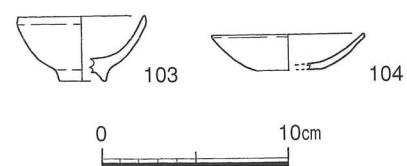
第66図 SK-2046 断面図



第68図 SK-2054 断面図

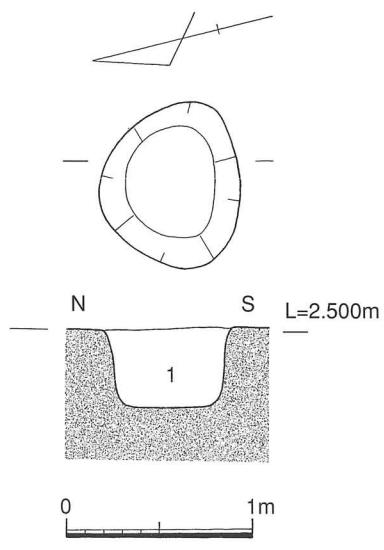


第67図 SK-2046 出土遺物実測図



第69図 SK-2054 出土遺物実測図

コンテナ1箱分の遺物が出  
土しており、図示できたも  
のは第67図に掲載した。  
100は土師質の羽釜である。  
101は土師器小皿である。  
102は京・信楽系陶器の灯  
明皿で19世紀のものである。



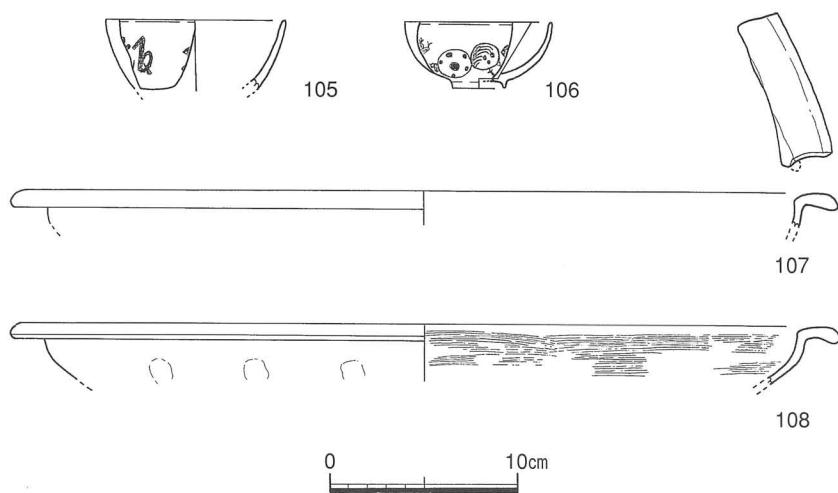
第70図 SK-2048 平・断面図

### S K -2054

II区の中央で検出した土坑である。平面形態は橢円形を呈し、長径約90cm、短径約60cm、深さ約40cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形を呈する。出土遺物中で図示できたものは第69図に掲載した。103は肥前系磁器の盃である。104は京・信楽系陶器の皿で、内面のみ施釉している。18~19世紀のものと考えられる。

### S K -2048

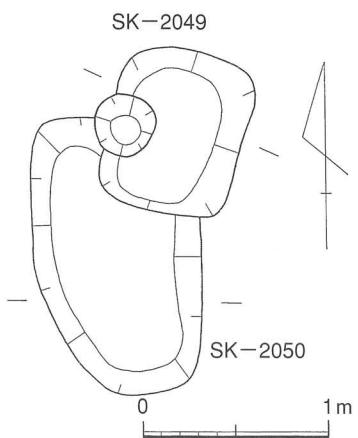
II区の中央南部で検出した土坑である。平面形態は橢円形を呈し、長径約90cm、短径約75cm、深さ約40cmを測る。埋土は単層で断面形態は逆台形である。出土遺物中で図示できたものは第71図に掲載した。105・106は肥前系磁器の碗である。105の外面には文字が見られ、18世紀のものである。106の外面には雪輪文が見られ、18世紀末のものである。107・108は瓦質の焙烙である。108の外面は指頭圧、内面はヨコハケが見られる。



第71図 SK-2048 出土遺物実測図

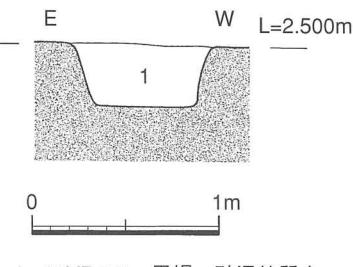
### S K -2049

II区の中央南部で検出した土坑である。平面形態は隅丸方形を呈し、長辺約90cm、短辺約80cm、深さ約30cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。遺物はコンテナ1箱分出土しており、図示できたものは第75図に掲載した。109・

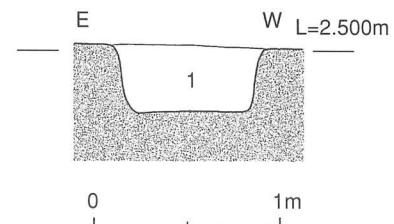


第72図 SK-2049・2050 平面図

第73図 SK-2049 断面図



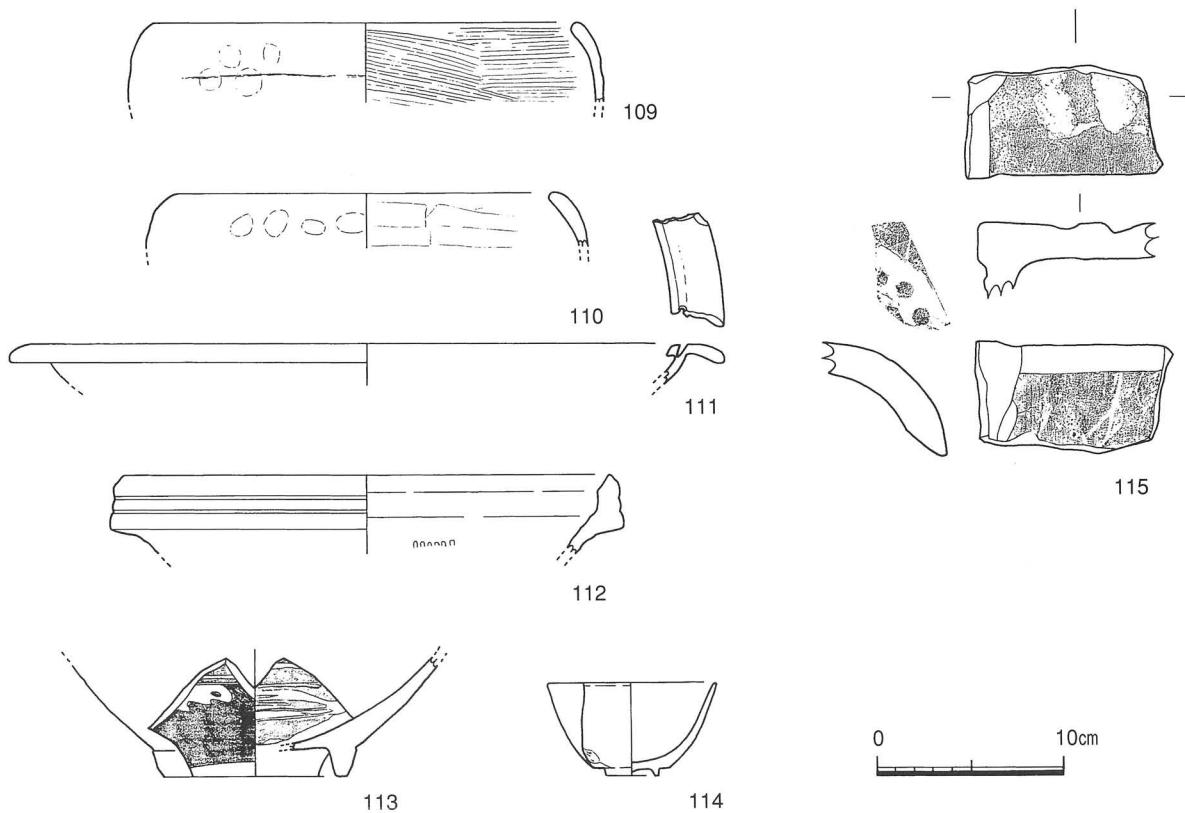
1. 10YR 3/1 黒褐 砂混粘質土



1. 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土

第74図 SK-2050 断面図

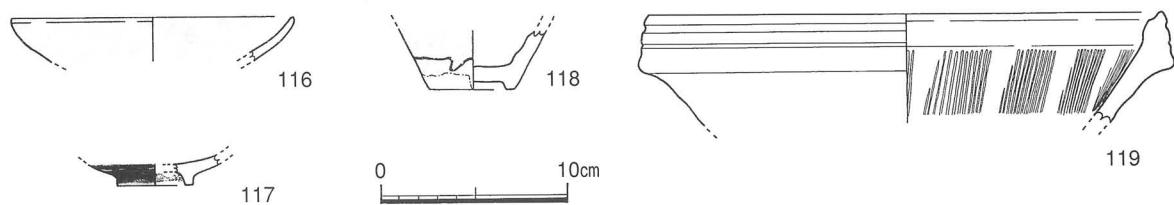
110は瓦質の羽釜である。外面指頭圧、内面はヨコハケ、板ナデが見られる。112は備前焼の擂鉢である。113は肥前系陶器の鉢である。114は京・信楽系陶器の碗である。外面に若松を描いた鉄絵が見られる。小さい高台がついており、18世紀末～19世紀初頭のものである。115は軒丸瓦である。



第75図 SK-2049 出土遺物実測図

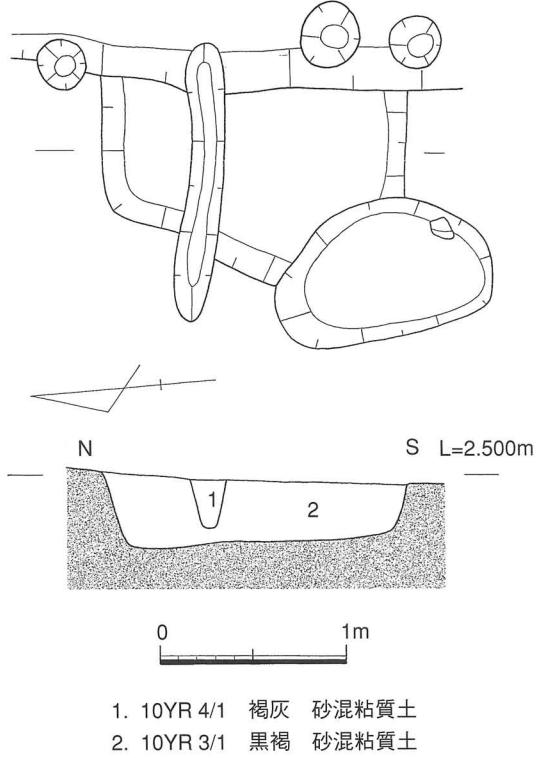
#### S K -2050

II区の中央南部でSK-2049に切られた状態で検出した土坑である。平面形態は隅丸の長方形を呈し、長辺約1.45m、短辺約90cm、深さ約30cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。出土遺物中で図示できたものは第76図に掲載した。116は肥前系の青磁皿で17世紀前半のものである。117は瀬戸美濃系陶器の碗である。外面鉄釉、内面透明釉を施しており、18世紀のものである。118は肥前系の青磁のそば猪口である。119は備前焼の擂鉢である。



第76図 SK-2050 出土遺物実測図

### SK-2051

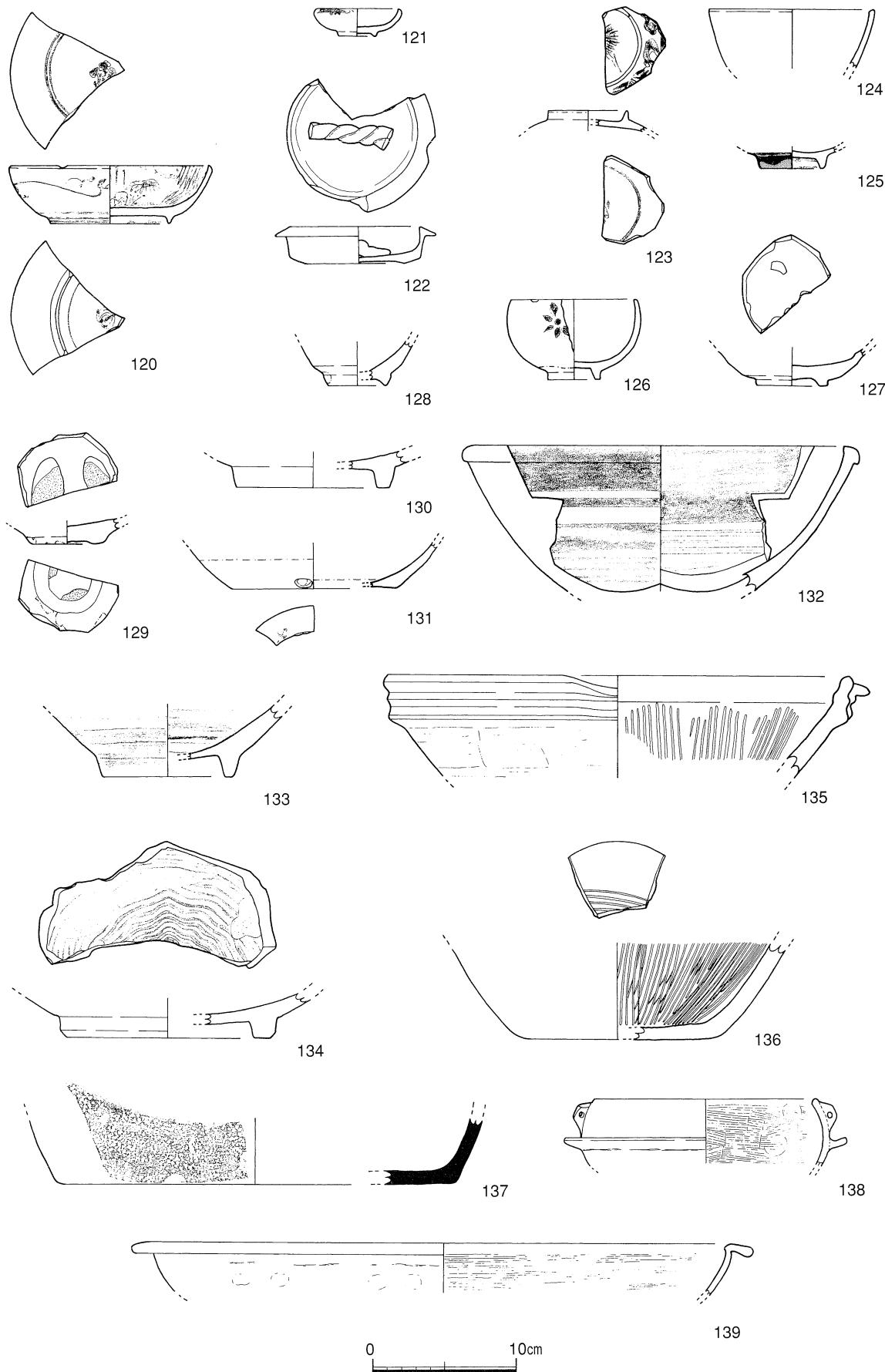


第77図 SK-2051 平・断面図

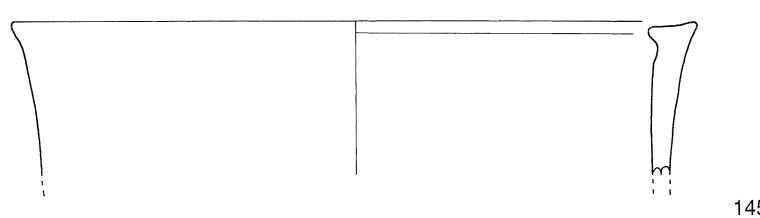
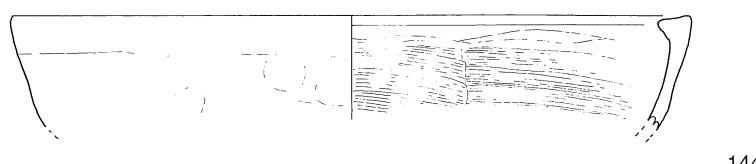
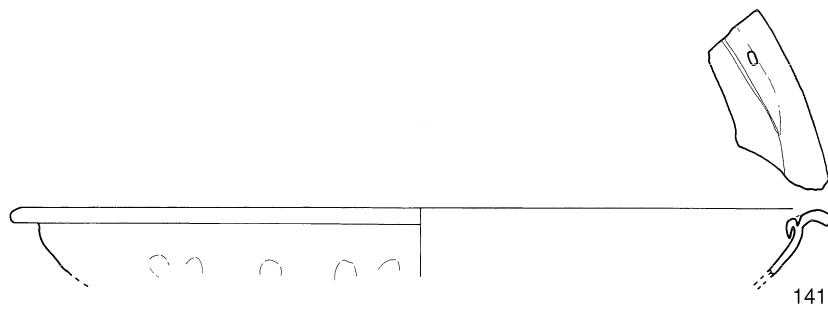
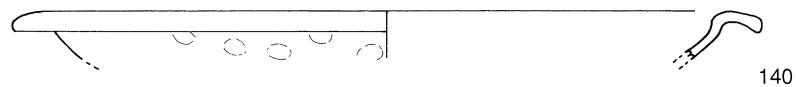
II区の中央南部で検出した土坑である。SD-2031等に切られた状態で検出しており、平面形態、規模等は不明である。埋土は単層で、断面形態は逆台形を呈する。遺物はコンテナ2箱分出土しており、図示できたものは第78~80図に掲載した。120は肥前系磁器の皿である。外面に唐草、内面に竹の文様が見られる。また、見込みには五弁花文のコンニャク印判、高台内には福のくずし字が見られる。18世紀中葉のものである。121は肥前系磁器の紅皿である。口縁部に竹の葉の文様が見られる。18世紀のものである。122は京・信楽系磁器の蓋で、つまみはねじり棒のような形態をしている。18~19世紀のものである。123は肥前系磁器で、広東碗の蓋である。つまみ内に松の文様が見られる。18世紀末のものである。124は磁器の碗である。125は瀬戸美濃系陶器の碗である。外面鉄釉、内面透明釉で、18世紀のものである。126は瀬戸美濃系磁器の碗で19世紀初頭のものである。127は肥前系陶器の皿である。高台無釉で、胎土目が見られる

ことから17世紀初頭のものである。128・129は肥前系陶器の皿である。両者とも高台無釉で砂目の痕跡が見られることから17世紀前半のものである。130は肥前系陶器の鉢である。18世紀のものである。131は京・信楽系陶器の土瓶である。底部無釉である。底面には「メ」の墨書が見られる。132~134は肥前系陶器の鉢で、いずれも刷毛目が見られる。18世紀のものである。特に134は緑釉が認められること、高台を斜めにカットし、角がしっかりしていることから18世紀前半の時期が考えられる。135は堺焼の擂鉢である。18世紀前半~中葉のものである。136も擂鉢であるが、見込みには崩れたウールマーク状の擂目が一部見られることから明石焼で、18世紀後半~19世紀のものである。137は須恵質の土器である。138は瓦質の羽釜である。耳が2方向に見られ、内面ヨコハケである。139~144は瓦質の焙烙である。外側は指頭圧、一部の土器の内面にはヨコハケが見られる。145は土師質土器の甕である。146は土師器小皿である。147は瓦質の火鉢である。立方体を呈すると思われ、底面の四隅に脚がつく。2面のみしか側面が残存していないが、両面ともに馬の文様が陰刻されている。148は瓦質土器の破片であり、取手の可能性がある。タヌキの顔を模したと思われる。内面には指頭圧痕が見られる。149・150は丸瓦、151・152は平瓦である。

17世紀前半にさかのぼるものもあるが、瀬戸美濃系の磁器が出土していることから、19世紀の遺構と考えられる。

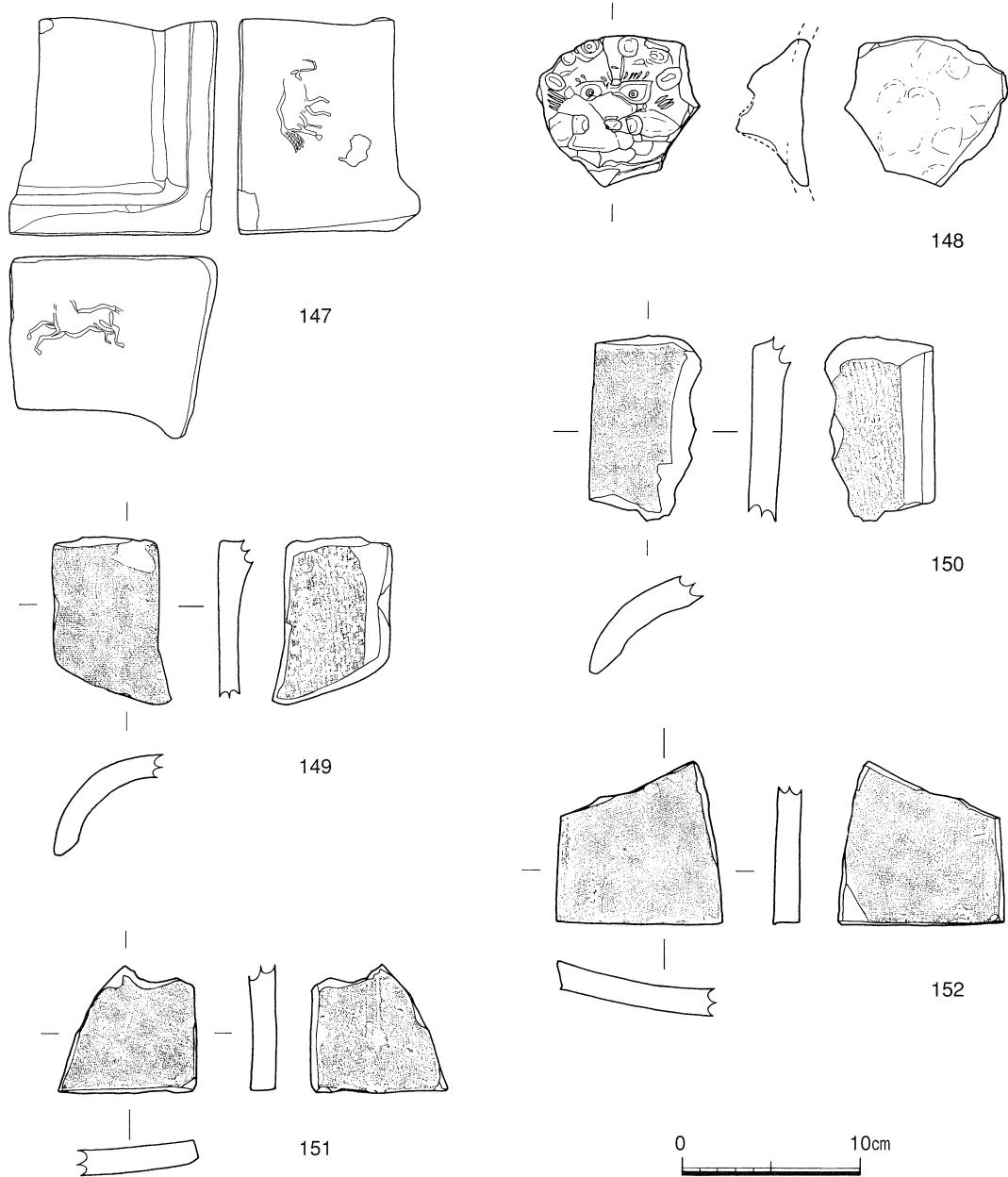


第78図 SK-2051 出土遺物実測図①



0 10cm

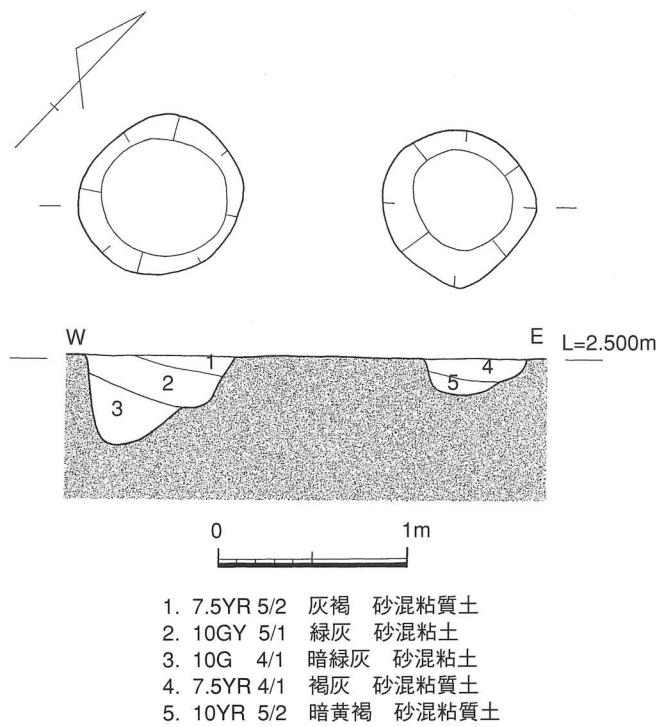
第79図 SK-2051 出土遺物実測図②



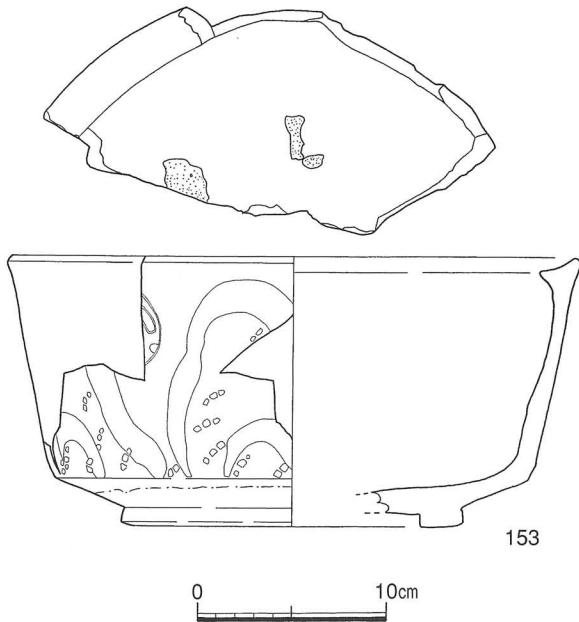
第80図 SK-2051 出土遺物実測図③

### SK-2053

Ⅱ区中央で検出した土坑である。平面形態は円形を呈し、長径約85cm、短径約75cm、深さ約60cmを測る。埋土は3層に分層でき、上層は灰褐色の砂混粘質土、中・下層は緑灰色の砂混粘土である。断面形であるが、西側は遺構内からの出土遺物は第82図の瀬戸美濃系陶器の水甕だけである。鉢状の形態を呈し、口縁端部を内側に拡張させ、太く短い高台を持つ。高台無釉とし、見込みには砂目が見られる。外面は陰刻および緑釉による草花文が認められる。18世紀後半～19世紀初頭のものである。



第81図 SK-2053・2037 平・断面図



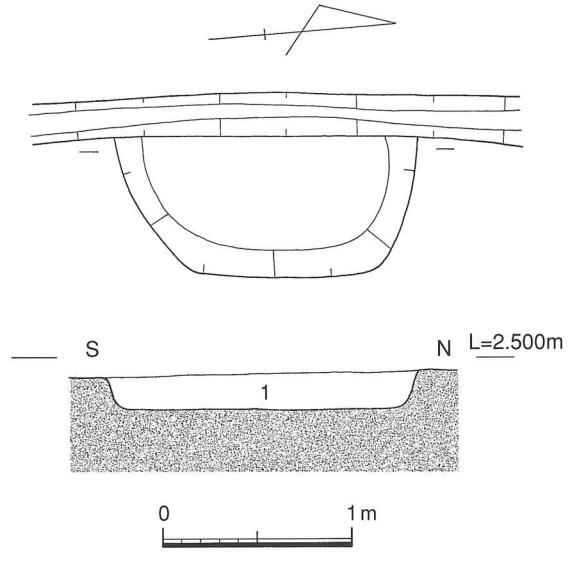
第82図 SK-2053 出土遺物実測図

S K-2037

II区中央北部で検出した土坑である。平面形態は隅丸方形を呈し、一辺約75cm、深さ約25cmを測る。埋土は2層に分層でき、上層は褐灰色の砂混粘質土、下層は暗黄褐色の砂混粘質土である。断面形態は西側がほぼ垂直に落ち込むが、東側は緩やかな二段落ちとなっている。遺物は1点も出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

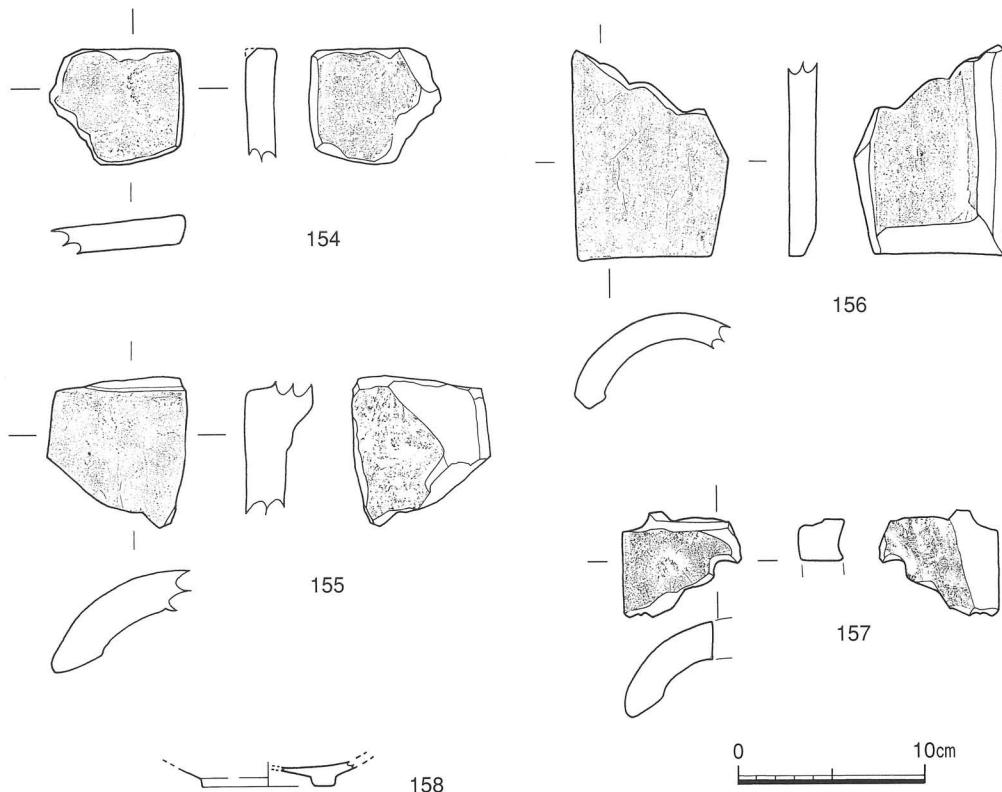
S K-2055

II区中央南部でSD-2033に切られた状態で検出した土坑である。溝に切られており平面形態は不明であるが、隅丸の長方形を呈すると思われる。長径約1.55m、短径約90cm、



第83図 SK-2055 平・断面図

深さ約20cmを測る。埋土は単層で断面形態は逆台形を呈する。出土遺物中で図示できたものを第84図に掲載した。154～157は瓦である。158は京・信楽系陶器の皿で、内面のみ施釉している。18～19世紀のものである。



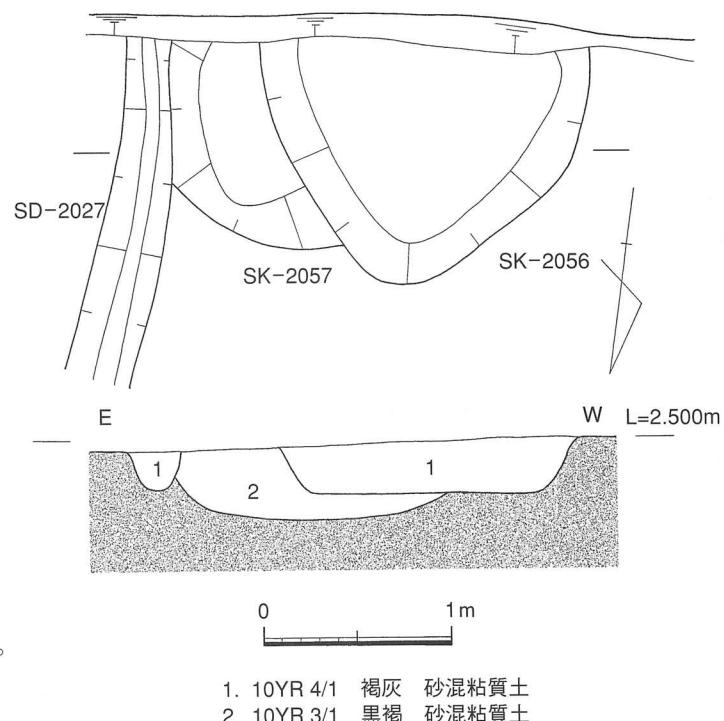
第84図 SK-2055 出土遺物実測図

### SK-2056

II区中央南端でSK-2057を切った状態で検出した土坑である。遺構は調査区外にのび、平面形態は不明であるが、楕円形を呈すると思われる。東西径約1.7m、深さ約30cmを測る。埋土は単層で断面形態は逆台形を呈する。出土遺物中で図示できたものは第86図の丸瓦のみで詳細な時期は不明であるが、SK-2057との切り合い関係から、幕末以降と考えられる。

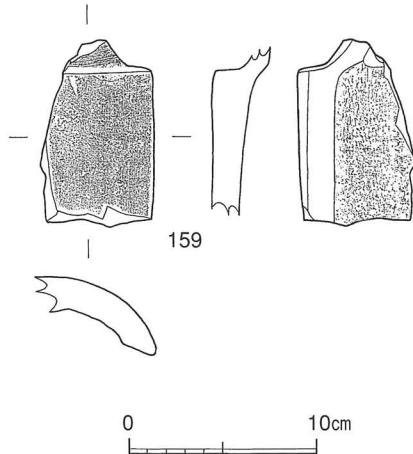
### SK-2057

II区中央南端でSK-2056およびSD-2027に切られた状態で検出した土坑である。遺構は調査区外にのび、平面形態は不明であるが、楕円形を呈すると思われる。東西径約1.5m、深さ約50cmを測る。埋土は单

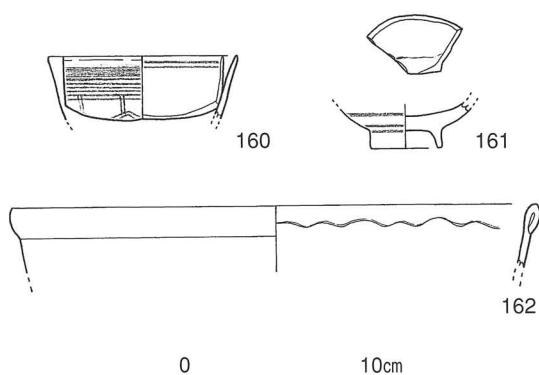


第85図 SK-2056・2057 SD-2027 平・断面図

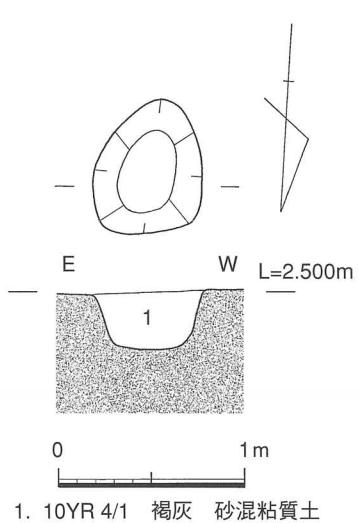
層で断面形態はU字を呈する。出土遺物中で図示できたものを第87図に掲載した。160は肥前系磁器の碗である。外面は圈線と亀甲文様が、内面には圈線が見られる。19世紀後半のものである。161も肥前系時期の碗である。外面に圈線が見られる。18~19世紀のものである。162は京・信楽系陶器の鉢である。口縁部は玉縁状に折り曲げ、内外面とも施釉している。19世紀のものである。



第86図 SK-2056 出土遺物実測図



第87図 SK-2057 出土遺物実測図



第88図 SK-2064 平・断面図

#### S K - 2064

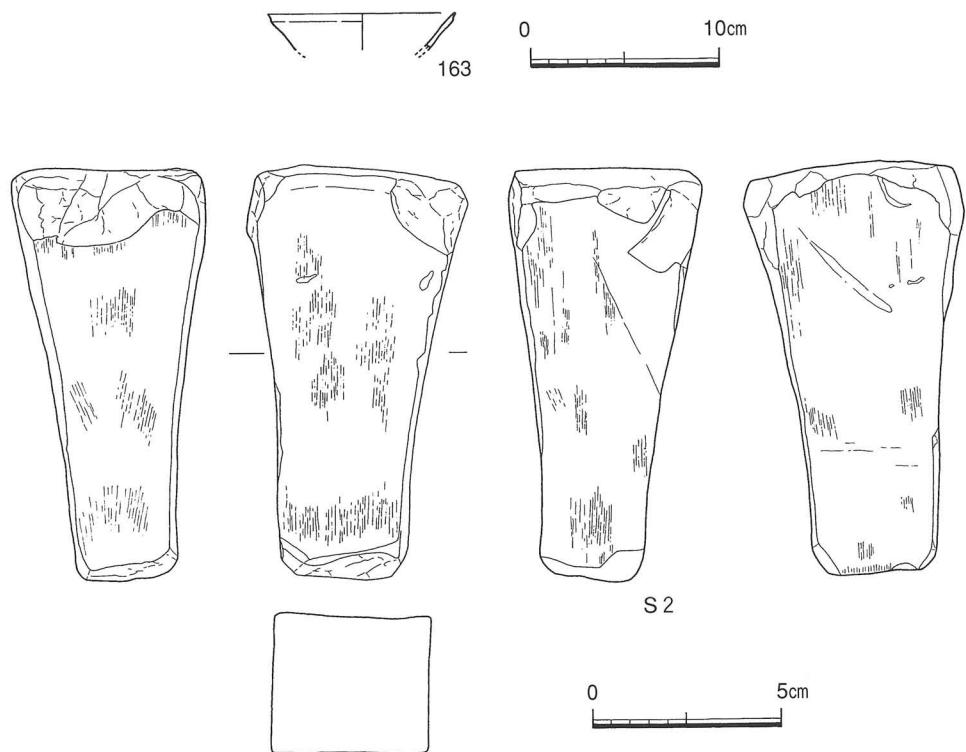
II区の北西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径約75cm、短径約60cm、深さ約30cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形を呈する。出土遺物中で図示できたものは第89図に掲載した。163は土師器の小皿である。164は砥石である。詳細な時期は不明である。

#### S K - 2065

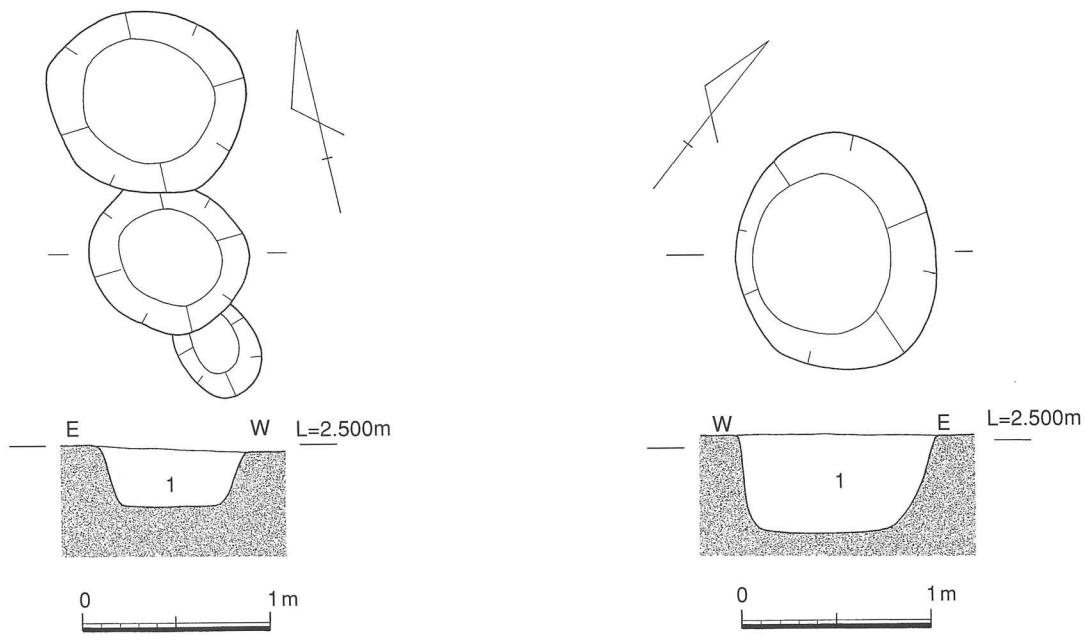
II区の南西部でSK-2066に切られた状態で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径約90cm、短径約70cm、深さ約30cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形を呈する。遺物はビニール袋1袋分の陶磁器の小片しか出土しておらず、遺構の時期は不明である。

#### S K - 2069

II区の南西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.3m、短径約1.05m、深さ約50cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形を呈する。出土遺物中で図示できたものは第92図の瀬戸美濃系磁器の碗である。外面に圈線1条と見込みに五花弁文が見られる。瀬戸美濃系磁器の創業期のもので、焼きが甘く陶胎染付に近い。18世紀後半のものである。

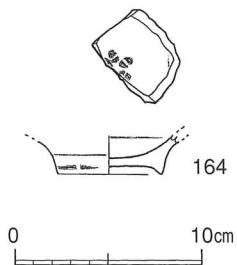


第89図 SK-2064 出土遺物実測図



第90図 SK-2065 平・断面図

第91図 SK-2069 平・断面図



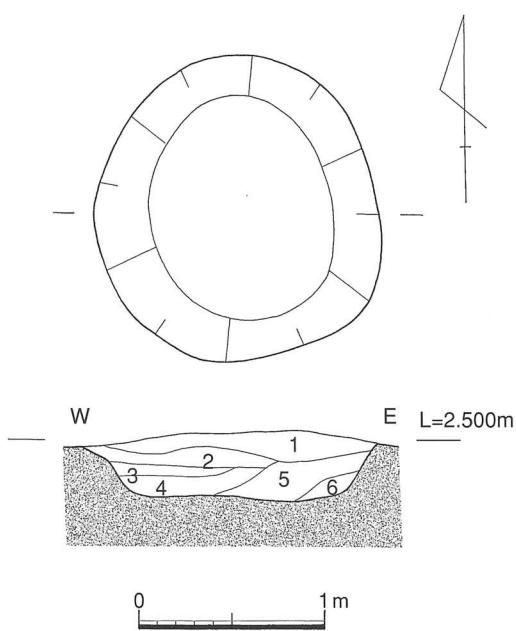
第92図 SK-2069 出土遺物実測図

S K -2072

II区の北西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.55m、短径約1.5m、深さ約30cmを測る。埋土は6層に分層できる。上層は砂混粘質土層、中層部分に細砂層、下層はシルト質極細砂層である。断面形態は東側がほぼ垂直に落ち込むが、西側は緩やかな二段落ちとなっている。遺物はビニール袋1袋分の陶磁器の小片しか出土しておらず、遺構の時期は不明である。

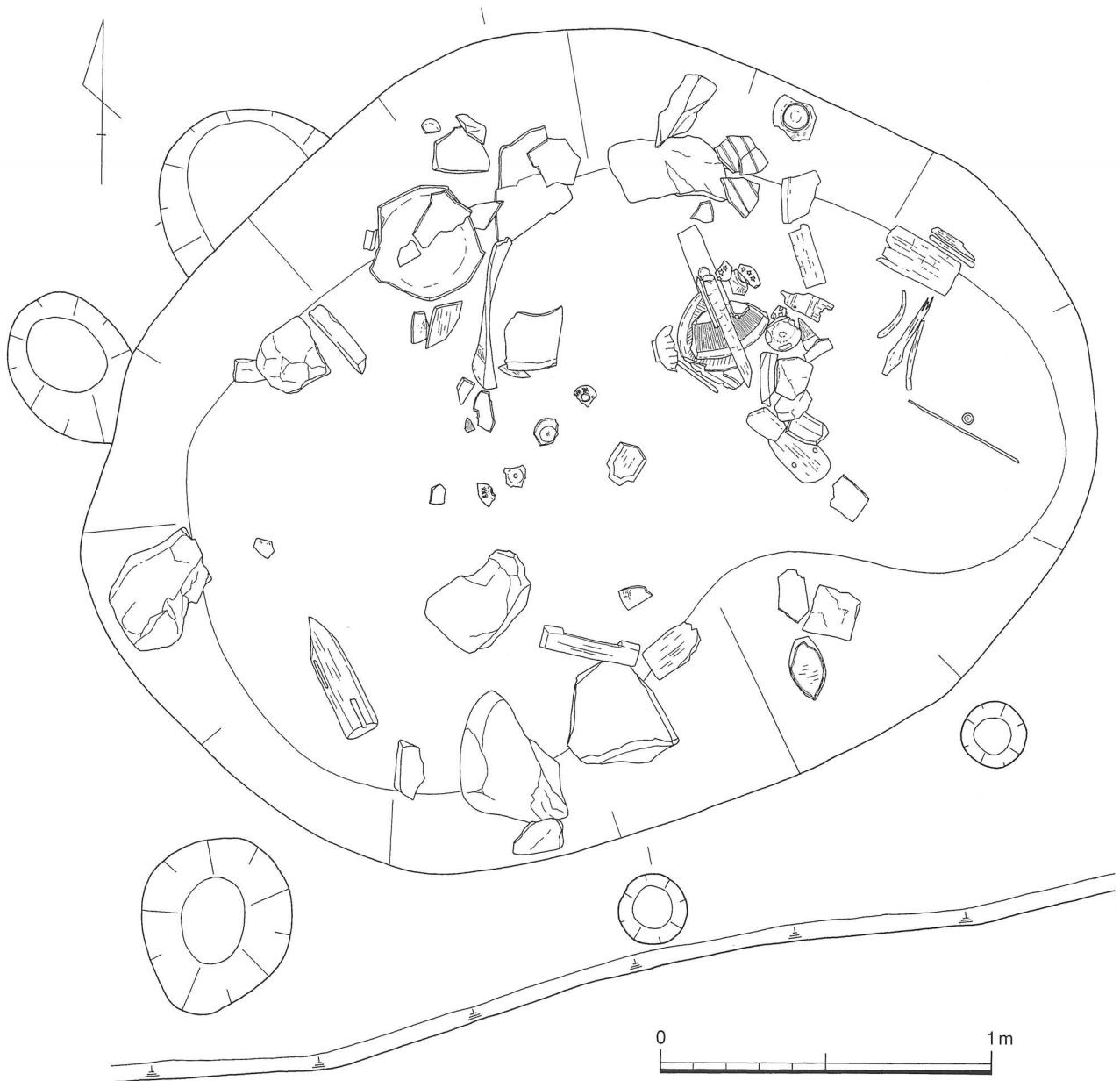
S K -2075

II区の南西部分で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径約3.15m、短径約2.65m、深さ約40cmを測る。埋土は7層に分層できた。第2層は褐灰色砂混粘質土、第2層は灰白色細砂、第3層は青灰色砂混粘質土、第4層は黒褐色砂混粘質土、第5層は黒褐色砂混粘土、第6層は褐色細砂～粗砂、第7層は青灰色細砂～粗砂である。断面形態は逆台形を呈する。出土遺物は多量で、コンテナ10箱分にのぼる。その多くは第1層の下部で出土したものである。出土遺物中で図示できたものは第96～105図に掲載した。第96～100図は土器・陶磁器類、第101～104図は木器類、第105図には石器を掲載した。165・166は土師質の小皿である。167は土師質の甕の底部である。168は土師質の五徳である。内面に粗いヨコハケが見られる。169は土師質の七輪である。3方に脚をもち、体部下半に方形の開口部が見られる。外面に凹線

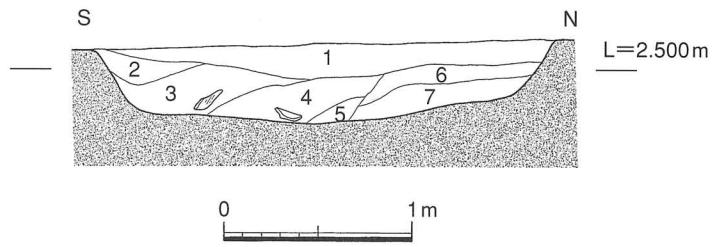


第93図 SK-2072 平・断面図

2条、内面にヨコハケが見られる。170・171は土製の円盤である。172・173は瓦質の焰焰である。174は土師質の甕である。頸部に斜格子文と取っ手と思われる長方形のスカシが見られる。175・176は土師質の甕である。176の体部下半には円形のスカシが見られる。177・178は土師質土器の底部である。178には円形のスカシが見られ、スヌが付着していることから竈の可能性がある。179～182は京・信楽系陶器である。179・181は土瓶、180・182は内面に煤が付着していることから炭消し壺である。全て外面のみ鉛釉を施している。183は肥前系磁器の皿で、見込みに蛇の目釉ハギが見られることから17世紀前半～中葉のものである。184は瀬戸美濃系陶器の碗である。京焼の影響を受けたもので、幕末のものである。185は瀬戸美濃系陶器の徳利である。外面および頸部内面は鉄釉を施している。186は明石焼の擂鉢である。187は瀬戸美濃系陶器の片口鉢である。高台は無釉とし、底面に「小スケ」の墨書きが見られる。



第94図 SK-2075 平面図

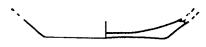


- |             |    |       |
|-------------|----|-------|
| 1. 10YR 4/1 | 褐灰 | 砂混粘質土 |
| 2. 10YR 7/1 | 灰白 | 細砂    |
| 3. 5BG 5/1  | 青灰 | 砂混粘質土 |
| 4. 10YR 3/1 | 黒褐 | 砂混粘質土 |
| 5. 10YR 3/2 | 黒褐 | 砂混粘土  |
| 6. 10YR 4/4 | 褐  | 細砂～粗砂 |
| 7. 5B 5/1   | 青灰 | 細砂～粗砂 |

第95図 SK-2075 断面図



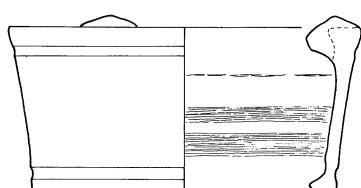
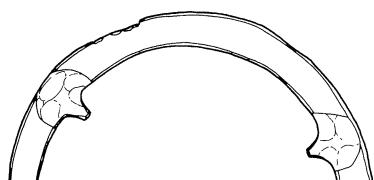
165



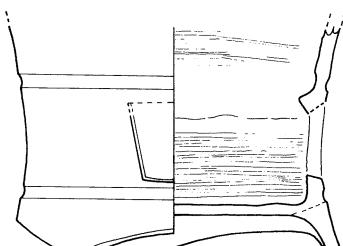
166



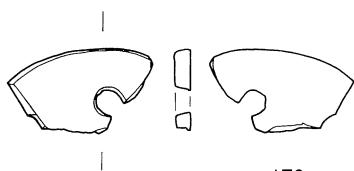
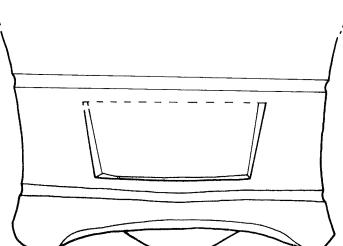
167



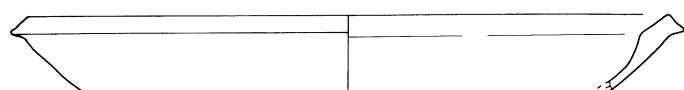
168



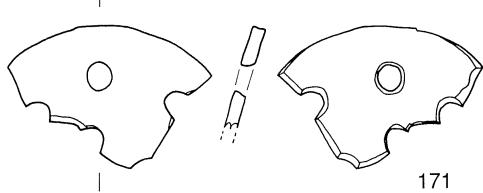
169



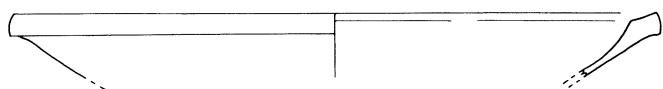
170



172

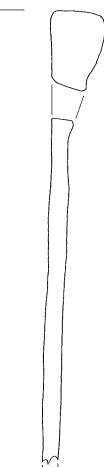
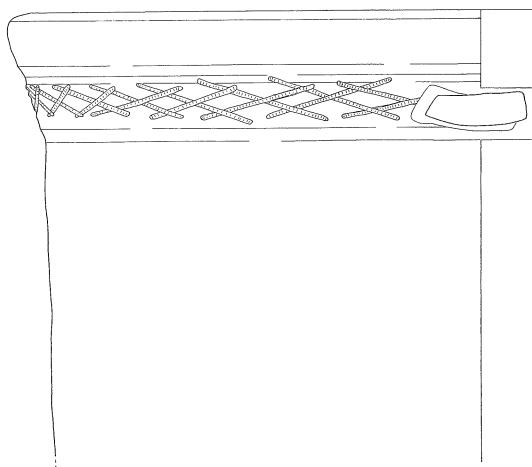


171



173

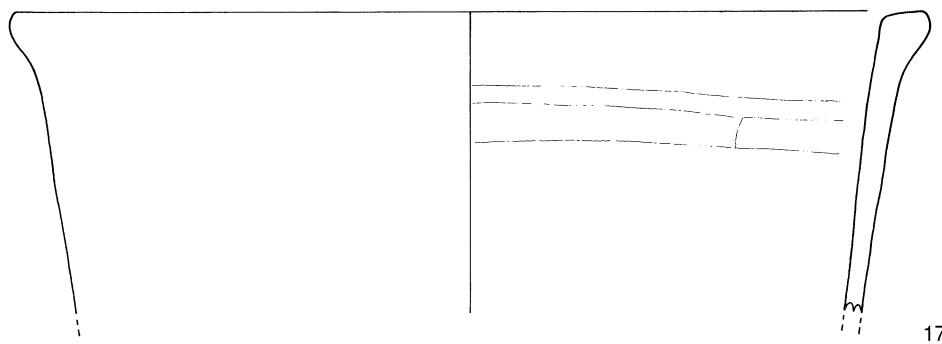
0 10cm



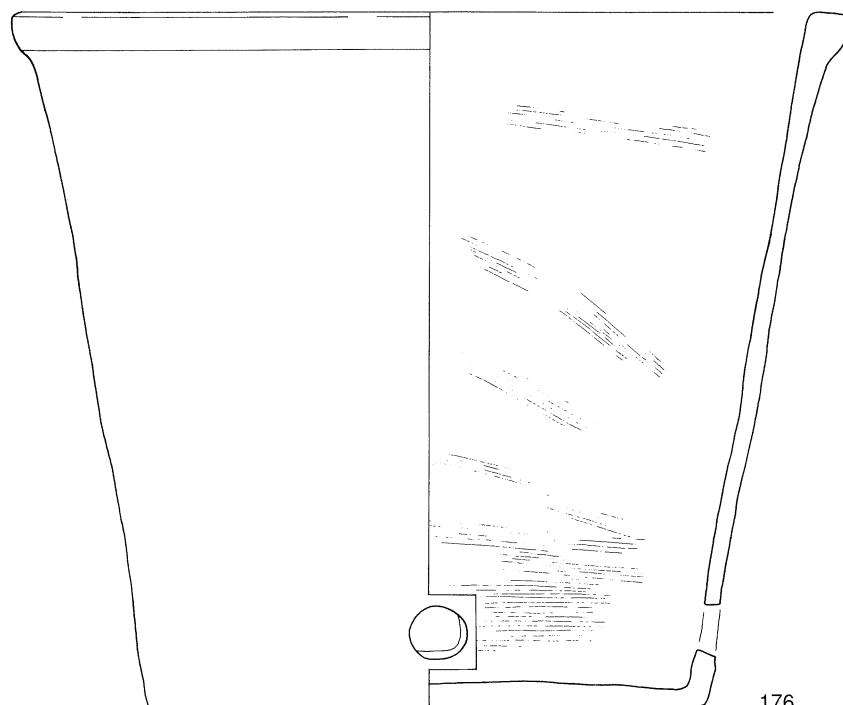
0 10cm

174

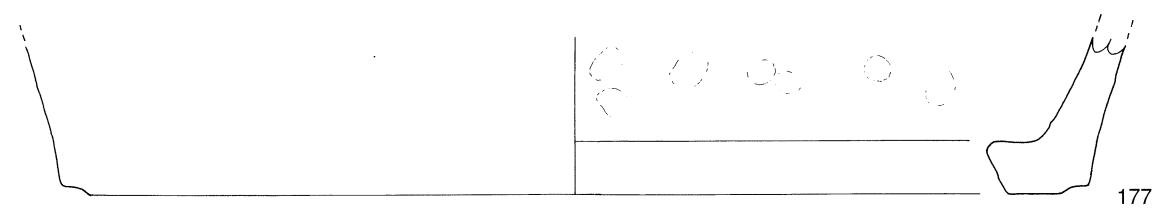
第96図 SK-2075 出土遺物実測図①



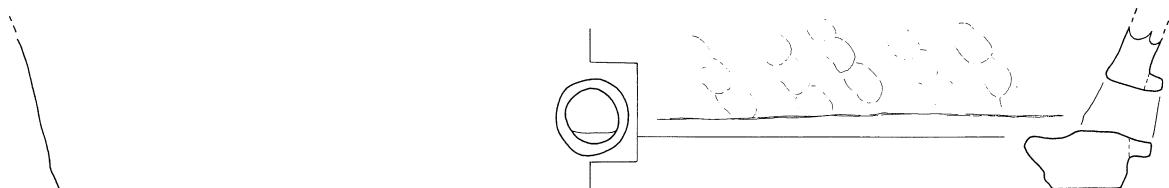
175



176



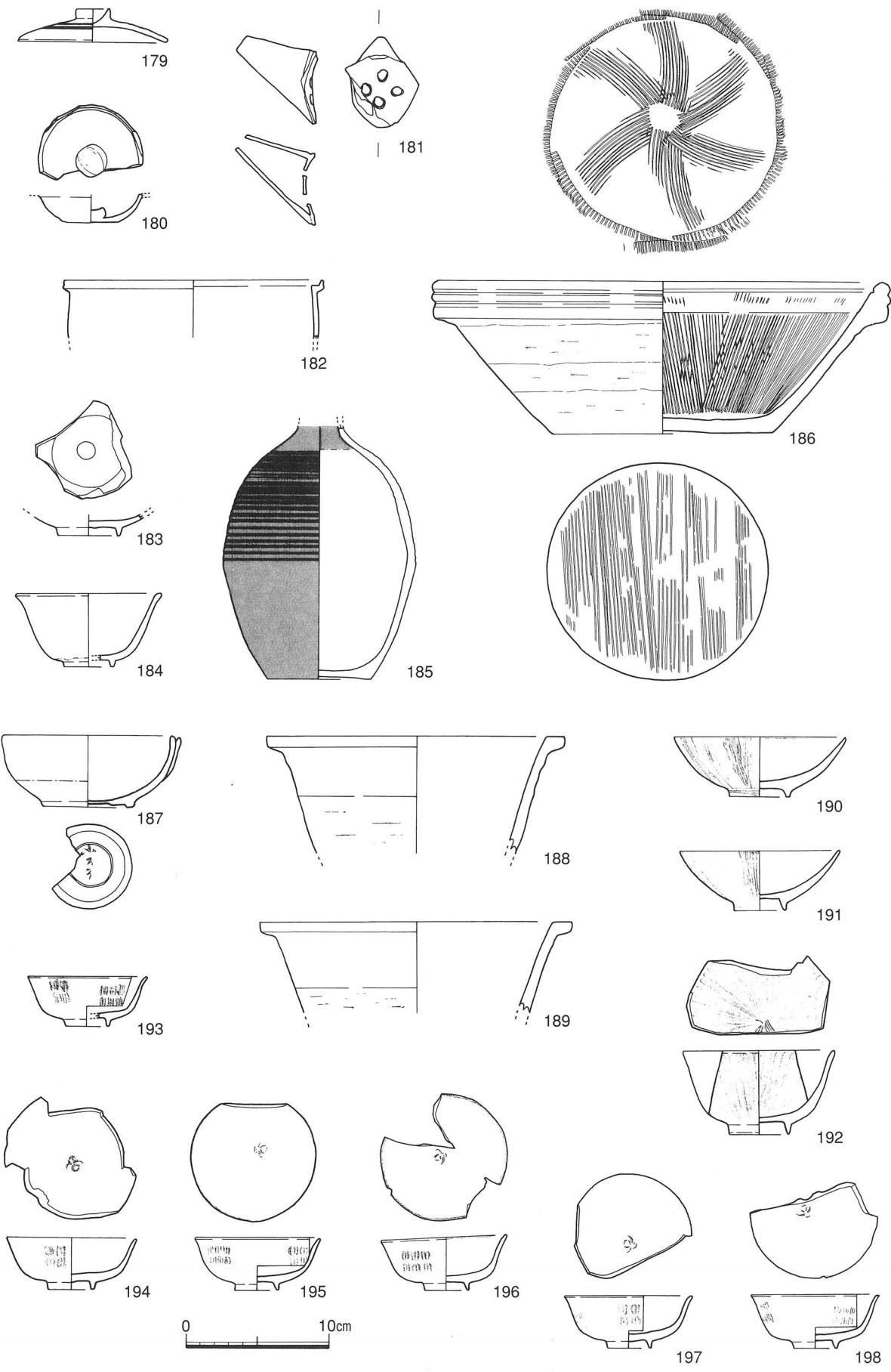
177



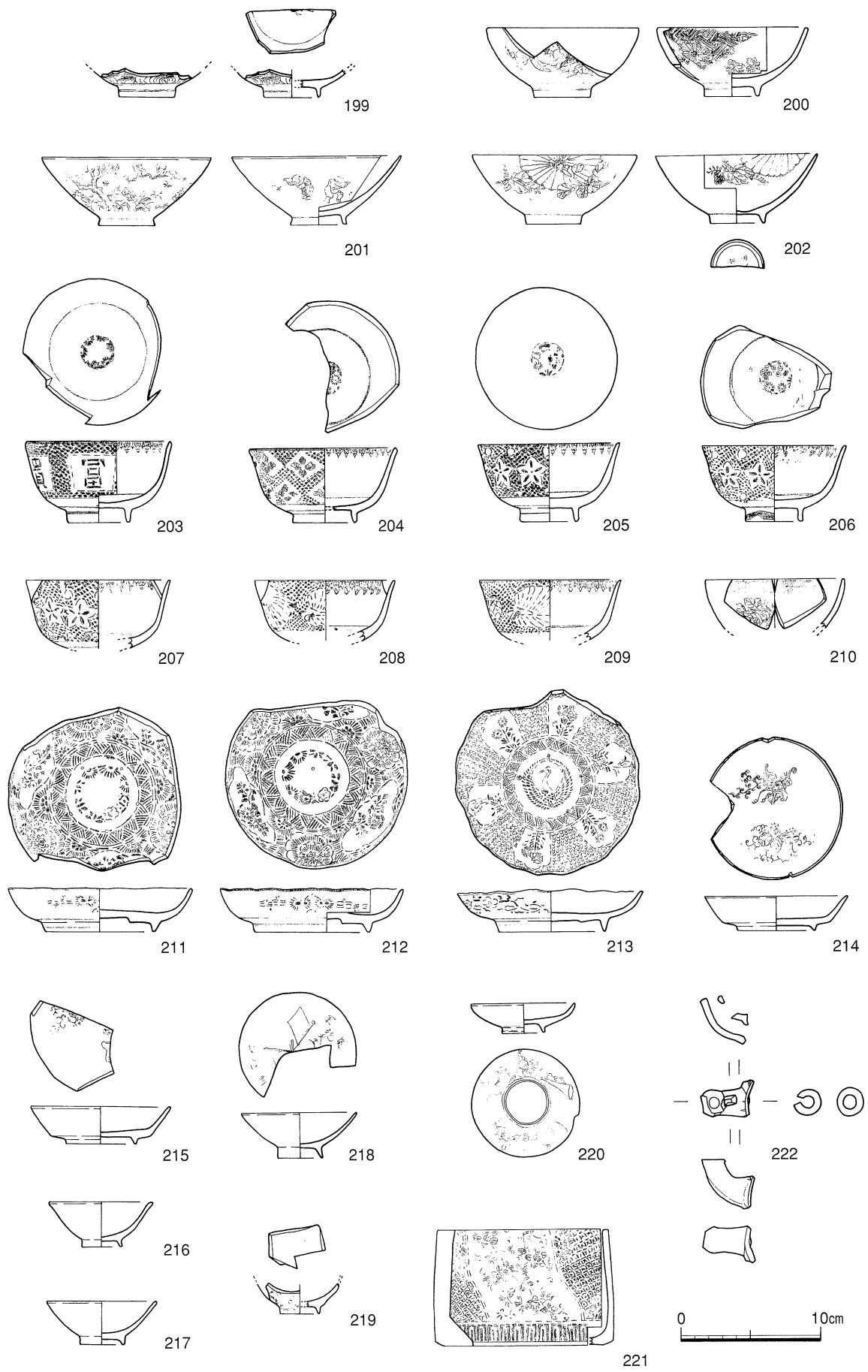
178

0 10cm

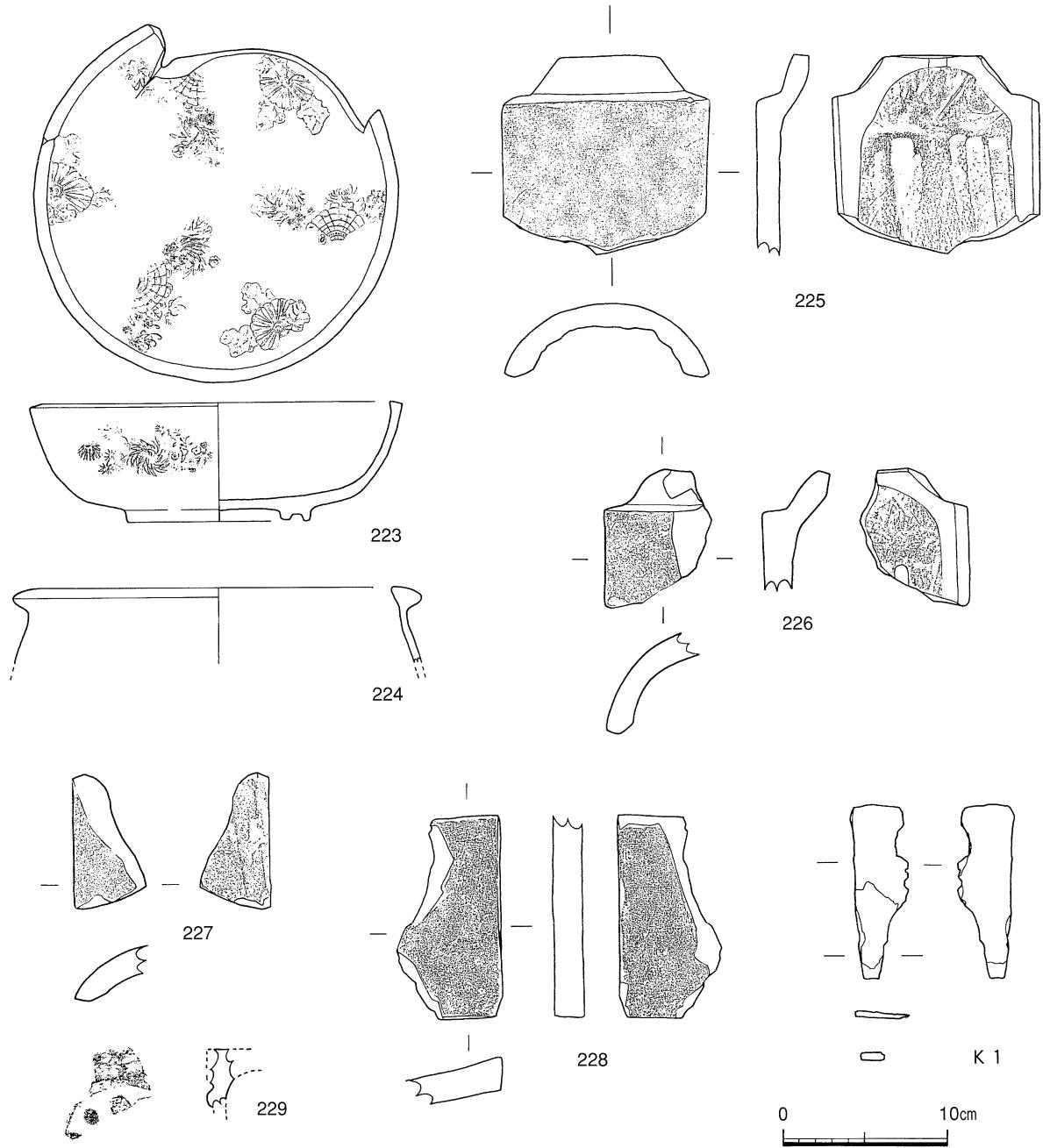
第97図 SK-2075 出土遺物実測図②



第98図 SK-2075 出土遺物実測図③

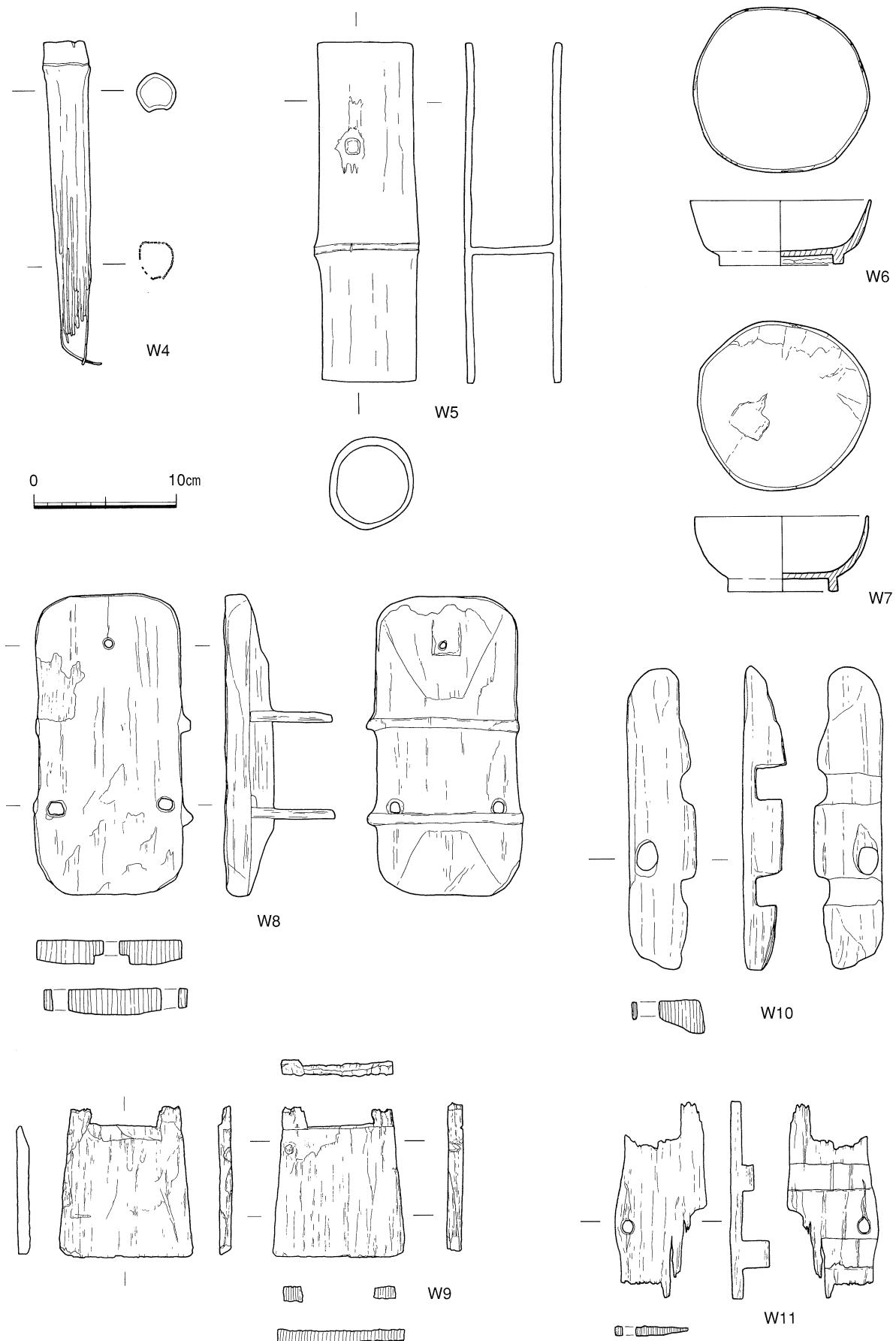


第99図 SK-2075 出土遺物実測図④

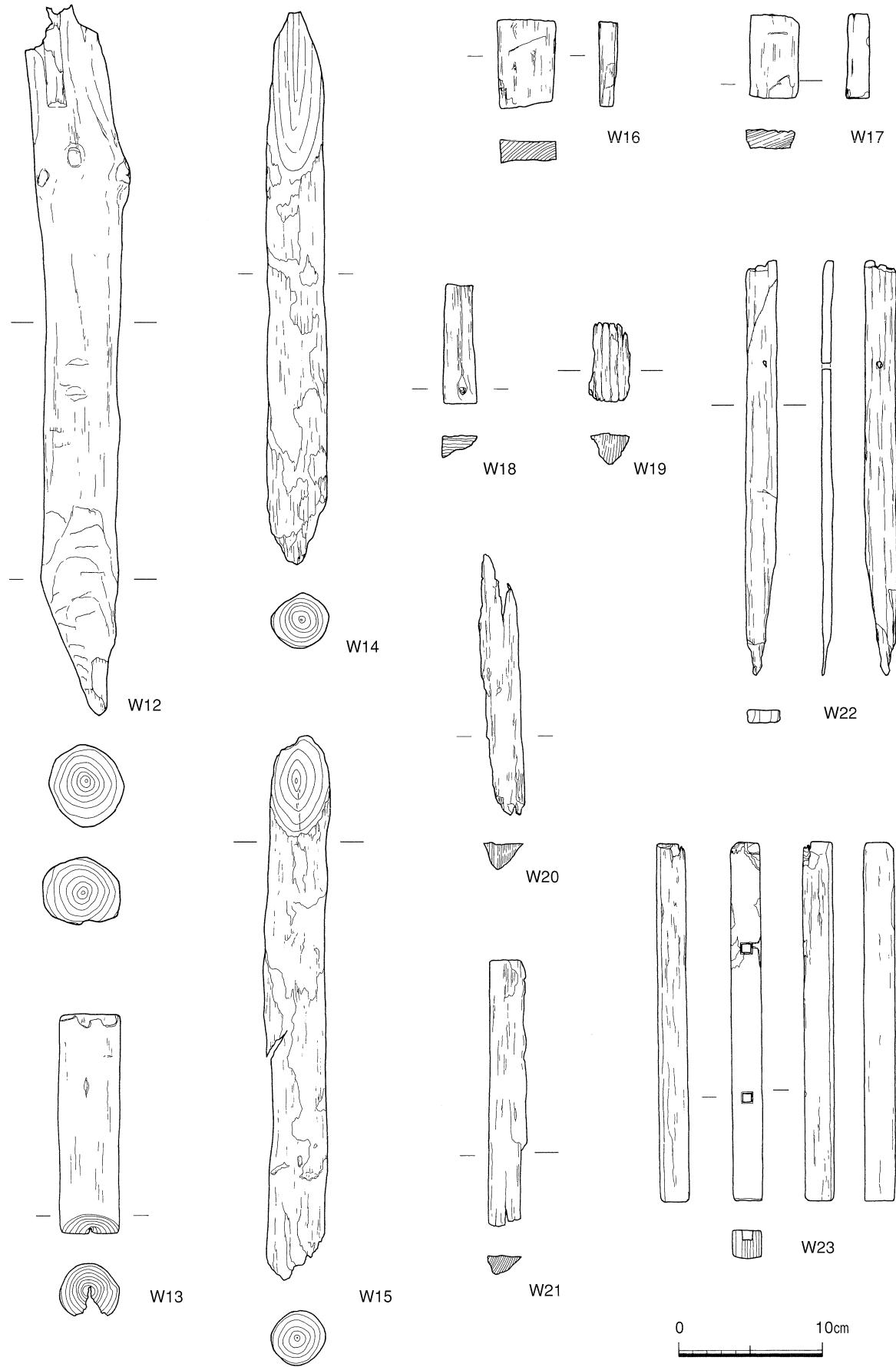


第100図 SK-2075 出土遺物実測図⑤

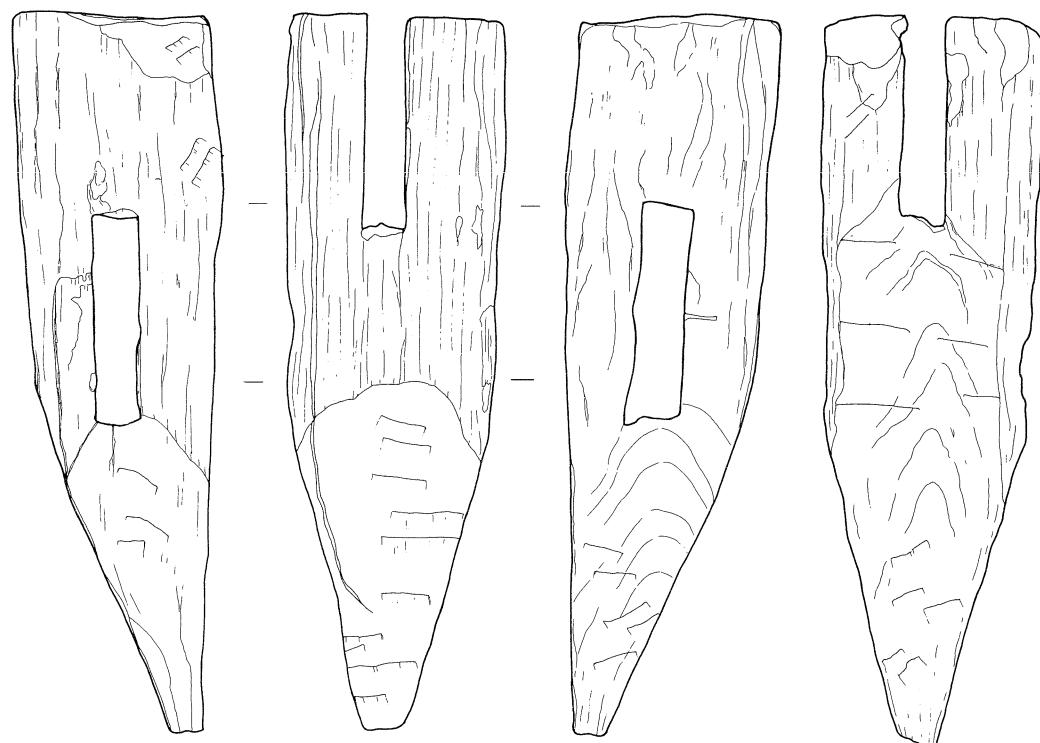
口紅に使われている緑色は酸化クロームによるもので明治前半のものである。188・189は陶器の鉢である。体部外面下間にヘラケズリが見られる。190～198は瀬戸美濃系磁器の碗である。底部から放射状に直線が見られる190・191は明治末、192は幕末である。外面にいわゆる染色体文が見られる194～198は明治前半である。199は肥前系磁器の碗である。幕末のものである。200～202は瀬戸美濃系磁器の碗である。染付は全て銅板転写によることから明治末のものである。203～209は肥前系磁器の碗である。203は「富貴」の文字、204は菱形、205・206は花とバリエーションはあるが、基本となる文様は鱗状である。染付は型紙刷によることから明治前半のものである。210は瀬戸美濃系磁器の碗である。211～213は肥前系磁器の皿で、型紙刷が見られることから明治前半のものである。214・215は瀬戸美濃系磁



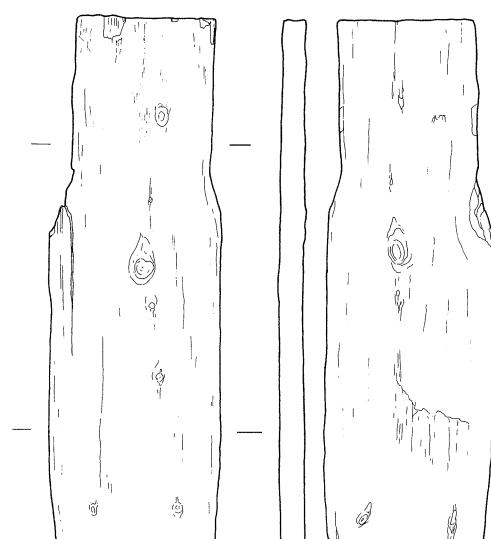
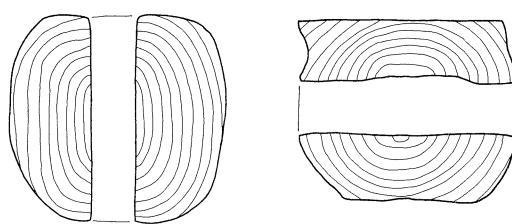
第101図 SK-2075 出土遺物実測図⑥



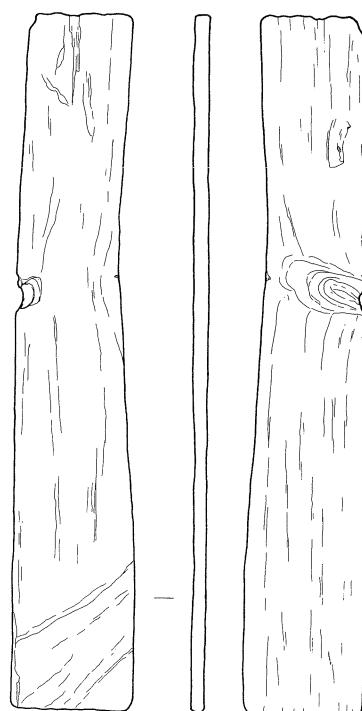
第102図 SK-2075 出土遺物実測図⑦



W24



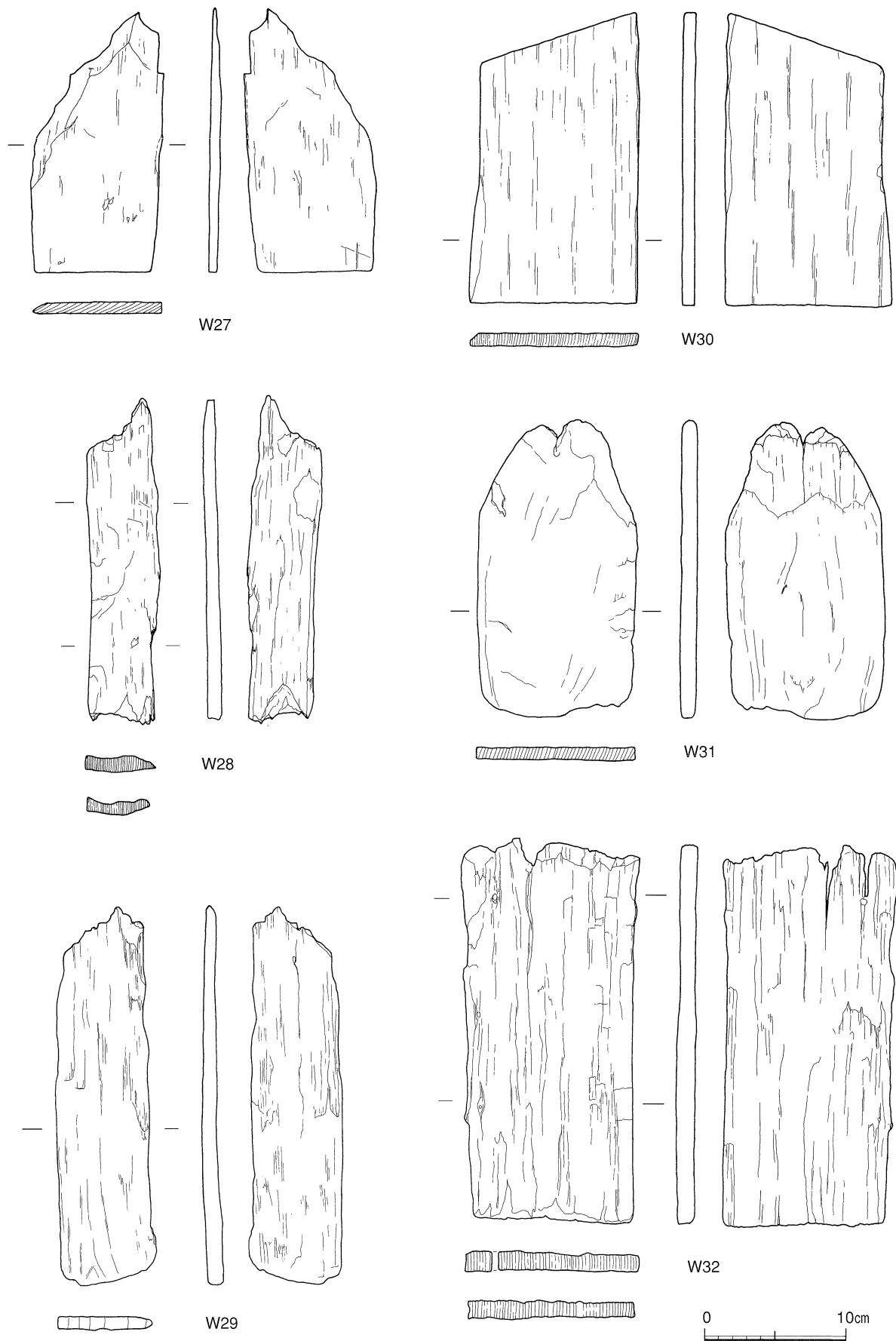
W25



W26

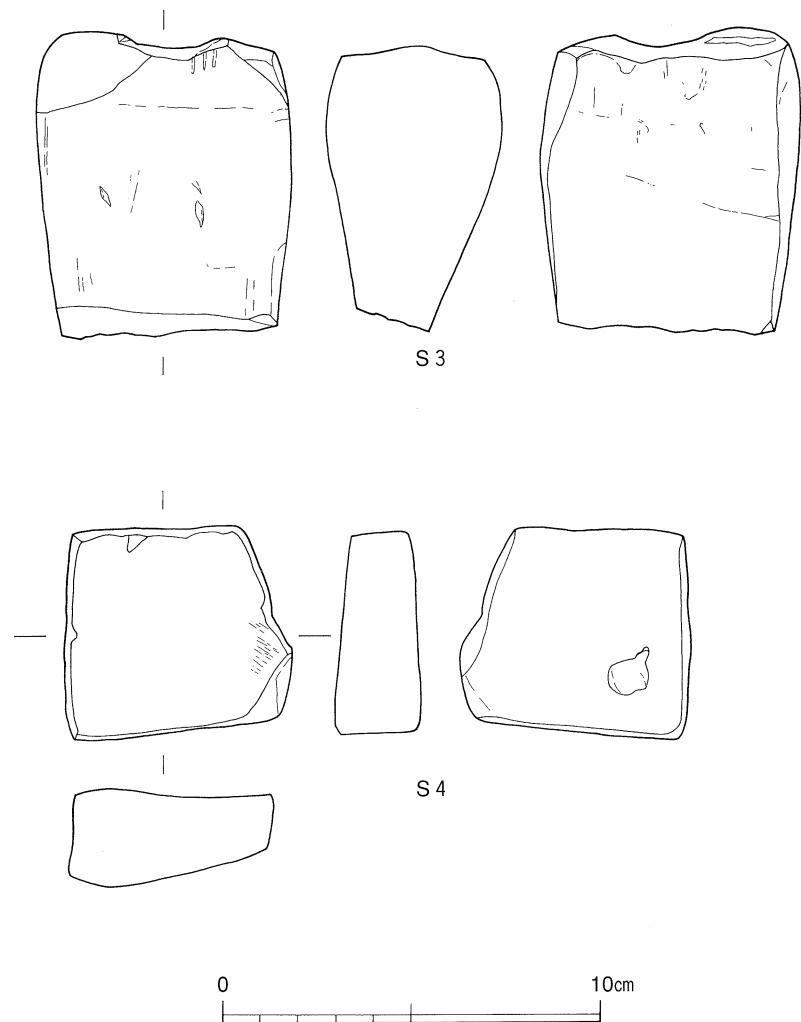


第103図 SK-2075 出土遺物実測図⑧



第104図 SK-2075 出土遺物実測図⑨

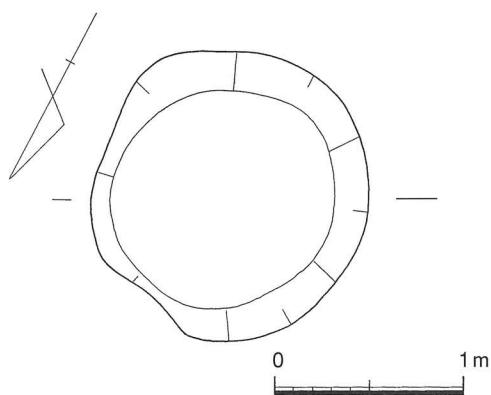
器のⅢである。216～220は瀬戸美濃系磁器の盃である。218の内面には「陸軍砲兵十一」の色絵が見られる。明治後半のもので、216・217も同形態であり、同時期のものである。219の外面は緑色の絵の具を釉薬に混ぜたもので施釉しており、明治後半のものである。220の外面にはラッパや日章旗が銅板赤絵によって描かれていることから明治後半のものである。221は肥前系磁器の鉢である。型紙刷が見られることから、明治前半のものである。222は瀬戸美濃系磁器の土瓶の注ぎ口である。幕末～明治のものである。223は瀬戸美濃系磁器の鉢である。銅板転写が見られることから明治末のものである。224は磁器の甕である。225～228は瓦である。K1は鉄製のヘラ状の工具と思われる。W4は竹製の茶筅である。W5は竹製の花生である。W6・W7は漆器椀である。W8～11は下駄である。W12～W15は枕である。W17～W21は加工木である。W22～W24は建築部材である。W25～W32は板材である。S3・S4は砥石である。



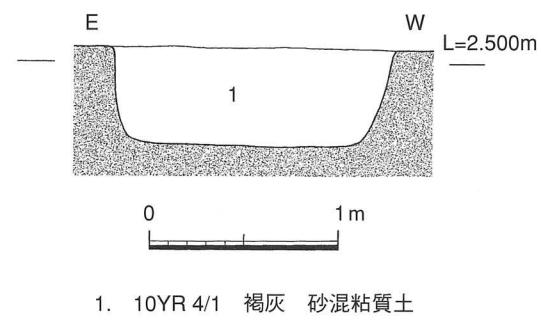
第105図 SK-2075 出土遺物実測図⑩

#### S K-2084

II区の南西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.5m、短径約1.45、深さ約60cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形を呈する。出土遺物中で図示できたものは第108・109図に掲載した。230は肥前系陶器の盃である。231は京・信楽系陶器の擂鉢である。つやの無い独特の釉薬を施釉しており、19世紀のものである。232は土師質土器の火鉢である。外面に陽刻による文様が見られる。233・234は瓦質の焙烙である。W33は下駄の歯である。W34・35は加工木である。

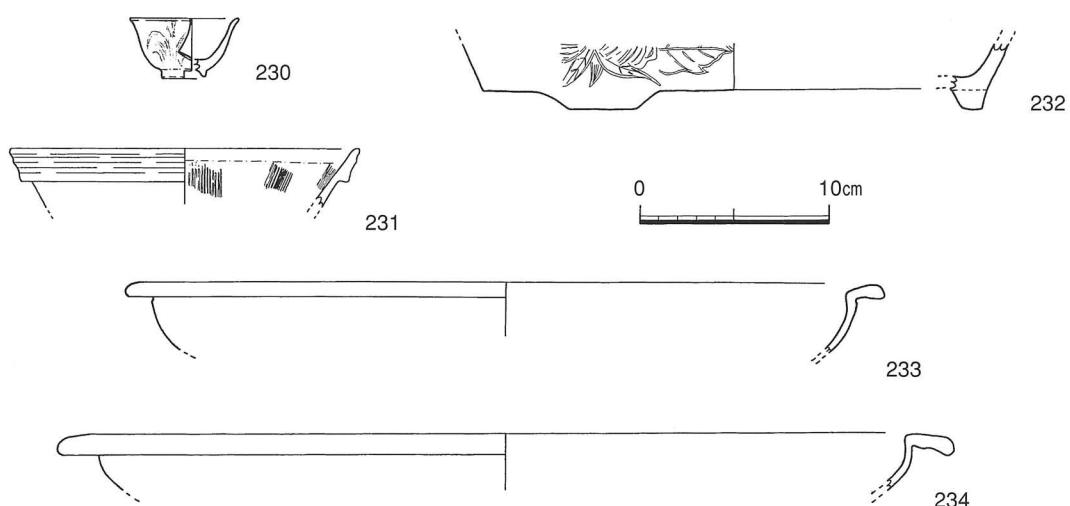


第106図 SK-2084 平面図

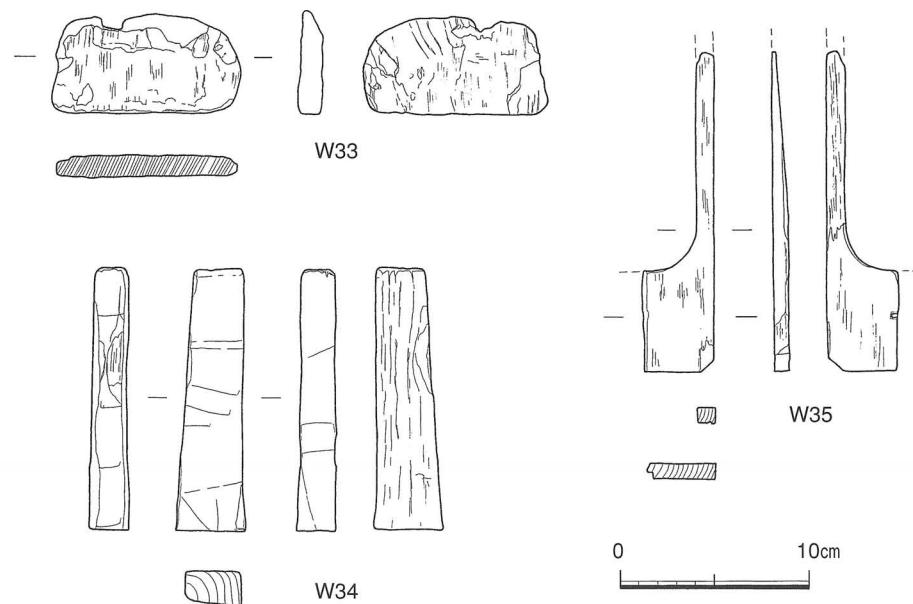


1. 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土

第107図 SK-2084 断面図



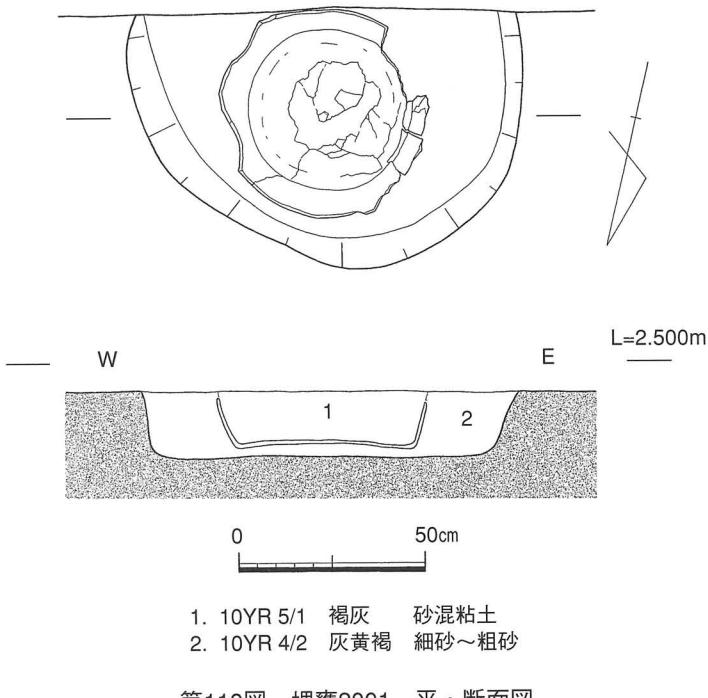
第108図 SK-2084 出土遺物実測図①



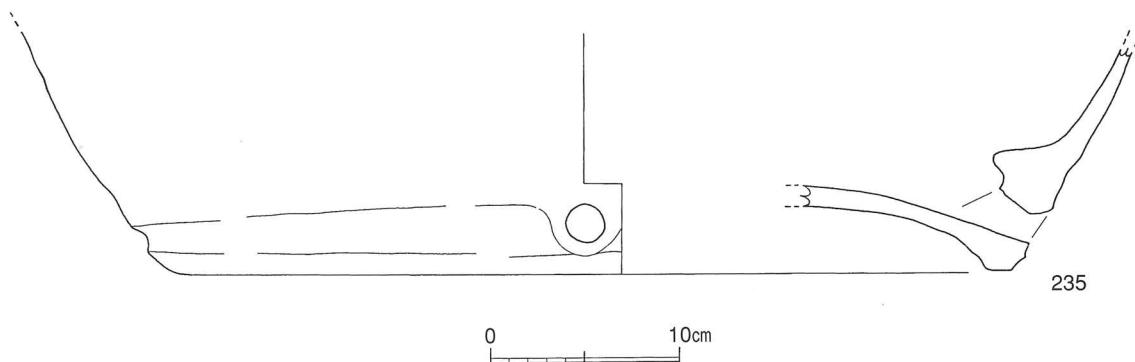
第109図 SK-2084 出土遺物実測図②

## 埋甕2001

II区中央南端で検出した遺構である。遺構は調査区の南壁よりさらに南にのびており、平面形態ははっきりしないが、楕円形を呈すると考えられる。東西径約1.1m、深さ約15cmを測る。断面形態は逆台形である。遺構の北東寄りで第111図235の土師質土器の風呂釜が出土した。底部のみしか出土していないが、バラバラではなく、元位置を保っていることからこの位置に据え付けられたものである。遺構の埋土は土器内部が褐灰色の粘土層で、土器の外部が灰黄褐色の細砂～粗砂層である。据え付けられていた風呂釜は土器の中



第110図 埋甕2001 平・断面図

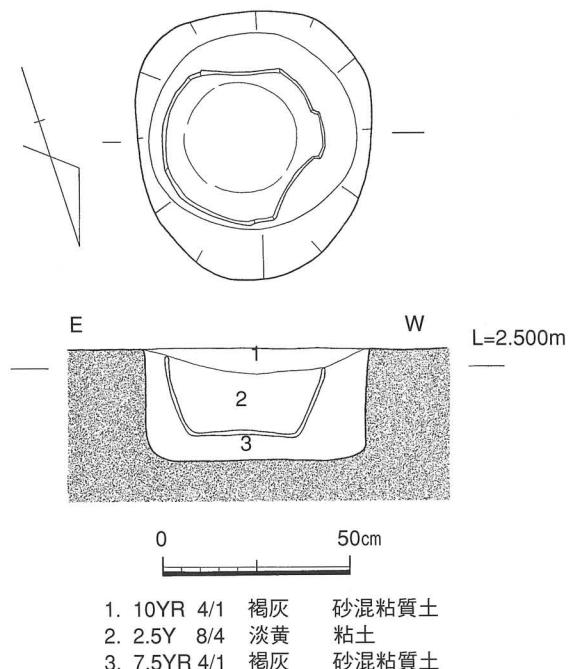


第111図 埋甕2001 出土遺物実測図

央が高くなるようなドーム状の上げ底になっている。体部下半には凹線状のくぼみがあり、その1箇所に焼成前の穿孔が見られる。穴は排水のためのものと考えられる。調整はマメツが著しいが、内外面ともにナデである。風呂釜以外の遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。遺構の用途も不明である。

## 埋甕2002

II区の南西部で検出した遺構である。平面形態は楕円形を呈し、長径約75cm、短径約70cm、深さ約30cmを測る。掘り込みは垂直で、断面形態は長方形である。遺構のほぼ中央に第113図236の土師質土器の火鉢が見られた。底面より約5cmほど浮いた状態で検出しているが、ほぼ水平になっており、現存する部分にも破損はない。元位置を保っており、据え付けられたものと考えられる。埋土は3層に分層できる。上層は褐灰色の砂混粘質土、土器の内部は淡黄色の粘土、土器の外部は褐灰色の砂混粘質土である。火鉢

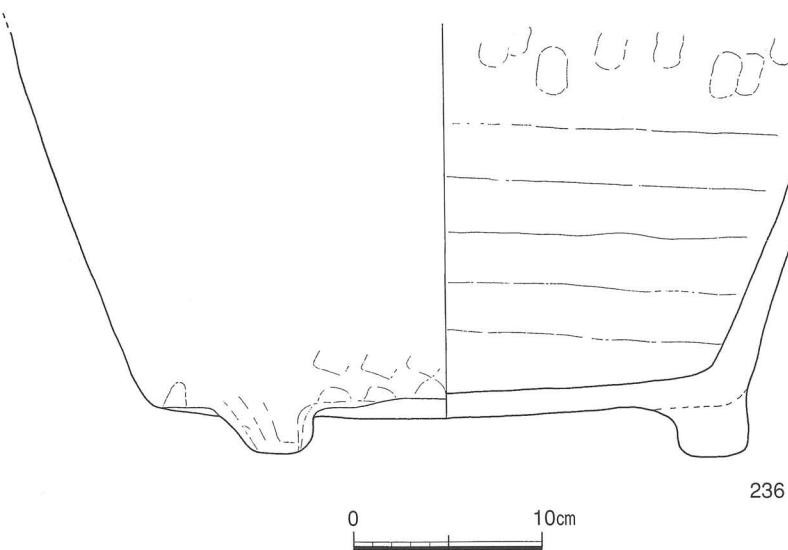


第112図 埋甕2002 平・断面図

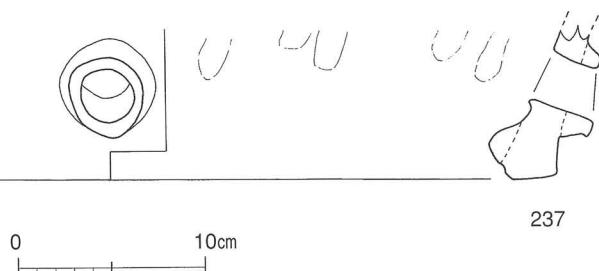
の底部はやや丸みをもっており、3方向に脚がついている。外面は指頭圧および板ナデ、内面は上半が指頭圧、下半が横方向のナデである。火鉢以外の遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。遺構の用途も不明である。

### 埋甕2003

II区の中央北部で検出した遺構である。平面形態は隅丸方形を呈し、一辺約60cm、深さ約5cmを測る。掘り込みは垂直で、断面形態は長方形である。遺構のほぼ中央に第114図237の土師質土器が見られた。土器は内外面に煤が付着しており、竈の可能性もあるが、図示したとおりの方向で埋設されていた。削平により遺構の残りも悪いため、元位置を保っているかどうかは不明である。土器は底部側面に穴を有し、内面には指頭ナデが見られる。土師質土器以外の遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。遺構の用途も不明である。



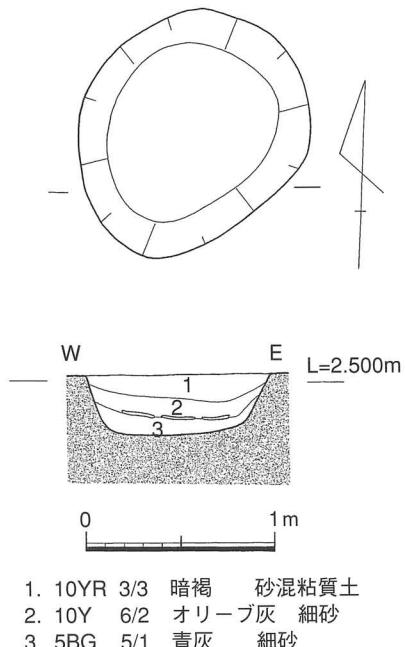
第113図 埋甕2002 出土遺物実測図



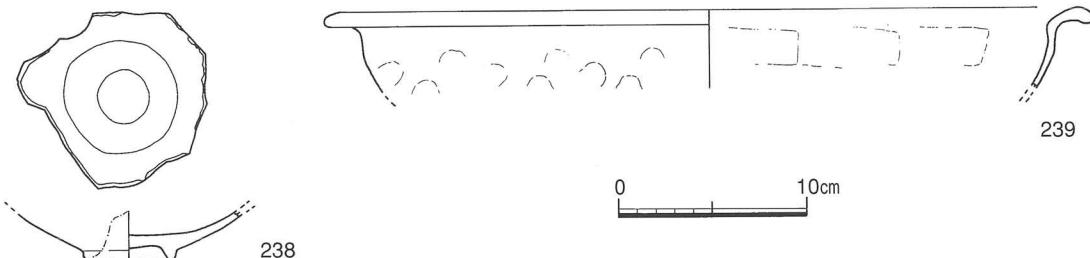
第114図 埋甕2003 出土遺物実測図

## S T-2001

II区の北西部で検出した遺構である。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.25m、短径約1.05m、深さ約30cmを測る。断面形態は逆台形で、埋土は3層に分層できる。上層は暗褐色の砂混粘質土、中層はオリーブ灰色の細砂層、下層は青灰色の細砂層である。中層と下層の間で木製の板を7枚検出した。非常にもろくなっていたため、取り上げにはいたらなかつた。板は南北方向にそろえた状態で検出しており、すべて幅10~15cmのものである。また、並んでいる7枚の板のうち、中央の板が最も長く、外側に向かって両端が短くなっている。板全体の平面プランは円形を呈する。早桶の底板と考えられることから、この遺構が墓であった可能性が指摘できる。出土遺物は第116図の2点のみである。238は肥前系陶器の皿である。高台無釉、見込みに蛇の目釉ハギが見られることから17世紀前半~中葉のものである。239は土師質の焰烙である。



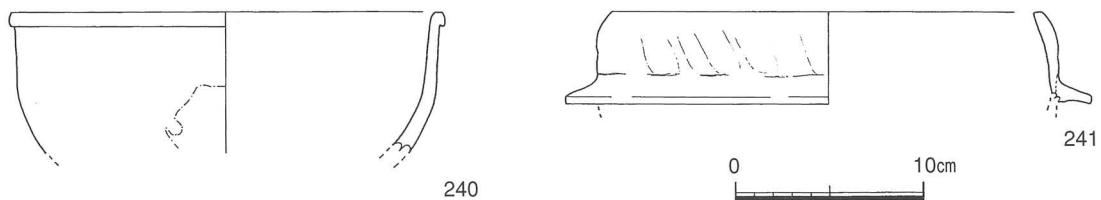
第115図 ST-2001 平・断面図



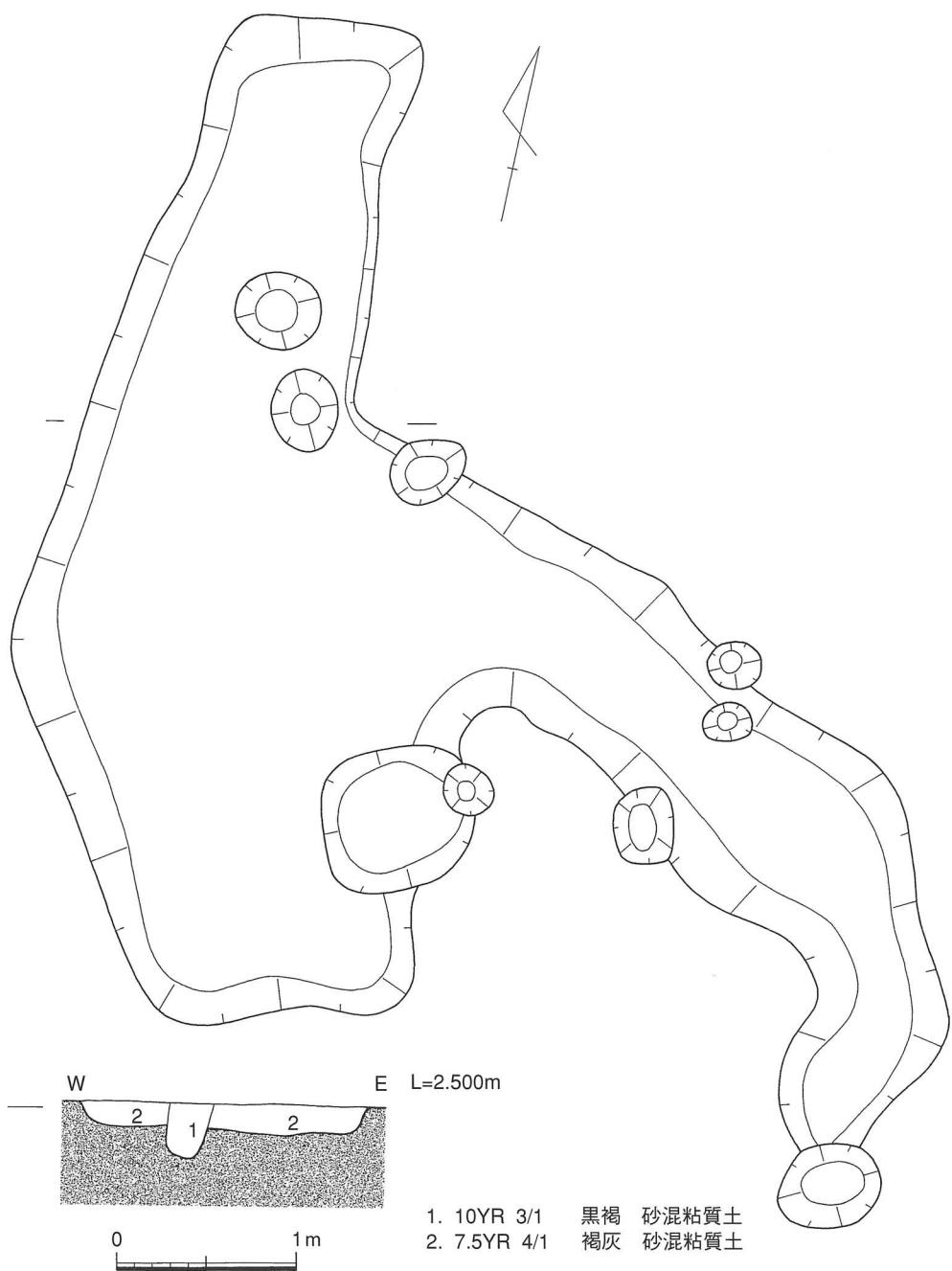
第116図 ST-2001 出土遺物実測図

## S X-2001

II区の北東部で検出した遺構である。南北方向に長い長方形を呈する部分とその中央部分から東へ派生する溝状部分からなる不整形な平面形態を呈する。長方形部分は長辺約5.7m短辺約2m、深さ約20cmを測る。溝状部分は長さ約5m、最大幅約1.2m、深さ約20cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。出土遺物中で図示できたものは第117図に掲載した。240は肥前系陶器の鉢である。玉縁状の口



第117図 SX-2001 出土遺物実測図

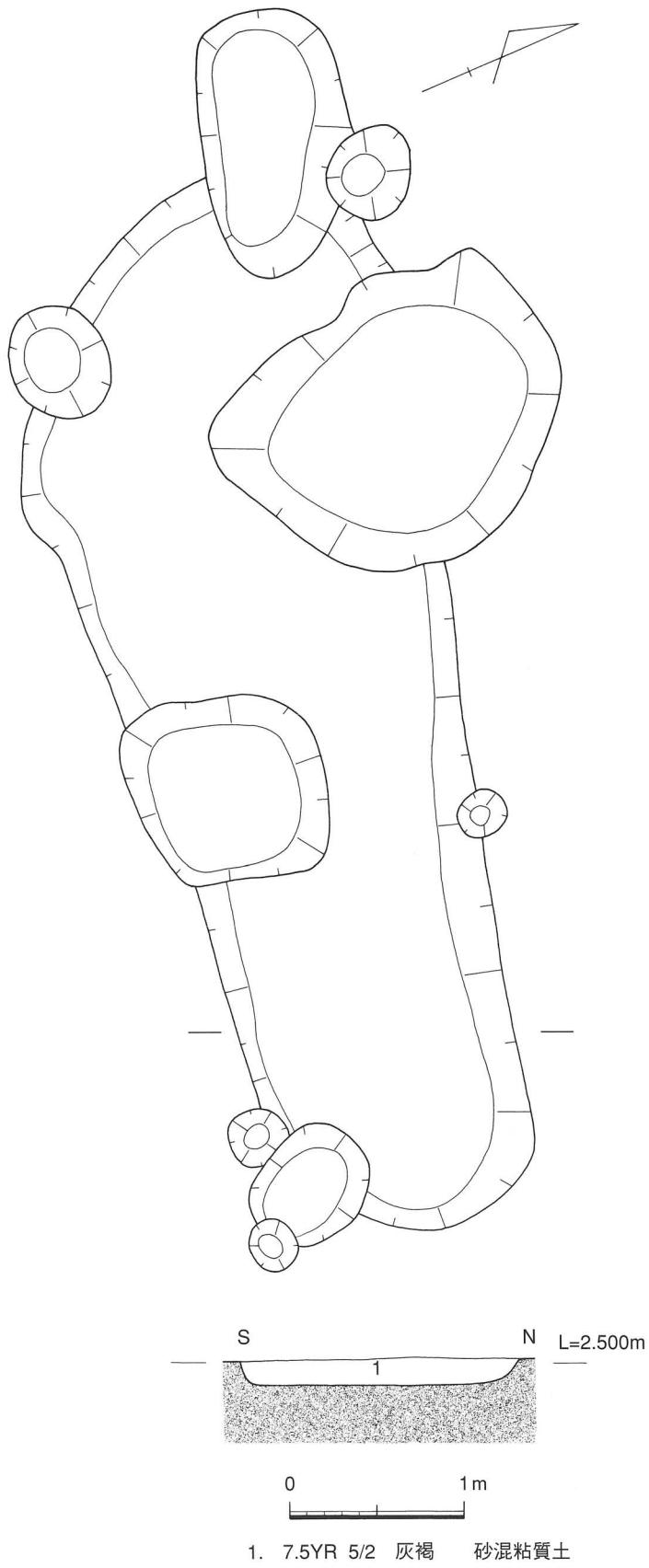


第118図 SX-2001 平・断面図

縁で、高台は無釉である。17世紀前半のものである。241は瓦質の羽釜である。外面は指頭ナデである。

S X-2002

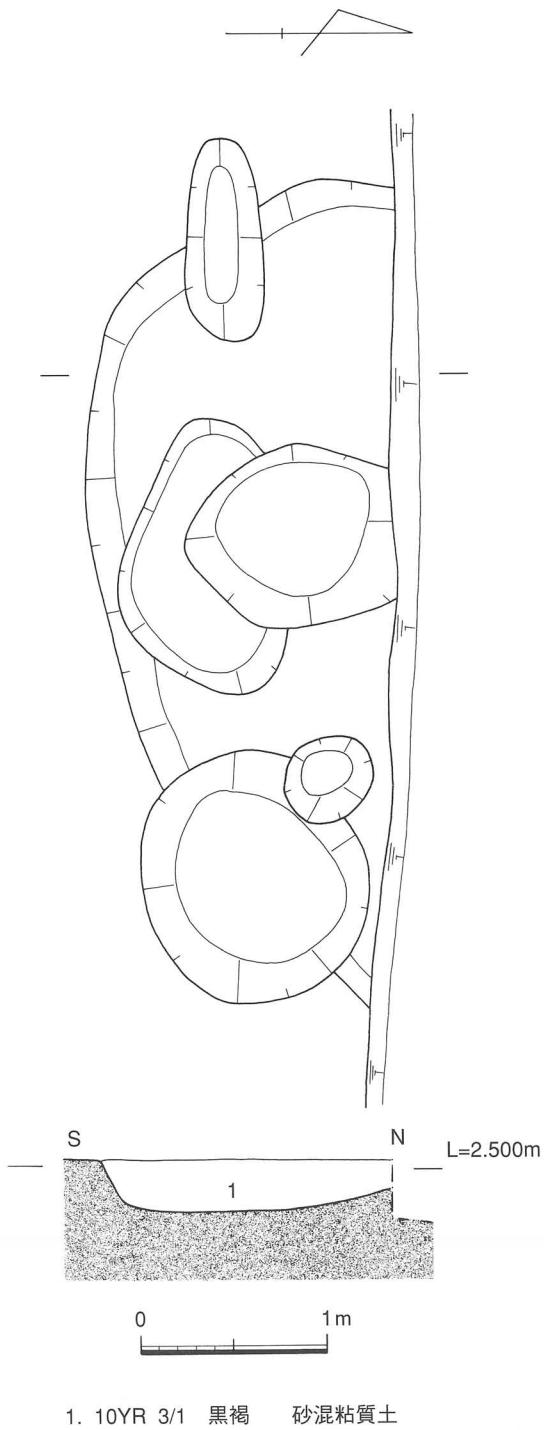
II区の北西部でS K-2015等の多数の遺構に切られた状態で検出した遺構である。他の土坑に比べ非常に規模が大きいことから不明遺構とした。平面形態は長方形を呈し、長辺約5.45m、短辺約2m、深さ約20cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。出土遺物中で図示できたものは第119図242のみである。土師質土器の火鉢の脚部と考えられる。板ナデおよび指頭圧で整形されている。図示できなかった遺物もいずれも小片で詳細な時期の決定には至らない。



第119図 SX-2002 出土遺物実測図

第120図 SX-2002 平・断面図

### S X-2003



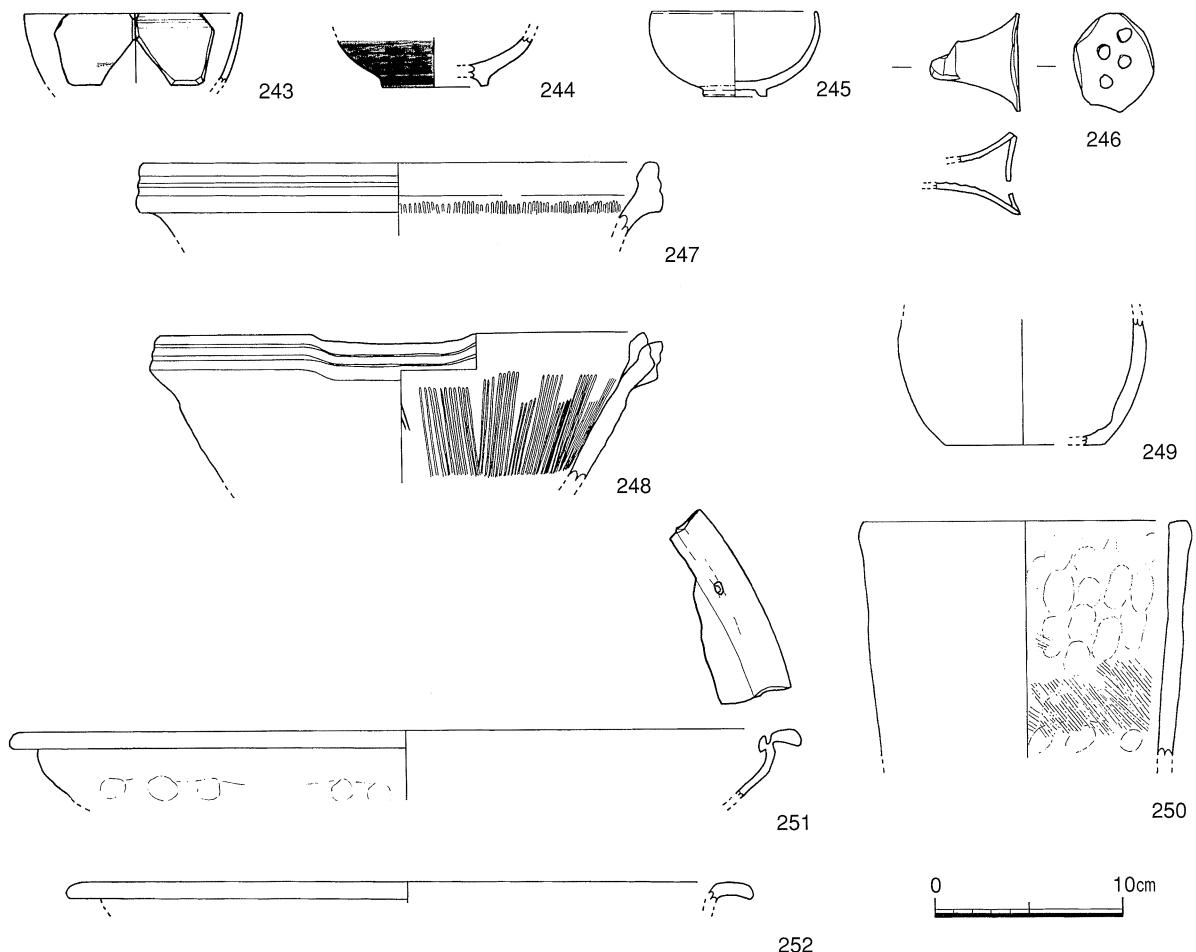
第121図 SX-2003 平・断面図

は備前焼の焼塩壺である。279～282は備前焼の鉢である。283～286は擂鉢である。283は明石焼、284は備前焼、285・286は堺焼である。287は肥前系陶器の皿である。砂目が見られることから17世紀前半のものである。288・289は京・信楽系陶器の碗である。19世紀のものである。290も京・信楽系陶器の碗である。外面の文様は鉄絵である。291～300は肥前系磁器の碗である。292は二重の網目が見られ18世紀中葉、294もコンニャク印判が見られることから18世紀中葉のものである。299と300は見込みに格子

II区の中央北端で検出した遺構である。遺構は調査区外にのびており、平面形態は不明であるが、発掘部分から判断しても他の土坑に比べ規模が大きいことから不明遺構とした。東西径約4.3m、深さ約25cmを測る。埋土は单層で、断面形態は逆台形である。コンテナ1箱分の遺物が出土しており、図示できたものは第122図に掲載した。243は瀬戸美濃系磁器の碗である。19世紀のものである。244は瀬戸美濃系陶器の碗である。外面鉄釉、内面透明釉を施釉しており、18世紀のものである。245は京・信楽系陶器の碗である。高台は小さく無釉とし、丸い体部をもつ。18世紀のものである。246は京・信楽系陶器の土瓶の注ぎ口である。外面のみ鉛釉を施釉している。247・248は備前焼の擂鉢である。249は土師質の壺である。250は土師質土器で、内面にタテハケ後指頭圧が見られる。251・252は瓦質の焙烙である。外面に指頭圧が見られる。

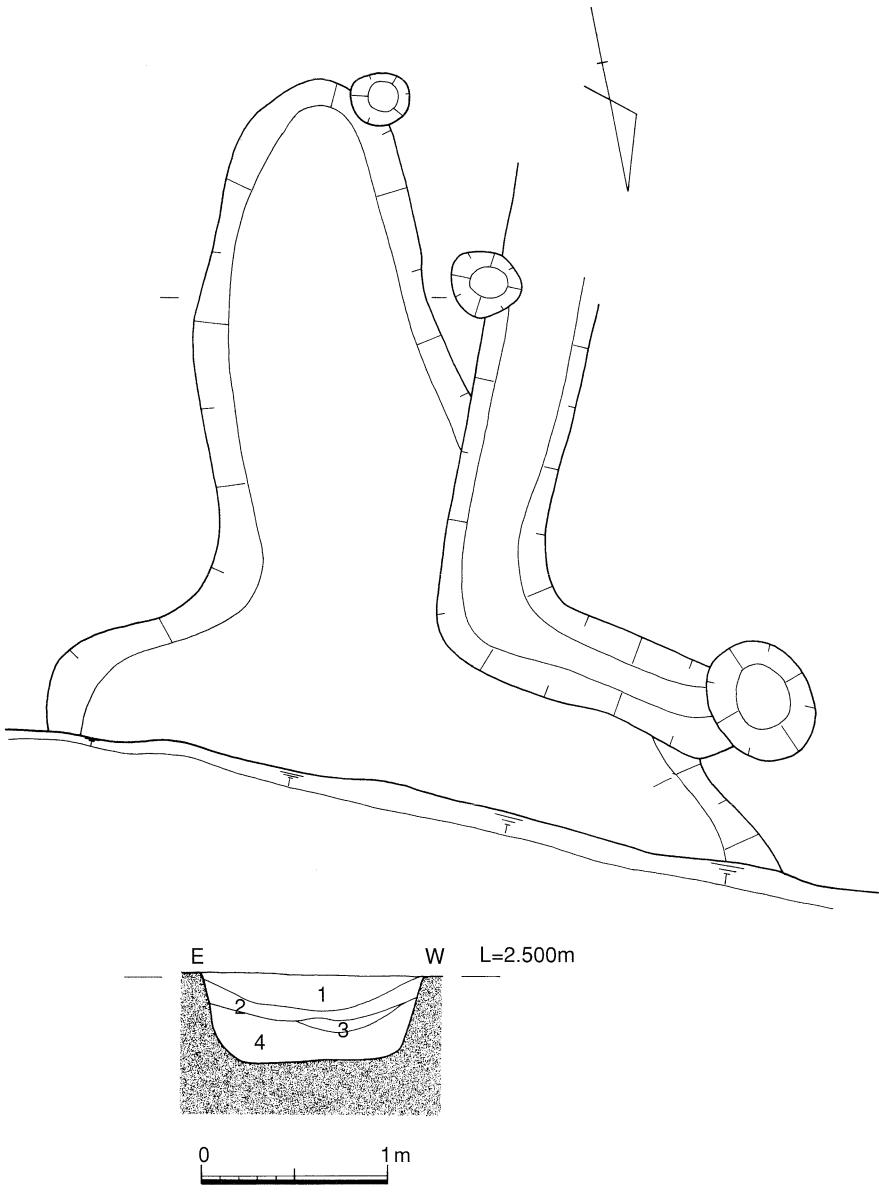
### S X-2005

II区の中央北端でSD-2027に切られた状態で検出した遺構である。遺構は調査区外にのびており、平面形態は不明であるが、発掘部分から判断しても不整形で他の土坑に比べ規模が大きいことから不明遺構とした。東西約5m、深さ約40cmを測る。埋土は4層に分層でき、大きく上層と下層に分けることができる。上層は砂混粘質土層、下層は細砂層である。断面形態は逆台形である。遺物は上層部分に多く、コンテナ5箱分が出土しており、図示できたものは第124～129図に掲載した。253～258は土師質土器である。259～268は瓦質の焙烙である。外面に指頭圧が見られる。269～277は瓦質の羽釜である。278

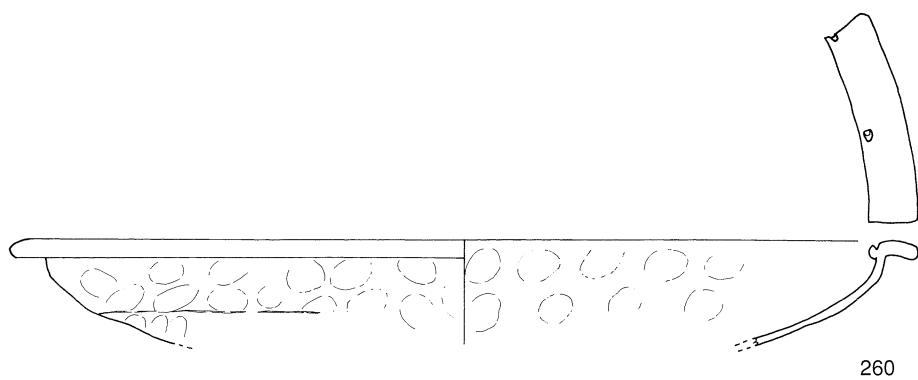
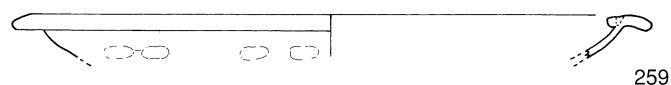
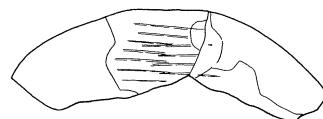
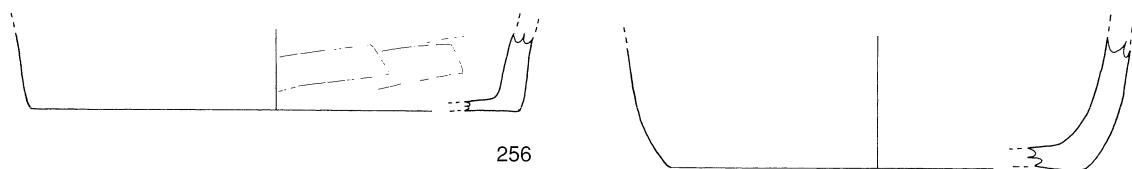
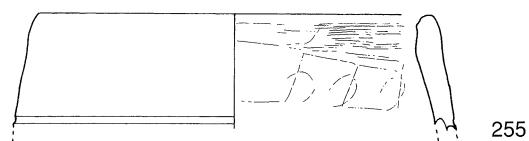
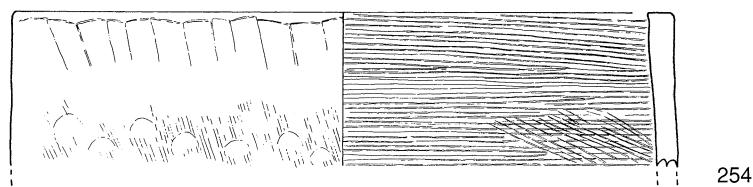
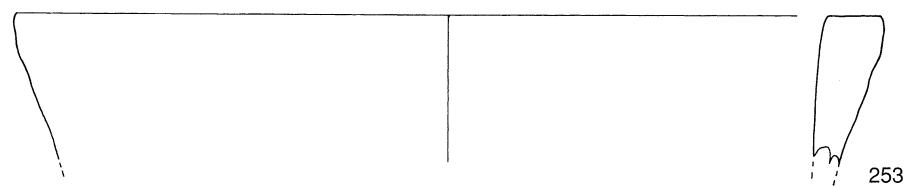


第122図 SX-2003 出土遺物実測図

の文様が見られる。19世紀前半のものである。301は瀬戸美濃系磁器の碗である。19世紀中葉のものである。302は肥前系磁器の碗で、外面青磁釉が施される。見込みには五弁花文が見られ、18世紀後半のものである。303は肥前系磁器の碗である。19世紀前半のものである。304は肥前系磁器の蓋である。18世紀末～19世紀のものである。305・306は肥前系磁器の碗である。307・308は肥前系磁器のいわゆる広東碗である。18世紀末～19世紀前半のものである。309は肥前系磁器の蓋である。外面に卍等が見られる。19世紀前半のものである。310は京・信楽系陶器の徳利である。19世紀前半のものである。311は肥前系磁器の瓶である。18世紀のものである。312は瀬戸美濃系陶器の馬の目皿である。18世紀後半～19世紀のものである。313は肥前系磁器の皿である。内面に網目が見られ、18世紀のものである。314は肥前系磁器の色絵油壺である。鬚付け油等の化粧用の油入れに使用されたものである。315は磁器の盃である。316は肥前系磁器の盃で、19世紀前半のものである。317は肥前系磁器の佛飯具である。蛸唐草が見られ、18世紀後半のものである。318は京・信楽系陶器の蓋である。19世紀前半のものである。319は瀬戸美濃系陶器の皿である。口縁部の4方を内側にくぼませ、高台は無釉としている。19世紀前半のものである。320は京・信楽系陶器の鉢である。高台無釉とし、見込みに針支えの痕跡も見られる。18世紀後半～19世紀前半のものである。321は京・信楽系陶器の鉢である。外面のみ鉛釉を施釉しており、

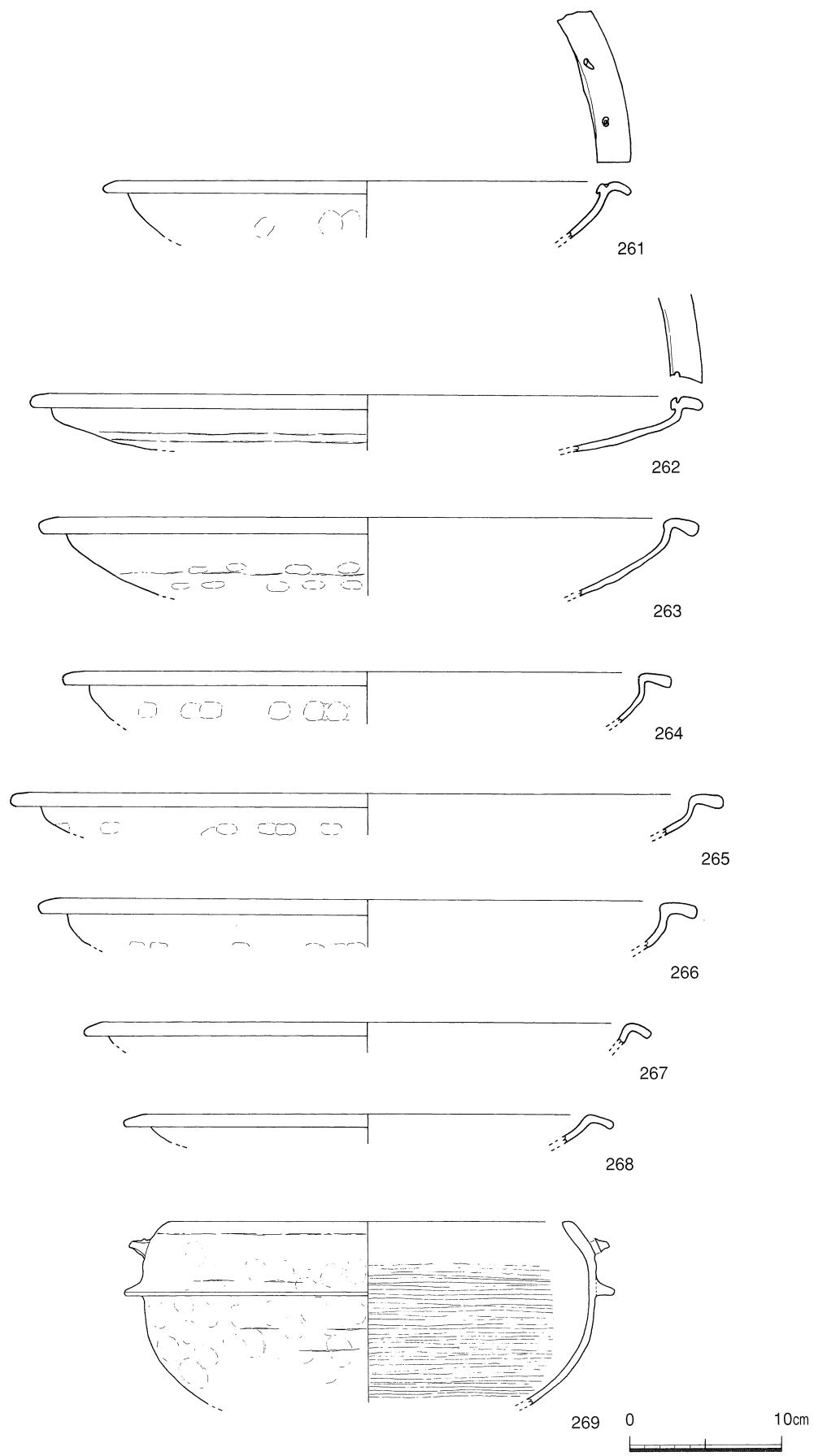


第123図 SX-2005 平・断面図

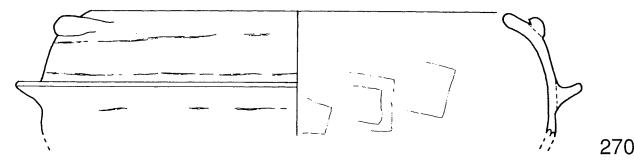


0 10cm

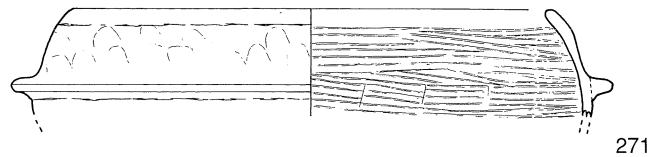
第124図 SX-2005 出土遺物実測図①



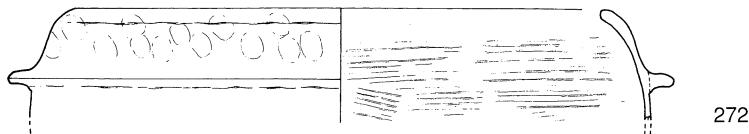
第125図 SX-2005 出土遺物実測図②



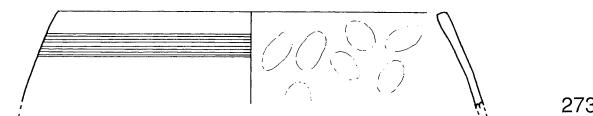
270



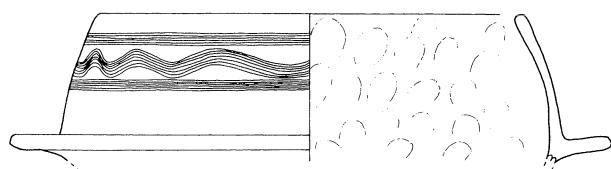
271



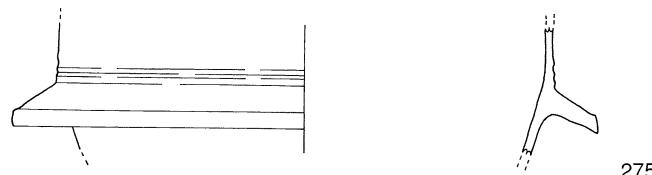
272



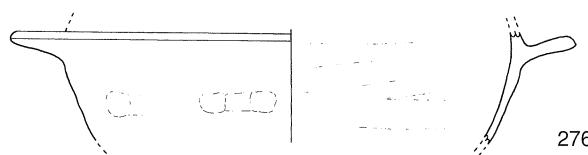
273



274



275



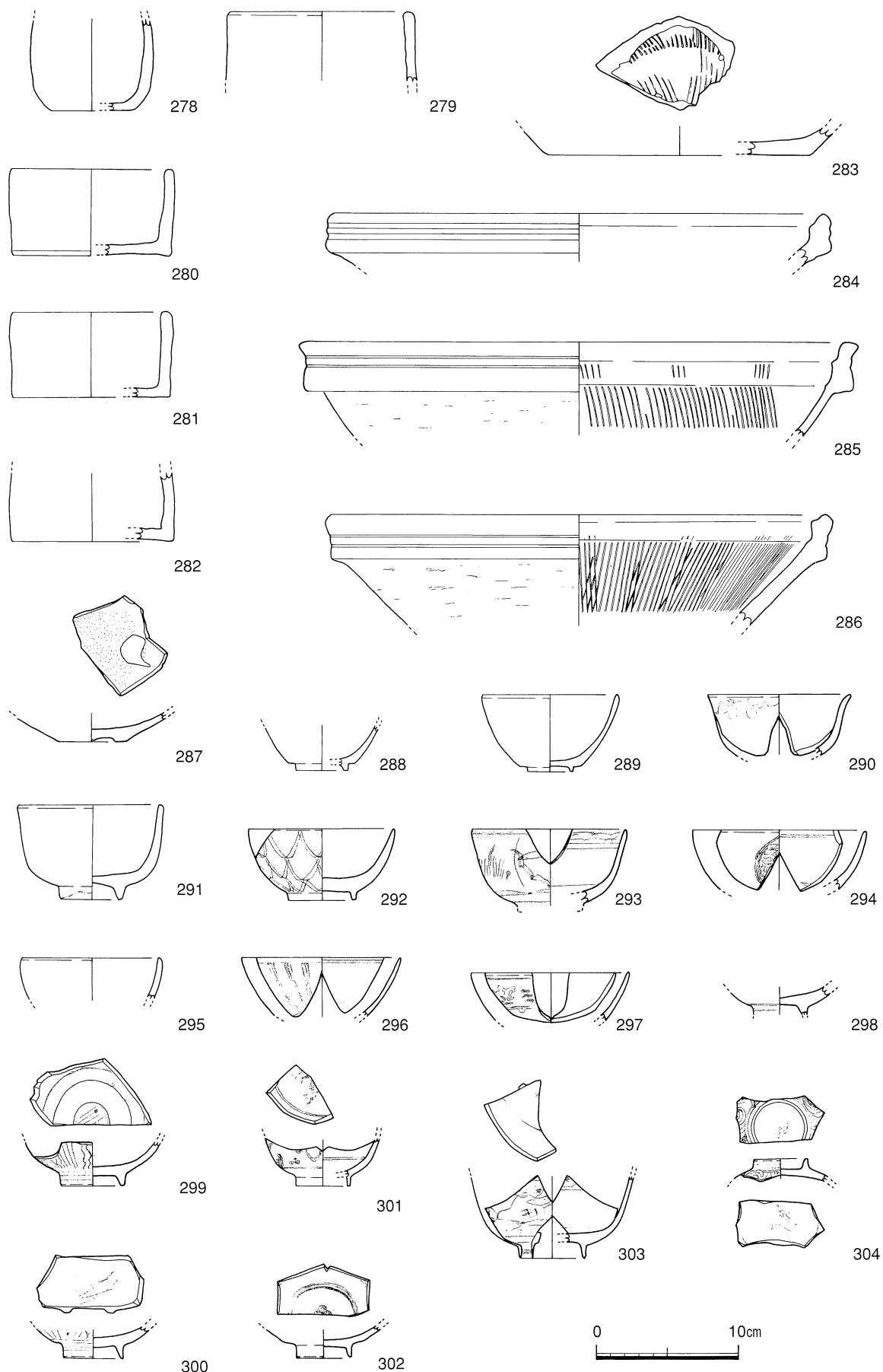
276



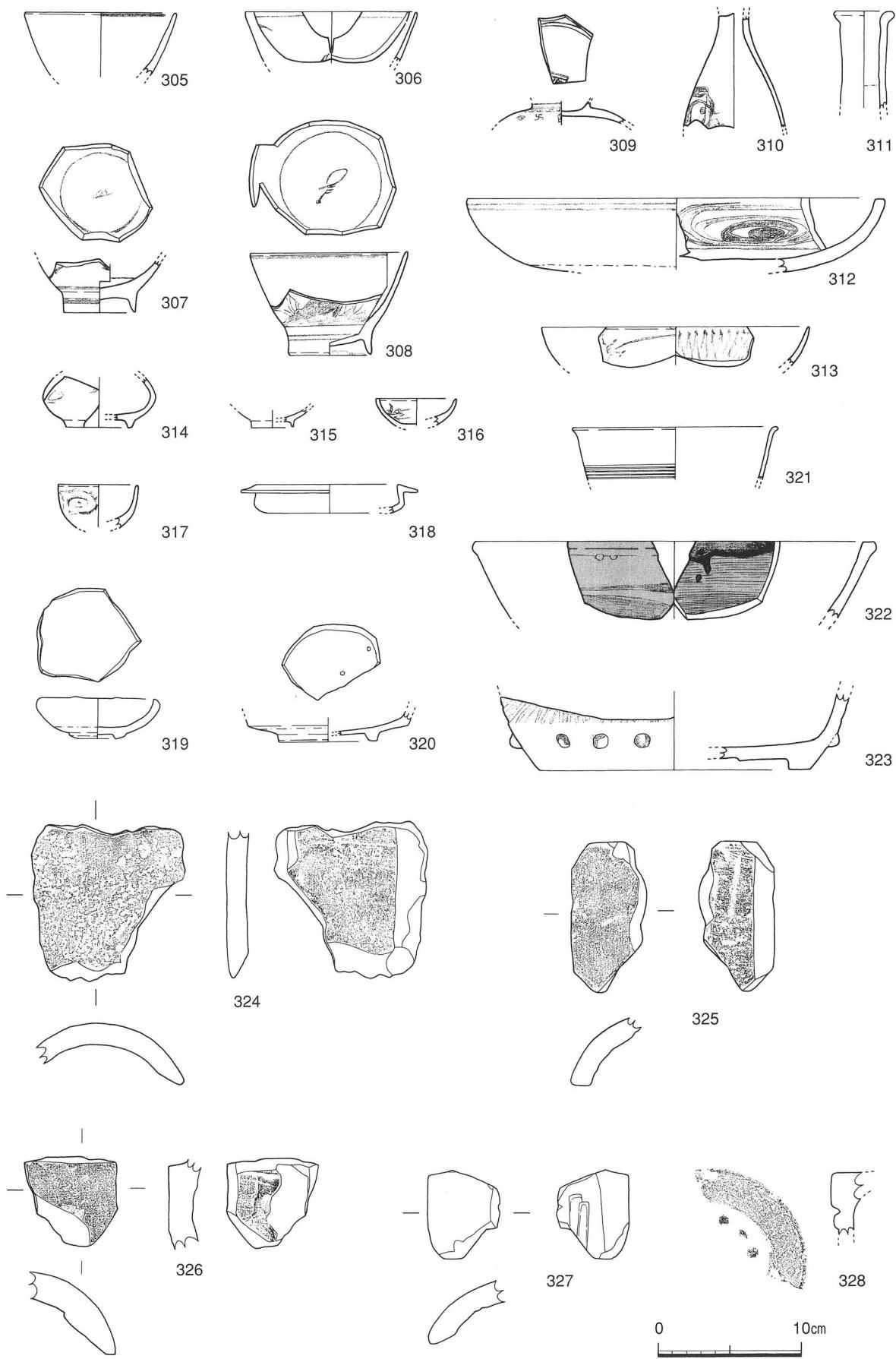
277

0 10cm

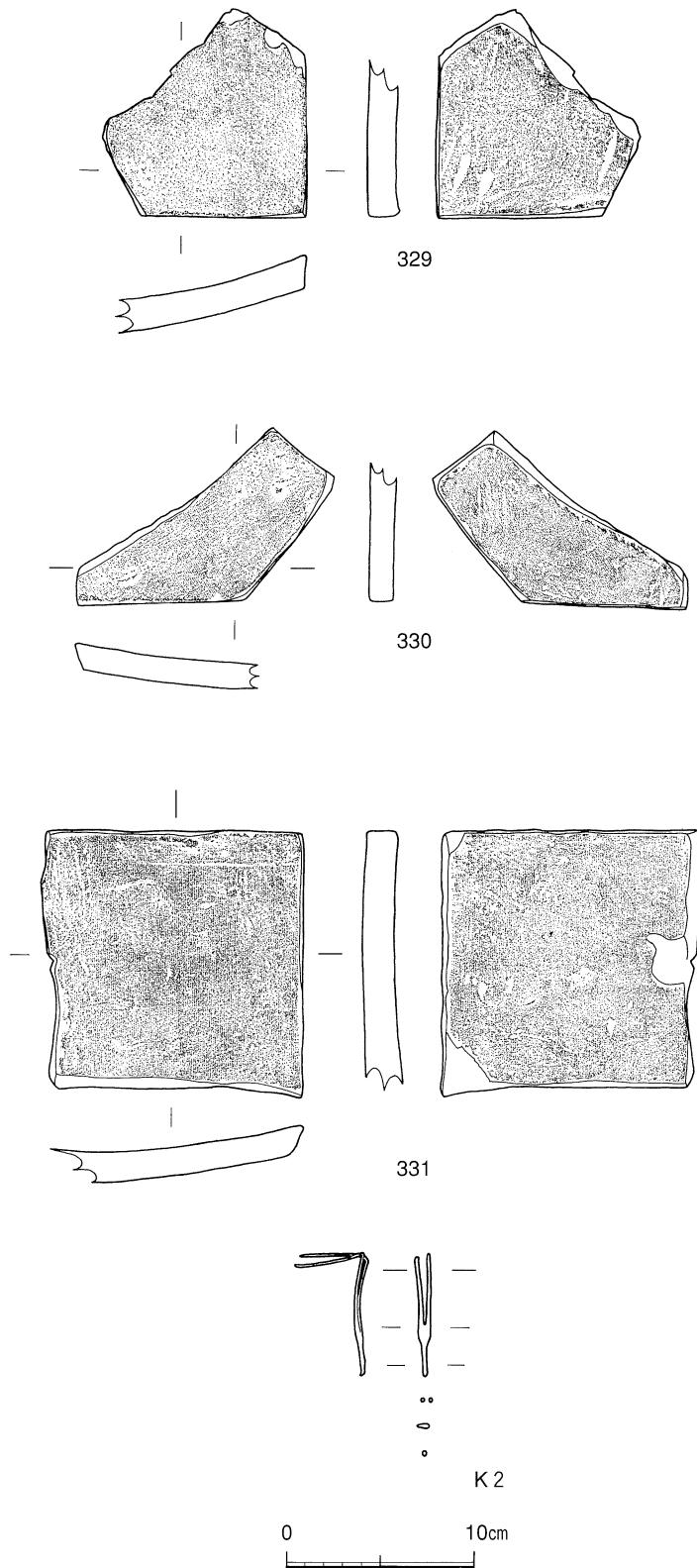
第126図 SX-2005 出土遺物実測図③



第127図 SX-2005 出土遺物実測図④



第128図 SX-2005 出土遺物実測図⑤



第129図 SX-2005 出土遺物実測図⑥

19世紀のものである。322は瀬戸美濃系陶器の鉢である。内外面ともに鉄釉を施釉している。19世紀のものである。323は瀬戸美濃系陶器の火入れである。体部外面下半に円形浮文が見られる。18世紀後半～19世紀のものである。324～327は丸瓦、328は軒丸瓦、329～331は平瓦である。K2は金属製のかんざしである。二股に分かれた先はL字に折れ曲がっている。

遺物は明治まで下るものではなく、幕末頃の遺構と考えられる。

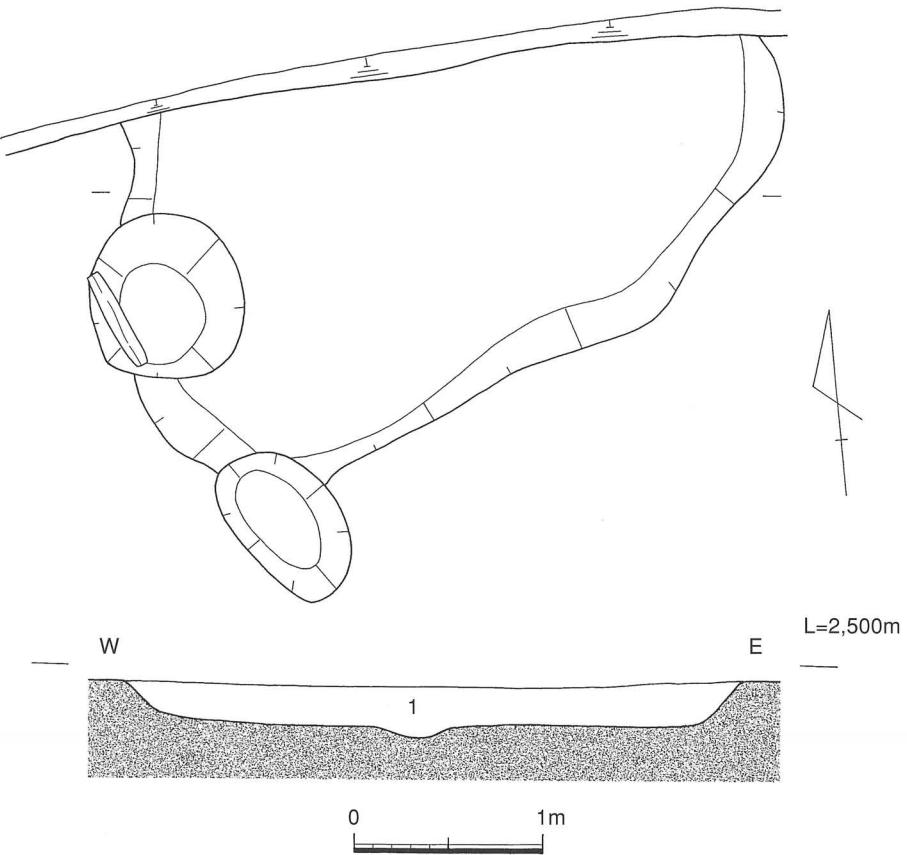
#### S X-2006

II区の中央北端でS K-2040に切られた状態で検出した遺構である。遺構は調査区外にのびており、平面形態は不明であるが、発掘部分から判断しても他の土坑に比べ規模が大きいことから不明遺構とした。東西約3.5m、深さ約40cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形を呈するが、中央部分のみややくぼむ。遺物は多く、コンテナ2箱分が出土しており、図示できたものは第131～134図に掲載した。332～335は瓦質の羽釜である。336・337は瓦質の焙烙である。外面に指頭圧が見られる。338～340は土師質土器である。341は備前焼の鉢で、口縁部外面に三角形の刻印が見られる。342・343は堺焼の擂鉢である。18世紀後半のものである。344は備前焼の擂鉢で

ある。345・346は京・信楽系陶器である。外面のみ鉛釉を施釉しており、19世紀前半のものである。347は備前焼の灯明皿である。348は京・信楽系陶器の灯明皿で、内面のみ施釉している。19世紀のものである。349は肥前系陶器の皿である。高台無釉とし、胎土目が見られることから17世紀初頭のものである。350は京・信楽系陶器の鉢である。351は肥前系陶器の皿である。高台無釉とし、砂目が見られることから17世紀前半である。352は京・信楽系陶器の花生である。底部を無釉とする。353は京・信楽系陶器の鉢である。高台無釉としており、19世紀前半のものである。355は肥前系陶器の鉢である。内外面ともに刷毛目が見られ、18世紀のものである。356は瀬戸美濃系磁器の人形である。欧米の女性の頭部と思われることから比較的新しいものと考えられる。357は瀬戸美濃系磁器の蓋である。358は肥前系磁器の蓋で19世紀のものである。359は盃である。360は肥前系磁器の紅皿で18世紀後半のものである。361は肥前系磁器の皿である。見込みに蛇の目釉ハギが見られることから17世紀中葉のものである。362は肥前系磁器の皿で19世紀のものである。363は瀬戸美濃系磁器の広東碗で18世紀末～19世紀前半のものである。364・365は肥前系磁器の広東碗で18世紀末～19世紀前半である。366～369は肥前系磁器の碗である。367は二重の網目が見られ、18世紀中葉のものであるが、それ以外は19世紀前半のものである。370は肥前系磁器の蕎麦猪口で19世紀のものである。371・372は瀬戸美濃系陶器の碗である。外面鉄釉、内面透明釉を施釉しており、18世紀のものである。371の高台には重ね焼きの痕跡が見られる。373・374は瀬戸美濃系磁器の碗

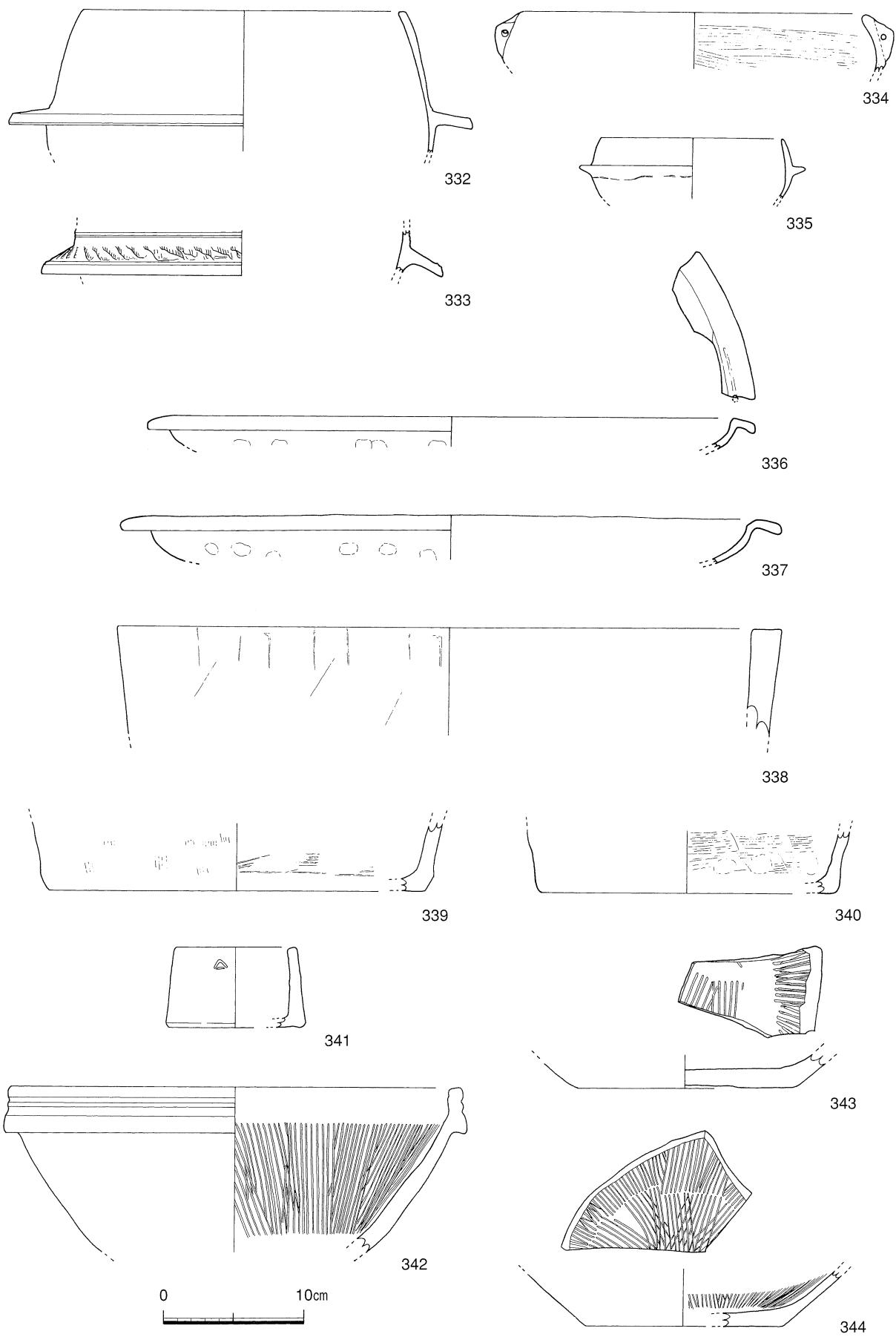
である。外面の竹と梅の文様はゴム判による印刷であることから昭和初期のものである。

375～390は瓦である。  
遺物中には17世紀初頭までさかのぼるものもあるが、昭和初期の遺物が出土していることから、この時期の遺構としてとらえられる。

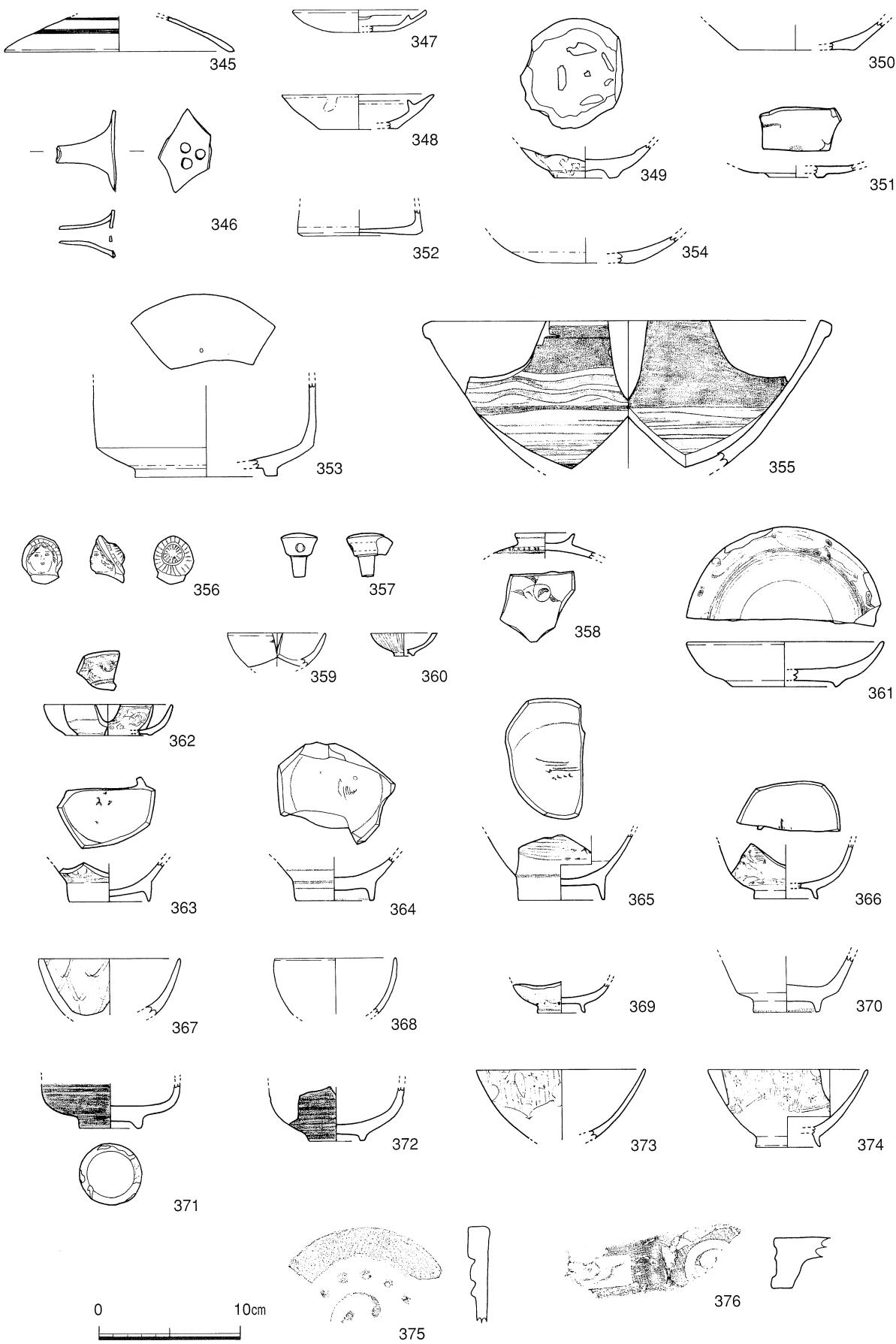


1. 10YR 3/1 黒褐 砂混粘質土

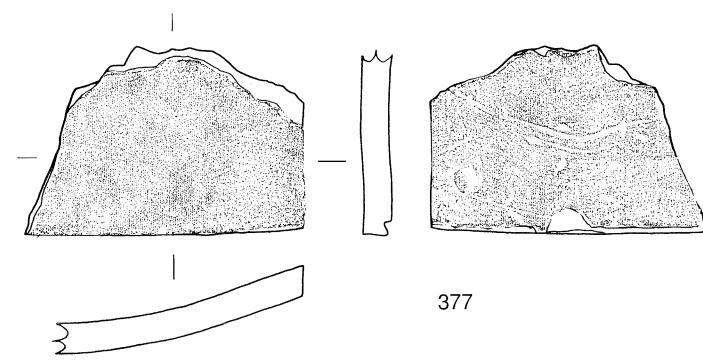
第130図 SX-2006 平・断面図



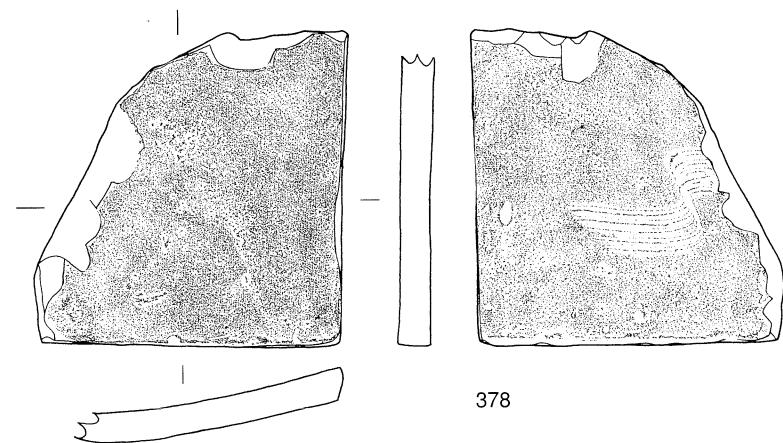
第131図 SX-2006 出土遺物実測図①



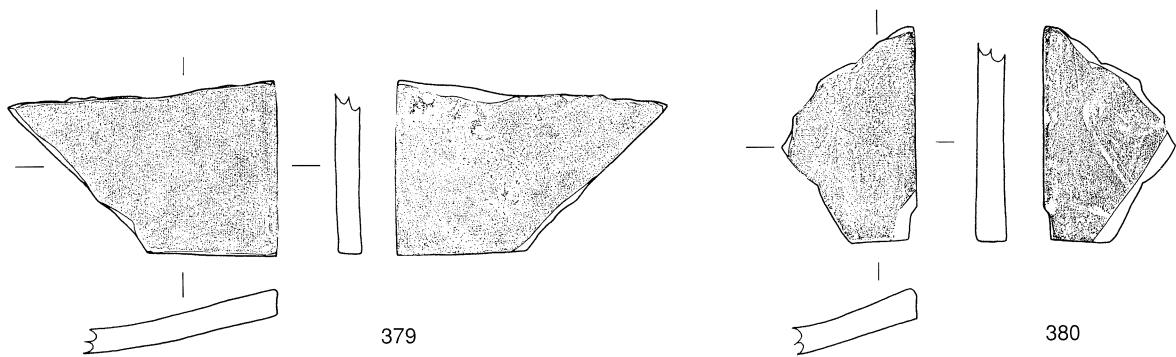
第132図 SX-2006 出土遺物実測図②



377

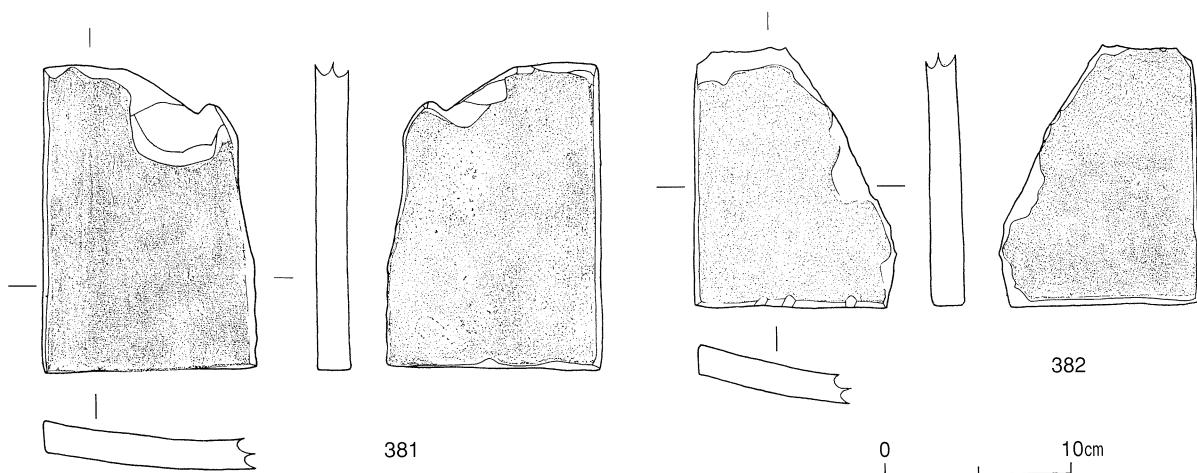


378



379

380

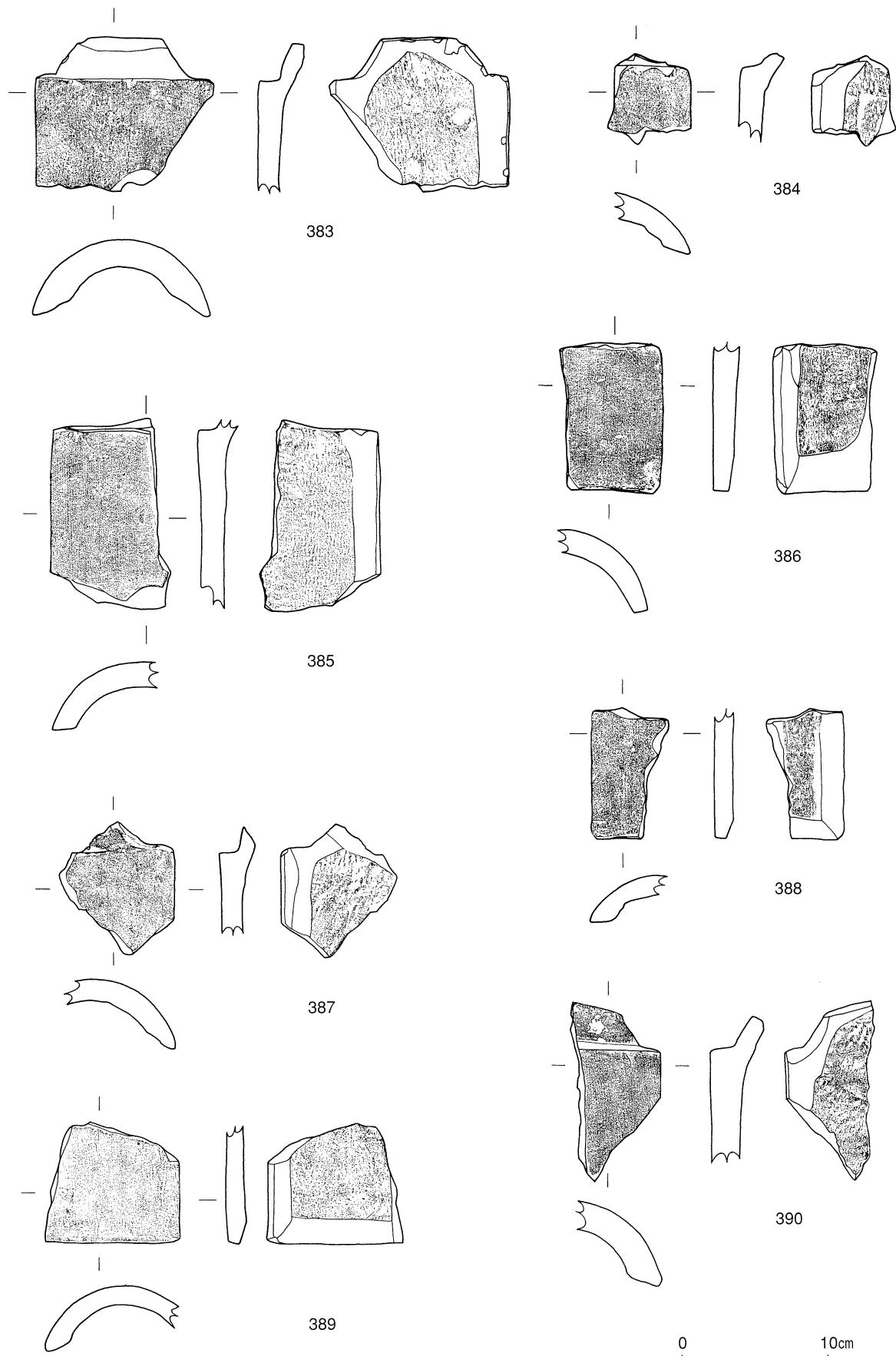


381

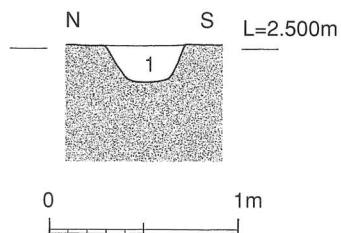
382

0 10cm

第133図 SX-2006 出土遺物実測図③

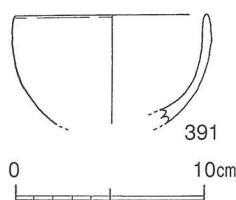


第134図 SX-2006 出土遺物実測図④



1. 10YR 5/1 褐灰 砂混粘質土

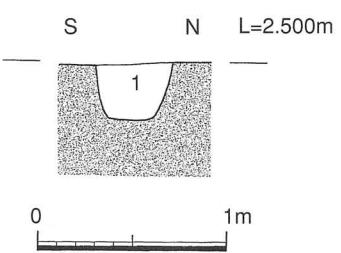
第135図 SD-2001 断面図



第136図 SD-2001  
出土遺物実測図

### S D-2001

II区の北東部でSD-2002に切られた状態で検出した溝である。検出長約90cm、幅約35cm、深さ約20cmを測る。埋土は単層で、断面形態はU字を呈する。出土には第136図の肥前系の京焼風陶器がある。18世紀のものである。

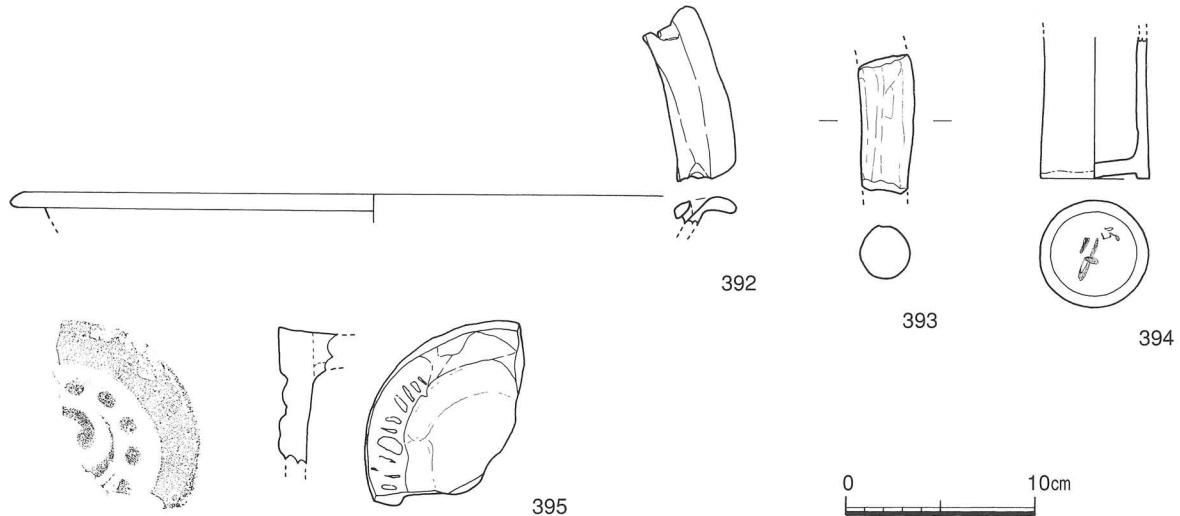


1. 10YR 5/1 褐灰 砂混粘質土

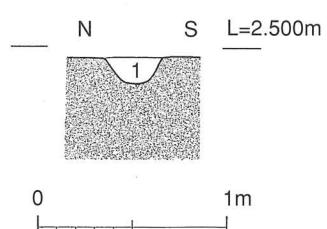
第137図 SD-2003 断面図

### S D-2003

II区の北東部でSX-2001等に切られた状態で検出した東西方向の溝である。検出長約13.5m、幅約40cm、深さ約30cmを測る。埋土は単層で、断面形態はU字を呈する。出土遺物中で図示できたものは第138図に掲載した。392は瓦質の焰焰である。393は土師質の土鍋の脚部である。394は瀬戸美濃系陶器の花生である。少し青みがかったいわゆる御深井釉が施されており、底部は無釉である。底面には墨書が見られる。395は軒丸瓦である。剥離した接合面に列点が見られる。



第138図 SD-2003 出土遺物実測図



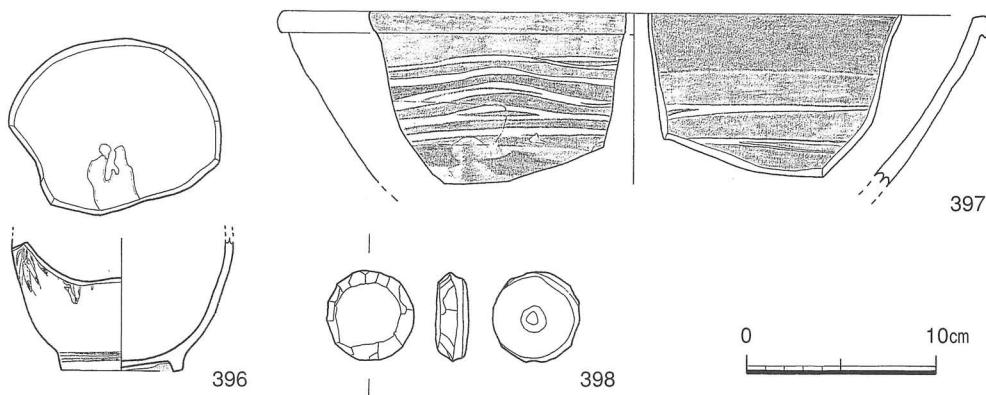
1. 10YR 5/1 褐灰 砂混粘質土

第139図 SD-2010 断面図

### S D-2010

II区の北東部でSK-2010等に切られた状態で検出した東西方向の溝である。検出長約8m、幅約45cm、深さ約20cmを測る。埋土は単層で、断面形態はU字を呈する。出土遺物中で図示できたものは第140図に掲載した。396は肥前系磁器の瓶である。内面は無釉で、見込みには釉のボタ落ちが見られる。外面は竹の染付けと圈線が見られる。高台外面には施釉時の指あとが見られ、高

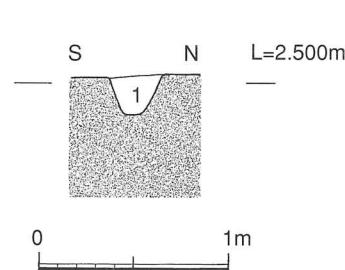
台内に砂粒が付着している。17世紀前半のものである。397は肥前系陶器の鉢で18世紀のものである。398は瀬戸美濃系陶器の碗の高台を転用したメンコである。



第140図 SD-2010 出土遺物実測図

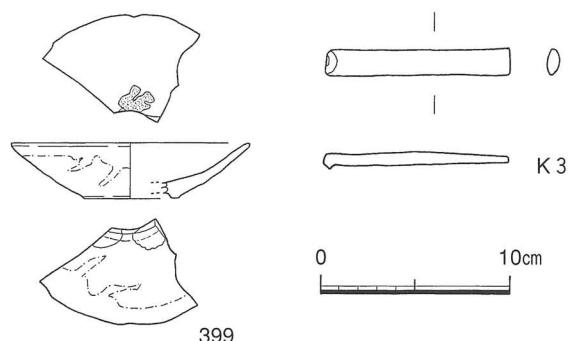
#### SD-2014

II区の南東部でSK-2021等に切られた状態で検出した東西方向の溝である。検出長約5.55m、幅約30cm、深さ約25cmを測る。埋土は単層で、断面形態はU字を呈する。出土遺物中で図示できたものは第142図に掲載した。379は肥前系陶器の皿である。高台無釉とし、砂目が見られることから17世紀前半のものである。K3は棒状の金属製品で、断面が凸レンズ状となっている。小束の柄の部分と考えられる。



1. 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土

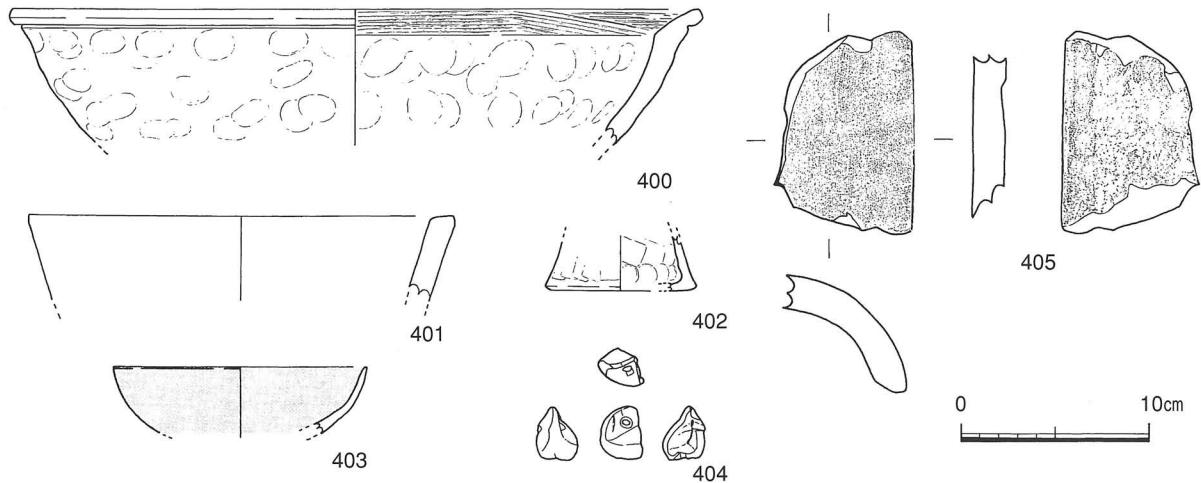
第141図 SD-2014 断面図



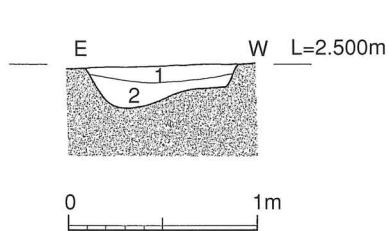
第142図 SD-2014 出土遺物実測図

#### SD-2027

II区の中央で検出した溝である。調査区を2分するように南北方向に流れる溝である。検出長約14.05m、幅約60cm、深さ約30cmを測る。埋土は単層で、断面形態はU字を呈する。出土遺物中で図示できたものは第143図に掲載した。400は土師質の土鍋である。口縁部内面にはヨコハケ、体部内外面には指頭圧が見られる。401・402も土師質土器である。402は筒形の土器で、外面板ナデ、内面板ナデのち指頭圧が見られる。403は肥前系の青磁皿で17世紀前半のものである。404は土師質の土鉢である。上部には紐通し穴があいている。405は丸瓦である。



第143図 SD-2027 出土遺物実測図

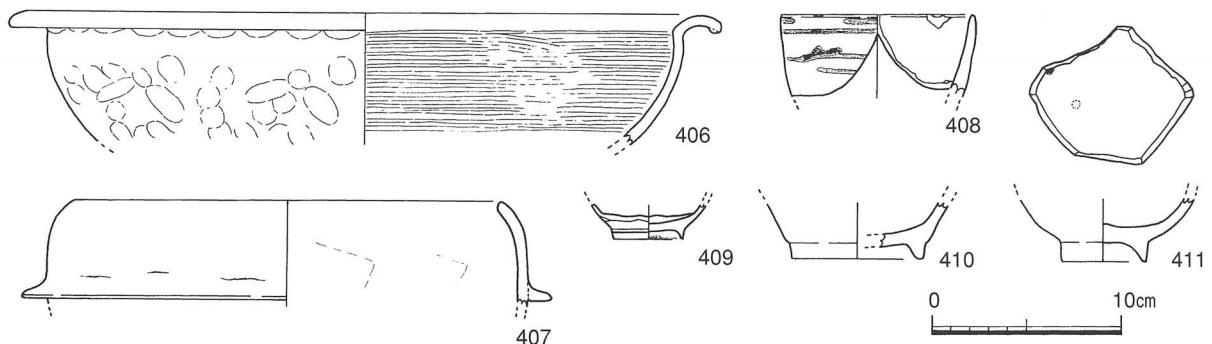


1. 10YR 4/3 にぶい黄褐 砂混粘質土
2. 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土

第144図 SD-2031 断面図

#### SD-2031

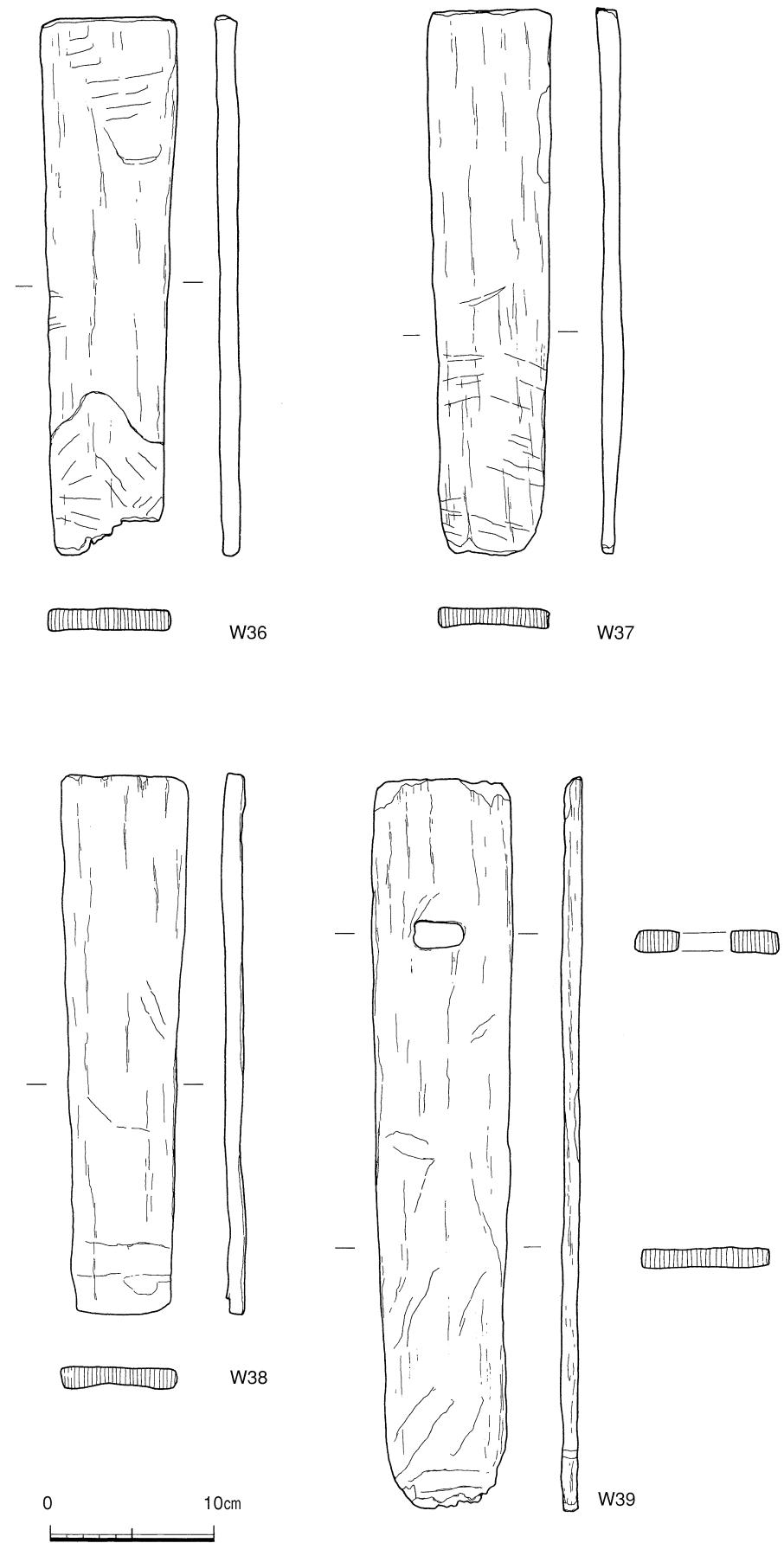
II区の中央南端でSD-2032等に切られた状態で検出した南北方向の溝である。検出長約7.4m、幅約90cm、深さ約20cmを測る。埋土は2層に分層でき、西肩が2段落ちになっている。出土遺物中で図示できたものは第145・146図に掲載した。406は瓦質の焙烙である。外面に指頭圧、内面にはヨコハケが見られる。407は瓦質の羽釜である。408・409は肥前系磁器の碗である。408は粗雑なつくりで、染付けの文様もはっきりしない。17世紀後半～18世紀初頭のものである。410は肥前系磁器の瓶で、2次焼成を受けている。18世紀後半～19世紀初頭のものである。411は肥前系の京焼風陶器である。17世紀末～18世紀前半のものである。W36～W39は桶の部材である。



第145図 SD-2031 出土遺物実測図①

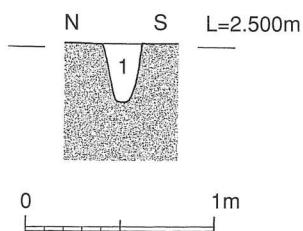
#### SD-2034

II区の南東部で検出した東西方向の溝である。検出長約2.6m、幅約20cm、深さ約30cmを測る。埋土は単層で、断面形態はU字を呈する。出土遺物中で図示できたものは第148図に掲載した。412は肥前系磁器の蓋である。外面青磁釉で、18世紀後半のものである。413は瀬戸美濃系の京焼風陶器で、19世紀



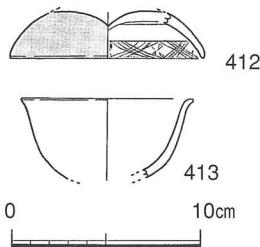
第146図 SD-2031 出土遺物実測図②

のものである。

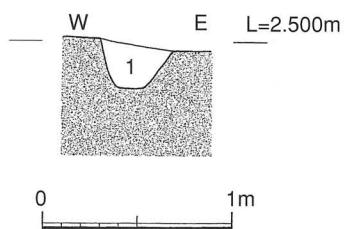


1. 10YR 5/1 褐灰 砂混粘質土

第147図 SD-2034 断面図

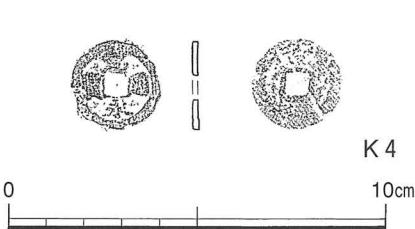


第148図 SD-2034 出土遺物実測図



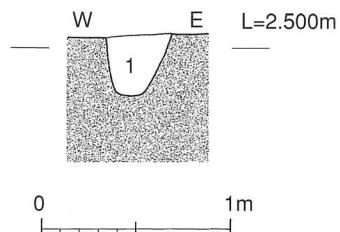
1. 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土

第149図 SD-2040 断面図



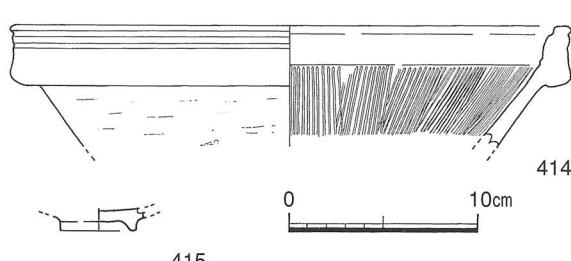
第150図 SD-2040 出土遺物実測図

414は堺焼の擂鉢で、18世紀後半のものである。415は磁器の碗である。



1. 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土

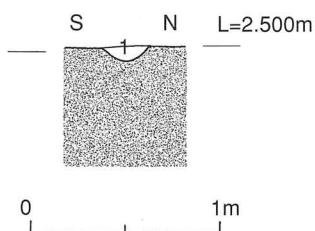
第151図 SD-2042 断面図



第152図 SD-2042 出土遺物実測図

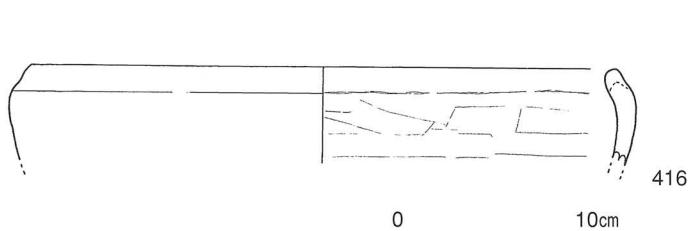
#### S D -2045

II区の西中央部で検出した東西方向の溝である。検出長約5.05m、幅約20cm、深さ約5cmを測る。埋土は単層で、断面形態はU字を呈する。出土遺物中で図示できたものは第154図の土師質土器だけである。



1. 10YR 5/1 褐灰 砂混粘質土

第153図 SD-2045 断面図



第154図 SD-2045 出土遺物実測図

#### S D -2040

II区の北西端で検出した東西方向の溝である。検出長約1.5m、幅約40cm、深さ約25cmを測る。埋土は単層で、断面形態はU字を呈する。出土遺物は第150図の寛永通宝だけである。

#### S D -2042

II区の北西部で検出した南北方向の溝である。検出長約3m、幅約35cm、深さ約25cmを測る。埋土は単層で、断面形態はU字を呈する。出土遺物中で図示できたものは第152図に掲載した。

S P -2057

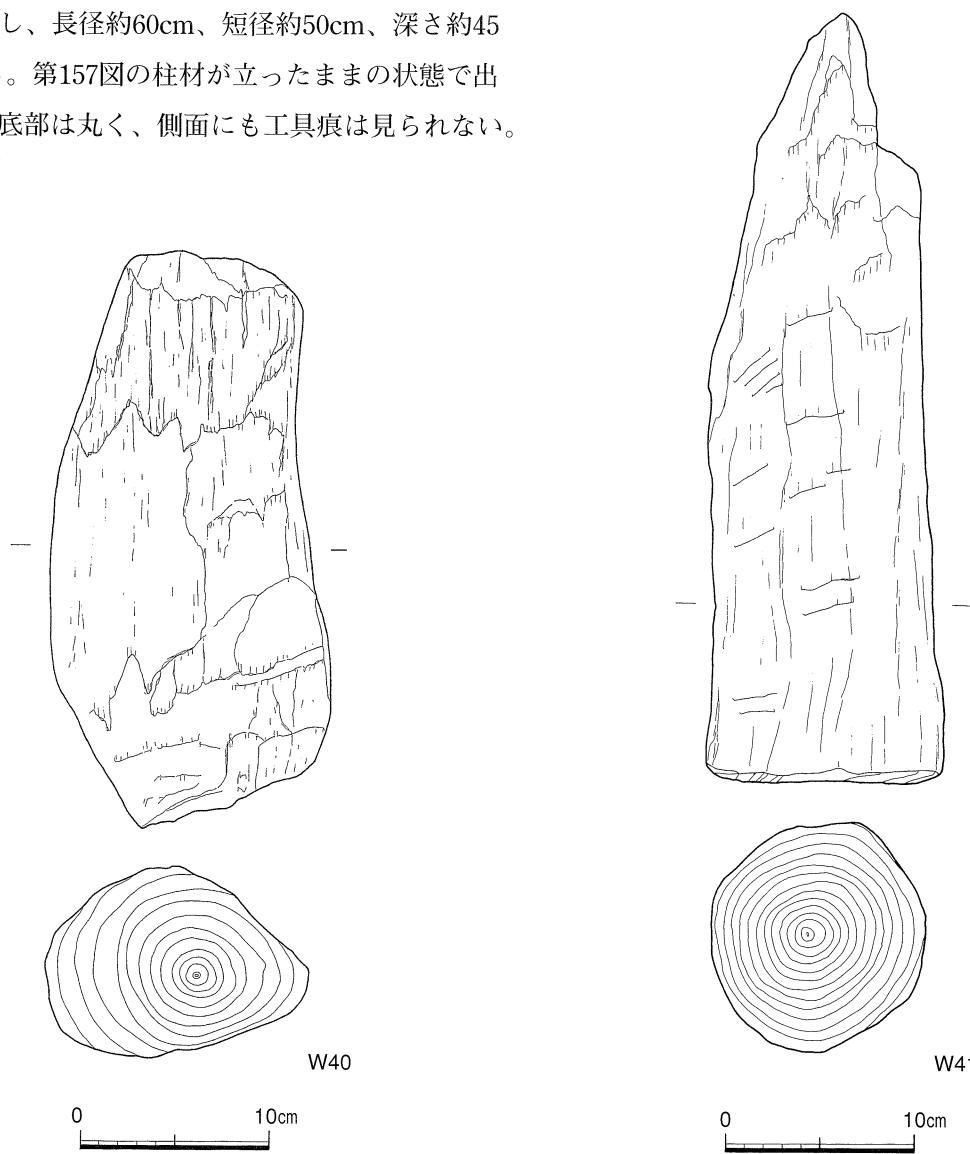
II区中央北部で検出した柱穴である。平面形態は楕円形を呈し、長径約50cm、短径約40cm、深さ約20cmを測る。第155図の柱材が立ったままの状態で出土した。柱材の底部は丸く、柱も曲がっている。このほか埋土中から若干の陶磁器片が出土しているが、詳細な時期は不明である。

S P -2079

II区北東部で検出した柱穴である。平面形態は円形を呈し、径約25cm、深さ約40cmを測る。第156図の柱材が立ったままの状態で出土した。底部は平らで、側面に面取りした痕跡が見られる。

S P -2080

II区北東部で検出した柱穴である。平面形態は楕円形を呈し、長径約60cm、短径約50cm、深さ約45cmを測る。第157図の柱材が立ったままの状態で出土した。底部は丸く、側面にも工具痕は見られない。

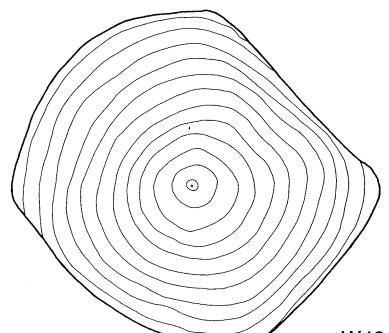
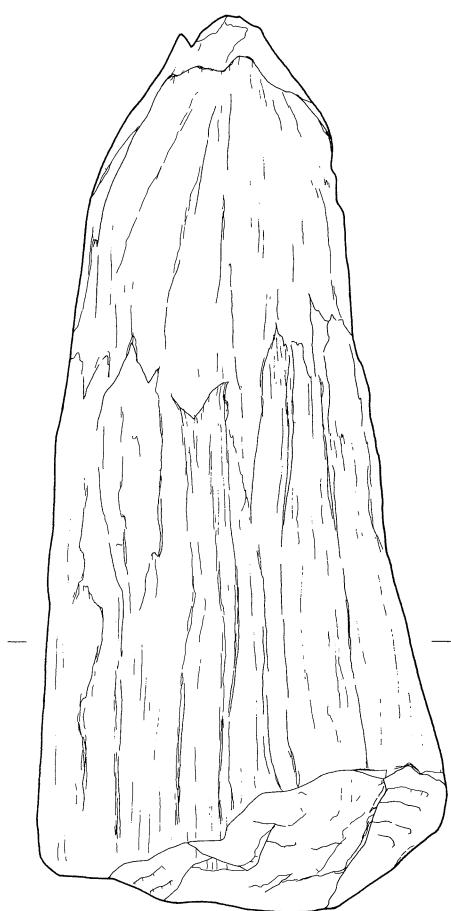


第155図 SP-2057 出土遺物実測図

第156図 SP-2079 出土遺物実測図

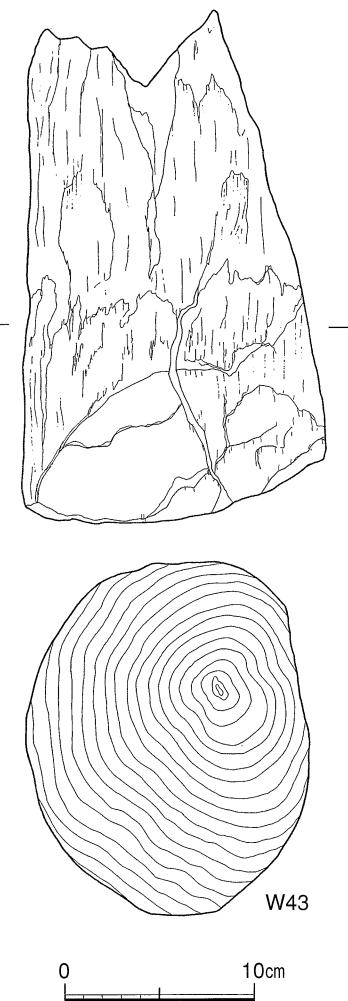
S P -2100

II区北東部で検出した柱穴である。平面形態は楕円形を呈し、長径約35cm、短径約30cm、深さ約20cmを測る。第158図の柱材が立ったままの状態で出土した。底部は丸く、側面にも工具痕は見られない。

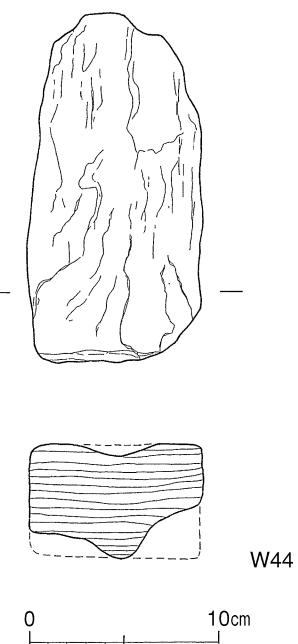


0 10cm

第157図 SP-2080 出土遺物実測図



第158図 SP-2100 出土遺物実測図



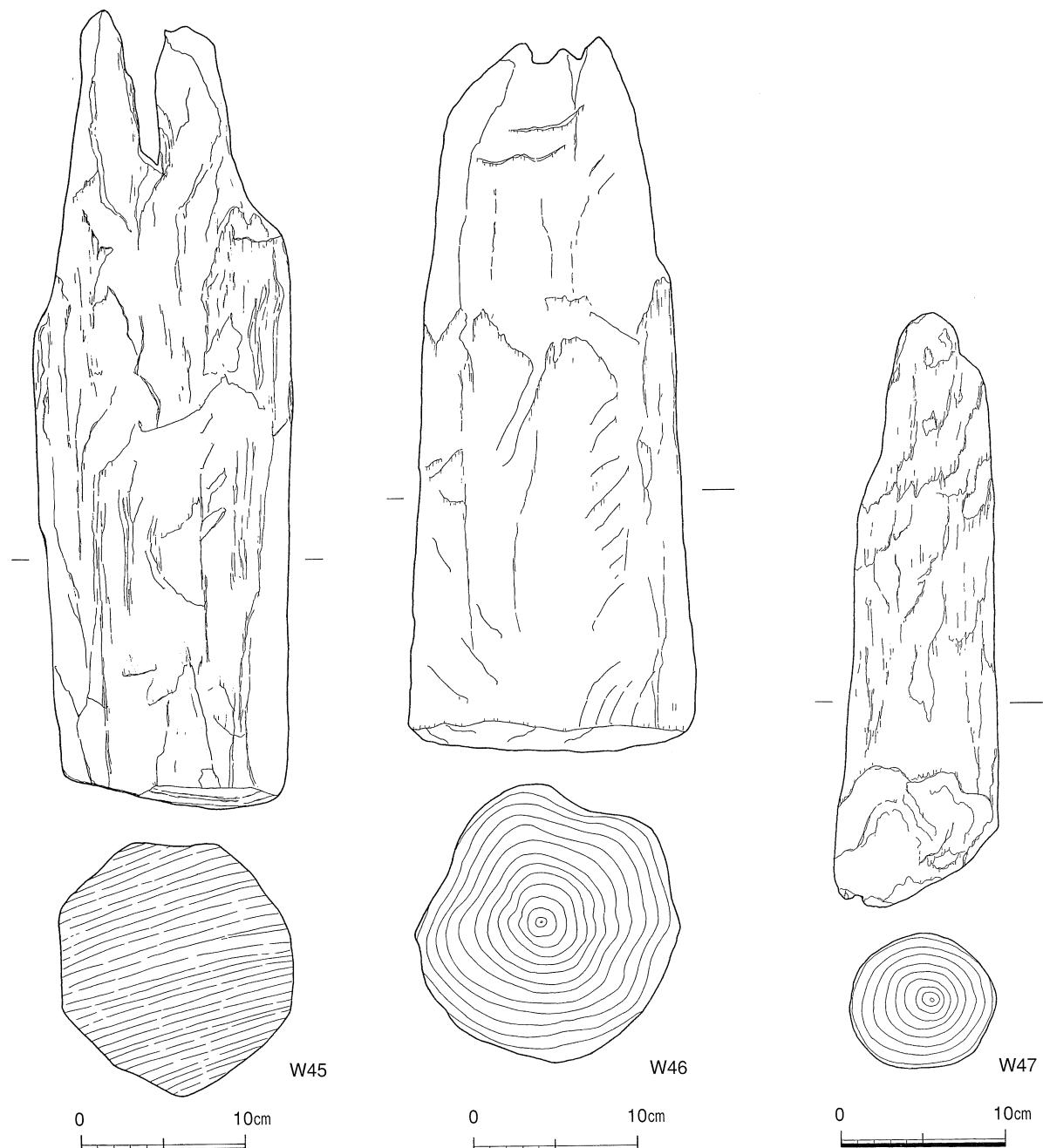
第159図 SP-2133 出土遺物実測図

S P-2133

Ⅱ区中央で検出した柱穴である。平面形態は楕円形を呈し、長径約40cm、短径約30cm、深さ約30cmを測る。第159図の柱材が立ったままの状態で出土した。他の柱材とは異なり、断面が長方形である。

S P-2178

Ⅱ区中央南部で検出した柱穴である。平面形態は円形を呈し、径約30cm、深さ約20cmを測る。第160図の柱材が立ったままの状態で出土した。柱材は断面が八角形になるように面取りされており、底部も平らである。



第160図 SP-2178  
出土遺物実測図

第161図 SP-2185  
出土遺物実測図

第162図 SP-2194  
出土遺物実測図

S P-2185

II区中央南部で検出した柱穴である。平面形態は円形を呈し、径約50cm、深さ約40cmを測る。第161図の柱材が立ったままの状態で出土した。柱材は面取りされており、底部も平らである。遺物も若干出土しているが時期の特定には至らない。

S P-2194

II区中央南部で検出した柱穴である。平面形態は円形を呈し、径約60cm、深さ約30cmを測る。第162図の柱材が立ったままの状態で出土した。他の柱材と比較すると細く、底部は丸く、側面にも工具痕は見られない。

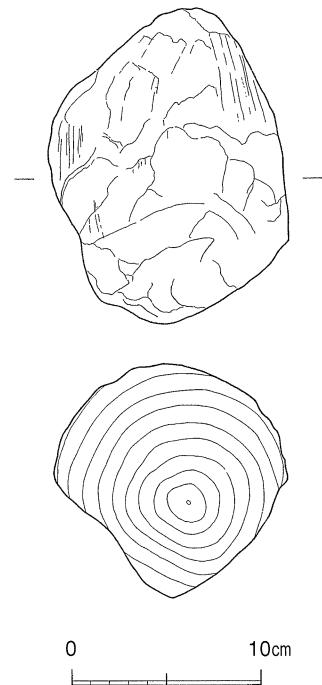


第163図 SP-2200 出土遺物実測図

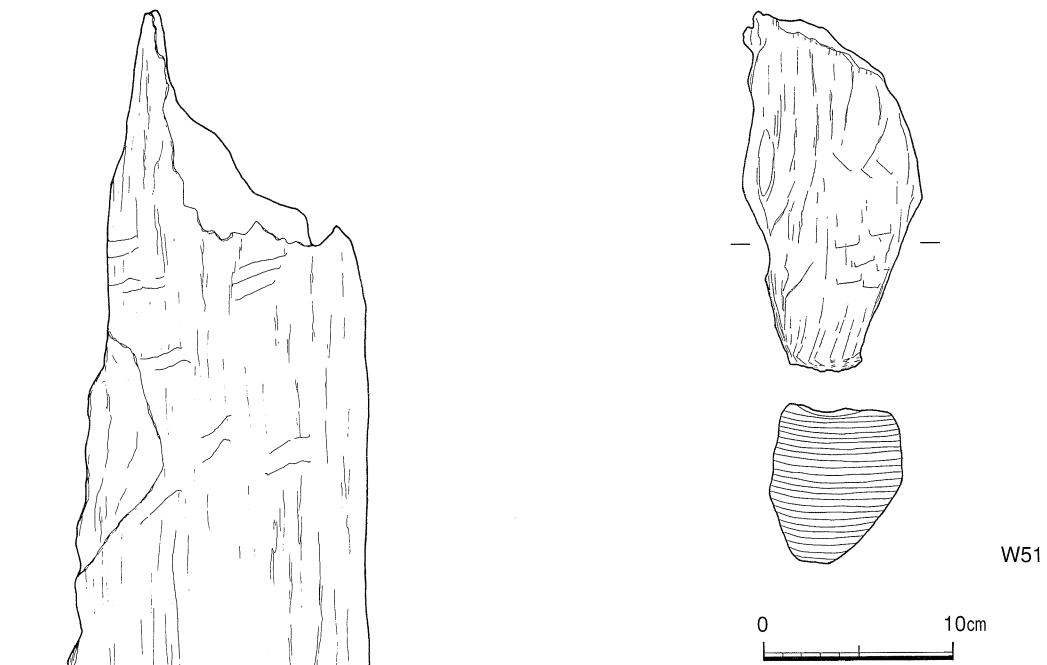
S P-2200

II区中央で検出した柱穴である。平面形態は円形を呈し、径約25cm、深さ約20cmを測る。第163図の柱材が立ったままの状態で出土した。底部は丸く、側面にも工具痕は見られない。

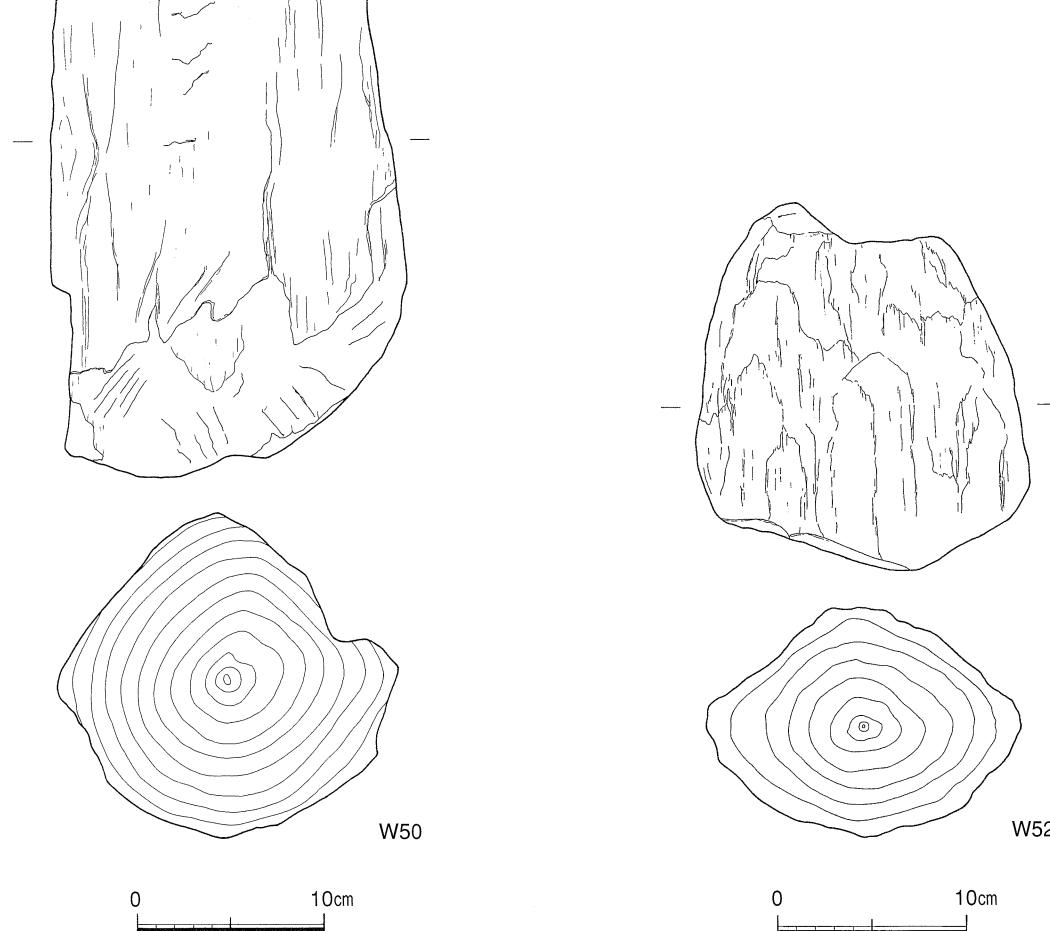
現存部分の上部付近でこぶ上の盛り上がりを見せており、木をほとんど加工せずそのまま柱に利用したことがうかがえる。



第164図 SP-2208 出土遺物実測図

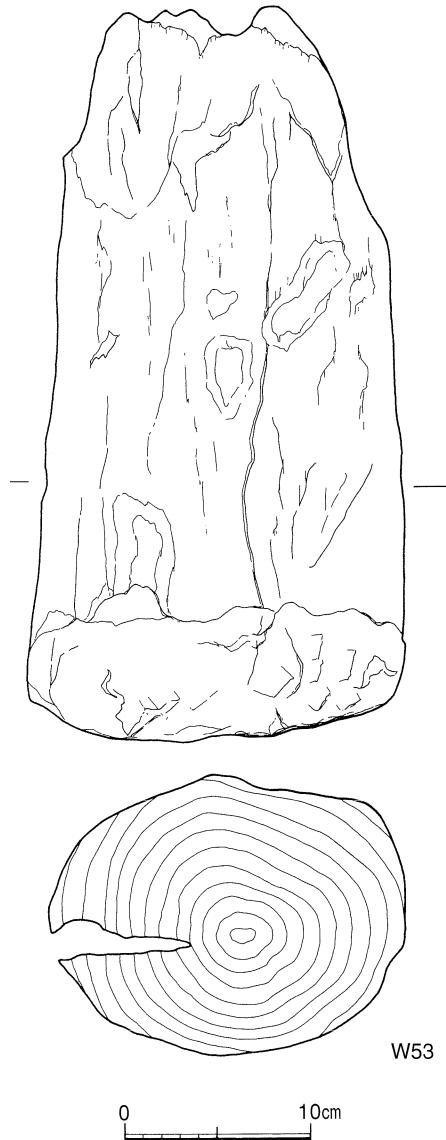


第166図 SP-2307 出土遺物実測図



第165図 SP-2213 出土遺物実測図

第167図 SP-2414 出土遺物実測図



第168図 SP-2530 出土遺物実測図

S P -2208

II区中央南部で検出した柱穴である。平面形態は橢円形を呈し、長径約40cm、短径約30cm、深さ約40cmを測る。第164図の柱材が立ったままの状態で出土した。底部は丸く、側面にも工具痕は見られない。

S P -2213

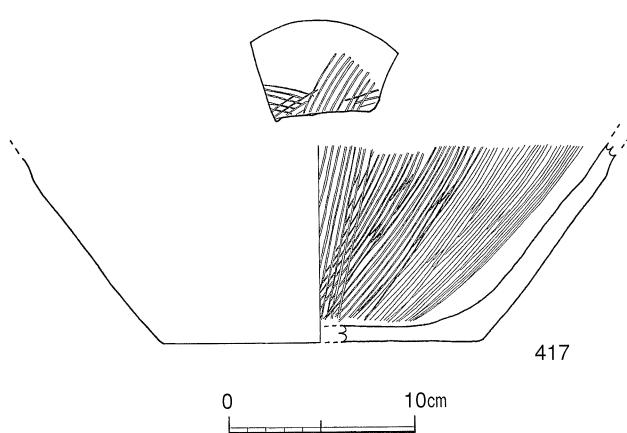
II区中央南部で検出した柱穴である。平面形態は橢円形を呈し、長径約55cm、短径約40cm、深さ約65cmを測る。第165図の柱材が立ったままの状態で出土した。底部は丸いが、側面にも工具痕が見られる。

S P -2307

II区中央で検出した柱穴である。平面形態は橢円形を呈し、長径約70cm、短径約55cm、深さ約20cmを測る。第166図の柱材が立ったままの状態で出土した。他の柱材より細く、底部もややとがっている。

S P -2414

II区中央で検出した柱穴である。平面形態は橢円形を呈し、長径約20cm、短径約40cm、深さ約15cmを測る。第167図の柱材が立ったままの状態で出土した。底部は丸く、側面には工具痕が見られない。他の柱材とは異なり、断面形態は橢円形である。



第169図 SP-2019 出土遺物実測図

S P -2530

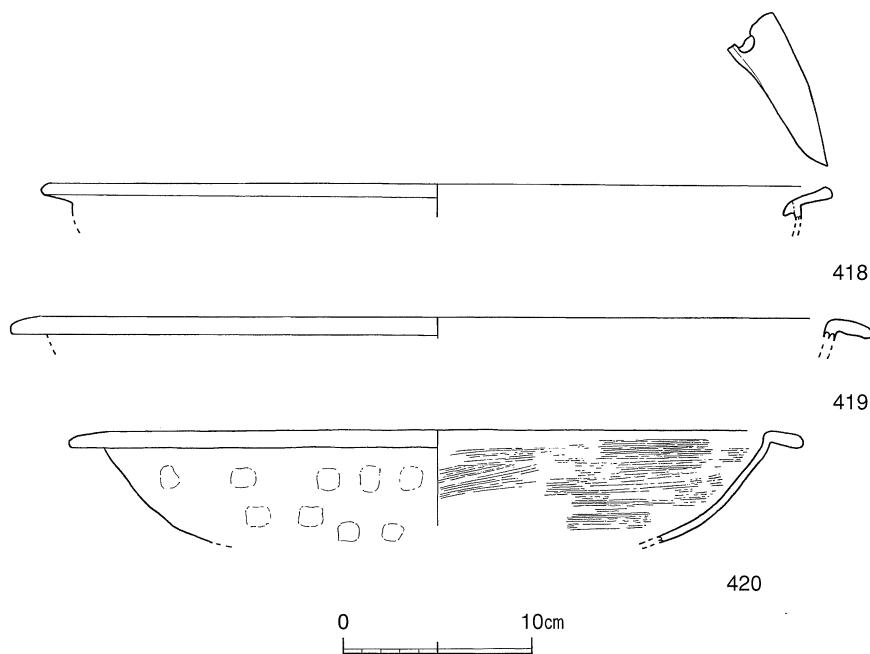
調査区の北西端の側溝掘削時に検出した柱穴である。このため、規模等は不明であるが、側溝の深さおよび柱材の長さから想定できる深さは約40cmである。第168図の柱材が立った状態で出土した。底部は丸く、側面には工具痕が見られない。その出土位置から S B -2001に伴う可能性もある。

S P -2019

II区北東部で検出した柱穴である。平面形態は円形を呈し、径約30cm、深さ約20cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第169図の明石焼の擂鉢だけである。18世紀後半～19世紀のものである。

S P -2046

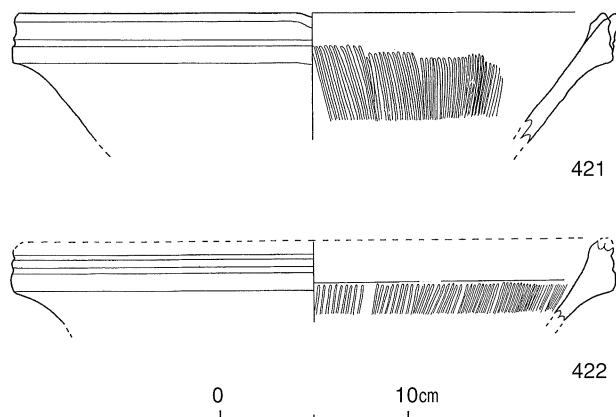
II区中央北部で検出した柱穴である。平面形態は橈円形を呈し、長径約65cm、短径約55cm、深さ約15cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第170図に掲載した。418～420は瓦質の焙烙である。420は外面は指頭圧、内面にヨコハケが見られる。



第170図 SP-2046 出土遺物実測図

S P -2053

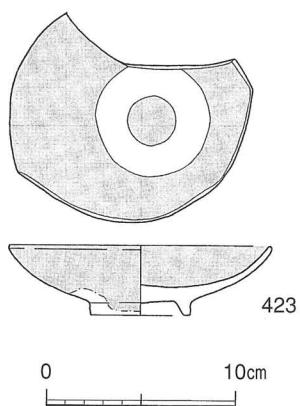
II区中央北部で検出した柱穴である。平面形態は橈円形を呈し、長径約40cm、短径約35cm、深さ約20cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第171図に掲載した。421・422は備前焼の擂鉢である。18世紀前半のものである。



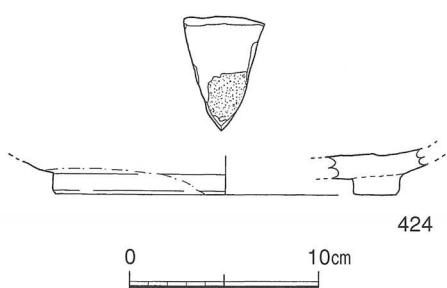
S P -2054

II区北東部で検出した柱穴である。平面形態は橈円形を呈し、長径約55cm、短径約50cm、深さ約20cmを測る。出土遺物中

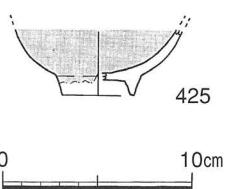
第171図 SP-2053 出土遺物実測図



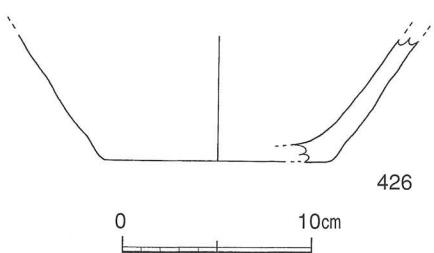
第172図 SP-2054 出土遺物実測図



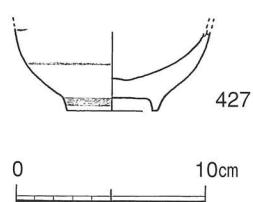
第173図 SP-2067 出土遺物実測図



第174図 SP-2085 出土遺物実測図



第175図 SP-2147 出土遺物実測図



第176図 SP-2157 出土遺物実測図

で図示できたものは第172図の肥前系磁器の皿だけである。高台無釉で、ワラと糊殻の付着痕が見られる。見込みに蛇の目釉ハギが見られ、17世紀中葉のものである。

#### S P - 2067

II区北東部で検出した柱穴である。平面形態は隅丸方形を呈し、長辺約55cm、短辺約50cm、深さ約20cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第173図の瀬戸美濃系陶器の鉢である。高台無釉で、見込みに砂目が見られる。18世紀後半～19世紀のものである。

#### S P - 2085

II区北東部で検出した柱穴である。平面形態は楕円形を呈し、長辺約80cm、短辺約60cm、深さ約25cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第174図の肥前系の青磁碗だけである。高台無釉で、17世紀前半のものである。

#### S P - 2147

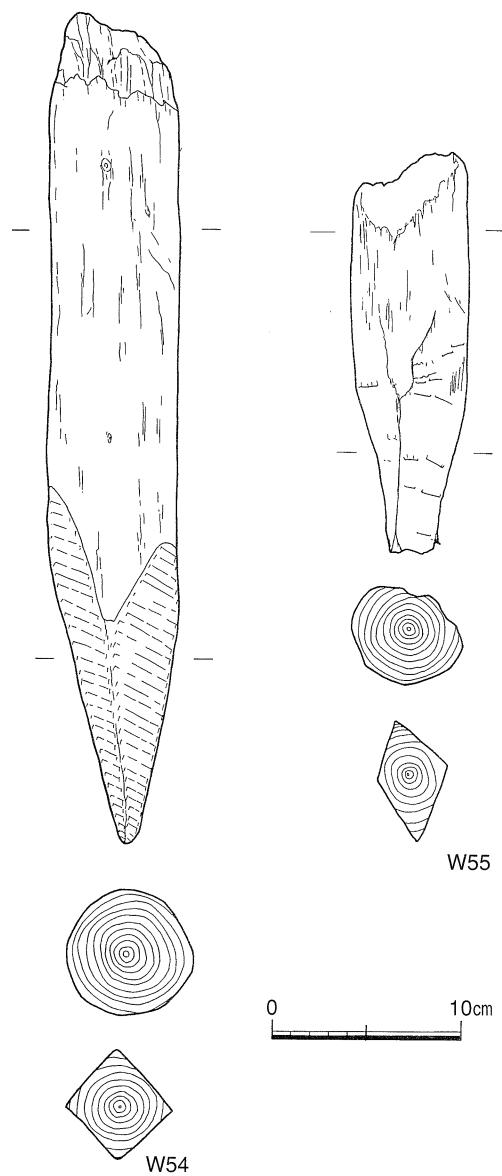
II区中央南部で検出した柱穴である。平面形態は楕円形を呈し、長辺約40cm、短辺約30cm、深さ約25cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第175図の陶器の鉢だけである。

#### S P - 2157

II区中央部で検出した柱穴である。平面形態は円形を呈し、径約40cm、深さ約25cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第176図の肥前系の瓶だけである。内面無釉、外面に圈線が見られる。17世紀後半～18世紀前半のものである。

#### S P - 2176

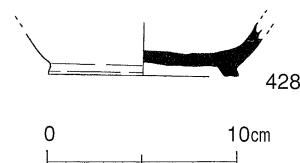
II区中央南部で検出した柱穴である。平面形態は楕円形を呈し、長辺約30cm、短辺約25cm、深さ約15cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第177図に掲載した。W54・W55は杭である。両方とも丸太杭で先を加工しただけのものであるが、W54は鋸できれいに整形されている。



第177図 SP-2176 出土遺物実測図

### S P -2231

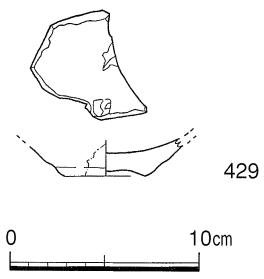
II区中央北部で検出した柱穴である。平面形態は楕円形を呈し、長径約65cm、短径約55cm、深さ約40cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第178図の須恵器の杯だけである。混入品と思われる。



第178図 SP-2231 出土遺物実測図

### S P -2237

II区北東部で検出した柱穴である。平面形態は円形を呈し、径約40cm、深さ約10cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第179図の肥前系陶器の皿だけである。高台無釉で、胎土目が見られることから17世紀初頭のものである。



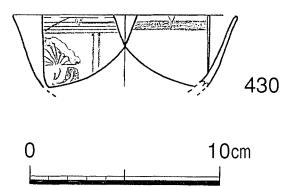
第179図 SP-2237 出土遺物実測図

### S P -2247

II区中央部で検出した柱穴である。平面形態は隅丸方形を呈し、長辺約40cm、短辺約35cm、深さ約20cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第180図の肥前系磁器の碗だけである。19世紀前半のものである。

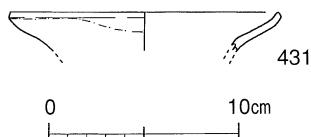
### S P -2248

II区中央北部で検出した柱穴である。平面形態は隅丸方形を呈し、長辺約60cm、短辺約55cm、深さ約30cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第181図の肥前系陶器の皿だけである。外面無釉で、17世紀前半のものである。



第180図 SP-2247 出土遺物実測図

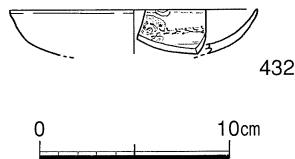
### SP-2272



第181図 SP-2248 出土遺物実測図

II区中央南部で検出した柱穴である。平面形態は楕円形を呈し、長径約55cm、短径約40cm、深さ約25cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第182図の肥前系磁器の皿だけである。17世紀前半のものである。

### SP-2273



第182図 SP-2272 出土遺物実測図

II区中央南部で検出した柱穴である。平面形態は隅丸方形を呈し、長辺約35cm、短辺約30cm、深さ約10cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第183図の肥前系磁器の盃だけである。17世紀前半のものである。

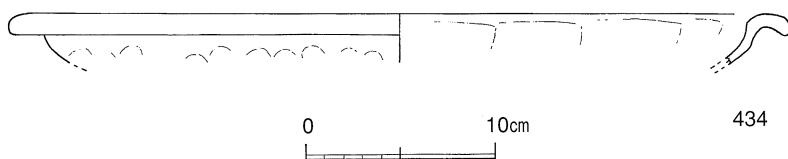
### SP-2274



第183図 SP-2273 出土遺物実測図

II区北東部で検出した柱穴である。平面形態は円形を呈し、径約30cm、深さ約25cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第184図の瓦質の焰焰だけである。外面指頭圧、内面板ナデが見られる。

### SP-2277

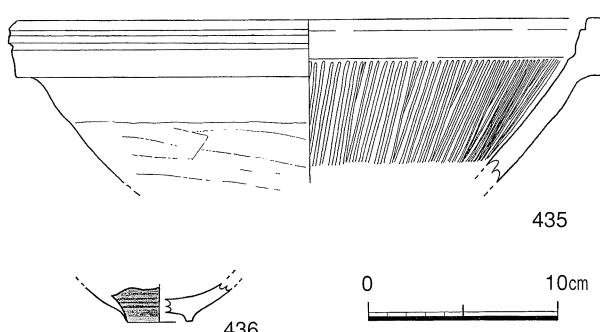


第184図 SP-2274 出土遺物実測図

II区中央南部で検出した柱穴である。平面形態は隅丸方形を呈し、一辺約30cm、深さ約40cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第185図に掲載した。435は堺焼の播鉢で、外面に回転ヘラケズリが見られる。18世紀後半のものである。

436は瀬戸美濃系陶器の碗である。外面鉄釉、内面透明釉を施釉するもので、18世紀のものである。

### SP-2280

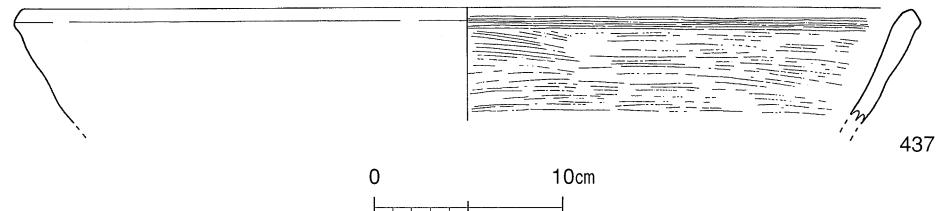


第185図 SP-2277 出土遺物実測図

II区中央南部で検出した柱穴である。平面形態は楕円形を呈し、長径約90cm、短径約80cm、深さ約25cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第186図の土師質の土鍋だけである。口縁部内面にヨコハケが見られる。

S P-2284

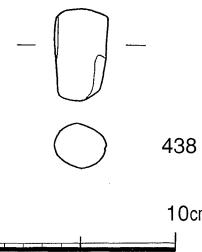
II区中央部で検出した柱穴である。平面形態は隅丸方形を呈し、長辺約50cm、短辺約45cm、深さ約20cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第187図の土師質土鍋の脚部だけである。



第186図 SP-2280 出土遺物実測図

S P-2291

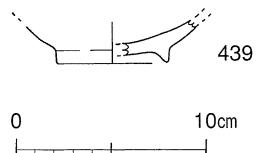
II区中央南部で検出した柱穴である。平面形態は隅丸方形を呈し、長辺約45cm、短辺約30cm、深さ約40cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第182図の肥前系磁器の碗だけである。



第187図 SP-2284 出土遺物実測図

S P-2308

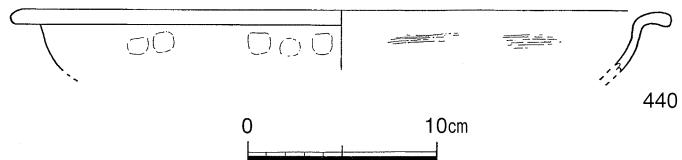
II区北西部で検出した柱穴である。平面形態は橢円形を呈し、長辺約80cm、短辺約50cm、深さ約40cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第189図の瓦質の焙烙だけである。外面に指頭圧、内面にヨコハケが見られる。



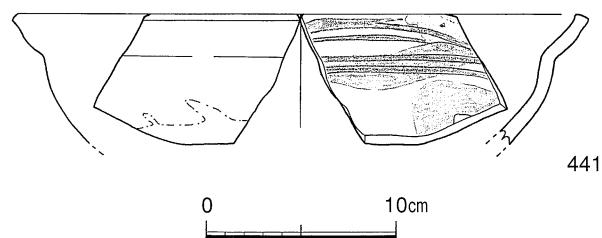
第188図 SP-2291 出土遺物実測図

S P-2319

II区北西部で検出した柱穴である。平面形態は隅丸方形を呈し、長辺約45cm、短辺約40cm、深さ約30cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第190図の肥前系陶器の鉢である。丸みをおびた体部から外方向に屈曲し内弯する口縁部をもつ。外面下半は無釉である。内面の文様は鉄釉と緑釉によるもので、二彩唐津である。17世紀後半のものである。



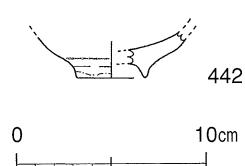
第189図 SP-2308 出土遺物実測図



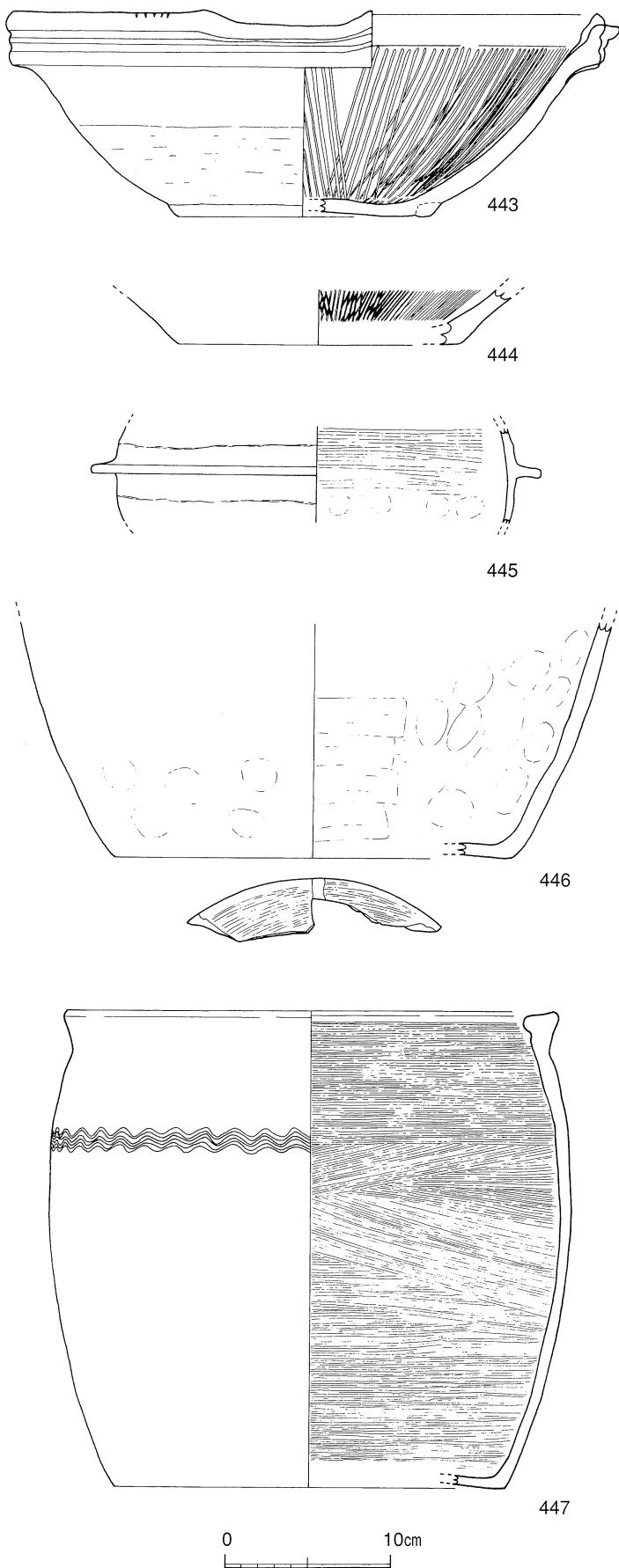
第190図 SP-2319 出土遺物実測図

S P-2320

II区北西部で検出した柱穴である。平面形態は隅丸方形を呈し、長辺約45cm、短辺約40cm、深さ約40cmを



第191図 SP-2320 出土遺物実測図



第192図 SP-2322 出土遺物実測図

測る。出土遺物中で図示できたものは第191図の肥前系磁器の碗である。外面に圈線が見られ、高台置付は無釉である。17世紀後半～18世紀前半のものである。

#### S P - 2322

II区北西部で検出した柱穴である。平面形態は楕円形を呈し、長径約90cm、短径約60cm、深さ約40cmを測る。コントナ1箱分の遺物が出土しており、図示できたものは第192図に掲載した。443・444は備前焼の擂鉢である。443の底面には退化した貼付け高台が見られる。外面下半は回転ヘラケズリが見られ、口縁部の1ヶ所に擂目原体による圧痕が見られる。445は瓦質の羽釜である。内面上半にヨコナデ、下半に指頭圧が見られる。446は土師質の甕である。外面指頭圧、内面板ナデのち指頭圧、底面にはハケが見られる。447は土師質の火鉢である。外面にナデ、内面前方にヨコハケが見られる。体部外面には波状文も見られる。

遺物の出土状況であるが、447の火鉢が直立した状態で、その上部に443および445の擂鉢を重ねた状態で検出した。意図的な埋納行為としてとらえることができ、地鎮的な遺構と考えられる。

#### S P - 2347

II区南西部で検出した柱穴である。平面形態は円形を呈し、径約45cm、深さ約20cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第193図の板材だけである。板材の端の2箇所に釘穴と思われる小穴が見られる。

### SP-2385

II区南西部で検出した柱穴である。平面形態は隅丸方形を呈し、長辺約80cm、短辺約65cm、深さ約10cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第194図の肥前系陶器の皿だけである。体部中央付近に沈線状のくぼみが1条見られる。高台無釉で胎土目が見られることから、17世紀初頭のものである。

### SP-2392

II区南西部で検出した柱穴である。平面形態は楕円形を呈し、長径約60cm、短径約50cm、深さ約40cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第195図の肥前系陶器の皿だけである。17世紀前半のものである。

### SP-2442

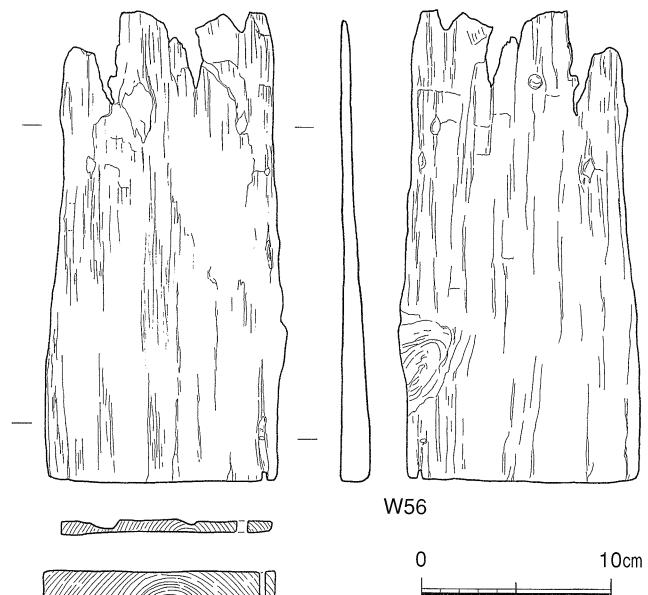
II区北西部で検出した柱穴である。平面形態は楕円形を呈し、長径約70cm、短径約55cm、深さ約20cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第196図の肥前系の青磁皿だけである。17世紀前半のものである。

### SP-2446

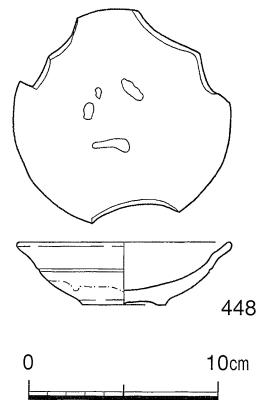
II区北西部で検出した柱穴である。平面形態は円形を呈し、径約25cm、深さ約30cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第197図の瀬戸美濃系磁器の碗だけである。外面に草花文が見られ、19世紀後半のものである。

### SP-2526

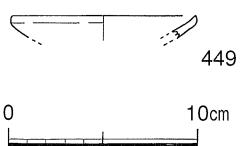
II区北西部で検出した柱穴である。平面形態は隅丸方形を呈し、長辺約50cm、短辺約40cm、深さ約30cmを測る。出土遺物中で図示できたものは第198図の肥前系の京焼風陶器碗だけである。18世紀のものである。



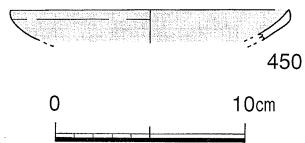
第193図 SP-2347 出土遺物実測図



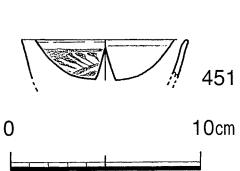
第194図 SP-2385 出土遺物実測図



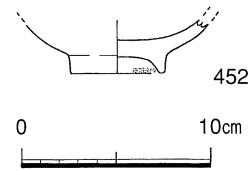
第195図 SP-2392 出土遺物実測図



第196図 SP-2442 出土遺物実測図



第197図 SP-2446 出土遺物実測図



第198図 SP-2526 出土遺物実測図

## 第4節 III区の調査成果

III区は調査地の北東に位置し、長方形の調査区である。調査面積はI～IV区の中で最も狭い。現状は宅地であったため、花崗土の盛土が見られ、掘削深度は深かったが、基本層序は他の調査区と変わらない。土坑6基、溝7条、柱穴42基を検出した。調査区が狭く全体像は不明であるが、調査区外にのび掘立柱建物を構成すると考えられる柵列を検出している。またその建物をL字に囲む溝も見られることからある程度有力な農民の屋敷跡と考えられる。遺物は全体に少なく、コンテナ1箱分しか出土していない。概ね17世紀～18世紀前半のものが中心である。

### S A -3001

III区の西端で検出した6基の柱穴からなる柵列である。北3基分は側溝掘削中に検出したもので、調査区西側断面より復元した。南北約7mを測り、柱間は約1.3～1.7mで、平均は1.5mである。南端の柱穴の底面には拳大ながらも石が2点見られた。方位はほぼ南北方向である。西側が調査区外になるため不明であるが、掘立柱建物の一部であると思われる。遺物は出土しておらず、詳細な時期は不明であるが、S A -3002を構成する柱穴に切られていることから時期的には先行すると考えられる。

### S A -3002

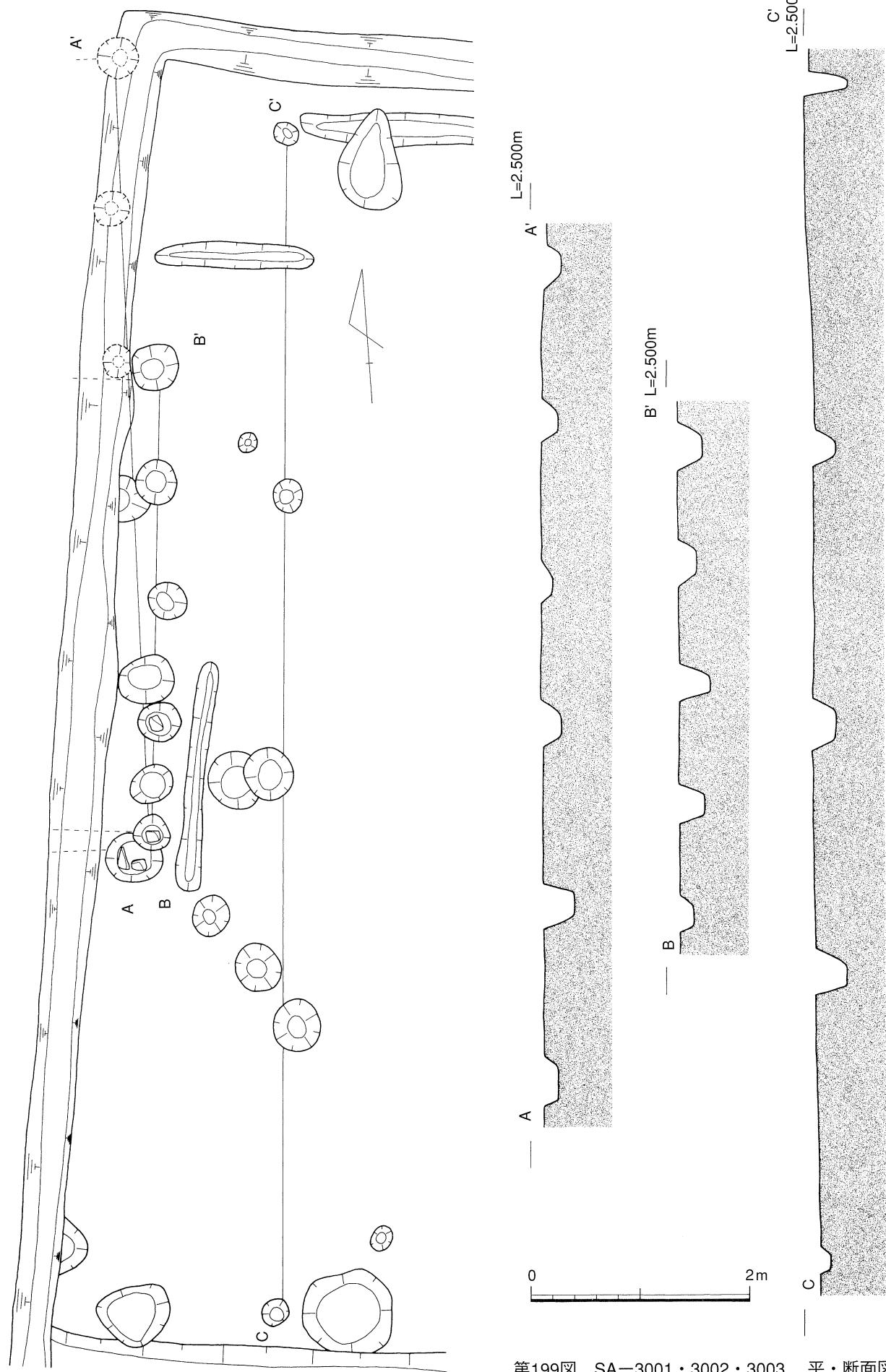
III区の西端で検出した5基の柱穴からなる柵列である。S A -3001を切った状態で検出した。南北約4.4mを測り、柱間はほぼ1.1mでばらつきがない。南側2つの柱穴、S P -3010・3011には柱材が立ったままの状態で出土した。第200・201図に掲載した。柱材は底部が丸く、側面にも工具の痕跡は見られず丸太のままである。西側が調査区外になるため不明であるが、掘立柱建物の一部であると思われる。遺物は出土していないため詳細な時期は不明であるが、建物の方位はN-5°～Eで、後述するS A -3003およびS D -3002と同じ方位をとることから、これらと同一時期のものと考えられる。

### S A -3003

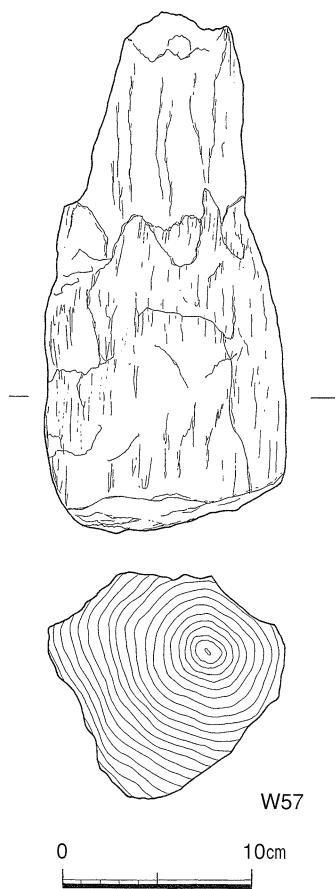
III区の西端で検出した5基の柱穴からなる柵列である。南北約10.8mを測り、柱間は約2.3～3.3mで、平均は2.7mである。柵列を囲むS D -3002の東側の流路からの距離は6.4mで、柱間の2倍の距離である。柵列を構成する柱穴の大きさもばらつきが目立つ。遺物は出土していないため詳細な時期は不明であるが、柵列の方位はN-5°～Eで、S A -3002およびS D -3002と同じ方位をとることから、これらと同一時期のものと考えられる。

### S K -3005

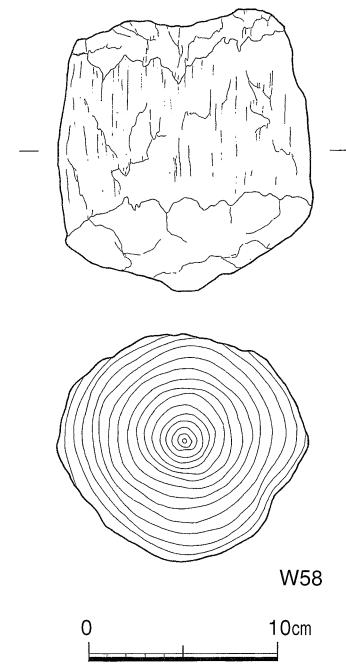
III区の南東端でS D -3003を切った状態で検出した土坑である。遺構は調査区外にのびており、平面形態は不明であるが、東西径約1.9m、深さ約30cmを測る。埋土は単層で断面形態は逆台形である。遺物は出土していないため時期は不明であるが、切り合い関係から幕末以降のものと思われる。



第199図 SA-3001・3002・3003 平・断面図



第200図 SP-3010 出土遺物実測図



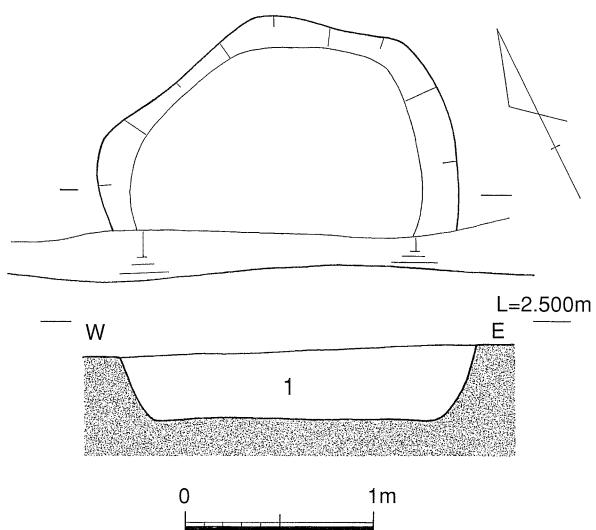
第201図 SP-3011 出土遺物実測図

### S D-3001

調査区の東端で検出した南北方向の溝である。S D-3002と平行しており、検出長約9.6m、幅約20cm、深さ約5cmを測る。埋土は单層で、断面形態は半円形である。同規模で平行する溝にS D-3006、直行する溝にS D-3004・3005がある。いずれの溝からも遺物は出土していないため、時期は不明である。

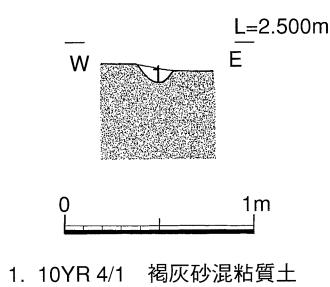
### S D-3002

調査区の東から南にかけてL字に屈曲する溝である。S A-3001～3003を囲むような溝で、屋敷を巡る溝であったと考えられる。南東端を内側にくぼませてい

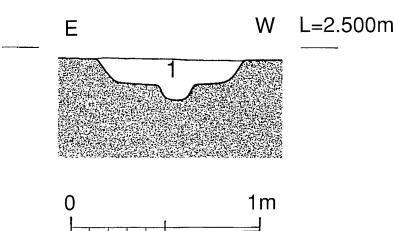
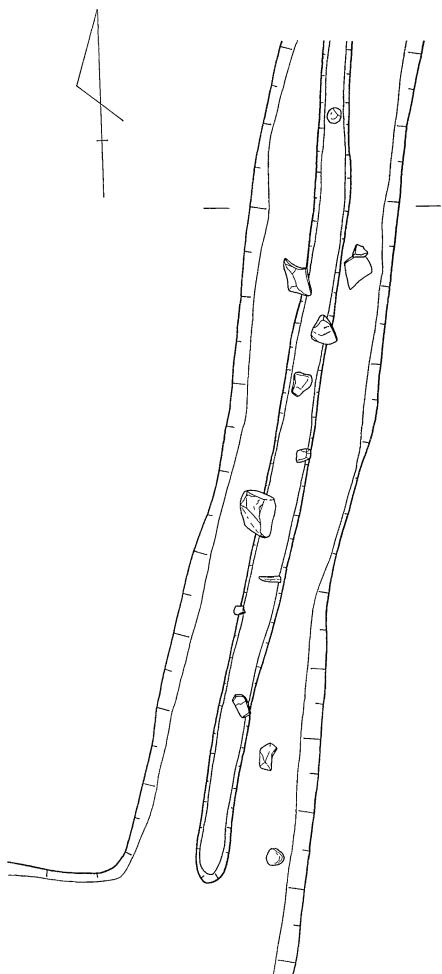


1. 10YR 5/1 褐灰 細砂～粗砂

第202図 SK-3005 平・断面図



第203図 SD-3001 断面図



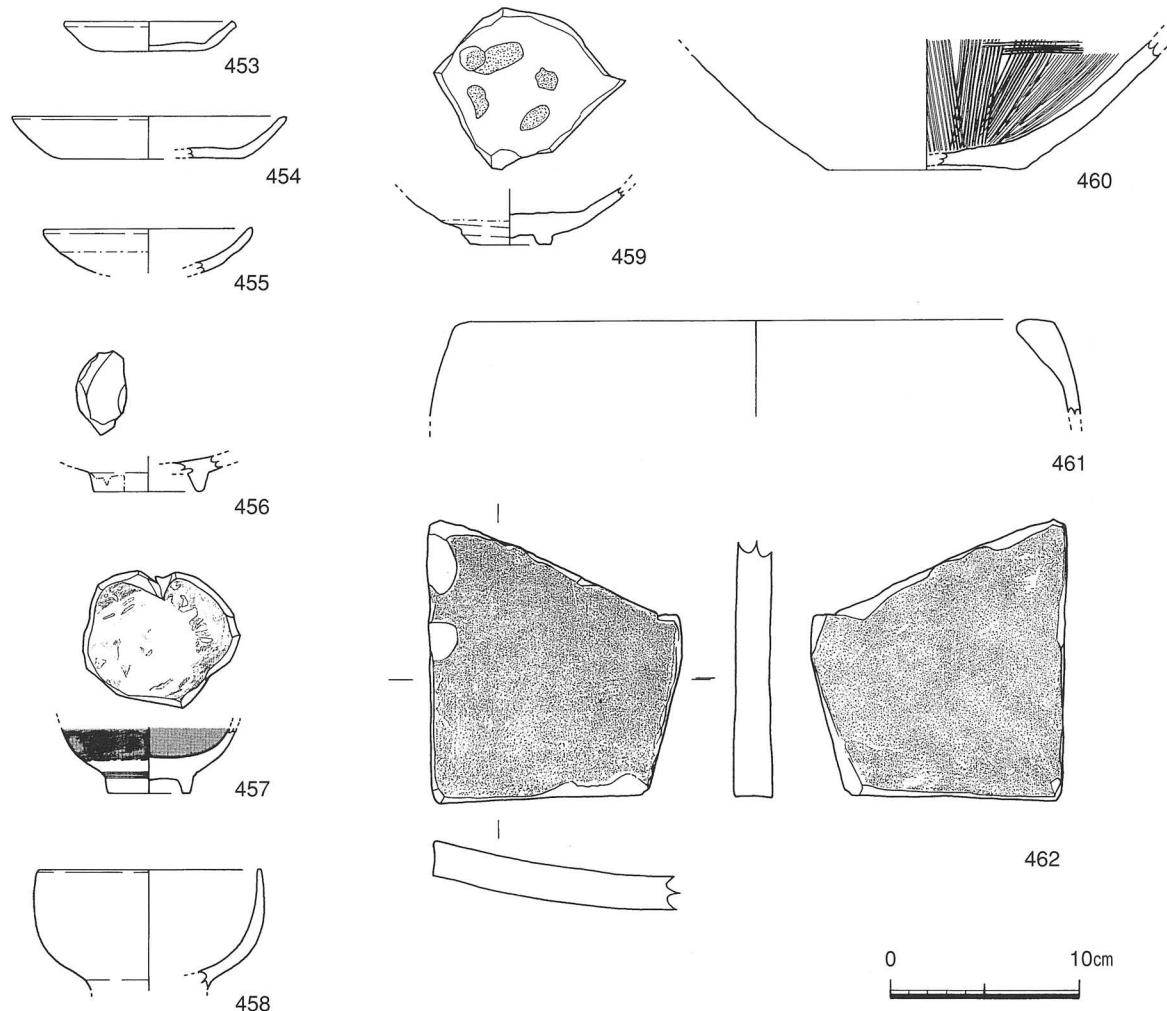
第204図 SD-3002 平・断面図

る。検出長約20m、幅約80cm、深さ約20cmを測る。東側の流路には溝の中央は溝状に1段下がっている。埋土は単層である。出土遺物中で図示できたものは第205図に掲載した。453・454は土師器の小皿である。455は肥前系陶器の皿である。高台無釉で、17世紀前半のものである。456は肥前系陶器の皿である。高台無釉で砂目が見られることから、17世紀前半のものである。457は肥前系磁器の碗である。見込みに蛇の目釉ハギが見られることから17世紀中葉のものである。458は肥前系陶器の碗で、17世紀のものである。459は肥前系の京焼風陶器の碗で18世紀前半のものである。460は備前焼の擂鉢である。横方向の擂目も見られる。461は土師質の羽釜である。462は平瓦である。

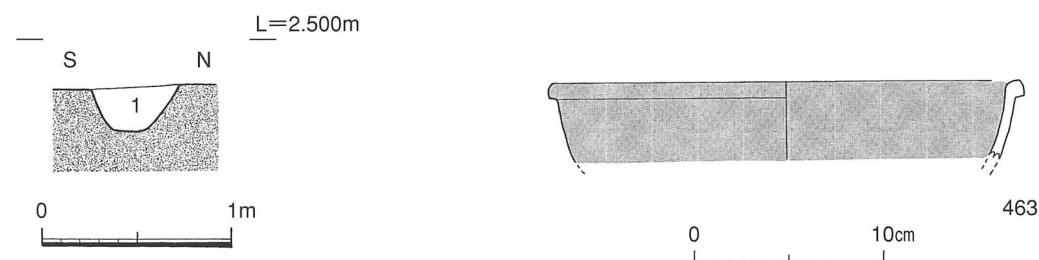
遺構の時期は概ね17世紀～18世紀前半で、埋没は18世紀前半と考えられる。このため、同一方位をもつS A-3002・3003頭もこの時期のものと考えられる。

#### SD-3003

調査区の南端でSD-3002を切った状態で検出した東西方向の溝である。他の溝状遺構とは異なり、蛇行している。検出長約9.2m、幅約1m、深さ約30cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形を呈する。出土遺物中で図示できたものは第207図の陶器の鉢だけである。内外面とも鉄釉を施釉している。

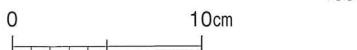


第205図 SD-3002 出土遺物実測図



第206図 SD-3003 断面図

第207図 SD-3003 出土遺物実測図

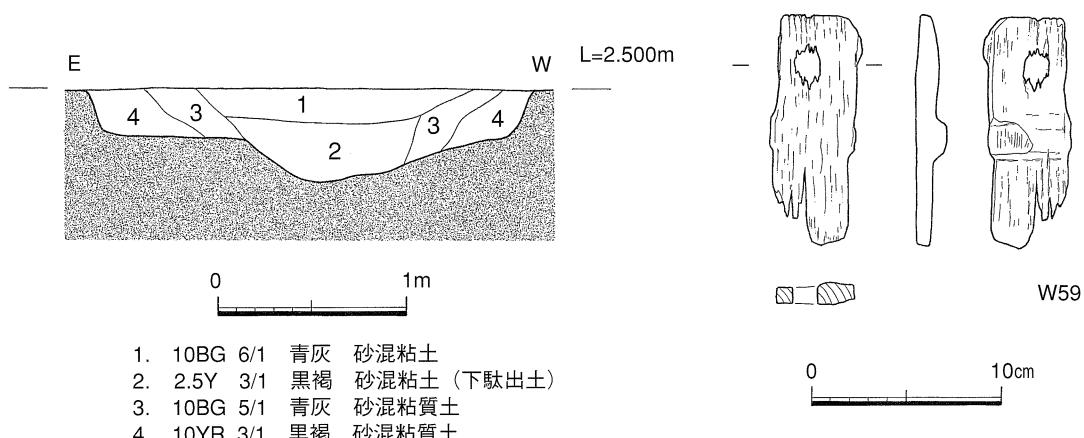


## 第5節 IV区の調査成果

IV区は調査区の東端に位置し、南北に長い調査区である。検出遺構は自然河道1条、土坑13基、溝12条、埋甕2基、柱穴11基である。遺構数に比べると出土遺物は多く、コンテナ10箱分の陶磁器片等が出土した。自然河道は切り合い関係から先行すると考えられるが、その他の遺構は概ね近代以降の遺構と考えられる。

### NR-4001

IV区の東端を南から北に流れる自然河道である。検出長約9.5m、幅約2.1m、深さ約50cmを測る。埋土は4層に分層できる。第1層は青灰色砂混粘土、第2層は黒褐色砂混粘土、第3層は青灰色砂混粘質土、第4層は黒褐色砂混粘質土である。埋土の状況から、第3・4層の埋没後、川幅を狭めて流れていった部分に第1・2層が埋没したと考えられる。第2層の下層で第209図の下駄が出土しただけで、詳細な遺構の時期は不明である。遺構の切り合いから明治以前と考えられる。



第208図 NR-4001 断面図

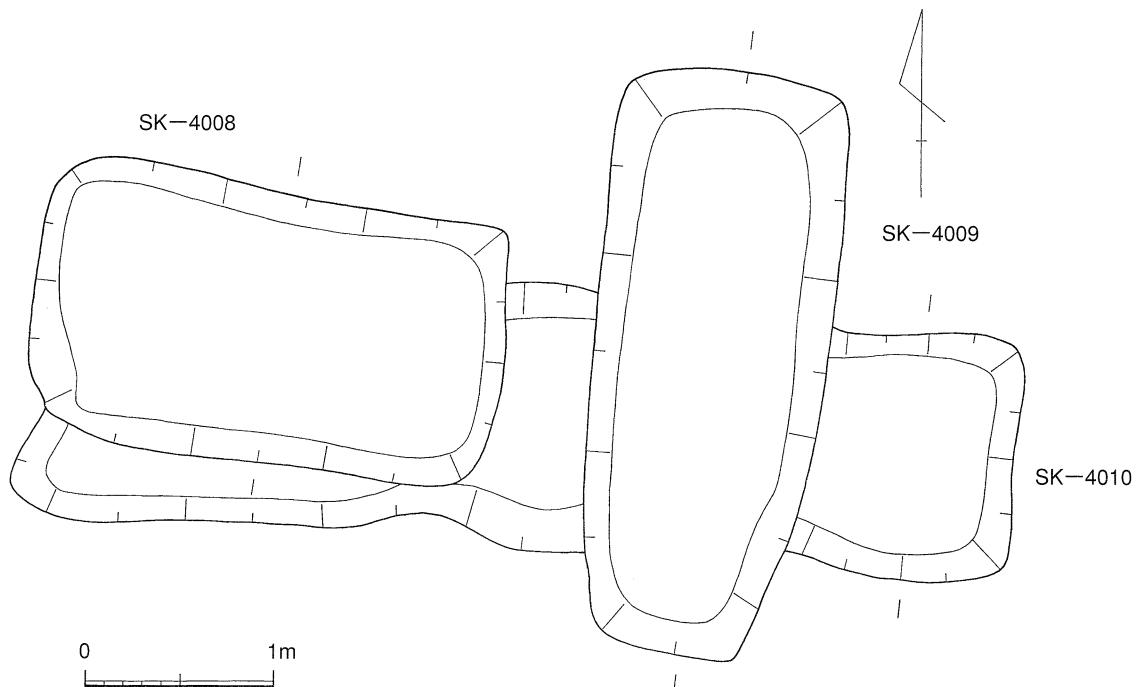
第209図 NR-4001 出土遺物実測図

### SK-4008

IV区の南西部でSK-4010を直行する方向で切った状態で検出した土坑である。平面形態は長方形を呈し、長辺約2.5m、短辺約1.4m、深さ約15cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。出土遺物はなく、詳細な時期は不明であるが、切り合い関係から明治以降の遺構と考えられる。

### SK-4009

IV区の南西部でSK-4010を直行する方向で切った状態で検出した土坑である。平面形態は長方形を呈し、長辺約3.1m、短辺約1.05m、深さ約20cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。コンテナ2箱あまりの遺物が出土しており、出土遺物中で図示できたものは第213図に掲載した。464は瀬戸美濃系磁器の碗である。外面の染付は銅版転写によることから明治末～大正のものである。465は肥前系磁器の碗である。466は瀬戸美濃系磁器の色絵の鉢である。大正～昭和初期のものである。467は瀬戸



第210図 SK-4008・4009・4010 平面図

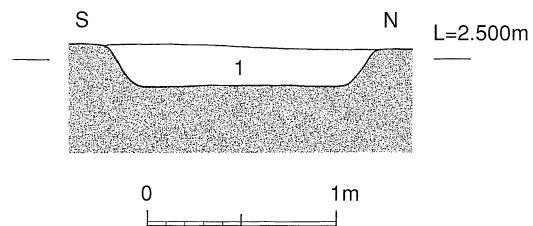
戸美濃系磁器の皿である。内面の牡丹の染付は銅版転写であることから明治末～大正のものである。468はニッキ水の瓶である。正面に「商標登録」「取替無用」の文字、日の丸の入った扇が陽刻されている。また、背面には「三好商会」と販売元の店名も陽刻されている。地元の人の話によると昭和初期に販売されていたものである。469は丸瓦、470は平瓦である。

比較的古い遺物も出土しているが遺構の時期は昭和初期と考えられる。

SK-4010

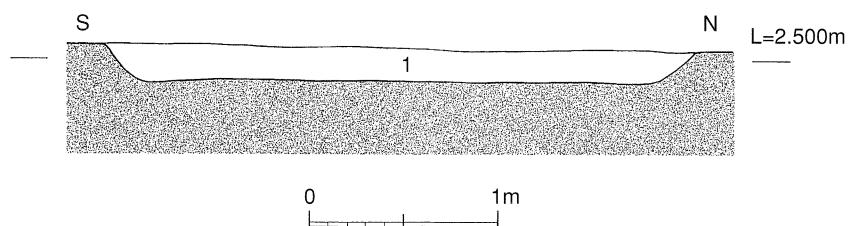
IV区の南西部でSK-4008・4009に切られた状態で検出した土坑

である。平面形態は長方形を呈し、長辺約5.2m、短辺約1.4m、深さ約10cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。出土遺物中で図示できたものは第215・216図に掲載した。471は瀬戸美濃系磁器の皿である。外面には高砂の歌詞と箒が描かれており、お祝い事用のものである。472は肥前系磁器



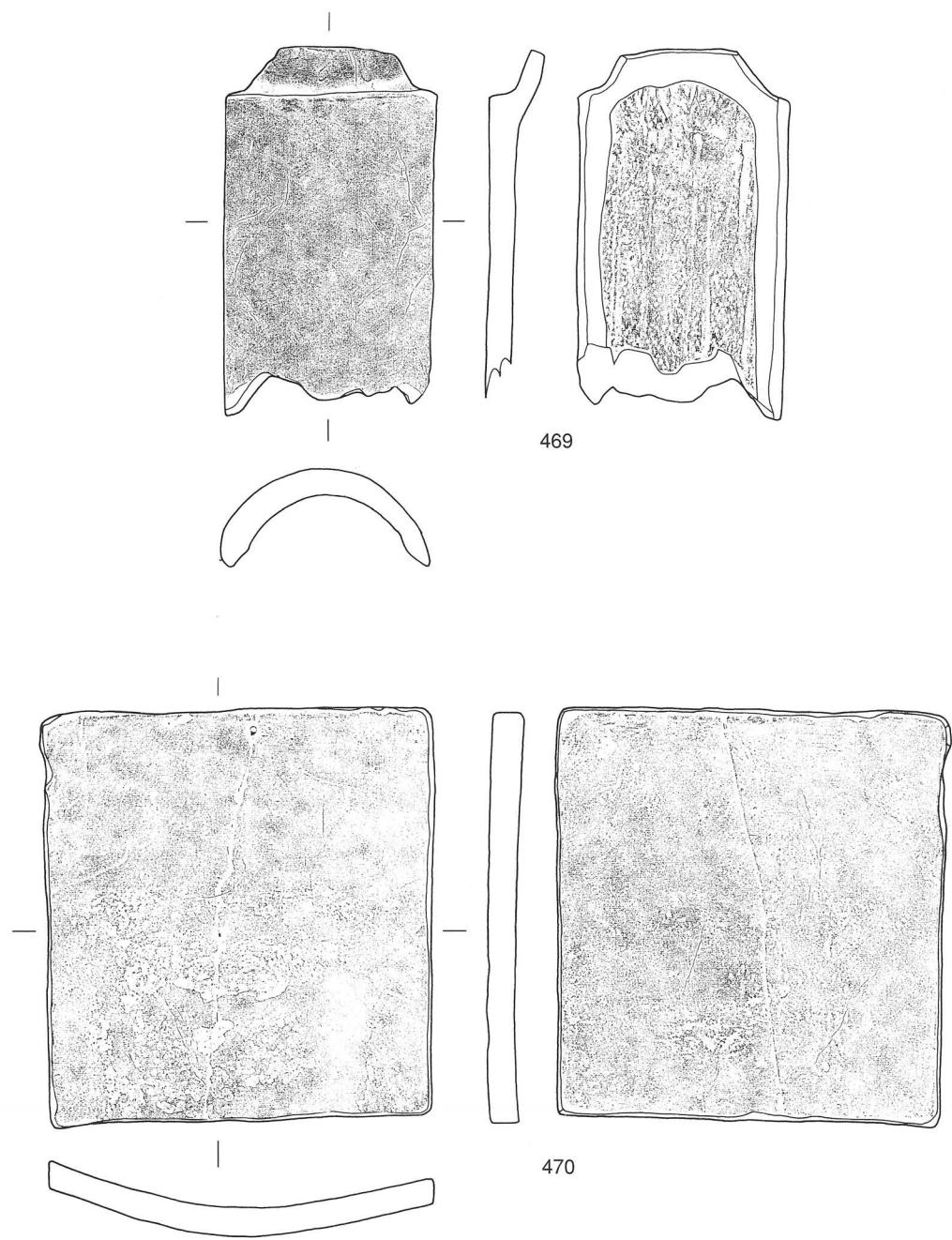
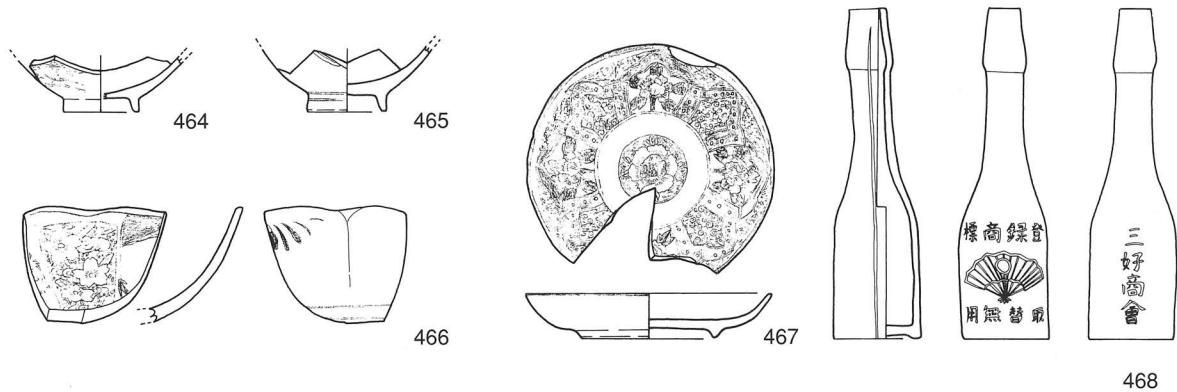
1. 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土

第211図 SK-4008 断面図



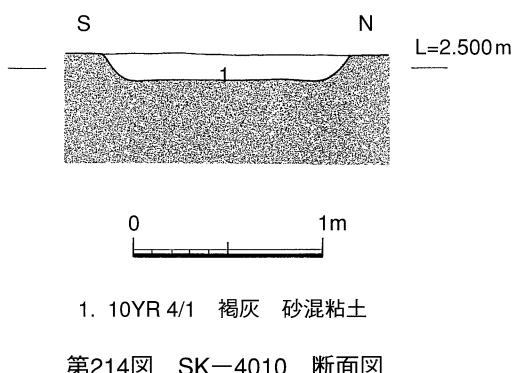
1. 10YR 3/1 黒褐 砂混粘土

第212図 SK-4009 断面図

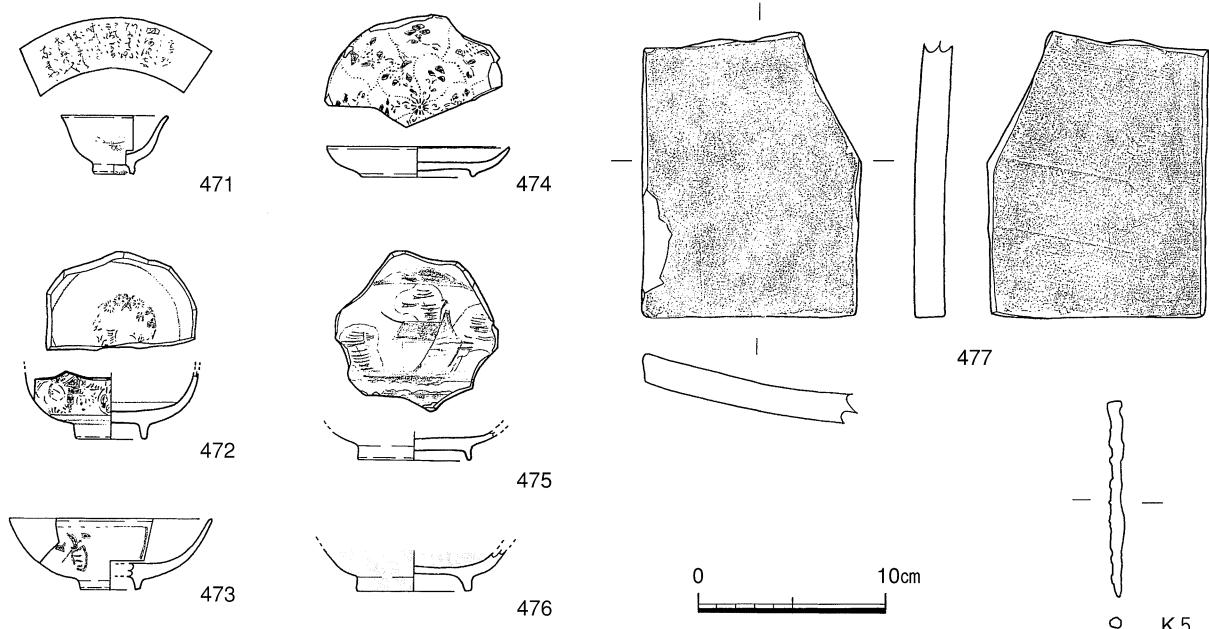


第213図 SK-4009 出土遺物実測図

の碗で、型紙摺が見られることから、明治前半のものである。473は瀬戸美濃系磁器の碗である。外面に「省」の字が見られる。474は瀬戸美濃系磁器の皿で、型紙摺が見られることから、明治前半のものである。475は肥前系磁器の皿である。見込みに山水画が見られる。476は瀬戸美濃系磁器の碗である。477は平瓦である。K5は釘である。断面は丸い。W60は漆器の碗である。角張った体部で、高台も低い。W61は円



第214図 SK-4010 断面図



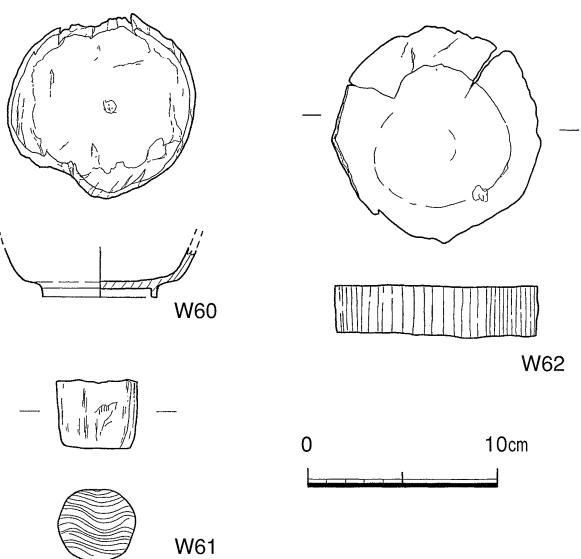
第215図 SK-4010 出土遺物実測図

柱状の加工木である。詮と考えられる。W62は円盤状の加工木である。切断面は銳利である。

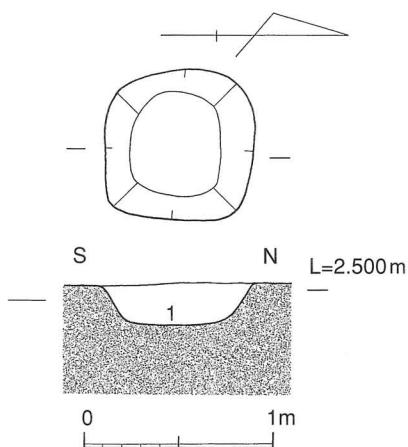
江戸時代にさかのぼる遺物も出土しているが、遺構の時期は明治前半と考えられる。

#### S K - 4014

IV区の中央南部で検出した土坑である。平面形態は隅丸方形を呈し、長辺約80cm、短辺約75cm、深さ約20cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。出土遺物中で図示できたものは第213図に掲載した。K4は鯨骨製の裁縫道具のヘラである。上端に小穴が見られる。



第216図 SK-4010 出土遺物実測図

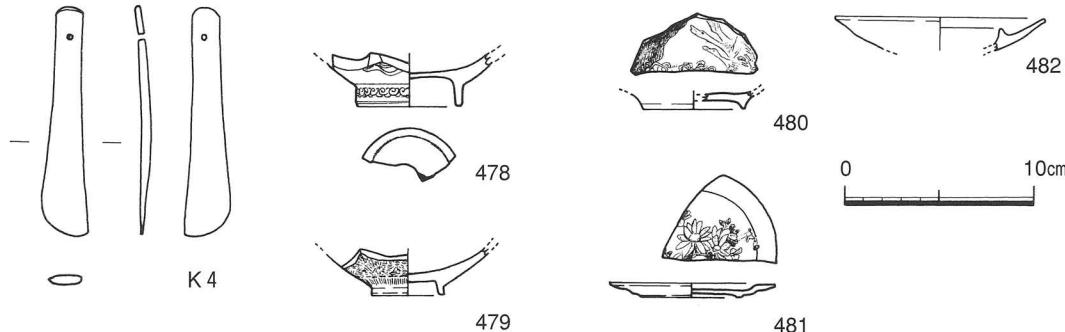


第217図 SK-4014 平・断面図

478は肥前系磁器の碗である。高台外面に波の文様が見られる。479は肥前系磁器の碗で、外面の染付は型紙摺であることから明治前半のものである。480・481は瀬戸美濃系磁器の皿である。見込みの文様は銅版転写であることから明治末～大正のものである。482は京・信楽系陶器の灯明皿である。

#### 埋甕4001

IV区の北西部でNR-4001を切った状態で検出した遺構である。平面形態は円形を呈し、径約70cm、深さ約20cmを測る。遺構の中央で第220図の土師質の甕が据え付けられた状態で検出した。埋土は3層に分層できる。甕の内部は灰黄褐色の砂混粘土、甕の外面は

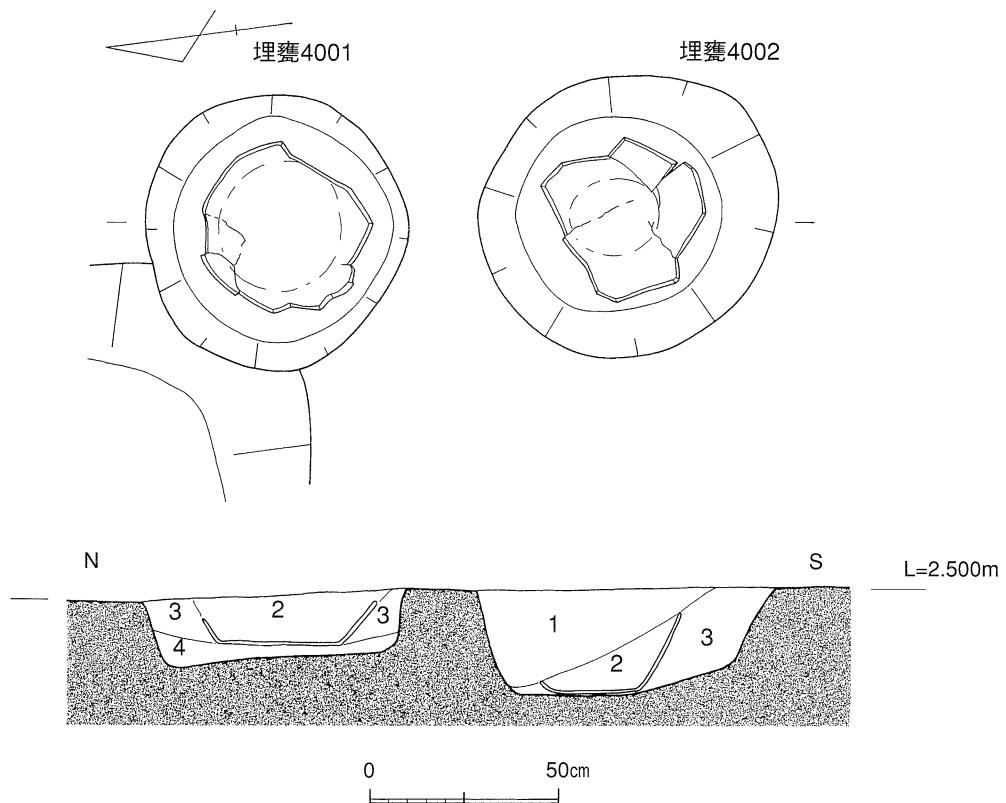


第218図 SK-4014 出土遺物実測図

褐灰色の砂混粘土、甕の底には黄灰色の粗砂層が薄く見られた。断面形態は逆台形である。他には遺物は出土しておらず、詳細な時期は不明であるが、南接する埋甕4002と同時期のものと考えられる。その並びが他の遺構の方位と同じであることや切り合い関係から、大正以降のものと考えられる。また、出土した甕の内側全体には厚さ約3mmの白色の付着物が見られた。埋甕4002と2個一対でトイレ遺構と考えられる。

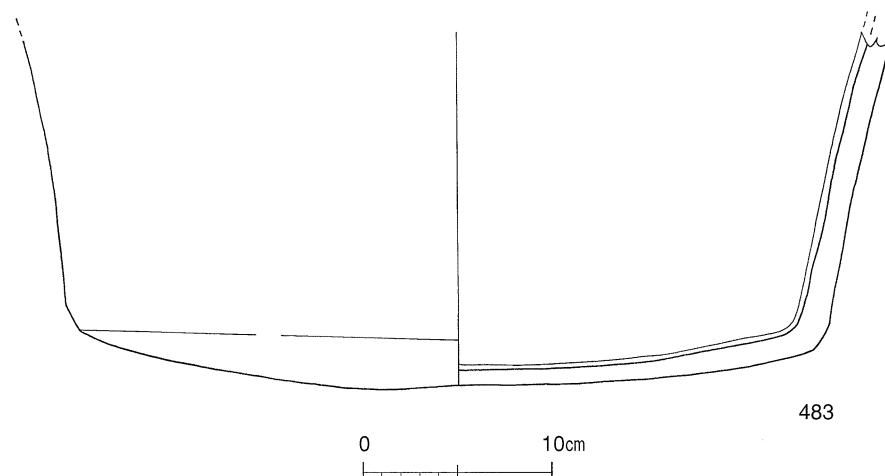
#### 埋甕4002

IV区の北西部で埋甕4001に南接して検出した遺構である。平面形態は円形を呈し、径約80cm、深さ約30cmを測る。遺構の中央で第221図485の陶器の甕が据え付けられた状態で検出した。甕は内外面とも褐色の釉を施釉しており、高台のみ無釉とする。出土した甕の内側全体には厚さ約3mmの白色の付着物が見られた。埋土は3層に分層できる。甕の内部は灰黄褐色の砂混粘土、甕の外面は褐灰色の砂混粘土である。最終埋没の第1層は褐灰色の砂混粘質土である。断面形態は逆台形である。その他の出土遺物としては第221図484の陶器製の土管状の遺物がある。口縁部外面に6条の沈線が見られ、内面には指頭圧が見られる。接合痕をそのままに残した粗雑なつくりである。埋甕4001同様トイレ遺構と考えられる。遺構の詳細な時期は不明である。

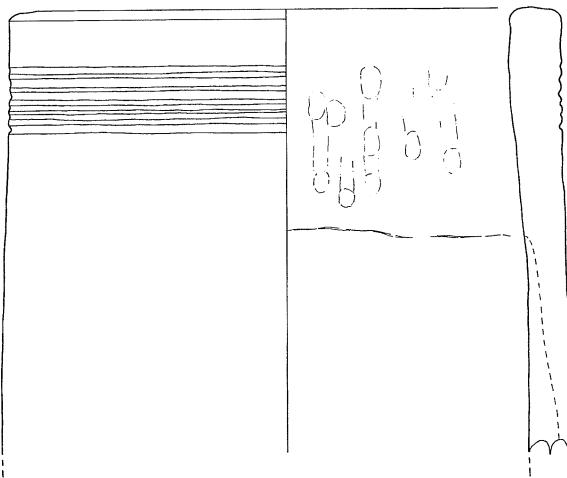


- 1. 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土
- 2. 10YR 5/2 灰黃褐 砂混粘土
- 3. 7.5YR 4/1 褐灰 砂混粘質土
- 4. 2.5Y 7/2 黃灰 細砂

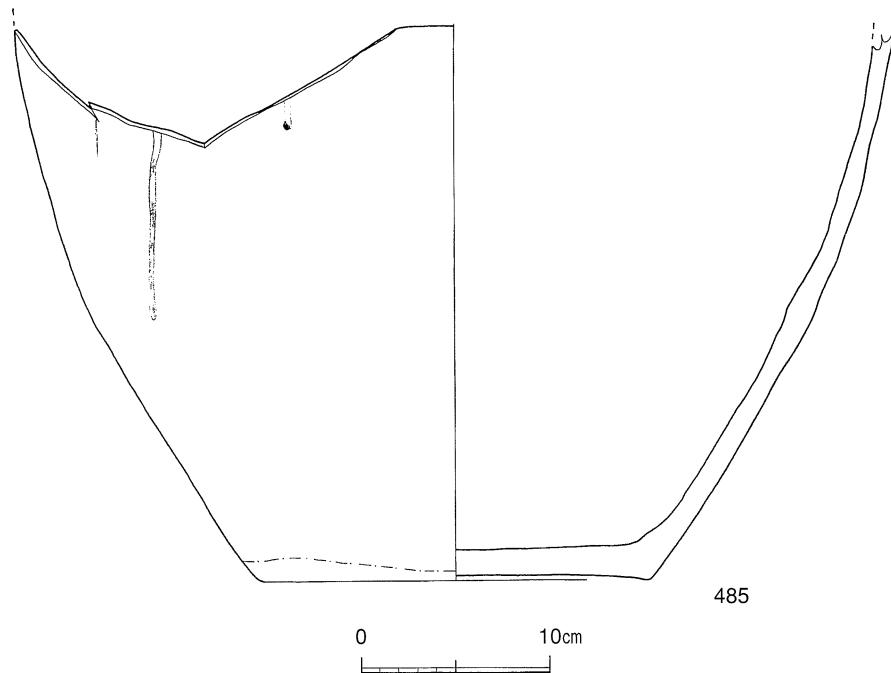
第219図 埋甕4001・4002 平・断面図



第220図 埋甕4001 出土遺物実測図

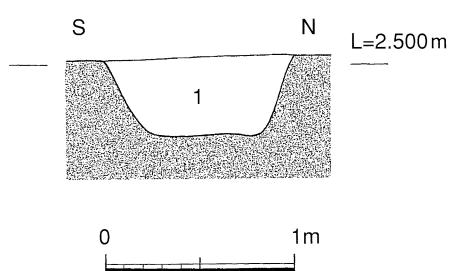


484



485

第221図 埋甕4002 出土遺物実測図

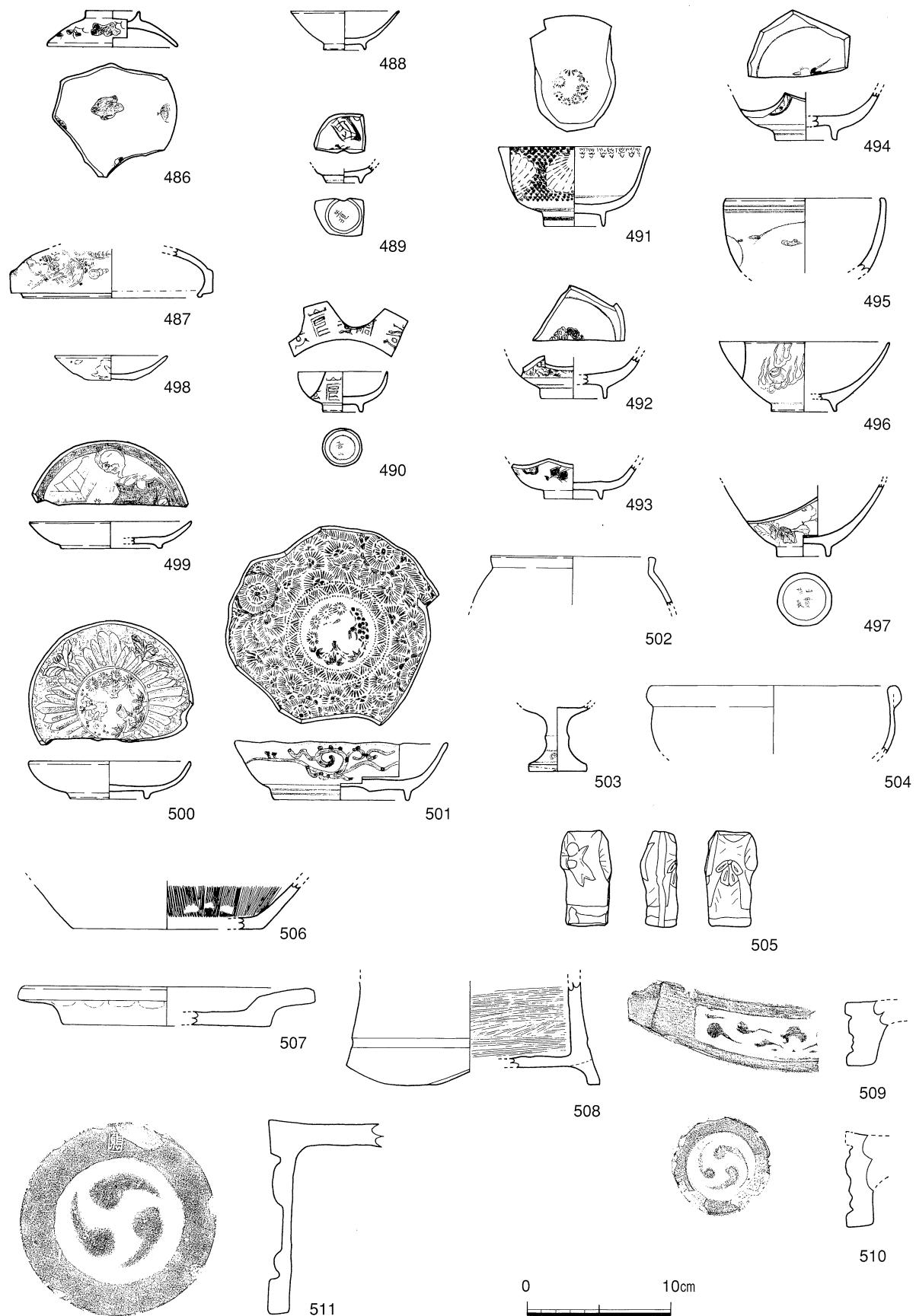


1. 10YR 4/1 褐灰 粗砂

第222図 SD-4002 断面図

## SD-4002

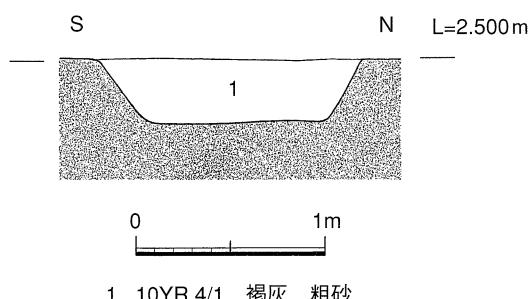
調査区の中央北部でコの字形に検出した溝である。検出長約21m、幅約80cm、深さ約40cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。出土遺物中で図示できたものは第223図に掲載した。486は肥前系磁器の蓋である。コンニャク印判が見られることから18世紀のものである。487は瀬戸美濃系磁器の蓋である。銅版転写によるもので、明治末～大正のものである。488～490は瀬戸美濃系磁器の盃である。19世紀のもの



第223図 SD-4002 出土遺物実測図

である。491・492は肥前系磁器の碗で、型紙摺が見られることから明治前半のものである。493～495も肥前系磁器の碗であるが、18～19世紀の江戸時代のものである。496・497は瀬戸美濃系磁器の碗で、銅版転写によることから明治末～大正のものである。497の高台内には「山貫精製」の銘が見られる。498は京・信楽系陶器の皿である。内面のみ釉を施す。19世紀のものである。499・500は瀬戸美濃系磁器の皿で、銅版転写によることから明治末～大正のものである。501は肥前系磁器の皿である。蛇の目凹形高台で、染付は型紙摺であることから明治前半のものである。502は陶器の甕で19世紀のものである。503は仏飯具である。圈線は金色である。504は陶器の鉢である。全面に釉を施している。505は瀬戸美濃系磁器の人形である。子供を抱いた女性である。506は備前焼の擂鉢である。507は土師質の蓋である。508は土師質の七輪である。三方に脚がつき、内面はヨコハケである。509は軒平瓦、510は軒棧瓦、511は軒丸瓦である。511の瓦当面上部には「熊」の字が印刻されている。

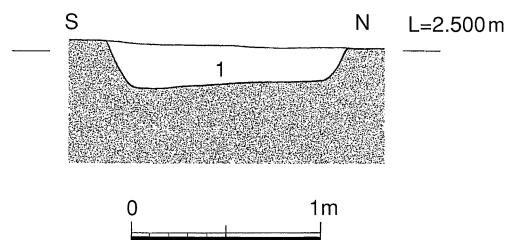
江戸時代にさかのぼる遺物も見られるが、大正頃の遺構と考えられる。



第224図 SD-4003 断面図

#### SD-4003

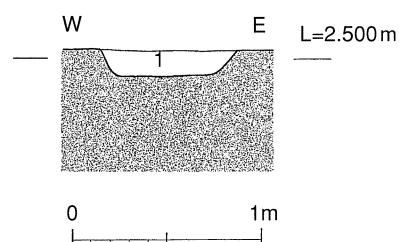
調査区の中央北部でSD-4002を切った状態で検出した東西方向の溝である。検出長約8.3m、幅約1.3m、深さ約30cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。遺物はコンテナに5箱分出土したが、瀬戸美濃系磁器のゴム判による印刷で作られたもので、時期的には昭和初期のものばかりであった。



第225図 SD-4005 断面図

#### SD-4005

調査区の中央部で検出した東西方向の溝である。SD-4002と平行する。検出長約7m、幅約70cm、深さ約15cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。



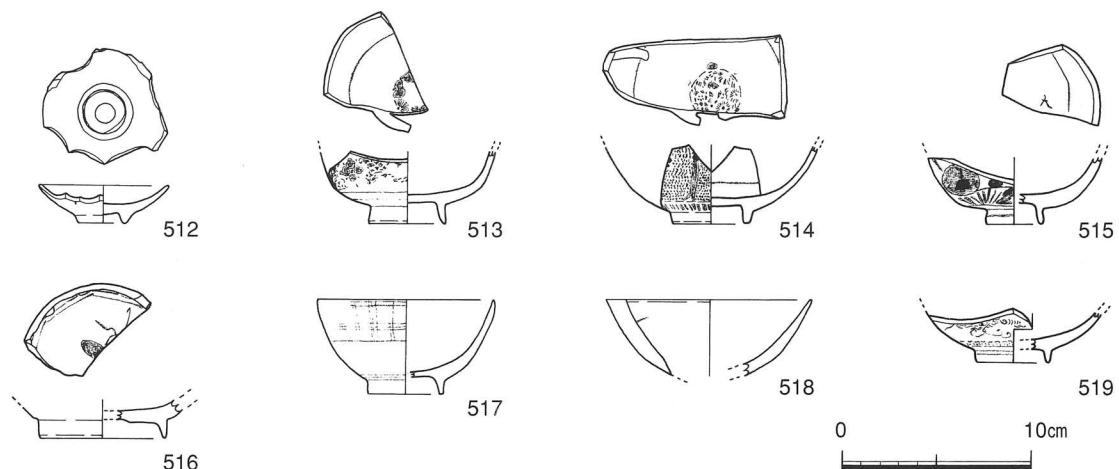
第226図 SD-4012 断面図

#### SD-4012

調査区の南東部で検出した南北方向の溝である。SD-4002と平行するSD-4008・4009・4010等に切られている。検出長約3.2m、幅約80cm、深さ約10cmを測る。埋土は単層で、断面形態は逆台形である。出土遺物中で図示できたものは第227図に掲載した。512は肥前系磁器の盃である。見込

みに蛇の目釉ハギと重ね焼の痕跡が見られる。513・514は肥前系磁器の碗である。型紙摺であることから明治前半のものである。515～519も肥前系磁器の碗である。18～19世紀の江戸時代のものである。

江戸時代にさかのぼる遺物も見られるが、明治頃の遺構と考えられる。



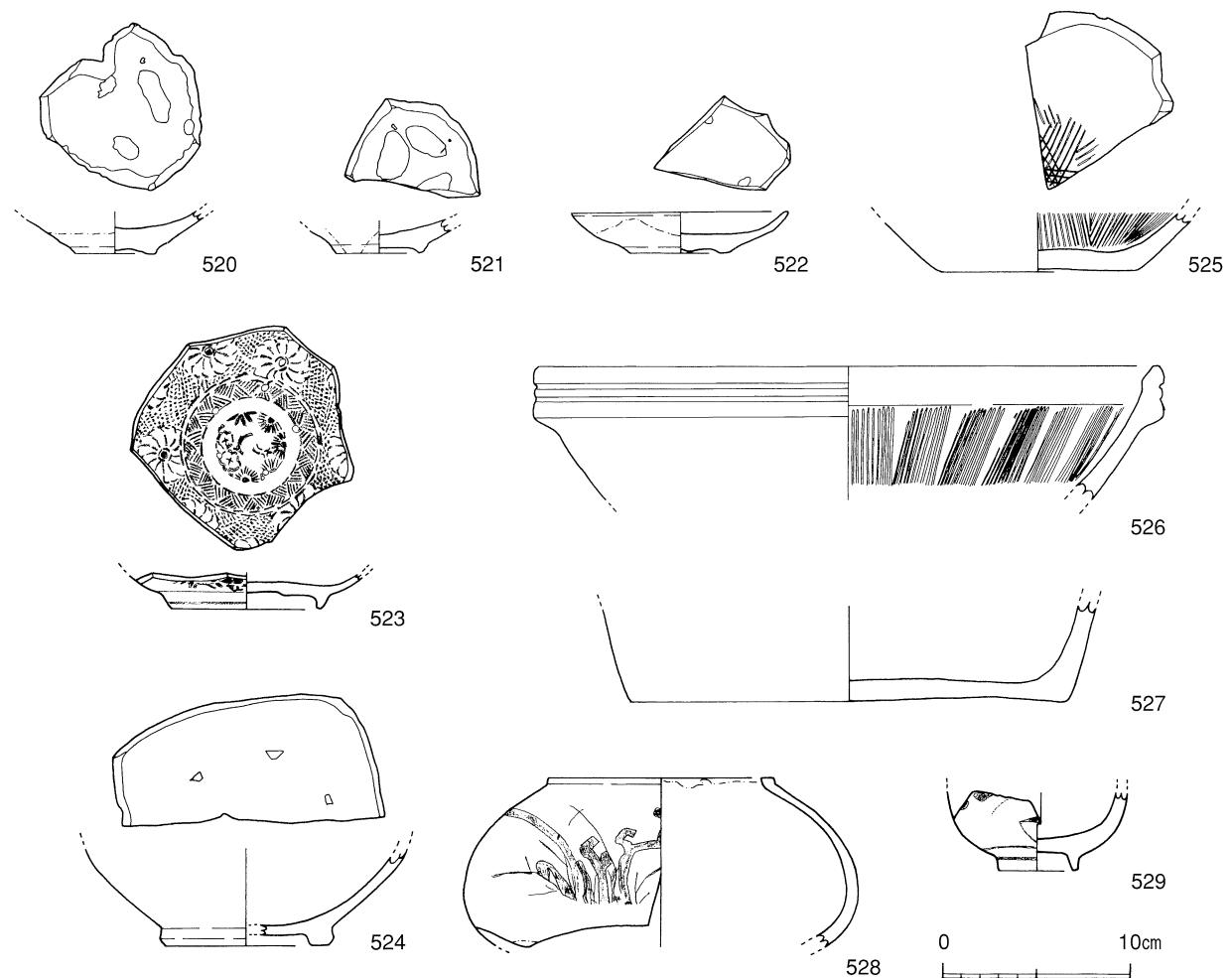
第227図 SD-4012 出土遺物実測図

## 第6節 遺構外出土遺物

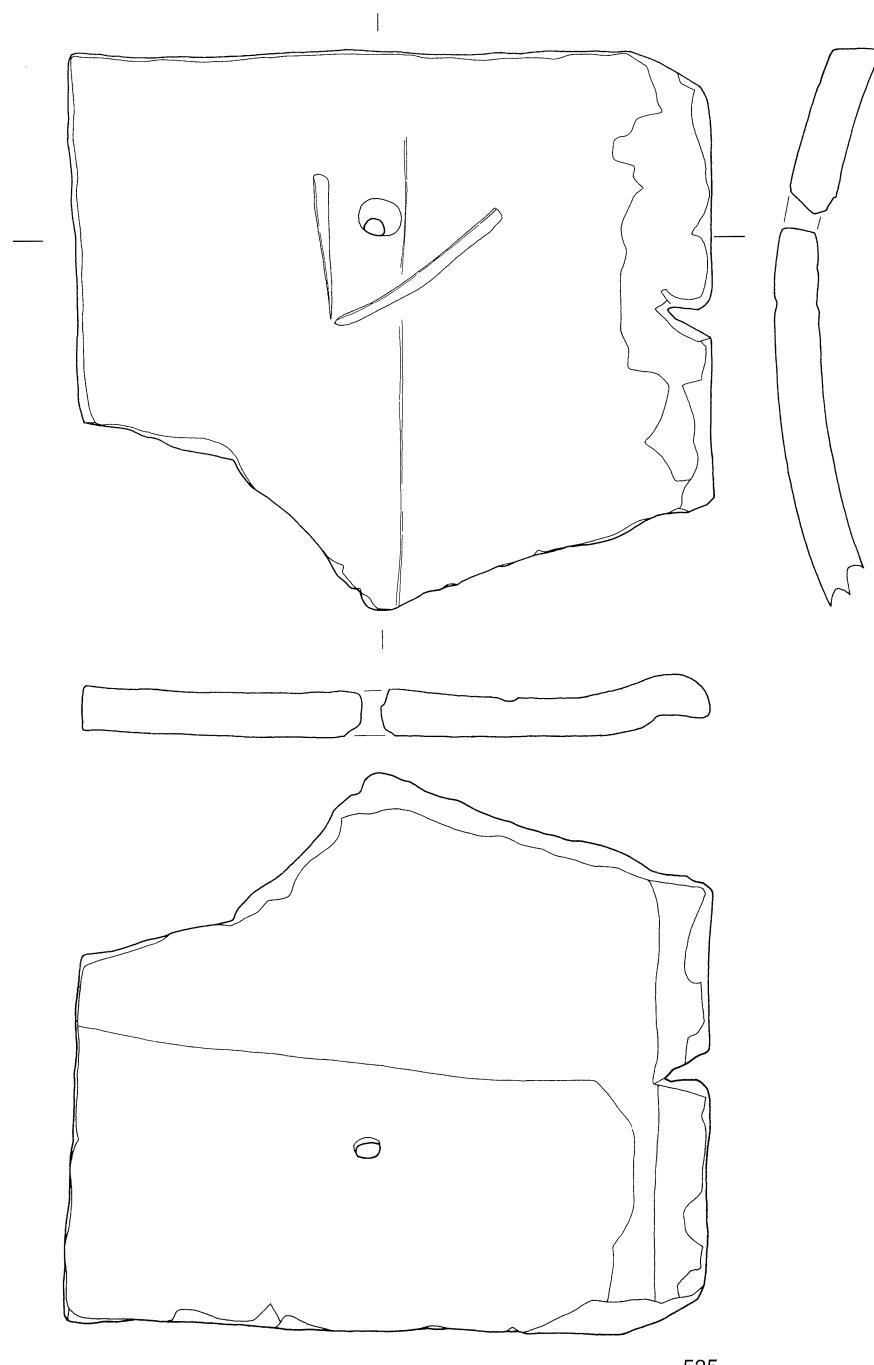
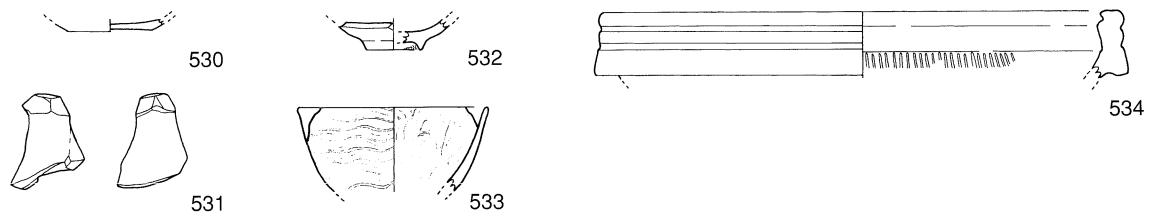
包含層掘削中および調査区の側溝掘削中にも多量の土器が出土した。ここではそのうち残りの良いものだけはあるが紹介する。第228図のものはII区北壁の側溝掘削中に出土したもので、主にS X-2006の遺物と考えられるものが中心である。520～522は肥前系陶器の皿である。520・521は砂目、522は胎土目が見られる。いずれも17世紀前半のものである。525・526は備前焼の擂鉢である。527は土師質の甕である。524は京・信楽系陶器の鉢である。高台無釉で、見込みには胎土目が見られる。528は京・信楽系陶器の壺で、外面に草花文が見られる。529は肥前系磁器の碗である。

第229図はI区の包含層出土遺物である。530は土師器の小皿である。531は鳥形の土製品の頭部である。中空である。532・533は肥前系磁器の碗である。534は堺焼の擂鉢である。535は平瓦である。釘穴のまわりにはナデによる山形のくぼみが見られる。

第230・231図はII区の包含層出土遺物である。530～539は瓦質の焰焰である。外面指頭圧、内面ヨコハケが見られる。540は明石焼の擂鉢である。18世紀後半～19世紀のものである。541は備前焼の擂鉢で18世紀前半のものである。542は堺焼の擂鉢で、18世紀前半～中葉のものである。543は肥前系磁器の碗



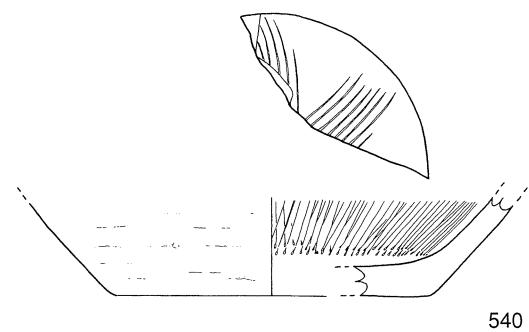
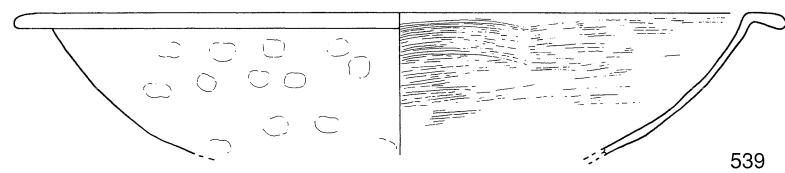
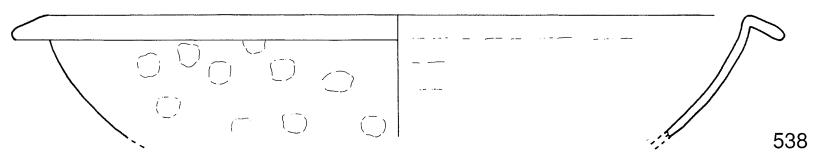
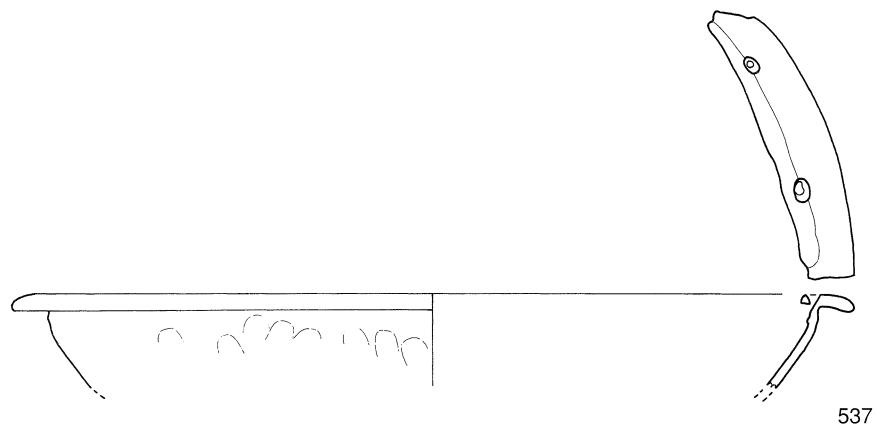
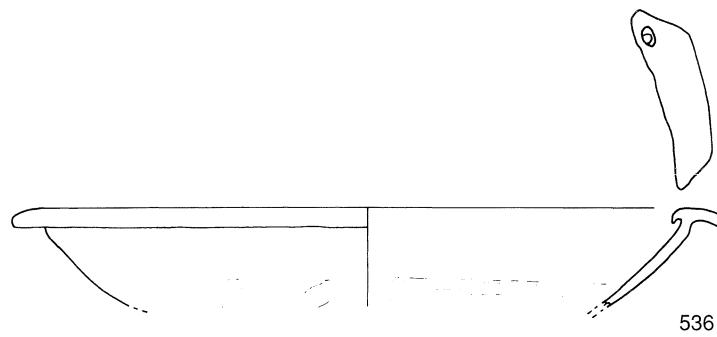
第228図 II区北壁サブトレ 出土遺物実測図



535

0 10cm

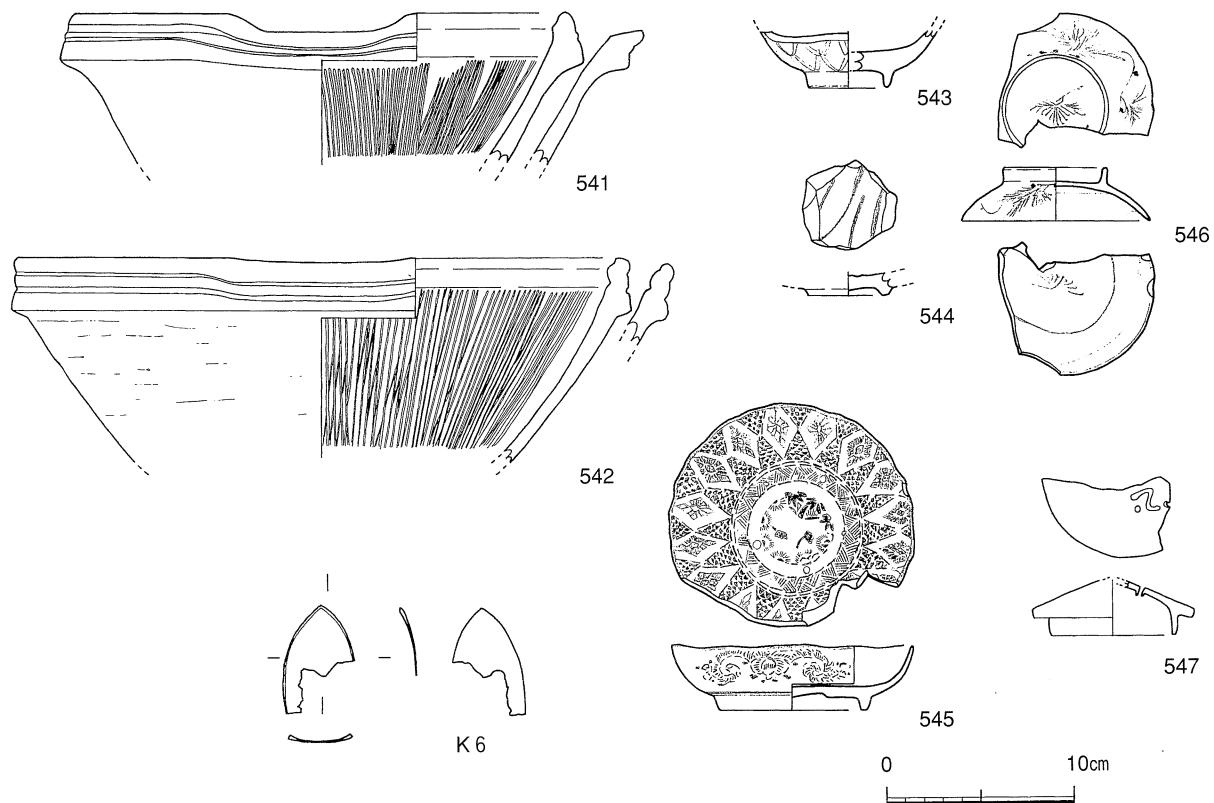
第229図 I区包含層 出土遺物実測図



0 10cm

第230図 II区包含層 出土遺物実測図①

である。二重の網目が見られることから18世紀中葉のものである。544は肥前系陶器の皿である。見込みに鉄絵が見られることから、17世紀前半のものである。545は肥前系磁器の皿である。蛇の目凹形高台をもち、型紙摺であることから明治前半のものである。546は肥前系磁器の蓋であるが、外面に煤が付着していることから、灯明皿に転用したものと思われる。松が内外面およびつまみ内に描かれている。547は陶器の蓋である。K6は金属製の舟形の容器である。



第231図 II区包含層 出土遺物実測図②



## 第4章 まとめ



## 第1節 遺構の変遷について

川南・東遺跡では一部混入品と考えられる須恵器を除けば、16世紀以降の遺物が出土している。検出された遺構の時期はほとんどが江戸時代にはいってからのものと考えられ、出土遺物も時期が下るほど多く見られる。地山と考えられる無遺物層は砂層であり、同様の堆積は地下数メートルまで続いていた。これは第2章で述べたように、江戸時代以前の海岸線がこの付近まで入り込んでいたことに起因する。江戸時代初期の海岸線は遺跡の北方数百メートルの地点であったと考えられており、また、旧河道の氾濫原であったため、それまでは度重なる洪水による沖積化が進行していた地域であったと考えられる。なお、沖積作用を促進したと考えられる旧河道の1つは遺跡の西方、川南・西遺跡との間を北流していたことが試掘調査で確認されている。西嶋八兵衛による干拓（1637年）が行われた17世紀前半頃になってようやく一定量の遺物が見られるようになる。おそらく、干拓によって安定した土地に新田開発を行ったと考えられる。

遺構の切り合い関係から東西方向の犁溝が最も古いものと考えられる。時期の明確にわかる遺構としてはⅢ区で検出した溝で囲まれた屋敷跡が古い。17世紀～18世紀中葉の遺物が出土しており、東西方向の犁溝群はこの屋敷に付随する可能性がある。

Ⅱ区で見られた多数の土坑や柱穴類は大きく2時期に分けられる。18世紀～19世紀前半のものと明治以降のものである。切り合い関係から幕末～明治初期頃に掘削されたと考えられるSD-2027によってそれまでの土地を2分されていることから2時期に分けた。実際には18世紀以降については居住域であったことがうかがえる。特に、SD-2027およびSD-2031埋没後も、この溝の間は昭和33年まで道路として利用されていたことがわかっている。

大正～昭和初期についてはそれまで遺構の見られなかったⅣ区にも遺構が見られ、居住範囲を広げていったことがうかがえる。

なお、川南・西遺跡、川南・東遺跡周辺はこれまであまり遺跡の知られていない地域であった。海の中とも川の中だとも言われてきた地域であったが、わずかながらの微高地上に集落を営み、新田開発を行ってきた先進地であることがうかがえた。

### 〈参考文献〉

- 1999 末光甲正ほか 『川南・西遺跡』 高松市教育委員会  
1992 森下友子ほか 『東山崎・水田遺跡』 (財)香川県埋蔵文化財調査センター

## 第2節 SK-2075出土遺物の年代について

今回の発掘調査で最も多量に土器を出土した遺構がSK-2075である。その出土遺物からは土師器や陶磁器と言った土器類、そして木器類が多量に一括出土したことから、遺構の時期の生活様相を知る上で、有益な資料である。その中でも特に戦争関係の資料が注目できる。

第99図の218～220がこれに該当する。すべて瀬戸美濃系磁器の盃である。218の内面には金色の色絵で「陸軍砲兵十一」「■■期化出」という文字と旗が見られる。219の内面にも「役」という文字が見られる。220の外面には銅版赤絵で、国旗、日章旗、碇のマークが入った旗、軍馬、ラッパなどが描かれている。219の外面が緑色の絵の具を釉薬に混ぜたもので施釉していること、220の外面が銅版赤絵によることから、政策技法からは明治の後半のものと考えられる。一方、218の内面に見られた「陸軍砲兵十一」とは陸軍第11師団野戦砲兵第11聯隊のことと考えらる。古の話によると、出征を記念して拝領したものである。

明治維新を迎えた日本政府は明治4（1871）年に東京、大阪、鎮西〈熊本〉、東北〈仙台〉の4鎮台を設置し、明治6（1873）年には6鎮台とした。明治22（1888）年にはこれが師団に改められた。当時四国には歩兵第12聯隊（丸亀）と歩兵第22聯隊（松山）を合わせて歩兵第10旅團が編成され、広島の第5師団の隸下であった。明治27（1894）年の日清戦争後、ロシアに対する脅威が高まり、更なる軍備拡張が進み、明治31（1898）年に第12師団まで師団が増設されるに至った。そのうちの第11師団が香川県の善通寺市に置かれていた。第11師団の中に砲兵第11聯隊が誕生した。

第11師団は第2次大戦終戦まで存続するが、砲兵第11聯隊は大正11（1922）年に山砲兵11聯隊と名称変更を行っている。つまり、砲兵第11聯隊が存続していたのは明治31年～大正11年までのわずか25年間である。その間に砲兵11聯隊が出兵した戦争は明治37～38（1904～1905）年の日露戦争、大正9～11（1920～1922）年のシベリア出兵である。先述したように盃は出征記念のものであるため、このどちらかの時期のものである。日露戦争は当時の国の総力を挙げて戦った戦争で、2ヶ大隊（1大隊は3ヶ中隊と大隊段列）が出征している。戦死者も108名に上っている。一方、シベリア出兵は2ヶ中隊の25名のみの出兵である。25名のみの出兵に際し、「陸軍砲兵十一」と明記した独自の盃を作成したとは考えにくく、日露戦争の際のものと考えられる。

このことから盃の年代は明治37（1904）年のものと考えられ、製作技法上の年代観と一致する。銅版転写によるものが最も新しいものであることから、ほぼ盃の年代観と同じ時期と考えられる。一方、肥前系磁器の中には第98図の183のような17世紀にさかのぼる極端な例を除いても、型紙摺による明治前半のものや、さらには印刷手法を用いない幕末頃のものまで出土している。その年代観の開きは50年程度ある。陶磁器は土器に比べはるかに割れにくいこともあって長く伝世したりするものも多い。SK-2075出土の資料は一括性が高く、消費地での様相ではこれくらいの年代の開きは一時期の様相として捉えていくべきである。これまで産地での年代観で時期決定をしていたが、今後この点を留意していくなければならない。

### 〈参考文献〉

1991 白石敏弘 『山砲兵第十一聯隊史』 山砲兵第十一聯隊史編集事務局

### 第3節 川南・東、川南・西遺跡出土陶磁器の変遷について

窯業地での層位学的、型式学的編年研究は飛躍的な進歩をとげている中、編年研究で欠かせない様式学的側面ではやはり消費地での共伴関係が重要なかぎをにぎっている。香川県内では高松城などの調査によって多量の陶磁器が出土していて、数多く報告されている。しかしながら、一般庶民レベルの遺跡の発掘例は少ない。

川南・東遺跡では多量の土器・陶磁器を出土した。その時期は16世紀～20世紀にわたるものである。ちょうど日本で磁器製作が開始された頃以降のものである。特に、18世紀以降のものには一括資料が多く見られ、今後の編年研究に大いに役立つ資料となりうる。一方、遺跡の西側に近接した川南・西遺跡は、これより若干早い15～17世紀の遺跡である。特に、16世紀後半～17世紀前半にかけての遺物が中心である。両遺跡とも農村と考えられ、庶民レベルの生活様式をうかがう上で適している遺跡である。

今回はこの2遺跡で土器を多量に出土した遺構のうち、一括性の高い遺構出土遺物において各時期ごとの変化を見ていきたい。使用する資料は4遺構である。日本で磁器生産が開始される直前の16世紀の動向は川南・西遺跡S E01を使用する。磁器生産開始期の16世紀末～17世紀前半の動向は川南・西遺跡S D07を使用する。17世紀後半～18世紀前半については遺物は多数出土しているものの、単体で出土したり、混入品として出土しているものが多いため、きっちりとした様相を示すものはない。幕末で庶民レベルまで陶磁器文化が浸透したとされる18世紀後半～19世紀中葉については川南・東遺跡S X-2005を使用する。さらに時期は下がって、19世紀末～20世紀初頭の明治頃については川南・東遺跡S K-2075を使用する。各遺構出土遺物のうち報告書に掲載されたものだけを使用した。

まず16世紀であるが、川南・西遺跡S E01出土遺物は24点である。内訳は土師器20点、陶器4点である。土師器は全体の83%を占め、陶器が17%である。陶器の内訳はすべて備前焼である。また、S E01からは出土していないが、わずかながら中国からの輸入陶磁器も見られるようである。表1・2にあらわした。

次に16世紀末～17世紀前半であるが、川南・西遺跡S D07出土遺物は87点である。内訳は土師器38点(43.7%)、須恵器1点(1%)、陶器40点(46%)、磁器8点(9%)である。土師器や須恵器などいわゆる土器と呼ばれるものの合計は45%、陶磁器は55%である。陶磁器の産地の内訳は肥前系が28点(58%)を占め、瀬戸美濃系が2点(4%)、備前焼が16点(33%)、輸入陶磁器が2点(4%)である。表3・4にあらわした。

良好な資料の得られなかつた17世紀後半～18世紀前半では、数値化はできないが、肥前系の陶磁器が目立つ。擂鉢などでは備前焼が見られ、瀬戸美濃系陶器も一部見られる。また、京・信楽系陶器がわずかながらもはじめて出現するのもこの時期である。輸入陶磁器は完全に姿を消してしまい、土器類も煮炊具を除いては減少の一途をたどる。

18世紀後半～19世紀中葉であるが、川南・東遺跡S X-2005出土遺物は71点である。内訳は土師器6点(8%)、瓦質土器19点(27%)、陶器21点(30%)、磁器25点(35%)である。土器と陶磁器の比率は土器が35%、陶磁器が65%である。陶磁器の産地の内訳は肥前系が24点(53%)を占め、瀬戸美濃系が2点(11%)、京・信楽系が7点(15%)、備前焼が6点(13%)、堺焼が2点(4%)、明石焼

が1点（2%）、産地不明が1点（2%）である。表5・6にあらわした。

最後に、19世紀後半～20世紀中葉であるが、川南・東遺跡SK-2075出土遺物は60点である。内訳は土師器12点（20%）、瓦質土器2点（3%）、陶器10点（17%）、磁器36点（60%）である。土器と陶磁器の比率は土器が23%、陶磁器が77%である。陶磁器の産地の内訳は肥前系が13点（28%）、瀬戸美濃系が25点（54%）、京・信楽系が4点（9%）、明石焼が1点（2%）、産地不明が3点（7%）で

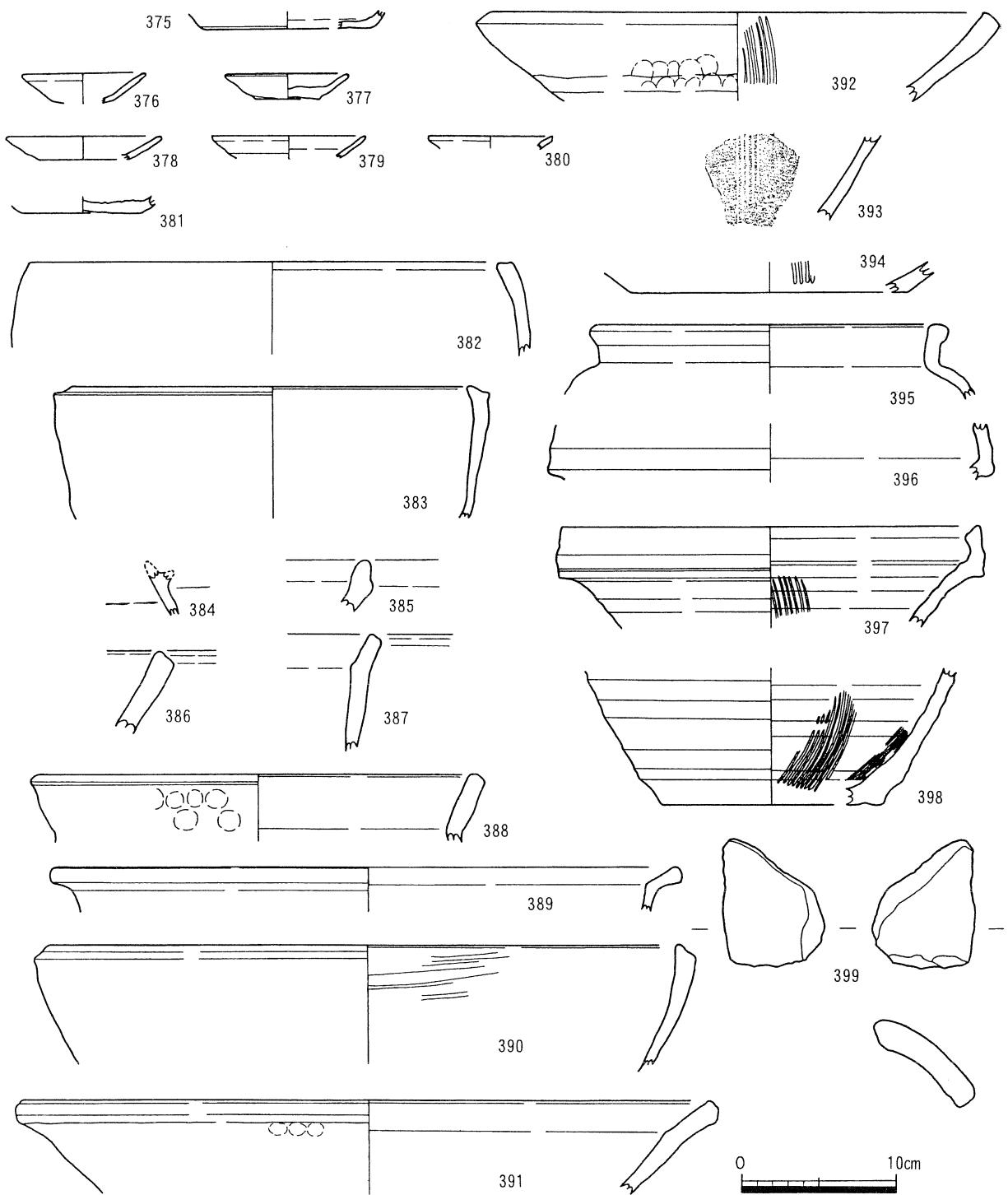


図1 川南・西遺跡 SE01出土遺物

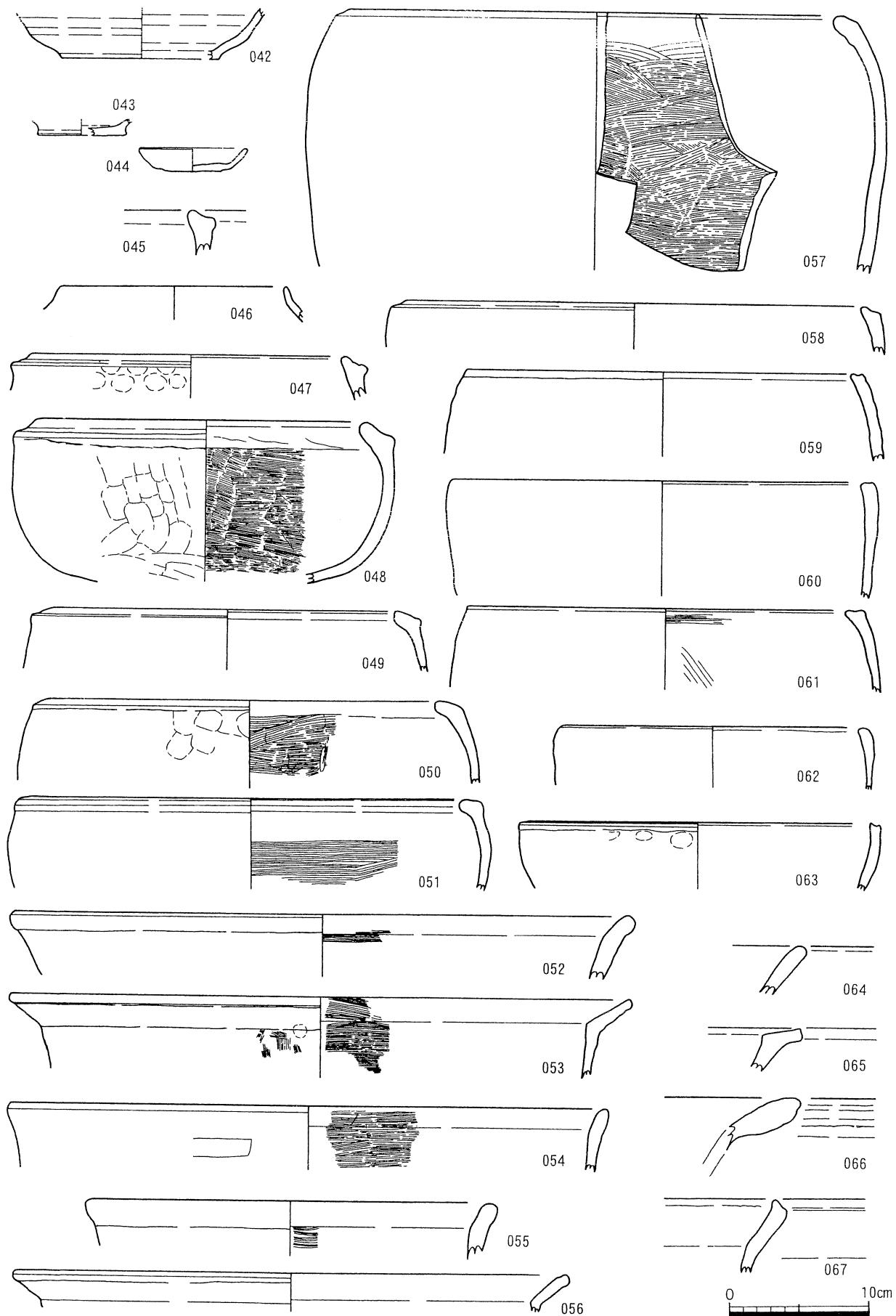


図2 川南・西遺跡 SD07出土遺物-1

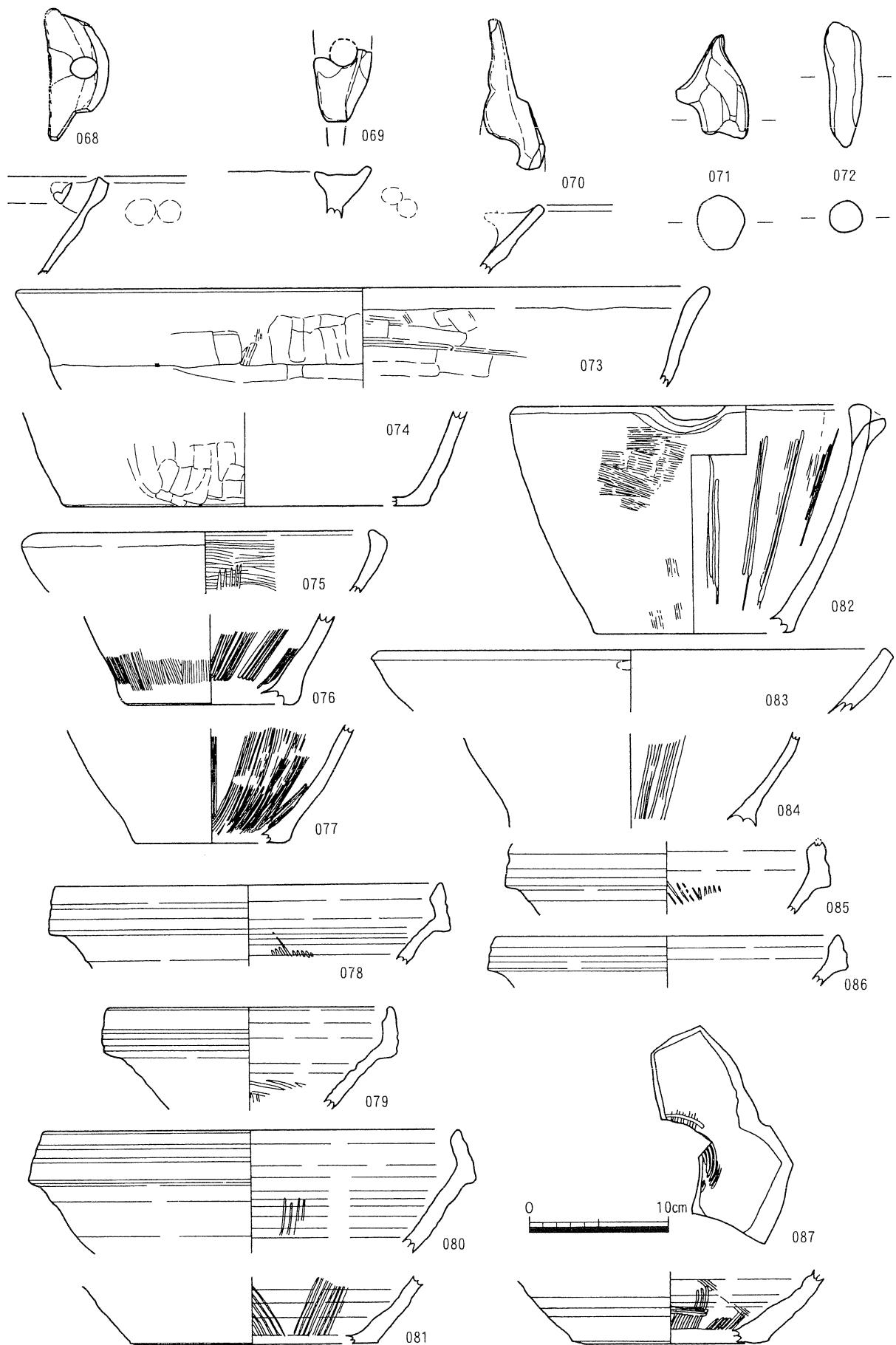


図3 川南・西遺跡 SD07出土遺物一2

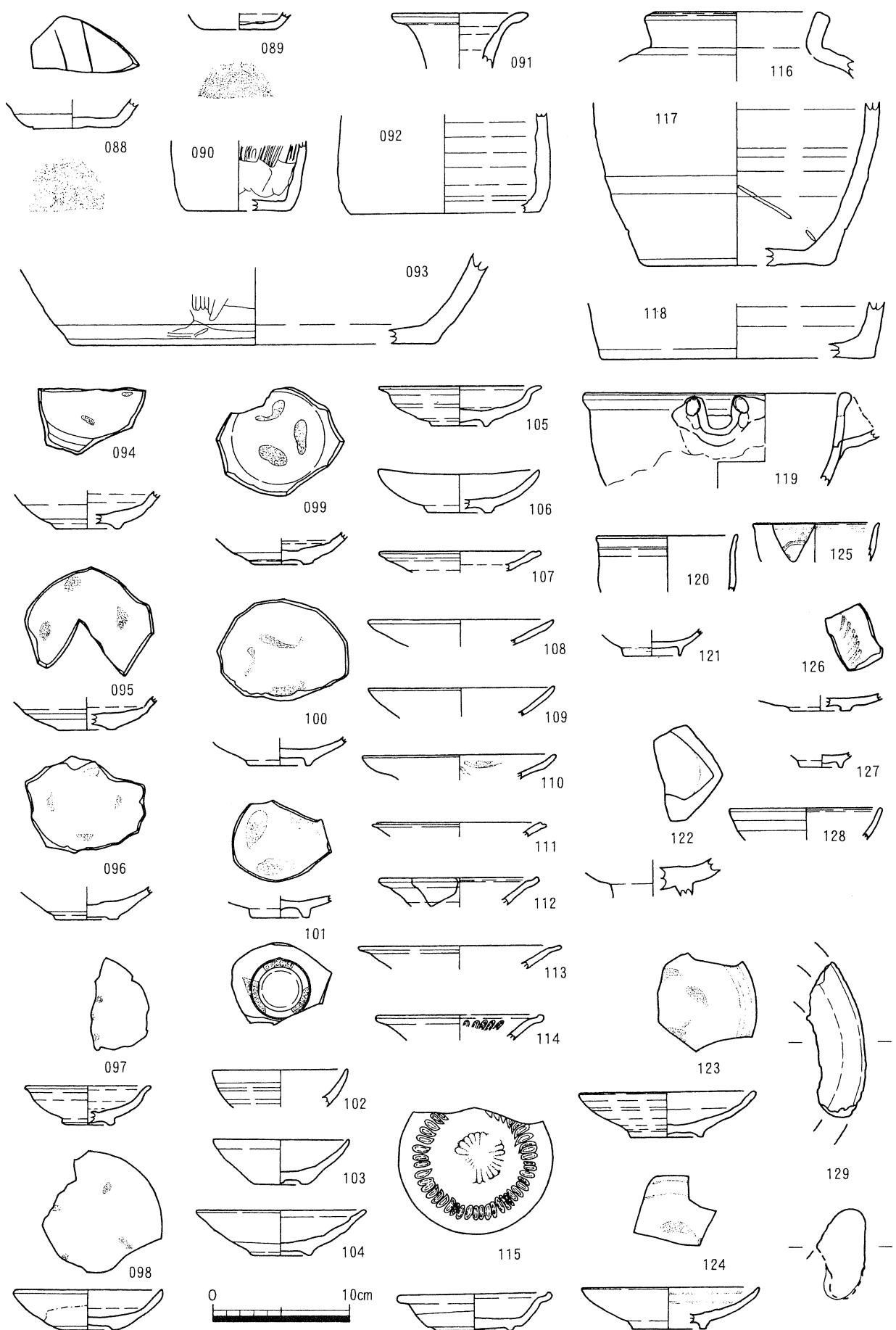
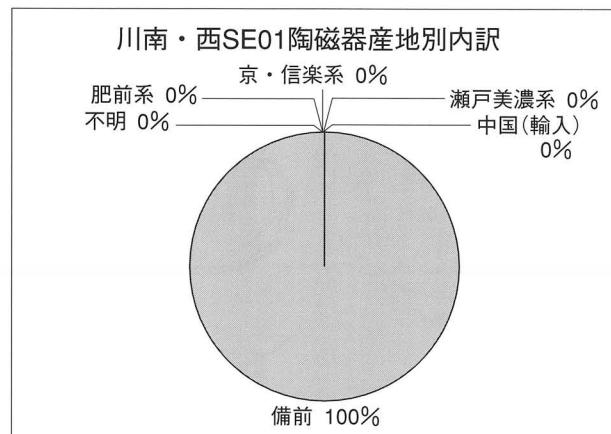
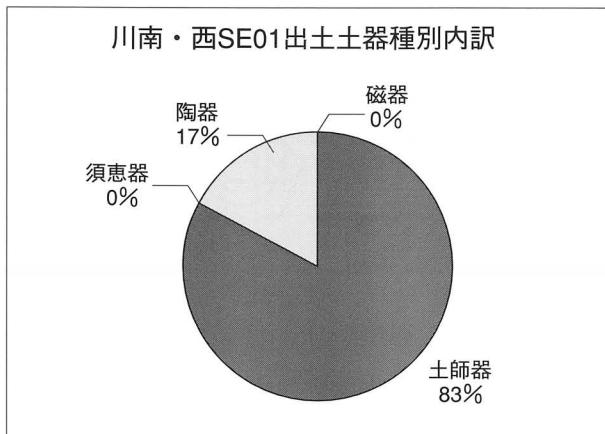


図4 川南・西遺跡 SD07出土遺物-3

## 川南・西遺跡SE01出土土器内訳（16世紀）

表1 土器種別内訳		
種別	点数	割合
土師器	20	83.3%
須恵器	0	0.0%
陶 器	4	16.7%
磁 器	0	0.0%
合 計	24	100.0%
		100.0%

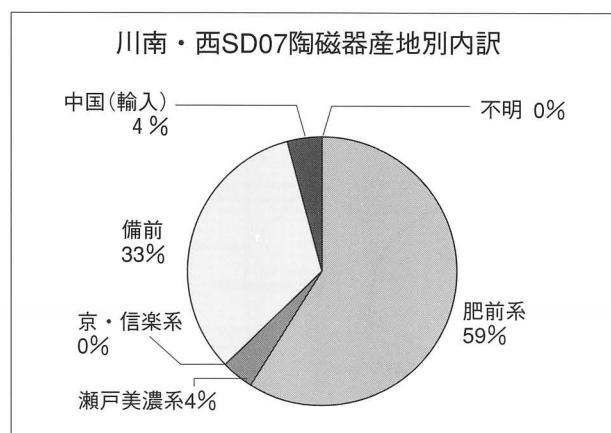
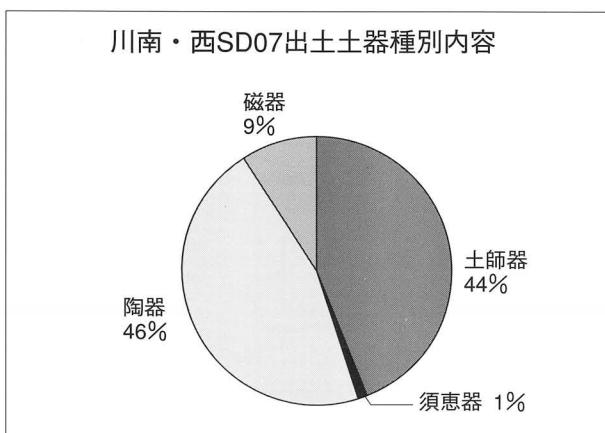
表2 陶磁器産地別内訳		
産地	点数	割合
肥前系	0	0.0%
瀬戸美濃系	0	0.0%
京・信楽系	0	0.0%
備 前	4	100.0%
中国(輸入)	0	0.0%
不 明	0	0.0%
合 計	4	100.0%



## 川南・西遺跡SD07出土土器内訳（16世紀末～17世紀前半）

表3 土器種別内訳		
種別	点数	割合
土師器	38	43.7%
須恵器	1	1.1%
陶 器	40	46.0%
磁 器	8	9.2%
合 計	87	100.0%
		100.0%

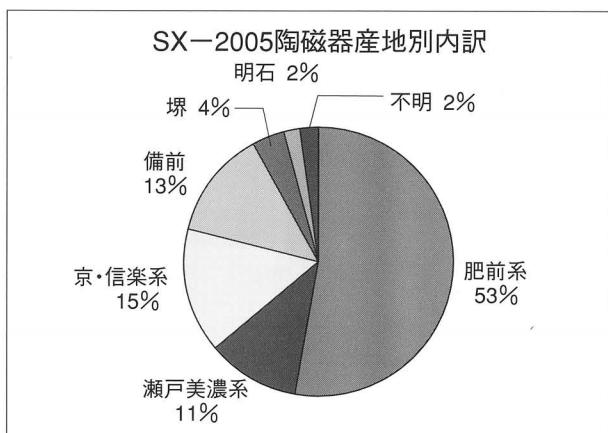
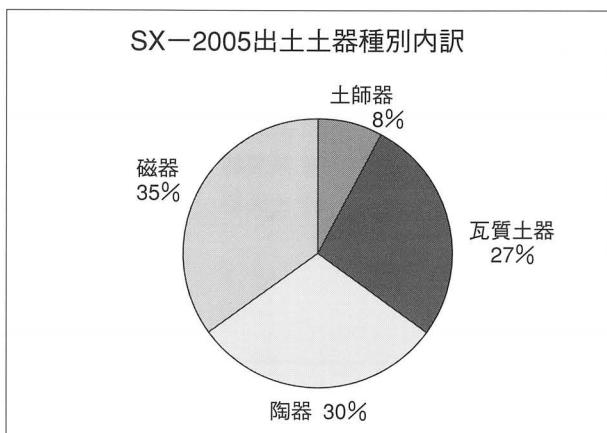
表4 陶磁器産地別内訳		
産地	点数	割合
肥前系	28	58.3%
瀬戸美濃系	2	4.2%
京・信楽系	0	0.0%
備 前	16	33.3%
中国(輸入)	2	4.2%
不 明	0	0.0%
合 計	48	100.0%



川南・東遺跡SX-2005出土土器内訳（18世紀後半～19世紀中葉）

表5 土器種別内訳		
種別	点数	割合
土師器	6	8.5%
瓦質土器	19	26.8%
陶器	21	29.6%
磁器	25	35.2%
合計	71	100.0%

表6 陶磁器产地別内訳		
产地	点数	割合
肥前系	24	52.2%
瀬戸美濃系	5	10.9%
京・信楽系	7	15.2%
備前	6	13.0%
堺	2	4.3%
明石	1	2.2%
不明	1	2.2%
合計	46	100.0%



川南・東遺跡SK-2075出土土器内訳（19世紀末～20世紀初頭）

表7 土器種別内訳		
種別	点数	割合
土師器	12	20.0%
瓦質土器	2	3.3%
陶器	10	16.7%
磁器	36	60.0%
合計	60	100.0%

表8 陶磁器产地別内訳		
产地	点数	割合
肥前系	13	28.3%
瀬戸美濃系	25	54.3%
京・信楽系	4	8.7%
備前	0	0.0%
堀	0	0.0%
明石	1	2.2%
不明	3	6.5%
合計	46	100.0%

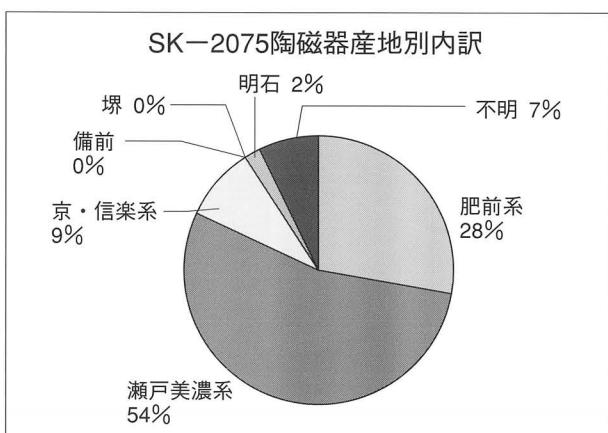
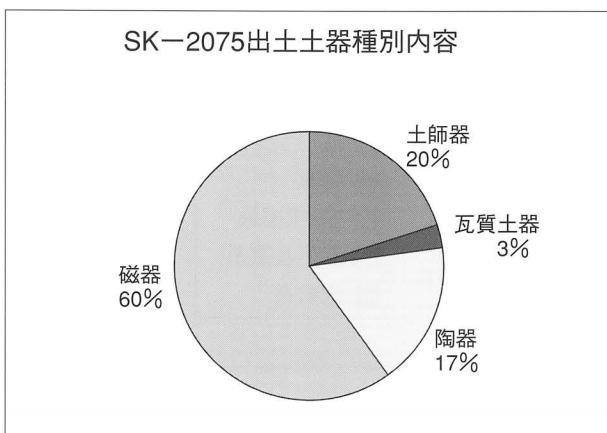


表9 時期別種別変化表

	16c	16c末~17c前	18c後~19c中	19c末~20c初
土師器	83%	44%	8%	20%
須恵器	0%	1%	0%	0%
瓦質土器	0%	0%	27%	3%
陶器	17%	46%	30%	17%
磁器	0%	9%	35%	60%
合計	100%	100%	100%	100%

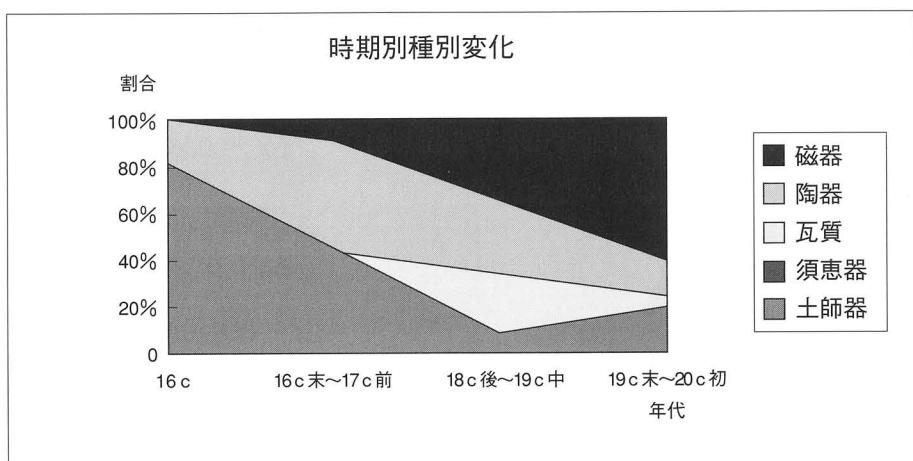
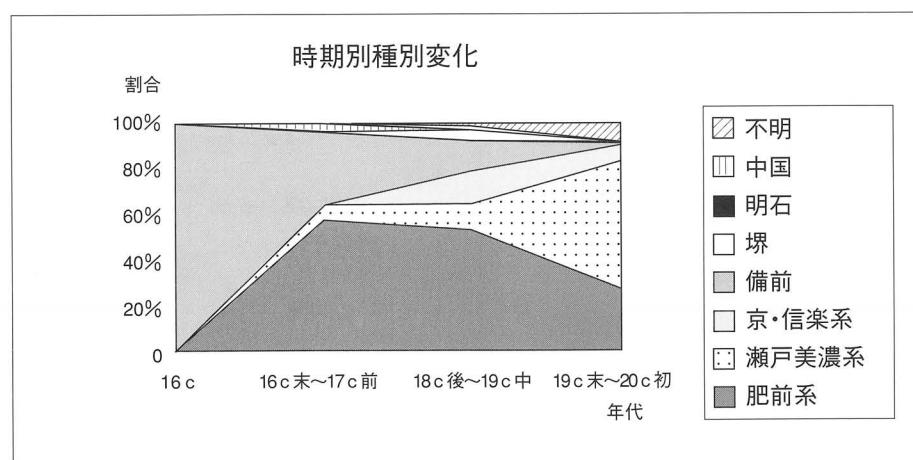


表10 時期別陶磁器产地変化表

	16c	16c末~17c前	18c後~19c中	19c末~20c初
肥前系	0%	59%	53%	28%
瀬戸美濃系	0%	4%	11%	54%
京・信楽系	0%	0%	15%	9%
備前	100%	33%	13%	0%
堺	0%	0%	4%	0%
明石	0%	0%	2%	2%
中國	0%	4%	0%	0%
不明	0%	0%	2%	7%
合計	100%	100%	100%	100%



ある。表7・8にあらわした。

さて、ここで各時期の土器の種類別の変化を見していくことにする。表9にあらわした。土師器などの土器は16世紀では83%を占めている。ほとんどすべての器種で見られる。16世紀末～17世紀になると土器の割合は45%まで落ち込んでいる。18世紀後半～19世紀中葉になると瓦質の羽釜や焰焰といった器種が出現しているものの、さらに土器の割合が減少し35%、19世紀末～20世紀初頭では23%と減少の一途をたどっている。

一方、これに反比例して増加傾向を見せるのが陶磁器類である。16世紀段階では17%にしか過ぎなかつたものが、肥前で陶磁器が生産されるようになってからはあらゆる器種に浸透していった。生産開始直後の16世紀末～17世紀前半で陶磁器はすでに55%を占める。特に肥前系の陶器の皿が目立ち、土師器の小皿を駆逐している。18世紀後半～19世紀中葉では65%、19世紀末～20世紀初頭では77%である。陶磁器は急速に庶民の生活に溶け込み、あらゆる器種に見られるようになっている。その中でも、徐々に磁器の割合が高くなっていることもうかがえる。これまで隆盛を極めた土器は煮炊具と大型品にしか見られなくなっている。

このように、庶民レベルまで急速に浸透していった陶磁器文化であるが、その生産地についても変化が見られる。表10にあらわした。16世紀段階では若干の中国製の輸入陶磁器が見られるが、ほぼ100%備前焼である。これは生産地が近いことに起因すると考えられる。備前焼の器種では擂鉢が最も多く、甕や壺なども見られる。

16世紀末～17世紀前半では肥前で陶磁器生産が始まったこともあり、肥前系が59%を占める。備前焼にはない小皿や碗といった形態のものでその数を伸ばしている。このため、土器を含めた全体での数量的な割合はさして変わらないが、陶磁器内の割合は33%まで落ち込んでいる。また、瀬戸美濃系や輸入陶磁器もわずかながら出土している。

18世紀後半～19世紀中葉では肥前系が53%と相変わらず安定した供給がなされている。また、京・信楽系が15%、瀬戸美濃系が11%とその数を増加させている。18世紀末頃に瀬戸でも磁器生産を開始したことと密接にかかわっていると考えられる。一方、擂鉢の絶対量減少の影響もあるのか、備前焼は13%と落ち込んでいる。この時期には新たに堺や明石といった地域で鉢の生産がされており、これらの地域のものも見られる。

19世紀末～20世紀初頭ではこれまでの肥前系にとって変わって瀬戸美濃系が54%と過半を占める。しかししながら、肥前系も28%と健闘を見せている。おそらく、肥前で作られたものは少なく、愛媛県の砥部焼のものが多いと考えられる。備前焼はほとんど見られず、明石焼にとって変わられている。

以上のような結果を得たが、消費地での様相はその場所場所で変化を見せると考えられる。ここ高松では対岸に備前焼、隣県に肥前系の砥部焼などが見られることからその影響を強く受けていることが予想される。

#### 〈参考文献〉

- 1988 大橋康二ほか 『別冊太陽no.63 古伊万里』  
1989 大橋康二 『肥前陶磁』 ニューサイエンス社

## 第4節 高松平野の地震痕跡について

川南・東遺跡ではI区において安政の南海地震（1854）年に伴う噴砂を検出した。実年代のはっきりした地震痕跡は少ない。遺跡の西に近接する川南・西遺跡でも1596年または1707年の地震後を確認している。

香川県下では発掘調査に際し多数の地震痕跡が認められている。現在報告されているものは11例あるが、その分布は現在のところ高松平野だけに限られる。これまで発掘調査が高松平野にかたよっていたことも原因の1つである。しかしながら、近年の他地域の調査においてもその報告例はなく、高松平野が比較的液状化の起こりやすい条件を備えていることも視野に入れて検討すべきである。液状化は比較的新しい時期にゆるく堆積した層があることと、そこに豊富な地下水があることの2点があげられるが、高松平野はその条件をよく満たしている。

香東川をはじめとする河川によってできた沖積平野であり、阿讚山脈を発した流れは中流域で伏流し、扇状地形の末端部分で出水として湧き出している。扇状地形の末端部分に液状化が多いのはこのためと考えられる。また、本遺跡周辺のように中世段階まで河川の氾濫原で、なおかつ海岸線に近い部分においても液状化が起きやすい。

なお、地震という我々の実生活にかかわってくるテーマだけに今後も調査・検討を行っていただきたい。

高松平野の地震関係遺跡一覧表

	遺跡名	所在地	種類	年代等	立地
1	川南・東遺跡	春日町	噴砂	1854年安政南海地震	当時の海岸線
2	川南・西遺跡	春日町	噴砂	1596年または1707年	当時の海岸線
3	六条・上所遺跡	六条町	噴砂	江戸時代以前	沖積平野
4	弘福寺領讃岐国山田郡田岡関係遺跡	林町	噴砂	弥生時代	沖積平野
5	林下所遺跡	林町	噴礫	不明	沖積平野
6	一角遺跡	林町	噴砂	弥生終末期	扇状地形末端
7	空港跡地遺跡	林町	噴砂	江戸時代	扇状地形末端
8	凹原遺跡	多肥下町	噴砂	弥生終末～室町時代	扇状地形末端
9	松林遺跡	多肥上町	噴礫	弥生中期中葉	扇状地形末端
10	西ハゼ土居遺跡	西ハゼ町	噴砂	弥生時代	沖積平野
11	筑城城跡	鶴市町	噴砂	江戸後期以前	沖積平野

\*未報告ではあるが、今年度調査を行った東中筋遺跡においても噴砂が見られた。

### 〈参考文献〉

- 1992 寒川 旭 『地震考古学』 中央公論社  
1996 大嶋和則 『香川県』 『発掘された地震痕跡』 埋文関係救援連絡会議  
1999 木下晴一 『香川県の地震と遺跡』 『古代学研究146』 古代学研究会  
2000 大嶋和則 『一角遺跡』 高松市教育委員会

# 遺構一覽表



I 区遺構一覧表

遺構名	位置	種類	平面形態	長さ(長径)	幅(短径)	深さ	遺物量	報告書
NR-1 0 0 1	I 区南西	自然河道		12.75	5.9	0.3	ビニール袋小2	○
SK-1 0 0 1	I 区北東端	土杭	円形	1.2	0.7	0.25		
SK-1 0 0 2	I 区北東端	土杭	円形	1.3	1.1	0.25		
SK-1 0 0 3	I 区北東端	土杭	楕円形	1.4	0.8	0.2		
SK-1 0 0 4	I 区中央北	土杭	隅丸方形	0.9	0.7	0.2	ビニール袋小1	○
SK-1 0 0 5	I 区南東	土杭	不整形	2.8	1.1	0.2		
SK-1 0 0 6	I 区中央南	土杭	不整形	1.2	0.8	0.25		
SK-1 0 0 7	I 区南東	土杭	隅丸方形	1.8	0.6	0.5		
SK-1 0 0 8	I 区中央南	土杭	楕円形	1.1	0.7	0.25		
SD-1 0 0 1	I 区北東	溝		2.55	0.5	0.1		
SD-1 0 0 2	I 区北東	溝		3.15	0.45	0.25		
SD-1 0 0 3	I 区南東	溝		4.3	0.3	0.15		
SD-1 0 0 4	I 区南東	溝		3.4	0.5	0.2		
SD-1 0 0 5	I 区中央北	溝		2.4	0.3	0.25		
SD-1 0 0 6	I 区中央	溝		4.65	0.35	0.1	ビニール袋小1	
SD-1 0 0 7	I 区中央	溝		5.55	0.4	0.1	ビニール袋小1	
SD-1 0 0 8	I 区中央	溝		17	1.15	0.3	ビニール袋大1 小2	○
SD-1 0 0 9	I 区中央北	溝		4.8	0.2	0.5		
SD-1 0 1 0	I 区中央北	溝		3.9	1.35	0.15		
SD-1 0 1 1	I 区北西	溝		21	0.5	0.15	ビニール袋小2	○
SD-1 0 1 2	I 区南西	溝		6.9	0.3	0.15		
SD-1 0 1 3	I 区南西	溝		2	0.5	0.15		
SD-1 0 1 4	I 区中央	溝		0.7	0.2	0.05		○
SD-1 0 1 5	I 区中央	溝		1.2	0.3	0.1		○
SD-1 0 1 6	I 区中央南	溝		0.9	0.2	0.05		○
SD-1 0 1 7	I 区中央南	溝		0.85	0.2	0.05		○
SD-1 0 1 8	I 区中央南	溝		0.85	0.2	0.05		○
SD-1 0 1 9	I 区中央南	溝		2.35	0.15	0.06		○
SD-1 0 2 0	I 区中央南	溝		0.95	0.15	0.05		○
SD-1 0 2 1	I 区中央南	溝		0.9	0.25	0.1		○
SD-1 0 2 2	I 区中央南	溝		1.1	0.25	0.05		○
SD-1 0 2 3	I 区中央南	溝		0.9	0.2	0.1		○
SD-1 0 2 4	I 区中央南	溝		1.5	0.25	0.05		○
SD-1 0 2 5	I 区中央南	溝		1.5	0.25	0.1		○
SD-1 0 2 6	I 区南東	溝		0.45	0.2	0.05		
SP-1 0 0 1	I 区北東	柱穴	円形	0.2	0.2	0.15		
SP-1 0 0 2	I 区北東	柱穴	円形	0.35	0.25	0.01		
SP-1 0 0 3	I 区北東	柱穴	楕円形	0.55	0.45	0.15		
SP-1 0 0 4	I 区北東端	柱穴	円形	0.4	0.25	0.2		
SP-1 0 0 5	I 区北東	柱穴	円形	0.35	0.3	0.2		
SP-1 0 0 6	I 区北東	柱穴	円形	0.4	0.4	0.25		
SP-1 0 0 7	I 区北東	柱穴	円形	0.4	0.4	0.25		
SP-1 0 0 8	I 区北東	柱穴	円形	0.35	0.3	0.25		
SP-1 0 0 9	I 区北東	柱穴	円形	0.3	0.25	0.3		
SP-1 0 1 0	I 区北東端	柱穴	円形	0.35	0.2	0.2		
SP-1 0 1 1	I 区北東	柱穴	円形	0.35	0.3	0.15		
SP-1 0 1 2	I 区北東	柱穴	円形	0.2	0.2	0.55		
SP-1 0 1 3	I 区北東	柱穴	円形	0.4	0.35	0.35		
SP-1 0 1 4	I 区北東	柱穴	円形	0.25	0.2	0.2		
SP-1 0 1 5	I 区北東	柱穴	円形	0.4	0.3	0.25		
SP-1 0 1 6	I 区北東	柱穴	円形	0.35	0.3	0.2		
SP-1 0 1 7	I 区北東	柱穴	円形	0.15	0.1	0.15		
SP-1 0 1 8	I 区北東	柱穴	円形	0.15	0.15	0.15		
SP-1 0 1 9	I 区北東	柱穴	円形	0.25	0.2	0.25		
SP-1 0 2 0	I 区北東	柱穴	円形	0.3	0.3	0.2		
SP-1 0 2 1	I 区北東	柱穴	円形	0.6	0.5	0.25		
SP-1 0 2 2	I 区北東	柱穴	楕円形	0.55	0.5	0.25		
SP-1 0 2 3	I 区北東	柱穴	楕円形	0.65	0.3	0.25		
SP-1 0 2 4	I 区北東	柱穴	円形	0.3	0.25	0.25		
SP-1 0 2 5	I 区北東	柱穴	円形	0.25	0.2	0.15		
SP-1 0 2 6	I 区北東	柱穴	円形	0.2	0.15	0.15		
SP-1 0 2 7	I 区北東	柱穴	円形	0.2	0.15	0.1		
SP-1 0 2 8	I 区北東	柱穴	円形	0.2	0.2	0.2		
SP-1 0 2 9	I 区北東	柱穴	円形	0.25	0.25	0.25		
SP-1 0 3 0	I 区北東	柱穴	円形	0.25	0.25	0.2		
SP-1 0 3 1	I 区北東	柱穴	円形	0.25	0.2	0.2		
SP-1 0 3 2	I 区北東	柱穴	円形	0.3	0.25	0.2		
SP-1 0 3 3	I 区北東端	柱穴	楕円形	0.6	0.25	0.2		
SP-1 0 3 4	I 区北東	柱穴	円形	0.2	0.2	0.15		
SP-1 0 3 5	I 区北東	柱穴	円形	0.35	0.3	0.2		
SP-1 0 3 6	I 区北東	柱穴	円形	0.25	0.2	0.15		
SP-1 0 3 7	I 区北東	柱穴	円形	0.15	0.15	0.2		

遺構名	位置	種類	平面形態	長さ(長径)	幅(短径)	深さ	遺物量	報告書
SP-1038	I区北東	柱穴	円形	0.25	0.2	0.25		
SP-1039	I区北東	柱穴	円形	0.3	0.25	0.15		
SP-1040	I区北東	柱穴	円形	0.25	0.25	0.25		
SP-1041	I区北東	柱穴	円形	0.25	0.2	0.2		
SP-1042	I区北東	柱穴	円形	0.25	0.2	0.15		
SP-1043	I区北東	柱穴	円形	0.3	0.25	0.2		
SP-1044	I区北東	柱穴	円形	0.3	0.2	0.15		
SP-1045	I区北東	柱穴	円形	0.2	0.2	0.15		
SP-1046	I区北東	柱穴	正方形	0.3	0.3	0.15		
SP-1047	I区北東	柱穴	円形	0.2	0.2	0.2		
SP-1048	I区北東	柱穴	正方形	0.45	0.4	0.15		
SP-1049	I区北東	柱穴	円形	0.2	0.2	0.15		
SP-1050	I区北東	柱穴	円形	0.25	0.25	0.25		
SP-1051	I区北東	柱穴	円形	0.25	0.25	0.15		
SP-1052	I区北東	柱穴	円形	0.2	0.2	0.15		
SP-1053	I区北東	柱穴	円形	0.15	0.15	0.15		
SP-1054	I区北東	柱穴	楕円形	0.8	0.35	0.15		
SP-1055	I区北東	柱穴	円形	0.2	0.2	0.15		
SP-1056	I区北東	柱穴	円形	0.25	0.2	0.25		
SP-1057	I区北東	柱穴	円形	0.3	0.25	0.15		
SP-1058	I区北東	柱穴	正方形	0.3	0.25	0.25		
SP-1059	I区北東	柱穴	円形	0.2	0.2	0.25		
SP-1060	I区北東	柱穴	円形	0.25	0.2	0.25		
SP-1061	I区北東	柱穴	円形	0.2	0.2	0.1		
SP-1062	I区北東	柱穴	円形	0.55	0.5	0.15	ビニール袋小1	
SP-1063	I区北東	柱穴	円形	0.2	0.2	0.2		
SP-1064	I区北東	柱穴	円形	0.15	0.15	0.2		
SP-1065	I区北東	柱穴	円形	0.2	0.15	0.2		
SP-1066	I区北東	柱穴	円形	0.25	0.2	0.2		
SP-1067	I区中央北	柱穴	円形	0.25	0.2	0.1		
SP-1068	I区中央北	柱穴	円形	0.25	0.25	0.2		
SP-1069	I区中央北	柱穴	円形	0.2	0.15	0.2		
SP-1070	I区中央北	柱穴	円形	0.3	0.25	0.15		
SP-1071	I区北東	柱穴	円形	0.2	0.15	0.2		
SP-1072	I区北東	柱穴	円形	0.15	0.1	0.1		
SP-1073	I区中央北	柱穴	楕円形	0.5	0.35	0.1		
SP-1074	I区中央北	柱穴	円形	0.2	0.2	0.2		
SP-1075	I区中央北	柱穴	円形	0.35	0.3	0.15		
SP-1076	I区中央北	柱穴	円形	0.3	0.3	0.1		
SP-1077	I区北東	柱穴	円形	0.25	0.2	0.1		
SP-1078	I区北東	柱穴	円形	0.2	0.2	0.1		
SP-1079	I区北東	柱穴	円形	0.15	0.1	0.1		
SP-1080	I区北東	柱穴	円形	0.25	0.2	0.2		
SP-1081	I区中央北	柱穴	円形	0.2	0.15	0.2		
SP-1082	I区中央北	柱穴	円形	0.15	0.15	0.2		
SP-1083	I区北東	柱穴	楕円形	0.45	0.4	0.2		
SP-1084	I区南東	柱穴	円形	0.45	0.4	0.2		
SP-1085	I区南東	柱穴	楕円形	0.7	0.6	0.2		
SP-1086	I区南東	柱穴	楕円形	0.25	0.2	0.2		
SP-1087	I区南東	柱穴	楕円形	0.5	0.4	0.1		
SP-1088	I区南東	柱穴	円形	0.4	0.4	0.1		
SP-1089	I区南東	柱穴	円形	0.3	0.25	0.3		
SP-1090	I区南東	柱穴	円形	0.3	0.25	0.3		
SP-1091	I区南東	柱穴	円形	0.2	0.2	0.2		
SP-1092	I区南東	柱穴	円形	0.2	0.2	0.1		
SP-1093	I区南東	柱穴	円形	0.25	0.2	0.2		
SP-1094	I区南東	柱穴	円形	0.4	0.35	0.2		
SP-1095	I区南東	柱穴	円形	0.55	0.45	0.3		
SP-1096	I区南東	柱穴	円形	0.35	0.3	0.2		
SP-1097	I区南東	柱穴	円形	0.3	0.3	0.15		
SP-1098	I区南東	柱穴	円形	0.5	0.45	0.2		
SP-1099	I区南東	柱穴	円形	0.3	0.3	0.15		
SP-1100	I区南東	柱穴	円形	0.25	0.2	0.05		
SP-1101	I区中央	柱穴	円形	0.2	0.2	0.2		
SP-1102	I区中央	柱穴	円形	0.25	0.25	0.2		
SP-1103	I区中央	柱穴	円形	0.3	0.3	0.2		
SP-1104	I区中央	柱穴	円形	0.25	0.2	0.3		
SP-1105	I区中央	柱穴	楕円形	0.45	0.4	0.2		
SP-1106	I区南東	柱穴	円形	0.45	0.4	0.2		
SP-1107	I区中央北	柱穴	不整形	0.6	0.5	0.1		
SP-1108	I区中央北	柱穴	円形	0.2	0.2	0.1		
SP-1109	I区中央北	柱穴	円形	0.35	0.3	0.2		
SP-1110	I区中央北	柱穴	円形	0.4	0.35	0.2		

遺構名	位置	種類	平面形態	長さ(長径)	幅(短径)	深さ	遺物量	報告書
SP-1 1 1 1	I 区中央北	柱穴	円形	0.2	0.2	0.2		
SP-1 1 1 2	I 区中央北	柱穴	円形	0.3	0.2	0.2		
SP-1 1 1 3	I 区中央北	柱穴	円形	0.25	0.2	0.2		
SP-1 1 1 4	I 区中央北	柱穴	円形	0.2	0.2	0.2		
SP-1 1 1 5	I 区中央北	柱穴	円形	0.35	0.3	0.25		
SP-1 1 1 6	I 区中央北	柱穴	円形	0.3	0.25	0.1		
SP-1 1 1 7	I 区中央北	柱穴	円形	0.25	0.25	0.3		
SP-1 1 1 8	I 区中央北	柱穴	円形	0.3	0.25	0.2		
SP-1 1 1 9	I 区中央北	柱穴	円形	0.4	0.2	0.1		
SP-1 1 2 0	I 区中央北	柱穴	円形	0.3	0.2	0.1		
SP-1 1 2 1	I 区中央北	柱穴	円形	0.7	0.3	0.15		
SP-1 1 2 2	I 区中央北	柱穴	円形	0.2	0.2	0.1		
SP-1 1 2 3	I 区北西	柱穴	円形	0.3	0.3	0.1		
SP-1 1 2 4	I 区中央北	柱穴	円形	0.35	0.3	0.15		
SP-1 1 2 5	I 区中央北	柱穴	円形	0.5	0.3	0.05		
SP-1 1 2 6	I 区中央北	柱穴	円形	0.6	0.4	0.2		
SP-1 1 2 7	I 区中央北	柱穴	円形	0.3	0.25	0.2		
SP-1 1 2 8	I 区中央北	柱穴	楕円形	0.8	0.5	0.3	ビニール袋小1	○
SP-1 1 2 9	I 区北西	柱穴	円形	0.5	0.4	0.1		
SP-1 1 3 0	I 区北西	柱穴	円形	0.6	0.4	0.3		
SP-1 1 3 1	I 区中央南	柱穴	円形	0.6	0.5	0.2		
SP-1 1 3 2	I 区中央南	柱穴	円形	0.4	0.4	0.25	ビニール袋小1	
SP-1 1 3 3	I 区南西	柱穴	円形	0.4	0.35	0.1		
SP-1 1 3 4	I 区南西	柱穴	円形	0.3	0.2	0.1		
SP-1 1 3 5	I 区南西	柱穴	円形	0.45	0.4	0.2		
SP-1 1 3 6	I 区南西	柱穴	円形	0.25	0.2	0.2		
SP-1 1 3 7	I 区南西	柱穴	楕円形	0.7	0.65	0.3		
SP-1 1 3 8	I 区南西	柱穴	円形	0.3	0.3	0.1		
SP-1 1 3 9	I 区北東	柱穴	円形	0.3	0.3	0.2		○

## II区遺構一覧表

遺構名	位置	種類	平面形態	長さ(長径)	幅(短径)	深さ	遺物量	報告書
SK-2 0 0 1	II区北東	土杭	円形	1.2	1.15	0.3	ビニール袋小1	
SK-2 0 0 2	II区北東	土杭	円形	1.3	1.2	0.2		
SK-2 0 0 3	II区北東	土杭	楕円形	1	0.8	0.2	ビニール袋小1	○
SK-2 0 0 4	II区北東	土杭	不整形	2.1	0.4	0.1	ビニール袋小1	
SK-2 0 0 5	II区北東	土杭	楕円形	1	0.7	0.1	ビニール袋小1	
SK-2 0 0 6	II区北東	土杭	楕円形	1.3	1	0.1		
SK-2 0 0 7	II区北東	土杭	隅丸方形	0.9	0.8	0.2	ビニール袋小1	
SK-2 0 0 8	II区北東	土杭	隅丸方形	1	0.8	0.1	ビニール袋小1	○
SK-2 0 0 9	II区北東	土杭	隅丸方形	1.2	1	0.25		
SK-2 0 1 0	II区北東	土杭	不整形	2.8	0.9	0.65		
SK-2 0 1 1	II区北東	土杭	円形	1	0.85	0.3	ビニール袋小2	○
SK-2 0 1 2	II区北東	土杭	楕円形	1.15	0.55	0.35	ビニール袋大1 小9	○
SK-2 0 1 3	II区北東	土杭	楕円形	1.15	0.75	0.1		
SK-2 0 1 4	II区北東	土杭	円形	0.8	0.7	0.3	ビニール袋小3	○
SK-2 0 1 5	II区北東	土杭	不整形	2	1.5	0.35	ビニール袋大1 小4	○
SK-2 0 1 6	II区北東	土杭	楕円形	1.5	0.75	0.3		
SK-2 0 1 7	II区北東	土杭	楕円形	0.85	0.6	0.05		
SK-2 0 1 8	II区北東	土杭	隅丸方形	1.1	1.05	0.2	ビニール袋小1	
SK-2 0 1 9	II区南東	土杭	隅丸方形	1.5	1.2	0.3	ビニール袋小1	○
SK-2 0 2 0	II区南東	土杭	円形	1.5	1.45	0.6	ビニール袋大1	○
SK-2 0 2 1	II区南東	土杭	円形	1.85	1.55	0.45	ビニール袋小1	
SK-2 0 2 2	II区南東	土杭	円形	1	0.9	0.2		
SK-2 0 2 3	II区中央北	土杭	楕円形	1.35	1.15	0.45	ビニール袋大2 小13	○
SK-2 0 2 4	II区中央北	土杭	楕円形	1.3	1	0.4	ビニール袋小6	○
SK-2 0 2 5	II区中央北	土杭	楕円形	1.5	0.9	0.15	ビニール袋小4	○
SK-2 0 2 6	II区中央北	土杭	楕円形	1.1	0.4	0.5	コンテナ1	○
SK-2 0 2 7	II区中央北	土杭	隅丸方形	2.2	1.3	0.4	コンテナ2	○
SK-2 0 2 8	II区中央北	土杭	楕円形	1.1	0.9	0.4	ビニール袋小4	○
SK-2 0 2 9	II区中央北	土杭	楕円形	1.3	0.7	0.45	ビニール袋大1 小2	○
SK-2 0 3 0	II区中央北	土杭	楕円形	1	0.75	0.4	ビニール袋小1	○
SK-2 0 3 1	II区中央北	土杭	楕円形	1	0.7	0.35	ビニール袋小2	○
SK-2 0 3 2	II区中央北	土杭	楕円形	0.9	0.6	0.4	ビニール袋小3	○
SK-2 0 3 3	II区中央北	土杭	円形	0.7	0.6	0.2	ビニール袋小1	
SK-2 0 3 4	II区中央北	土杭	楕円形	1.15	0.6	0.4		
SK-2 0 3 5	II区中央北	土杭	隅丸方形	1.2	0.8	0.25		
SK-2 0 3 6	II区中央北	土杭	隅丸方形	0.75	0.65	0.4	ビニール袋小4	○
SK-2 0 3 7	II区中央北	土杭	隅丸方形	0.75	0.75	0.25		○
SK-2 0 3 8	II区中央北	土杭	隅丸方形	0.95	0.75	0.35	ビニール袋小1	
SK-2 0 3 9	II区中央北	土杭	隅丸方形	0.95	0.75	0.35	ビニール袋小1	
SK-2 0 4 0	II区中央北	土杭	円形	0.9	0.8	0.5	コンテナ1	○
SK-2 0 4 1	II区中央北	土杭	楕円形	0.85	0.55	0.2	ビニール袋小1	
SK-2 0 4 2	II区中央北	土杭	楕円形	1.45	0.65	0.3	ビニール袋小5	○

遺構名	位置	種類	平面形態	長さ(長径)	幅(短径)	深さ	遺物量	報告書
SK-2 0 4 3	II区中央北	土杭	楕円形	1.9	1.8	0.2	ビニール袋大1 小5	○
SK-2 0 4 4	II区中央北	土杭	円形	1	0.95	0.2	ビニール袋小5	
SK-2 0 4 5	II区中央北	土杭	楕円形	1.35	1.3	0.3		
SK-2 0 4 6	II区中央	土杭	楕円形	2.5	1.5	0.4	ビニール袋大1 小3	○
SK-2 0 4 7	II区中央	土杭	楕円形	1.2	0.5	0.4		
SK-2 0 4 8	II区中央南	土杭	楕円形	0.9	0.75	0.4	ビニール袋小6	○
SK-2 0 4 9	II区中央南	土杭	隅丸方形	0.9	0.8	0.3	コンテナ1	○
SK-2 0 5 0	II区中央南	土杭	隅丸方形	1.45	0.9	0.3	ビニール袋小5	○
SK-2 0 5 1	II区中央南	土杭	楕円形	1.65	1	0.25	コンテナ1 ビニール袋大1 小15	○
SK-2 0 5 2	II区中央南	土杭	楕円形	1.15	0.75	0.2	ビニール袋小1	
SK-2 0 5 3	II区中央	土杭	円形	0.85	0.75	0.6	ビニール袋小1	○
SK-2 0 5 4	II区中央	土杭	楕円形	0.9	0.6	0.4	ビニール袋小3	○
SK-2 0 5 5	II区中央南	土杭	楕円形	1.55	0.9	0.2	ビニール袋小6	○
SK-2 0 5 6	II区中央南	土杭	楕円形	1.7	1.2	0.3	ビニール袋小2	○
SK-2 0 5 7	II区中央南	土杭	楕円形	1.5	1	0.5	ビニール袋小4	○
SK-2 0 5 8	II区中央南	土杭	隅丸方形	1	0.95	0.2		
SK-2 0 5 9	欠番							
SK-2 0 6 0	欠番							
SK-2 0 6 1	II区北西	土杭	楕円形	1.25	0.7	0.3		
SK-2 0 6 2	II区北西	土杭	楕円形	1.1	0.9	0.2	ビニール袋小1	
SK-2 0 6 3	II区北西	土杭	楕円形	1.1	0.65	0.4	ビニール袋小1	
SK-2 0 6 4	II区北西	土杭	楕円形	0.75	0.6	0.3	ビニール袋小3	○
SK-2 0 6 5	II区南西	土杭	楕円形	0.9	0.7	0.3	ビニール袋小1	○
SK-2 0 6 6	II区南西	土杭	楕円形	1.1	0.95	0.05	ビニール袋大1	
SK-2 0 6 7	II区南西	土杭	楕円形	1.15	1	0.3	ビニール袋小1	
SK-2 0 6 8	II区南西	土杭	楕円形	1.35	1.15	0.3		
SK-2 0 6 9	II区南西	土杭	楕円形	1.3	1.05	0.5	ビニール袋小2	○
SK-2 0 7 0	II区南西	土杭	楕円形	1.5	1.3	0.2		
SK-2 0 7 1	II区南西	土杭	円形	0.7	0.7	0.2	ビニール袋小1	
SK-2 0 7 2	II区北西	土杭	楕円形	1.55	1.5	0.3	ビニール袋小1	○
SK-2 0 7 3	II区南西	土杭	楕円形	1.05	0.9	0.2	ビニール袋小1	○
SK-2 0 7 4	II区南西	土杭	楕円形	0.9	0.85	0.2	ビニール袋小1	
SK-2 0 7 5	II区南西	土杭	楕円形	3.15	2.65	0.4	コンテナ10	
SK-2 0 7 6	II区南西端	土杭	楕円形	1.8	0.8	0.2		
SK-2 0 7 7	II区北西	土杭	楕円形	0.9	0.7	0.25		
SK-2 0 7 8	II区北西	土杭	楕円形	1	0.8	0.1		
SK-2 0 7 9	II区北西	土杭	楕円形	0.9	0.85	0.15		
SK-2 0 8 0	II区北西	土杭	楕円形	0.9	0.5	0.3		
SK-2 0 8 1	II区北西	土杭	楕円形	1	0.7	0.3	ビニール袋大1	
SK-2 0 8 2	II区北西	土杭	楕円形	1.15	0.9	0.3		
SK-2 0 8 3	II区南西	土杭	楕円形	1	0.7	0.2		
SK-2 0 8 4	II区南西	土杭	楕円形	1.5	1.45	0.6	ビニール袋小2	○
SD-2 0 0 1	II区北東	溝		0.9	0.35	0.2	ビニール袋小1	○
SD-2 0 0 2	II区北東	溝		13.5	0.4	0.2		
SD-2 0 0 3	II区北東	溝		1.3	0.35	0.3	ビニール袋小5	○
SD-2 0 0 4	II区北東	溝		3.3	0.35	0.2		
SD-2 0 0 5	欠番							
SD-2 0 0 6	欠番							
SD-2 0 0 7	II区北東	溝		0.9	0.3	0.15		
SD-2 0 0 8	II区北東	溝		3.45	0.4	0.2	ビニール袋小1	
SD-2 0 0 9	II区北東	溝		2.9	0.4	0.25		
SD-2 0 1 0	II区北東	溝		8	0.45	0.2	ビニール袋小4	○
SD-2 0 1 1	II区北東	溝		8.1	0.5	0.25		
SD-2 0 1 2	II区北東	溝		0.7	0.25	0.5		
SD-2 0 1 3	II区北東	溝		0.8	0.2	0.25		
SD-2 0 1 4	II区南東	溝		5.55	0.3	0.25	ビニール袋小2	○
SD-2 0 1 5	II区南東	溝		1.4	0.35	0.2		
SD-2 0 1 6	II区南東	溝		3.45	0.4	0.15		
SD-2 0 1 7	II区中央北	溝		2.7	0.2	0.3		
SD-2 0 1 8	II区中央北	溝		3.4	0.2	0.25		
SD-2 0 1 9	II区中央	溝		1.7	0.45	0.2		
SD-2 0 2 0	II区中央	溝		1.5	0.2	0.2		
SD-2 0 2 1	II区中央	溝		0.8	0.3	0.1		
SD-2 0 2 2	II区中央	溝		1.4	0.2	0.2		
SD-2 0 2 3	II区中央	溝		2	0.45	0.3		
SD-2 0 2 4	II区中央	溝		1.75	0.35	0.15	ビニール袋小1	
SD-2 0 2 5	II区中央南	溝		1.7	0.3	0.2		
SD-2 0 2 6	II区中央南端	溝		2	0.2	0.05		
SD-2 0 2 7	II区中央	溝		14.05	0.6	0.3	ビニール袋大2 小6	○
SD-2 0 2 8	II区中央北	溝		0.8	0.25	0.25		
SD-2 0 2 9	II区中央北	溝		1.1	0.25	0.1	ビニール袋小1	
SD-2 0 3 0	II区中央	溝		4	0.3	0.25	ビニール袋小1	
SD-2 0 3 1	II区中央南端	溝		7.4	0.9	0.2	ビニール袋小8	○

遺構名	位置	種類	平面形態	長さ(長径)	幅(短径)	深さ	遺物量	報告書
SD-2 0 3 2	II区中央南	溝		3.75	0.4	0.2		
SD-2 0 3 3	II区中央南	溝		4.45	0.25	0.15	ビニール袋小1	
SD-2 0 3 4	II区中央南	溝		2.6	0.2	0.3	ビニール袋小4	○
SD-2 0 3 5	II区中央南	溝		2.05	0.25	0.05		
SD-2 0 3 6	II区中央	溝		0.9	0.3	0.4		
SD-2 0 3 7	II区中央	溝		5.3	0.4	0.15	ビニール袋小1	
SD-2 0 3 8	II区中央	溝		2.5	0.5	0.2		
SD-2 0 3 9	II区南東	溝		1.1	0.35	0.2		
SD-2 0 4 0	II区北西端	溝		1.5	0.4	0.25		○
SD-2 0 4 1	II区北西	溝		3	0.45	0.4	ビニール袋小1	
SD-2 0 4 2	II区北西	溝		3	0.35	0.25	ビニール袋小4	○
SD-2 0 4 3	II区北西	溝		6.5	0.85	0.2		
SD-2 0 4 4	II区北西	溝		0.65	0.2	0.1		
SD-2 0 4 5	II区西中央	溝		5.05	0.2	0.05	ビニール袋小2	○
SD-2 0 4 6	II区南西	溝		5.5	0.5	0.2		
SD-2 0 4 7	II区南西	溝		0.6	0.3	0.15		
SD-2 0 4 8	II区南西	溝		0.55	0.2	0.2		
SD-2 0 4 9	II区南西	溝		2.4	0.45	0.2		
SD-2 0 5 0	II区北西	溝		1.1	0.3	0.2		
SD-2 0 5 1	II区北西	溝		3.8	0.4	0.15		○
SD-2 0 5 2	II区北西	溝		12.8	0.4	0.15		
SD-2 0 5 3	II区南西	溝		2.6	0.55	0.3		
SP-2 0 0 1	II区北東	柱穴	楕円形	0.6	0.5	0.5		
SP-2 0 0 2	II区北東	柱穴	楕円形	0.45	0.35	0.25		
SP-2 0 0 3	II区北東	柱穴	円形	0.3	0.3	0.2		
SP-2 0 0 4	II区北東	柱穴	楕円形	0.5	0.4	0.2		
SP-2 0 0 5	II区北東	柱穴	円形	0.3	0.3	0.2		
SP-2 0 0 6	II区北東	柱穴	楕円形	0.3	0.2	0.25		
SP-2 0 0 7	II区北東	柱穴	楕円形	0.25	0.2	0.2		
SP-2 0 0 8	II区北東	柱穴	円形	0.2	0.2	0.2		
SP-2 0 0 9	II区北東	柱穴	円形	0.25	0.2	0.2		
SP-2 0 1 0	II区北東	柱穴	円形	0.15	0.1	0.2		
SP-2 0 1 1	II区北東	柱穴	円形	0.3	0.3	0.3	ビニール袋小1	
SP-2 0 1 2	II区北東	柱穴	楕円形	0.45	0.2	0.2		
SP-2 0 1 3	II区北東	柱穴	円形	0.4	0.3	0.2		
SP-2 0 1 4	II区北東	柱穴	円形	0.3	0.2	0.2		
SP-2 0 1 5	II区北東	柱穴	円形	0.4	0.3	0.3		
SP-2 0 1 6	II区北東	柱穴	円形	0.2	0.15			
SP-2 0 1 7	II区北東	柱穴	円形	0.4	0.15			
SP-2 0 1 8	II区北東	柱穴	円形	0.45	0.3	0.1		
SP-2 0 1 9	II区北東	柱穴	円形	0.3	0.3	0.2	ビニール袋大1	○
SP-2 0 2 0	II区北東	柱穴	楕円形	0.8	0.5	0.3		
SP-2 0 2 1	II区北東	柱穴	楕円形	0.45	0.35	0.2		
SP-2 0 2 2	II区北東	柱穴	円形	0.5	0.4	0.3		
SP-2 0 2 3	II区北東	柱穴	円形	0.5	0.45	0.2		
SP-2 0 2 4	II区北東	柱穴	楕円形	0.45	0.4	0.05		
SP-2 0 2 5	II区北東	柱穴	円形	0.25	0.25	0.2		
SP-2 0 2 6	II区北東	柱穴	円形	0.4	0.3	0.25		
SP-2 0 2 7	II区北東	柱穴	楕円形	0.35	0.2			
SP-2 0 2 8	II区北東	柱穴	楕円形	0.5	0.4	0.25		
SP-2 0 2 9	II区北東	柱穴	楕円形	0.35	0.25	0.1		
SP-2 0 3 0	II区北東	柱穴	円形	0.2	0.15	0.1		
SP-2 0 3 1	欠番							
SP-2 0 3 2	欠番							
SP-2 0 3 3	II区北東	柱穴	楕円形	0.35	0.3	0.3		
SP-2 0 3 4	II区北東	柱穴	楕円形	0.35	0.3	0.3		
SP-2 0 3 5	II区北東	柱穴	円形	0.45	0.4	0.3		
SP-2 0 3 6	II区北東	柱穴	楕円形	0.6	0.5	0.2		
SP-2 0 3 7	II区北東	柱穴	楕円形	0.9	0.75	0.4		
SP-2 0 3 8	II区北東	柱穴	楕円形	0.3	0.2	0.1		
SP-2 0 3 9	II区北東	柱穴	楕円形	0.8	0.5	0.1	ビニール袋小1	
SP-2 0 4 0	II区北東	柱穴	楕円形	0.45	0.35	0.25		
SP-2 0 4 1	II区北東	柱穴	円形	0.35	0.35	0.2		
SP-2 0 4 2	II区北東	柱穴	円形	0.45	0.45	0.3		
SP-2 0 4 3	II区中央北	柱穴	楕円形	0.5	0.45	0.2	ビニール袋小1	
SP-2 0 4 4	欠番							
SP-2 0 4 5	II区中央北	柱穴	楕円形	0.8	0.6	0.2	ビニール袋小1	
SP-2 0 4 6	II区中央北	柱穴	楕円形	0.65	0.55	0.15	ビニール袋小3	○
SP-2 0 4 7	II区中央北	柱穴	隅丸方形	0.7	0.65	0.2		
SP-2 0 4 8	II区北東	柱穴	楕円形	0.45	0.4	0.2	ビニール袋小1	
SP-2 0 4 9	II区北東	柱穴	楕円形	0.75	0.6	0.1		
SP-2 0 5 0	II区北東	柱穴	楕円形	0.6	0.4	0.25		
SP-2 0 5 1	欠番							

遺構名	位置	種類	平面形態	長さ(長径)	幅(短径)	深さ	遺物量	報告書
SP-2052	II区中央北	柱穴	楕円形	0.4	0.35	0.05		
SP-2053	II区中央北	柱穴	楕円形	0.4	0.35	0.2		○
SP-2054	II区中央北	柱穴	楕円形	0.55	0.5	0.2	ビニール袋小2	○
SP-2055	欠番							
SP-2056	II区中央北	柱穴	楕円形	0.4	0.3	0.15		
SP-2057	II区中央北	柱穴	楕円形	0.5	0.4	0.15	ビニール袋小2	○
SP-2058	II区中央北	柱穴	楕円形	0.4	0.35	0.15		
SP-2059	II区中央北	柱穴	楕円形	0.35	0.3	0.2		
SP-2060	II区北東	柱穴	楕円形	0.5	0.35	0.2	ビニール袋小1	
SP-2061	II区北東	柱穴	楕円形	0.3	0.25	0.25		
SP-2062	II区北東	柱穴	楕円形	0.75	0.6	0.15		
SP-2063	II区北東	柱穴	隅丸方形	0.35	0.3	0.2		
SP-2064	II区北東	柱穴	隅丸方形	0.4	0.3	0.1		
SP-2065	II区北東	柱穴	楕円形	0.5	0.45	0.3		
SP-2066	II区北東	柱穴	楕円形	0.35	0.3	0.4		
SP-2067	II区北東	柱穴	隅丸方形	0.55	0.5	0.2	ビニール袋小2	○
SP-2068	II区北東	柱穴	楕円形	0.55	0.45	0.05		
SP-2069	II区北東	柱穴	隅丸方形	0.45	0.4	0.2		
SP-2070	II区北東	柱穴	楕円形	0.45	0.35	0.2		
SP-2071	II区北東	柱穴	楕円形	0.55	0.4	0.1		
SP-2072	II区北東	柱穴	楕円形	0.3	0.25	0.1		
SP-2073	II区北東	柱穴	楕円形	0.55	0.5	0.25		
SP-2074	II区北東	柱穴	楕円形	0.65	0.45	0.25		
SP-2075	II区北東	柱穴	楕円形	0.7	0.55	0.15		
SP-2076	II区北東	柱穴	楕円形	0.55	0.45	0.25		
SP-2077	II区北東	柱穴	円形	0.45	0.45	0.3		
SP-2078	II区北東	柱穴	楕円形	0.4	0.35	0.35		
SP-2079	II区北東	柱穴	楕円形	0.25	0.25	0.4		○
SP-2080	II区北東	柱穴	円形	0.6	0.5	0.4	ビニール袋小2	○
SP-2081	II区北東	柱穴	隅丸方形	0.8	0.7	0.25		
SP-2082	II区北東	柱穴	楕円形	0.4	0.25	0.25	ビニール袋小1	
SP-2083	II区北東	柱穴	楕円形	0.3	0.25	0.2	ビニール袋小1	
SP-2084	II区北東	柱穴	楕円形	0.25	0.2	0.2	ビニール袋小3	
SP-2085	II区北東	柱穴	楕円形	0.8	0.6	0.25	ビニール袋小3	
SP-2086	II区北東	柱穴	楕円形	0.6	0.5	0.25		
SP-2087	II区北東	柱穴	楕円形	0.35	0.2	0.1		
SP-2088	II区北東	柱穴	楕円形	0.6	0.55	0.25		
SP-2089	II区北東	柱穴	楕円形	0.35	0.2	0.2		
SP-2090	II区北東	柱穴	楕円形	0.35	0.3	0.2		
SP-2091	II区北東	柱穴	楕円形	0.35	0.3	0.2		
SP-2092	II区北東	柱穴	楕円形	0.5	0.4	0.25		
SP-2093	II区北東	柱穴	楕円形	0.4	0.4	0.05		
SP-2094	II区北東	柱穴	円形	0.35	0.35	0.3		
SP-2095	II区北東	柱穴	円形	0.4	0.4	0.25		
SP-2096	II区北東	柱穴	楕円形	0.45	0.4	0.2		
SP-2097	II区北東	柱穴	楕円形	0.55	0.45	0.2		
SP-2098	II区北東	柱穴	楕円形	0.4	0.35	0.15		
SP-2099	II区北東	柱穴	円形	0.3	0.3	0.1	ビニール袋小1	
SP-2100	II区北東	柱穴	楕円形	0.35	0.3	0.2		○
SP-2101	II区北東	柱穴	楕円形	0.55	0.45	0.1	ビニール袋小1	
SP-2102	II区北東	柱穴	楕円形	0.7	0.65	0.35		
SP-2103	II区北東	柱穴	楕円形	0.55	0.5	0.15		
SP-2104	II区南東	柱穴	楕円形	0.25	0.2	0.2		
SP-2105	II区南東	柱穴	楕円形	0.35	0.3	0.2		
SP-2106	II区南東	柱穴	楕円形	0.4	0.3	0.15	ビニール袋小1	
SP-2107	II区南東	柱穴	楕円形	0.8	0.6	0.3		
SP-2108	II区南東	柱穴	円形	0.3	0.3	0.3		
SP-2109	II区南東	柱穴	楕円形	0.7	0.65	0.25		
SP-2110	II区南東	柱穴	楕円形	0.8	0.6	0.35	ビニール袋小2	
SP-2111	II区南東	柱穴	円形	0.45	0.45	0.4		
SP-2112	II区中央北	柱穴	楕円形	0.5	0.45	0.1		
SP-2113	II区中央北	柱穴	楕円形	0.35	0.3	0.25	ビニール袋小1	
SP-2114	II区中央北	柱穴	楕円形	0.2	0.15			
SP-2115	II区中央北	柱穴	楕円形	0.5	0.4	0.3		
SP-2116	II区中央北	柱穴	楕円形	0.5	0.45	0.3		
SP-2117	II区中央北	柱穴	楕円形	0.35	0.3	0.15		
SP-2118	II区中央北	柱穴	楕円形	0.3	0.3	0.4		
SP-2119	II区中央	柱穴	楕円形	0.4	0.3	0.2		
SP-2120	II区中央	柱穴	円形	0.5	0.5	0.3		
SP-2121	II区中央	柱穴	円形	0.5	0.5	0.35		
SP-2122	II区中央北	柱穴	楕円形	0.5	0.3	0.15		
SP-2123	II区中央北	柱穴	円形	0.4	0.4	0.2		
SP-2124	II区中央北	柱穴	楕円形	0.5	0.45	0.3	ビニール袋小1	

遺構名	位置	種類	平面形態	長さ(長径)	幅(短径)	深さ	遺物量	報告書
SP-2 1 2 5	II区中央	柱穴	円形	0.4	0.4	0.25		
SP-2 1 2 6	II区中央北	柱穴	楕円形	0.65	0.8	0.35		
SP-2 1 2 7	II区中央北	柱穴	楕円形	0.4	0.35	0.2		
SP-2 1 2 8	II区中央北	柱穴	楕円形	0.5	0.3	0.1		
SP-2 1 2 9	II区中央北	柱穴	楕円形	0.65	0.6	0.2		
SP-2 1 3 0	II区中央北	柱穴	円形	0.5	0.5	0.3	ビニール袋小1	
SP-2 1 3 1	II区中央北	柱穴	楕円形	0.5	0.4	0.4		
SP-2 1 3 2	II区中央	柱穴	楕円形	0.65	0.55	0.2		
SP-2 1 3 3	II区中央	柱穴	楕円形	0.4	0.3	0.3		○
SP-2 1 3 4	II区中央	柱穴	楕円形	0.75	0.6	0.2		
SP-2 1 3 5	II区中央北	柱穴	楕円形	0.5	0.4	0.15	ビニール袋小1	
SP-2 1 3 6	II区中央北	柱穴	楕円形	0.3	0.25	0.3		
SP-2 1 3 7	II区中央	柱穴	円形	0.35	0.35	0.2		
SP-2 1 3 8	II区中央	柱穴	楕円形	0.8	0.5	0.25	ビニール袋小1	
SP-2 1 3 9	II区中央	柱穴	楕円形	0.3	0.2	0.2		
SP-2 1 4 0	II区中央	柱穴	円形	0.4	0.4	0.2		
SP-2 1 4 1	II区中央	柱穴	楕円形	0.3	0.25	0.3		
SP-2 1 4 2	II区中央	柱穴	楕円形	0.35	0.3	0.2		
SP-2 1 4 3	II区中央	柱穴	楕円形	0.5	0.4	0.2		
SP-2 1 4 4	II区中央	柱穴	楕円形	0.8	0.5	0.05		
SP-2 1 4 5	II区中央	柱穴	楕円形	0.4	0.35	0.4		
SP-2 1 4 6	II区中央南	柱穴	楕円形	0.45	0.4	0.3	ビニール袋小1	
SP-2 1 4 7	II区中央南	柱穴	楕円形	0.4	0.3	0.25	ビニール袋小2	○
SP-2 1 4 8	II区中央南	柱穴	楕円形	0.2	0.15			
SP-2 1 4 9	II区中央南	柱穴	楕円形	0.25	0.2	0.1		
SP-2 1 5 0	II区中央南	柱穴	楕円形	0.3	0.25	0.2		
SP-2 1 5 1	II区中央南	柱穴	楕円形	0.3	0.2	0.15		
SP-2 1 5 2	II区中央	柱穴	楕円形	0.6	0.5	0.1		
SP-2 1 5 3	II区中央	柱穴	楕円形	0.5	0.3	0.25		
SP-2 1 5 4	II区中央	柱穴	楕円形	0.4	0.35	0.2		
SP-2 1 5 5	II区中央	柱穴	楕円形	0.6	0.5	0.2		
SP-2 1 5 6	II区中央	柱穴	楕円形	0.7	0.6	0.3	ビニール袋小1	
SP-2 1 5 7	II区中央	柱穴	円形	0.4	0.4	0.25	ビニール袋小1	○
SP-2 1 5 8	II区中央	柱穴	楕円形	0.25	0.2	0.25		
SP-2 1 5 9	II区中央南	柱穴	楕円形	0.4	0.3			
SP-2 1 6 0	II区中央南	柱穴	楕円形	0.4	0.35	0.35	ビニール袋小1	
SP-2 1 6 1	II区中央南	柱穴	楕円形	0.35	0.3	0.3		
SP-2 1 6 2	II区中央南	柱穴	円形	0.3	0.3			
SP-2 1 6 3	II区中央南	柱穴	楕円形	0.4	0.3			
SP-2 1 6 4	II区中央南	柱穴	楕円形	0.6	0.55	0.1	ビニール袋小1	
SP-2 1 6 5	II区中央南	柱穴	円形	0.3	0.3	0.25		
SP-2 1 6 6	II区中央南	柱穴	円形	0.3	0.3	0.1	ビニール袋小1	
SP-2 1 6 7	II区中央南	柱穴	円形	0.2	0.2	0.1		
SP-2 1 6 8	II区中央南	柱穴	円形	0.3	0.3	0.1		
SP-2 1 6 9	II区中央南	柱穴	円形	0.45	0.4	0.15		
SP-2 1 7 0	II区中央南	柱穴	楕円形	0.4	0.35			
SP-2 1 7 1	II区中央南	柱穴	円形	0.3	0.3	0.15		
SP-2 1 7 2	II区中央南	柱穴	楕円形	0.4	0.35	0.2		
SP-2 1 7 3	II区中央南	柱穴	楕円形	0.4	0.35	0.2		
SP-2 1 7 4	II区中央南	柱穴	楕円形	0.4	0.3	0.2		
SP-2 1 7 5	II区中央南	柱穴	円形	0.3	0.3	0.2		
SP-2 1 7 6	II区中央南	柱穴	楕円形	0.3	0.25	0.15		○
SP-2 1 7 7	II区中央南	柱穴	円形	0.3	0.3	0.15		
SP-2 1 7 8	II区中央南	柱穴	円形	0.3	0.3	0.2		○
SP-2 1 7 9	II区中央南	柱穴	楕円形	0.25	0.2	0.1		
SP-2 1 8 0	II区中央南	柱穴	楕円形	0.35	0.3	0.1		
SP-2 1 8 1	II区中央南	柱穴	楕円形	0.6	0.5	0.15		
SP-2 1 8 2	II区中央南	柱穴	楕円形	0.4	0.4	0.2		
SP-2 1 8 3	II区中央南	柱穴	円形	0.3	0.3	0.1		
SP-2 1 8 4	II区中央南	柱穴	楕円形	0.4	0.3	0.1		
SP-2 1 8 5	II区中央南	柱穴	円形	0.5	0.5	0.4	ビニール袋小2	○
SP-2 1 8 6	II区中央南	柱穴	楕円形	0.7	0.5	0.2		
SP-2 1 8 7	II区中央南	柱穴	楕円形	0.45	0.45	0.15		
SP-2 1 8 8	II区中央南	柱穴	楕円形	0.5	0.5	0.2		
SP-2 1 8 9	II区中央南	柱穴	楕円形	0.4	0.35	0.1		
SP-2 1 9 0	II区中央南	柱穴	楕円形	0.5	0.5	0.1		
SP-2 1 9 1	II区中央南	柱穴	楕円形	0.5	0.4	0.1		
SP-2 1 9 2	II区中央南	柱穴	楕円形	0.5	0.2	0.1		
SP-2 1 9 3	II区中央南	柱穴	楕円形	0.7	0.3	0.05		
SP-2 1 9 4	II区中央南	柱穴	円形	0.6	0.6	0.3		
SP-2 1 9 5	II区中央南	柱穴	円形	0.5	0.5	0.3		
SP-2 1 9 6	II区中央南	柱穴	楕円形	0.45	0.35	0.1		
SP-2 1 9 7	II区中央南	柱穴	楕円形	0.45	0.4	0.25		